CBETA電子佛典集成

CBETA Chinese Electronic Tripitaka Collection

eBook

B17n0089

太平廣記選輯

（卷八十七～一三四）

李昉等編纂

財團法人 佛教電子佛典基金會

目次

- 編輯說明
- 章節目 次
  - 異僧一
    - 釋摩
    - 竺法蘭
    - 康僧會
    - 支遁
  - 異僧二
    - 佛圖澄
  - 異僧三
    - 釋道安
    - 鳩摩羅什
    - 法朗
    - 李恒沙門
  - 異僧四
    - 杯渡
    - 釋寶誌
  - 異僧五
    - 求那跋摩
    - 法度
    - 通公
    - 阿專師
    - 阿禿師
    - 稠禪師
    - 釋知苑
    - 法喜
    - 法琳
    - 徐敬業
    - 駱賓王
  - 異僧六
    - 玄奘
    - 萬迴
    - 一行
    - 無畏

    - 明達師
    - 惠照
  - 異僧七
    - 宣律師
  - 異僧八
    - 華嚴和尚
    - 唐休璟門僧
    - 儀光禪師
    - 玄覽
    - 法將
  - 異僧九
    - 洪昉禪師
    - 相衛間僧
    - 道林
    - 淨滿
    - 法通
  - 異僧十
    - 僧伽大師
    - 迴向寺狂僧
    - 懶殘
    - 韋皐
    - 釋道欽
    - 辛七師
    - 嘉州僧
    - 金剛仙
    - 鴟鳩和尚
  - 異僧十一
    - 秀禪師
    - 義福
    - 神鼎
    - 廣陵大師
    - 和和
    - 空如禪師
    - 僧些
    - 阿足師
    - 鑒師
    - 從諫
  - 異僧十二

- 李德裕
- 齊州僧
- 抱玉師
- 束草師
- 惠寬
- 素和尚
- 懷信
- 佛陀薩
- 興元上座
- 趙蕃
- 懷濬
- 智者禪師
- 法本

- 釋證一
  - 僧惠祥
  - 阿育王像
  - 王淮之
  - 惠凝
  - 靈隱寺
  - 侯慶
  - 大業客僧
  - 蛤像
  - 光明寺
  - 十光佛
  - 李大安
  - 韋知十
  - 劉公信妻
- 釋證二
  - 長樂村聖僧
  - 屈突仲任
  - 婺州金剛
  - 菩提寺猪
  - 李思元
  - 僧齊之
  - 張無是
  - 張應
  - 道嚴
- 釋證三

- 邢曹進
- 韋氏子
- 殭僧
- 雞卵
- 許文度
- 玄法寺
- 商居士
- 黃山瑞像
- 馬子雲
- 雲花寺觀音
- 李舟
- 惠原
- 延州婦人
- 鎮州鐵塔
- 渭濱釣者

- 報應一(金剛經)
  - 盧景裕
  - 趙文若
  - 趙文昌
  - 新繁縣書生
  - 蒯武安
  - 睦彥通
  - 杜之亮
  - 慕容文策
  - 柳儉
  - 蕭瑀
  - 趙文信
  - 劉弼
  - 袁志通
  - 韋克勤
  - 沈嘉會
  - 陸懷素
- 報應二(金剛經)
  - 司馬喬卿
  - 孫壽
  - 李觀
  - 豆盧夫人
  - 尼修行

- 陳文達
- 高紙
- 白仁晢
- 竇德玄
- 宋義倫
- 李岡
- 王陁
- 王令望
- 陳惠妻
- 何澴
- 張玄素
- 李丘一

◦ 報應三(　金剛經)

- 于昶
- 裴宣禮
- 吳思玄
- 銀山老人
- 崔文簡
- 姚待
- 呂文展
- 長安縣繫囚
- 李虛
- 盧氏
- 陳利賓
- 王宏
- 田氏

◦ 報應四(　金剛經)

- 李惟燕
- 孫明
- 三刀師
- 宋叅軍
- 劉鴻漸
- 張嘉猷
- 魏恂
- 杜思訥
- 龍興寺主
- 陳晢
- 豐州烽子

- 張鎰
- 崔寧
- 報應五（金剛經）
  - 太原孝廉
  - 李廷光
  - 陸康成
  - 薛嚴
  - 任自信
  - 段文昌
  - 劉逸淮
  - 孫咸
  - 僧智燈
  - 王氏
  - 左營伍伯
  - 宋衍
  - 陳昭
- 報應六（金剛經）
  - 王忠幹
  - 王俑
  - 李元一
  - 魚萬盈
  - 于李回
  - 強伯達
  - 僧惟恭
  - 王沔
  - 董進朝
  - 康仲戚
  - 吳可久
  - 幵行立
  - 僧法正
  - 沙彌道蔭
  - 何老
  - 勾龍義
  - 趙安
- 報應七（金剛經）
  - 何軫
  - 王殷
  - 王翰

- 甯勉
- 倪勤
- 高涉
- 張政
- 李琚
- 巴南宰
- 元初
- 兗州軍將
- 楊復恭弟
- 蔡州行者
- 販海客

- 報應八（法華經）
  - 沙門靜生
  - 釋曇邃
  - 釋慧慶
  - 費氏
  - 趙泰
  - 釋慧進
  - 沙門法尚
  - 釋弘明
  - 釋志湛
  - 五侯寺僧
  - 釋智聰
  - 曇韻禪師
  - 李山龍
  - 蘇長
  - 尼法信
  - 李氏
  - 徹師
  - 悟真寺僧
  - 釋道俗
  - 史阿誓
  - 石壁寺僧
- 報應九（觀音經）
  - 竇傅
  - 周瑨
  - 竺法義
  - 王珉妻

- 竺長舒
- 潘道秀
- 欒荀
- 張崇
- 釋開達
- 竺法純
- 釋道泰
- 郭宣
- 呂竦
- 徐榮
- 劉度
- 南宮子敖
- 徐義
- 畢覽
- 釋法智
- 孫道德
- 張興
- 曇無竭
- 車母
- 釋曇隕
- 邢懷明
- 王球

- 報應十（觀音經）
  - 竺惠慶
  - 卞悅之
  - 張暢
  - 王玄謨
  - 釋道冏
  - 伏萬壽
  - 彭子喬
  - 釋慧和
  - 齊建安王
  - 毛德祖
  - 李儒俊
  - 沈甲
  - 張達
  - 孫敬德
  - 高荀

- 史雋
- 東山沙彌
- 徐善才
- 杜智楷
- 張氏
- 許儼
- 僧道憲
- 成珪
- 王琦

- 報應十一(　崇經像)
  - 史世光
  - 董吉
  - 宋吏國
  - 張元
  - 釋智興
  - 董雄
  - 孟知儉
  - 崔善冲
  - 唐晏
  - 張御史
  - 李昕
  - 牛騰
  - 李元平
  - 長沙人
  - 乾符僧
- 報應十二(　崇經像)
  - 張應
  - 釋道安
  - 周閔
  - 王懿
  - 謝敷
  - 僧法洪
  - 劉式之
  - 劉齡
  - 陳安居
  - 馬處伯
- 報應十三(　崇經像)
  - 費崇先

- 魏世子
- 何曇遠
- 陳秀遠
- 葛濟之
- 董青建
- 齊竟陵王
- 張逸
- 釋僧護
- 僧澄空
- 釋慧偘
- 釋道積
- 釋法誠

報應十四(　崇經像)

- 張法義
- 王弘之
- 崔義起妻
- 襄陽老姥
- 普賢社
- 李洽
- 王乙
- 鉗耳含光
- 席豫
- 裴休
- 牙將子

報應十五

- 謝晦
- 尼智通
- 王襲之
- 周宗
- 沈僧復
- 僧道志
- 唐文伯
- 崔平業
- 王鎮惡
- 郭祖深
- 衛元宗
- 姜勝生
- 傅奕

- 并州人
- 薛孤訓
- 嵎州縣令
- 丁零
- 唐武宗
- 王義逸
- 贅肉
- 西明寺
- 明相寺
- 僧義孚
- 開照寺盜
- 僧紹明
- 潼江軍

- 報應十六(陰德)
  - 孫叔敖
  - 崔敬嗣
  - 裴度
  - 劉軻
  - 劉弘敬
  - 蕭倣
  - 孫泰
  - 李質
  - 范明府
  - 程彥賓
- 報應十七(異類)
  - 漢武帝
  - 東方朔
  - 毛寶
  - 孔愉
  - 宗叔林
  - 桓邈
  - 劉樞
  - 蔡喜夫
  - 劉沼
  - 劉之亨
  - 嚴泰
  - 程靈銑
  - 韋丹

- 熊慎
- 王行思
- 陳弘泰

- 報應十八（冤報）
  - 杜伯
  - 公孫聖
  - 燕臣莊子儀
  - 游敦
  - 王宏
  - 宋皇后
  - 徐光
  - 王陵
  - 夏侯玄
  - 金玄
  - 經曠
  - 萬默
  - 麴儉
  - 太樂伎
  - 鄧琬
  - 孔基
  - 曇摩懺
  - 支法存
  - 張超
  - 袁粲幼子
  - 庾宏奴
  - 魏輝僊
  - 真子融
- 報應十九（冤報）
  - 梁武帝
  - 張裨
  - 羊道生
  - 釋僧越
  - 江陵士大夫
  - 徐鐵臼
  - 蕭續
  - 樂蓋卿
  - 康季孫
  - 張絢

- 楊思達
- 弘氏
- 朱貞
- 北齊文宣帝
- 梁武帝
- 韋戴
- 隋庶人勇
- 京兆獄卒
- 邛人

- 報應二十
  - 杜通達
  - 邢文宗
  - 長孫無忌
  - 婁師德
  - 王瑱
  - 江融
  - 李昭德
  - 弓嗣業
  - 周興
  - 魚思咺
  - 索元禮
  - 張楚金
  - 崔日知
  - 蘇頲
  - 李之
  - 唐王皇后
  - 楊慎矜
  - 師夜光
  - 崔尉子
- 報應二十一（冤報）
  - 陳義郎
  - 達奚珣
  - 華陽李尉
  - 段秀實
  - 馬奉忠
  - 鄆卒
  - 樂生
  - 宋申錫

- 蜀營典
- 報應二十二(冤報)
  - 胡激
  - 秦匡謀
  - 韋判官
  - 楊收
  - 宋柔
  - 王表
  - 乾寧宰相
- 報應二十三(冤報)
  - 王簡易
  - 樊光
  - 李彥光
  - 侯溫
  - 沈申
  - 法曹吏
  - 劉存
  - 袁州錄事
  - 劉璠
  - 吳景
  - 高安村小兒
  - 陳勳
  - 鍾遵
  - 韋處士
  - 張進
  - 郝溥
  - 裴垣
  - 蘇鐸
  - 趙安
- 報應二十四(冤報)
  - 榼頭師
  - 唐紹
  - 李生
  - 盧叔倫女
  - 崔無隱
- 報應二十五
  - 程普
  - 羊聃

- 劉毅
- 張和思
- 梁元帝
- 竇軌
- 武攸寧
- 崔進思
- 祁萬壽
- 郭霸
- 曹惟思
- 邢璹
- 萬國俊
- 王瑤
- 陳峴
- 蕭懷武
- 李龜禎
- 陳潔

◦ 報應二十六
- 蘇娥
- 涪令妻
- 諸葛元崇
- 呂慶祖
- 元徽
- 李義琰
- 岐州寺主
- 館陶主簿
- 僧曇暢
- 午橋民
- 盧叔敏
- 鄭生

◦ 報應二十七
- 公孫綽
- 王安國
- 尼妙寂
- 李文敏
- 樊宗諒
- 滎陽氏

◦ 報應二十八
- 王濟婢

- 王範妾
- 宋宮人
- 金荊
- 杜嶷妾
- 後周女子
- 張公瑾妾
- 范略婢
- 胡亮妾
- 梁仁裕婢
- 張景先婢
- 李訓妾
- 花嚴
- 晉陽人妾

報應二十九

- 竇凝妾
- 嚴武盜妾
- 綠翹
- 馬全節婢
- 魯思郾女
- 鄂州小將
- 金巵

報應三十(殺生)

- 田倉
- 臨海人
- 陳甲
- 麻姑
- 謝盛
- 李嬰
- 許憲
- 益州人
- 章安人
- 元稚宗
- 王曇略
- 廣州人
- 東興人
- 陳莽
- 沛國人
- 齊朝請

- 伍寺之
- 蘇巷
- 阮倪
- 邵文立
- 梁元帝
- 望蔡令
- 僧曇歡
- 釋僧羣
- 竺法惠
- 冀州小兒

- 報應三十一(殺生)
  - 王將軍
  - 姜略
  - 賀悅
  - 李壽
  - 方山開
  - 王遵
  - 李知禮
  - 陸孝政
  - 果毅
  - 劉摩兒
  - 店婦
  - 屠人
  - 劉知元
  - 季全聞
  - 當塗民
  - 張縱
- 報應三十二(殺生)
  - 朱化
  - 李詹
  - 王公直
  - 黃敏
  - 陳君稜
  - 王洞微
  - 孫季貞
  - 崔道紀
  - 何澤
  - 岳州人

        - 徐可範
        - 建業婦人
        - 廣陵男子
        - 何馬子
        - 章邵
        - 韓立善
        - 僧修準
        - 宇文氏
        - 李貞
        - 僧秀榮
        - 母乾昭
        - 李紹
    - 報應三十三（宿業畜生）
        - 竹永通
        - 宜城民
        - 韋慶植
        - 趙太
        - 李信
        - 謝氏
        - 王珍
        - 王會師
        - 解奉先
        - 童安玕
        - 劉自然
        - 李明府
        - 劉鑰匙
        - 上公
        - 施汴
        - 公乘通
        - 僧審言
- 卷目 次
    - 87
    - 88
    - 89
    - 90
    - 91
    - 92
    - 93

- 94
- 95
- 96
- 97
- 98
- 99
- 100
- 101
- 102
- 103
- 104
- 105
- 106
- 107
- 108
- 109
- 110
- 111
- 112
- 113
- 114
- 115
- 116
- 117
- 118
- 119
- 120
- 121
- 122
- 123
- 124
- 125
- 126
- 127
- 128
- 129
- 130
- 131

    - 132
    - 133
    - 134
- 贊助資訊

編輯說明

- 本電子書以「CBETA 電子佛典集成 Version 2025.R3」為資料來源。
- 漢字呈現以 Unicode 3.0 為基礎，不在此範圍的字則採用組字式表達。
- 梵文悉曇字及蘭札字均採用羅馬轉寫字，如無轉寫字則提供字型圖檔。
- CBETA 對底本所做的修訂用字以紅色字元表示（黑白色系版本則無顏色差別）。
- 若有發現任何問題，歡迎來函 service@cbeta.org 回報。
- 版權所有，歡迎自由流通，但禁止營利使用。

太平廣記(選輯)

異僧一(卷第八十七)

釋摩騰
竺法蘭
康僧會
支遁

釋摩

釋摩騰。本中天竺人也。美風儀。解大小乘經。常遊化為狂。(明鈔本狂作任。)昔經往天竺附庸小國。講金光明經。會敵國侵境。騰惟曰。經云。能說此法。為地神所護。使所居安樂。今鋒鏑方始。曾是為益乎。乃誓以罄身。躬往和勸。遂二國交歡。由是顯譽。逮漢永平中。明帝夜夢金人飛空而至。乃大集群臣以占所夢。通事(明鈔本事作人。)傅毅奏曰。臣聞西域有神。其名曰佛。陛下所夢。將必是乎。帝以為然。即遣郎中蔡愔、博士弟子秦景等使往天竺。尋訪佛法。愔等於彼。遇見摩騰。要還漢地。騰誓志弘通。不憚疲苦。冒涉流沙。至乎[名*隹]邑。明帝甚加賞接。於城西門外立精舍以處之。漢地有沙門之始也。但大法初傳。人未皈信。故蘊其深解。無所宣述。後少時。卒於[名*隹]陽。有記云。騰譯四十二章經一卷。初緘在蘭臺石室第十四間中。騰所住處。今[名*隹]陽城西雍門外白馬寺是也。相傳云。外夷國王嘗毀破諸寺。唯招提寺未及毀壞。夜有一白馬繞塔悲鳴。即以啟王。王即停壞諸寺。因改招提以為白馬。故諸寺立名。多取則焉。(出高僧傳)

竺法蘭

竺法蘭。中天竺人也。自言誦經論數萬章。為天竺學者之師。時蔡愔既至彼國。蘭與摩騰共契遊化。遂相隨而來。會彼學徒留礙。蘭乃間行而至之。既達[名*隹]陽。與騰同止。少(止少原作步。據高僧傳

改。)時便善漢言。愔於西域獲經。即為翻譯。所謂十地斷結、佛本生、(生原作僧。據高僧傳改。)法海藏、佛本行、四十二章等五部。會移都寇亂。四部失本。不傳江左。唯四十二章經今見在。可二千餘言。漢地見存諸經。唯此為始也。愔又於西域得畫釋迦倚像。是優田王旃檀像師第四作。既至[名*隹]陽。明帝即令畫工圖寫置清涼臺中。及顯節陵(陵原作林。據高僧傳改。)上。舊像今不復存焉。又昔漢武穿昆明池底。得黑灰。問東方朔。朔云。可問西域梵人。後法蘭既至。眾人追問之。蘭云。世界終盡。刼火洞燒。此灰是也。朔言有徵。信者甚眾。蘭後卒於[名*隹]陽。春秋六十餘矣。(出高僧傳。)

康僧會

康僧會。其先康居國人。世居天竺。其父因商賈移于交趾。會年十餘歲。二親並亡。以至性奉孝。服畢出家。厲行甚峻。為人弘雅有識量。篤志好學。明解三藏。博覽六經。天文圖緯。多所綜涉。辨於樞機。頗屬文翰。時孫權已制江右。而佛教未行。先有優婆塞支謙字恭明。一名越。本月支人。來遊漢境。初漢桓靈之世。有支讖譯(譯原作悔。據明鈔本改。)出眾經。有支亮。字紹明。亮學於讖。謙又受業於亮。博覽經籍。莫不諳究。世間伎藝。多所綜習。遍學異書。通六國語。其為人細長黑瘦。眼多白而睛黃。時人為之語曰。支郎眼中黃。形軀雖細是智囊。漢末遇亂。避地于吳。孫權聞其才慧。召見之日。拜為博士。使輔導東宮。與韋曜諸人共盡匡益。但生自外域。故吳志不載。謙以大教雖行。而經多梵文。未盡翻譯。已妙善方言。方欲集眾本。譯為漢文。從吳黃武元年至建興中。所出維摩、大般若、泥洹、法句、瑞應、本起等四十九經。曲得聖儀。辭旨 文雅。又依無量壽中本起。製菩薩連句梵唄三契。并注了本先死經等。皆行於世。時吳地初染大法。風化未全。僧會欲使道振江左。興立圖寺。乃杖錫東遊。以吳赤烏十年。初達建業。營立

茅茨。設像行道。時吳國以初見沙門服形。末及其道。疑為矯異。有司奏曰。有異人入境。自稱沙門。容服非恒。事應察檢。權曰。昔漢明夢神。號稱為佛。彼之所事。豈其遺風耶。即召會詰問。有何靈驗。會曰。如來遷迹。忽逾千載。遺骨舍利。神曜無方。昔阿育王起塔。及八萬四千。夫塔寺之興。以表遺化也。權以為誇誕。乃謂會曰。若能得舍利。當為造塔。苟其虛妄。國有常刑。會請期七日。乃謂其屬曰。法之興廢。在此一舉。今不至誠。後將何及。乃共潔齋靜室。以銅瓶加几。燒香禮請。七日期畢。寂然無應。求申二七。亦復如之。權曰。此欺誑。將欲加罪。會更請三七日。權又特聽。會請法侶曰。宣尼有言。文王既沒。文不在茲乎。法雲應降。而吾等無感。何假王憲。當以誓死為期耳。三七日暮。猶無所見。莫不震懼。既入五更。忽聞瓶中鏗然有聲。會自往視。果獲舍利。明旦。權自手執瓶。瀉於銅盤。舍利所衝。盤即破碎。權大肅然驚起。而曰。希有之瑞也。會進而言曰。舍利威神。豈直光相而已。乃却燒之。火不能焚。金剛之杵不能碎。權命令試之。會更誓曰。法雲方被。蒼生仰澤。願更垂神迹。以廣示威靈。乃置舍利於鐵砧磓上。使力者擊之。於是砧磓俱陷。舍利無損。權大嗟伏。即為建塔。以始有佛寺。故號建初寺。因名其地為陁里。由是江左大法遂興。至孫皓即位。法令苛虐。廢棄淫祠。及佛寺並欲毀壞。皓曰。此又何由而興。若其義教貞正。與聖典相應者。當存奉其道。如其無實。皆悉焚之。諸臣僉曰。佛之威力。不同於神。康會感瑞。大皇創寺。今若輕毀。恐貽後悔。皓遣張昱詣寺詰會。昱雅有才辯。難問縱橫。會應機騁辭。文理鋒出。自旦之夕。昱不能屈。既退。會送於門。時寺側有淫祠在。昱曰。玄化既敷。此輩何故近而不革。會曰。震霆破山。聾者不聞。非音之細。苟在理通。則萬里懸應。如其阻塞。則肝膽楚越。昱還。歎會材明。非臣所測。願天鑒察之。皓大集朝賢。以車馬迎會。會既坐。皓問曰。佛教所明。善惡報應。何者是耶。會對曰。夫明主以孝慈訓世。則赤鳥翔而老人見。仁德育物。則醴泉涌而嘉苗出。善既有瑞。惡亦如之。

故為惡於隱。鬼得而誅之。為惡於顯。人得而誅之。易稱積善餘慶。詩咏求福不回。雖儒典之格言。即佛教之明訓。皓曰。若然。則周孔已明。何用佛教。會曰。周孔所言。略示近迹。至於釋教。則備極幽微。故行惡則有地獄長苦。修善則有天宮永樂。舉茲以明勸沮。不亦大哉。皓當時無以折其言。皓雖聞正法。而昏暴之性。不勝其虐。後使宿衛兵入後宮治園。於地得一金像。高數尺。呈皓。皓使著不淨處。以穢汁灌之。共諸群臣。笑以為樂。俄爾之間。舉身大腫。陰處尤痛。叫呼徹天。太史占言。犯大神所為。即祈祝諸廟求福。命綵女即迎像置殿上。香湯洗數十遍。燒香懺悔。皓叩頭于地。自陳罪狀。有頃痛間。遣使至寺。請會說法。會即隨入。皓具問罪福之由。會為敷折。辭甚精要。皓先有才解。忻然大悅。因求看沙門戒。會以戒文禁祕。不可輕宣。乃取本業百三十五願。分作二百五十事。行住坐臥。皆願眾生。皓見慈願廣普。益增善意。即就會受五戒。旬日疾瘳。乃於會所住。更加修飾。宣示宗室。莫不畢奉。會在吳朝。亟說正法。以皓性凶麤。不及妙義。唯敘報應近事。以開其心。會於建初寺譯出眾經。所謂阿難念彌陀經(陀經二字原本無。據高僧傳補。)鏡而王察微王梵皇經等。又出小品及六度集雜譬喻等經。並妙得經體。文義允正。又傳泥洹唄聲。清摩哀亮。一代模式。又注安般守意法竟道樹等三經。並製經序。辭趣雅俊。義旨 微密。並見行於世。吳天紀四年四月。皓降晉。(晉原作旨 。據明鈔本改。)九月。會遘疾而終。是歲晉武太康元年也。至晉成帝咸和中。蘇峻作亂。焚會所建塔。司空何充復更修造。平西將軍趙誘世不奉法。傲蔑三寶。入此寺。謂諸道人曰。久聞此塔屢放光明。虛誕不經。所謂能信。若必目 覩。所不能耳。言竟。塔即出五色光。照耀堂剎。誘肅然毛豎。由此信敬。於寺東更立小塔。遠由大聖神感。近亦康會之力也。故圖寫厥像。傳之於今爾。(出高僧傳)

支遁

支遁字道林。本姓關氏。陳留人。或云。河東林慮人。幼有神理。聰明秀徹。晉時初至京師。太原王濛甚重之。曰。造微之功。不減輔嗣。陳郡(郡原作群。據高僧傳改。)殷融嘗與衛玠交。謂其神情雋徹。後進莫有繼之者。及見遁歎息。以為重見若人。家世事佛。早悟非常之理。隱居餘杭山。沉思道行之品。委曲惠印之經。卓焉獨拔。得自天心。年二十五出家。每至講肄。善標宗會。而章句或有所遺。時為守文者所陋。謝安聞而喜之曰。乃比古人之相馬也。略其玄黃而取其駿也。時謝安殷浩等。並一代名流。皆著塵外之狎。遁嘗在白馬寺。與劉系之等談莊子逍遙云。各適性以為逍遙。(遙字下八字據高僧傳補。)遁曰。不然。夫桀、跖以殘害為性。若適性為得者。彼亦逍遙矣。為是退而注逍遙篇。群儒舊學。莫不歎伏。後還吳。住支硎山寺。晚欲入剡。謝安在吳。與遁書曰。思君日積。計辰傾遲。知欲還剡自治。甚以悵然。人生如寄耳。頃風流得意之事。殆為都盡。終日戚戚。觸事惆悵。唯遲君來。以晤言消之。一日當千載耳。此多山水。山縣閑靜。差可養疾。事不異剡。而醫藥不同。必思此緣。副其積想也。王羲之時在會稽。素聞遁名。未之信。謂人曰。一狂僧耳。何足言。後遁既還剡。徑遊于郡。王故迓遁。觀其風力。既至。王謂遁曰。逍遙篇可聞乎。遁乃作數千言。摽揭新理。才藻警絕。王遂披襟解帶。留連不能去。仍請住靈嘉寺。意存相近。俄又投迹剡山。於沃州小嶺。立寺行道。僧眾百餘。常隨稟學。時或有隨者。遁乃著座右銘以勗之。時論以遁才堪經贊。而潔己拔俗。有違兼濟之道。遁乃作釋矇論。晚過石城山。又立棲光寺。宴坐山門。遊心禪苑。木飡澗飲。浪志無生。乃註安般四禪諸經。及即色遊玄論。遁淹留建業。涉將三載。乃還東山。上書告辭。優詔許之。資給發遣。事事豐厚。一時名流。並餞離於征虜亭。時蔡子叔前至。近遁而坐。謝萬石後至。值蔡蹙起。謝便移就其處。蔡還。復欲據謝坐地。謝不以介意。其為時賢所慕如此。既而收迹剡山。畢命林澤。人嘗有遺遁馬者。遁受而養之。時

或有譏之者。遁曰。愛其神駿。聊復畜耳。後有餉鶴者。遁曰。爾冲天之物。寧為耳目 之翫乎。遂放之。遁幼時。嘗與師共論物類。謂雞卵生用。未足為殺。師不能屈。師尋亡。忽見形。投卵於地。殼破鶵行。頃之俱滅。遁乃感悟。由是蔬食終身。遁先經餘姚塢山中住。至於晚年。猶還塢中。或問其意。答云。謝安石昔數來見。輒移旬日。今觸情舉目 。莫不興想。後病甚。移還塢中。以晉太和元年閏四月四日終於所住。春秋五十有三。即窆於塢中。厥塚存焉。或云終剡。未詳。郗超為之序傳。袁宏為之銘贊。周雲寶為之作誄焉。(出高僧傳)

太平廣記卷第八十八

異僧二

佛圖澄

佛圖澄者。西域人也。本姓帛氏。少出家。清真幼學。誦經數百萬言。以晉懷帝永嘉四年來適洛陽。志弘大法。善念神呪。能役使鬼物。以麻油雜煙灰塗掌。千里外事。皆徹見掌中。如對面焉。亦能令潔齋者見。又聽鈴音以言事。無不効驗。欲於洛陽立寺。值劉曜寇斥洛臺。帝京擾亂。澄立寺之志遂不果。乃潛身草野。以觀世變。時石勒屯兵葛陂。專以殺戮為威。沙門遇害者甚眾。澄憫念蒼生。欲以道化勒。於是杖策到軍門。勒大將郭黑略素奉法。澄即投止略家。略從受五戒。崇弟子之禮。略後從勒征伐。輒預克勝負。勒疑而問曰。孤不覺卿有出眾智謀。而每知行軍吉凶。何也。略曰。將軍天挺神武。幽靈所助。有一沙門。術智非常。云將軍當略有區夏。己應為師。臣前後所白。皆其言也。勒喜曰。天賜也。召澄問曰。佛道有何靈驗。澄知勒不達深理。正可以道術為教。因言曰。至道雖遠。亦可以近事為證。即取器盛水。燒香呪之。須臾生青蓮華。光色曜日。勒由此信伏。澄因諫曰。夫王者德化洽於宇內則四靈表瑞。政弊道消則彗孛見於上。恒象著見。休咎隨行。斯乃古今之常理。天人之明戒。勒甚悅之。凡應被誅殘蒙其益者。十有八九。於是中州之胡。皆願奉佛。時有痼疾。世莫能知者。澄為醫療。應時瘳損。陰施默益者。不可勝記。勒自葛陂還河北。過坊頭。人夜欲斫營。澄語黑略曰。須臾賊至。可令公知。果如其言。有備故不敗。勒欲試澄。夜冠冑衣甲執刃而坐。遣人告澄云。夜來不知大將軍所在。使人始至。未及有言。澄逆問曰。平居無寇。何故夜嚴。勒益敬之。勒後因忿。欲害諸道士。並欲苦澄。澄乃避至黑略舍。語弟子曰。若將軍使至。問吾所在者。報云不知所之。使人尋至。覓澄不得。使還報勒。勒驚曰。吾有惡意向聖人。聖人捨

我去矣。通夜不寢。思欲見澄。澄知勒意悔。明旦造勒。勒曰。昨夜何行。澄曰。公有怒心。昨故權避。公今改意。是以敢來。勒大笑曰。道人謬耳。襄國城塹水源。在城西北五里。其水源暴竭。勒問澄。何以致水。澄曰。今當勑龍取水。勒字世龍。謂澄嘲己。答曰。正以龍不能致水。故相問耳。澄曰。此誠言。非戲也。水泉之源。必有神龍居之。往以敕語告之。水必可得。乃與弟子法首等數人。至故泉源上。其源故處。久已乾燥。坼如車轍。從者心疑致水難得。澄坐繩牀。燒安息香。呪願數百言。如此三日。水泫然微流。有一小龍。長五六寸許。隨水來出。諸道士競往視之。澄曰。龍有毒。勿臨其上。有頃。水大至。隍塹皆滿。澄閑坐歎曰。後二日。當有一小人驚動此下。既而襄國人薛合。有二子。既小且驕。輕侮鮮卑奴。奴忿。抽刃刺殺其弟。執兄于室。以刀擬心。若人入屋。便欲加手。謂薛合曰。送我還國。我活汝兒。不然。共死於此。內外驚愕。莫敢往觀。勒乃自往視之。謂薛合曰。送奴以全卿子。誠為善事。此法一開。方為後害。卿且寬情。國有常憲。命人取奴。奴遂殺兒而死。鮮卑段末波攻勒。其眾甚盛。勒懼問澄。澄曰。昨日寺鈴鳴云。明旦食時。當擒段末波。與勒登城望波軍。不見前後。失色曰。豈可獲。是公安我辭耳。更遣夔安問澄。澄曰。已獲波矣。時城北伏兵出。遇波執之。澄勸勒宥波。遣還本國。勒從之。卒獲其用。時劉載已死。載從弟曜篡襲偽立。稱元光初。光初八年。曜遣從弟中山王岳將兵攻勒。勒遣石虎率步騎拒之。大戰洛西。岳敗。保石梁塢。虎堅柵守之。澄與弟子自官寺至中寺。始入寺門。歎曰。劉岳可憫。弟子法祚問其故。澄曰。昨亥時岳已被執。果如所言。光初十一年。曜自率兵攻洛陽。勒欲自往拒曜。內外僚佐。無不畢諫。勒以訪澄。澄曰。相輪鈴音云。秀支替戾岡。僕谷劬禿當。此羯語也。秀支替戾岡出也。僕谷劉曜胡位。劬禿當捉也。此言軍出捉得曜也。時徐光聞澄此言苦勸。勒乃留長子石弘。共澄以鎮襄國。自率中軍步騎直指洛城。兩陣纔交。曜軍大潰。曜馬沒水中。石堪生擒之送勒。澄時以物塗掌觀之。見有大

眾。中縛一人。朱絲約其肘。因以告弘。當爾之時。正生擒曜也。時平之後。勒乃僭稱趙天王行皇帝事。改元建平。是歲晉成皇帝咸和五年也。勒登位已後。事澄益篤。時石葱叛。其年。澄戒勒曰。今年葱中有蟲。食必害人。可令百姓無食葱也。勒頒告境內。慎無食葱。到八月。石葱果走。勒益加尊重。有事必諮而後行。號大和尚。石虎有子名斌。後勒以為子。勒愛之甚重。忽暴病而亡。已涉二日。勒曰。朕聞虢太子死。扁鵲能生。大和尚國之神人。可急往告。必能致福。澄乃取楊枝呪之。須臾能起。有頃平復。由是勒諸稚子多在佛寺中養之。每至四月八日。勒躬自詣寺。觀佛像而發願。至建平四年四月。天靜無風。而塔上一鈴獨鳴。澄謂眾曰。鈴音云。國有大喪。不出今年矣。是歲七月勒死。太子弘襲位。少時。虎廢弘自立。遷都於鄴。改元建武。傾心事澄。又重於勒。乃下書曰。和尚國之大寶。榮爵不加。高祿不受。榮祿匪頒。何以旌德。從此已往。宜衣以綾錦。乘以雕輦。朝會之日。和尚升殿。常侍已下。悉助舉舁。太子諸公。扶輦而上。主者唱大和尚。眾座皆起。以彰其尊。又勑偽司空李農旦夕親問。太子諸公。五日一朝。表朕敬焉。澄時止鄴城內中寺。遣弟子法常北至襄國。弟子法佐從襄國還。相遇。在梁塞城下共宿。對車夜談。言及和尚。比旦各去。法佐至。始入覲澄。澄逆笑曰。昨夜爾與法常交車共說汝師耶。先民有言。不曰敬乎。幽而不改。不曰慎乎。獨而不怠。幽獨者敬慎之本。而不識乎。佐愕然愧懼。於是國人每共相語曰。莫起惡心。和尚知汝。及澄之所在。無敢向其方面涕唾便利者。時太子石邃有二子在襄國。澄語邃曰。小阿彌比當得疾。可往迎之。邃即馳信往視。果已得疾。太醫殷騰及外國道士自言能治。澄告弟子法常曰。正使聖人復出。不愈此疾。況此等乎。後三日果死。石邃荒酒。將圖為逆。謂內豎曰。和尚神通。儻發吾謀。明日來者。當先除之。澄月望將入覲虎。謂弟子僧會曰。昨夜天神呼我曰。明日若入。還勿過人。我儻有所過。汝當止我。澄常入。必過邃。知澄入。要候甚苦。澄將上南臺。僧惠引衣。澄曰。事不得止。坐未

安。便起。遂固留不住。所謀遂止。還寺歎曰。太子作亂。其形將成。欲言難言。欲忍難忍。乃因事從容箴虎。虎終不解。俄而事發。方悟澄言。後郭黑略將兵征長安北山羌。墮羌伏中。時澄在堂上坐。弟子法常在側。澄忽慘然改容曰。郭公陷狄。令眾生呪願。澄又自呪願。須臾更白。若東南出者活。餘向則困。復更呪願。有頃曰。脫矣。後月餘日。黑略還說。隨羌圍中東南走。馬乏。正遇帳下人推馬與之。曰。公乘此。小人乘公馬。濟與不濟。任命也。略得其馬。故獲免。推驗日時。正是澄呪願時也。偽大司馬燕公石斌。虎以為幽州牧。鎮有羣兇湊聚。因以肆暴。澄戒虎曰。天神昨夜言。疾牧馬還。至秋。齊當攤爛。虎不解此語。即敕諸處牧馬送還。其秋。有人譖斌於虎。虎召斌。鞭之三百。殺其所生齊氏。虎彎弓捻矢。自視行斌罰。罰輕。虎乃手殺五百人。澄諫曰。心不可縱。死不可生。禮不親殺。以傷恩也。何有天子親行罰乎。虎乃止。後晉軍出淮泗。隴北瓦城皆被侵逼。三方告急。人情危擾。虎乃瞋曰。吾之奉佛。而更致外寇。佛無神矣。澄明旦早入。虎以事問澄。因讓虎曰。王過世經為大商主。至罽賓寺。嘗供大會。中有六十羅漢。吾此身亦預斯會。時得道人謂吾曰。此主人命盡。當更化身。後晉王地。今王為王。豈非福耶。疆場軍寇。國之常耳。何為怨謗三寶。夜興毒念乎。虎乃信悟。跪而謝焉。虎常問澄。佛法不殺。朕為天下之主。非刑殺無以肅清海內。既違戒殺生。雖復事佛。誰獲福耶。澄曰。帝王事佛。當在體恭心順。顯揚三寶。不為暴虐。不害無辜。至於兇暴無賴。非化所遷。有罪不得不殺。有惡不得不刑。但當殺可殺。當刑可刑耳。若暴虐恣意。殺害非罪。雖復輕刑事法。無解殃禍。願陛下省欲興慈。廣及一切。則佛教永隆。福祚方遠。虎雖不能盡從。而為益不少。虎尚書張離、張良。家富事佛。各起大塔。澄謂曰。事佛在於清靜無欲。慈矜為心。檀越雖儀奉大法。而貪悋未已。遊獵無度。積聚不窮。方受玩世之罪。何福報之可希耶。離等後並被戮滅。時又久旱。自正月至六月。虎遣太子詣臨漳西釜口祈雨。久而不降。虎令澄自行。即有白

龍二頭降於祠所。其日大雨。方數千里。其年大收。戎貊之徒。先不識法。聞澄神驗。皆遙向禮拜。並不言而化焉。澄常遣弟子向西域中市香。既行。澄告餘弟子。掌中見買香弟子在某處被刼。垂死。因燒香呪願。遙救護之。弟子後還。云某月某日某處。為賊所刼。垂當見殺。忽聞香氣。賊無故自驚曰。救兵已至。棄之而走。虎於臨漳修治舊塔。少承露盤。澄曰。臨淄城內有古阿育王塔。地中有承露盤及佛像。其上林木茂盛。可掘取之。即畫圖與使。依言掘取。果得盤像。虎每欲伐燕。澄諫曰。燕國運未終。卒難可克。屢行敗績。方信澄戒。澄道化既行。以人多奉佛。皆營造塔廟。相競出家。真偽混淆。多生愆過。虎下書問中書曰。佛號世尊。國家所奉。里閭小人無爵秩者。為應得事佛與不。又沙門皆應高潔貞正。行能精進。然後可為道士。今沙門甚眾。或有姦宄避役。多非其人。卿可同議。偽中書著作郎王度奏曰。夫王者郊祀(祀原作視。據明本改。)天地。祭奉百神。載在祀典。禮有常饗。佛出西域。外國之神。功不施民。非天子諸華所應祠奉。往者漢明感夢。初傳其道。唯聽西域人得立寺都邑。以奉其神。漢人皆不得出家。魏承漢(原本漢下有後字。據高僧傳刪。)制。亦循前軌。今大趙受命。率由舊章。華戎制異。人神流別。外不同內。饗祭殊禮。荒下服禮。不宜雜錯。國家可斷趙人。悉不聽詣寺燒香禮拜。以尊典禮。其百辟卿士。下逮眾隸。例皆禁之。其有犯者。與淫祀同罪。趙人為沙門者。還從四民之服。偽中書令王波同度所奏。虎下書曰。度議云。佛是外國之神。非天子諸華所可宜奉。朕生自邊壤。忝當期運。君臨諸夏。(夏原作下。據明本改。)至於饗禮。應兼從本俗。佛是戎神。正所應奉。夫制由上行。永世作則。苟事克無虧。何拘前代。其夷趙百蠻。有捨其淫禮樂事佛者。悉聽為道。於是慢戒之徒。因之以厲。黃河中舊不生黿。忽得一以獻虎。澄見而歎曰。桓溫其入河不久。溫字元子。後果如言也。時魏縣有一流民。莫識氏族。恒著麻襦布裳。在魏縣市中乞丐。時人謂之麻襦。言語卓越。狀如狂病。

乞得米穀不食。輒散置大路。云飼天馬。趙興太守藉拔收送詣虎。先是澄謂虎曰。國東二百里某月某日當送一非常人。勿殺之也。如期果至。虎與共語。了無異言。唯道陛下當終一柱殿下。虎不解此語。令送以詣澄。麻襦謂澄曰。昔在元和中會。奄至今日。有戎受玄命。絕歷終有期。金離銷于壤。邊荒不能尊。驅除靈期迹。莫已已之懿。裔苗葉繁。其來方積。休期如何斯。永以歎之。澄曰。天廻運極。否將不支。九木水為難。無可以術學。玄哲雖存世。莫能基必馥。(高僧傳馥作穠。)久遊閻浮利。擾擾多此患。行登淩雲宇。會於虛遊間。澄與麻襦。講語終日。人莫能解。有竊聽者。唯得此數言。推計似如論數百年事。虎遣馬驛送還本縣。既出城外。辭能步行。云。我當有所過。未便得發。至合口橋。可留見待。使如言馳去。未至合口。而麻襦已在橋上。考其行步。有若飛也。澄有弟子道進。學通內外。為虎所重。嘗言及隱士。虎謂進曰。有楊軻者。朕之民也。徵之十餘年。不恭王命。故往省視。傲然而臥。雖不得君臨萬邦。乘輿所向。天沸地涌。雖不能令木石屈膝。何匹夫而長慢耶。昔太公之齊。先誅華士。太公賢哲。豈其謬乎。進對曰。昔舜優蒲衣。禹造伯成。魏飾干木。漢美周黨。管寧不應曹氏。皇甫不屈晉世。二聖四君。共嘉其節。將欲激厲貪競。以峻清風。願陛下遵舜、禹之德。勿効太公用刑。君舉必書。豈可令趙史遂無隱遁之傳乎。虎悅其言。即遣軻還其所止。遣十家供給之。進還。具以白澄。澄睆然笑曰。汝言善也。但軻命有所縣矣。後秦州兵亂。軻弟子以牛負軻西奔。戎軍追擒。並為所害。虎嘗晝寢。夢見羣羊負魚。從東北來。寤已訪澄。澄曰。不祥也。鮮卑其有中原乎。慕容氏後果都之。澄嘗與虎共處中堂。澄忽驚曰。幽州當火災。仍取酒灑之。久而笑曰。救已得矣。虎遣驗幽州。云。爾日火從四門起。西南有黑雲來。驟雨滅之。雨亦頗有酒氣。至虎建武十四年七月。石宣、石韜將圖相殺。宣時到寺。與澄同坐。浮圖一鈴獨鳴。澄謂宣曰。解鈴音乎。鈴云。胡子(子原作于。據高僧傳改。)洛

度。宣變色曰。是何言與。澄謬曰。老胡為道。不能山居無言。重茵美服。豈非洛度乎。石韜後至。澄熟視良久。韜懼而問澄。澄曰。怪公血臭。故相視耳。至八月。澄使弟子十人齋于別室。澄時蹔入東閣。虎與后杜氏問訊。澄曰。脇下有賊。不出十日。自佛圖以西。北殿以東。當有流血。慎勿東行也。杜后曰。和尚耄耶。何處有賊。澄即易語云。六情所受。皆悉是賊。老自應耄。但使少者不惛。遂便寓言。不復章的。後二日。宣果遣人害韜於佛寺中。欲因虎臨喪。仍行大逆。虎以澄先戒。故獲免。及宣事發被收。澄諫虎曰。既是陛下之子。何為重禍耶。陛下若忍怒加慈者。尚可六十餘歲。如必誅之。宣當為彗星。下掃鄴宮也。虎不從。以鐵鏁穿宣領。牽上薪積而焚之。收其官屬三百餘人。皆車裂支解。投之漳河。澄乃敕弟子罷別室(室原作空。據明本改。)齋也。後月餘日。有一妖馬。耄尾皆有燒狀。入中陽門。出顯陽門。東首東宮。皆不得入。走向東北。俄爾不見。澄聞而歎曰。災其及矣。至十一月。虎大饗群臣於太武前殿。澄吟曰。殿乎殿乎。棘子成林。將壞人衣。虎令發殿石下視之。有棘生焉。澄還寺。視佛像曰。悵恨不得莊嚴。獨語曰。得三年乎。自答不得不得。又曰。得二年、一年、百日、一月乎。自答不得。乃無復言。還房。謂弟子法祚曰。戊申歲禍亂漸萌。己酉石氏當滅。吾及其未亂。先從化矣。即遣人與虎辭曰。物理必遷。身命非保。貧道燄幻之軀。化期已及。既荷恩殊重。故逆以仰聞。虎愴然曰。不聞和尚有疾。乃忽爾告終。即自出至寺而慰諭焉。澄謂虎曰。出入生死。道之常也。修短分定。非所能言。夫道重行全。德貴無怠。苟業操無虧。雖亡若在。違而獲延。非其所願。今意未盡者。以國家心存佛理。奉法無吝。興起寺廟。崇顯壯麗。稱斯德也。宜享休祉。而布政猛烈。刑酷罪(原本無罪字。據明鈔本補。)濫。顯違(違原作為。據明鈔本改。)聖典。幽背法戒。以不自懲革。終無佛祐。若降心易慮。惠此下民。則國祚延長。道俗慶賴。畢命就盡。沒無遺恨。虎悲動嗚咽。知其必逝。即為鑿壙

營墳。至十二月八日。卒於鄴宮寺。是歲晉穆帝永和四年也。士庶悲哀。號赴傾國。春秋一百一十七年矣。仍窆於臨漳西紫陌。即虎所創塚也。俄而梁犢作亂。明年虎死。冉閔篡戮。石種都盡。閔小字棘奴。澄先所謂棘子成林者也。澄左乳旁先有一孔。圍四五寸。通徹腹內。有時光從中出。或以絮塞孔。夜欲讀書。輒拔絮。則一室洞明。又齋日輒至水邊。引腸洗之。還復內中。澄身長八尺。風姿甚美。妙解深經。旁通世論。講說之日。正標宗致。使始末文(明鈔本始末文三字作如來之。)言。昭然可了。加復慈洽蒼生。拯救危苦。二石兇強。虐害非道。若不以與澄同日。孰可言哉。但百姓蒙益。日用而不知耳。佛天、(高僧傳天作調。)須菩提等數十名僧。出自天竺康居。不遠數萬之路。足涉流沙。詣澄受訓。樊沔釋道安、中山竺法雅。並跨越關河。聽澄講說。皆妙達精理。研測幽微。澄自說生處去鄴九萬餘里。棄家入道一百九年。酒不踰齒。過中不食。非戒不履。無欲無求。受業追隨。常有數百。前後門徒。幾且一萬。所歷州郡。興立佛寺八百九十三所。弘法之盛。莫與先矣。初虎殮澄以生時錫杖及鉢內棺中。後冉閔篡位。開棺唯得鉢杖。不得見屍。或言澄死之日。有人見澄於流沙。虎疑其不死。因發墓開棺視之。唯見一石。虎曰。石者朕也。師葬我而去矣。未幾虎死。後慕容雋都鄴。處石虎宮中。每夢見虎囓其臂。意謂石虎為祟。乃募覓虎屍。於東明館掘得之。屍殭不毀。雋踦之罵曰。死胡敢怖生天子。汝作宮殿成。而為汝兒所圖。況復他耶。鞭撻毀辱。投之漳河。屍倚橋柱不移。秦將王猛乃收而葬之。麻襦所言一柱殿也。後苻堅征鄴。雋子暐為堅大將郭神虎所執。實先夢虎之驗也。田融趙(趙原作起。據高僧傳改。)記云。澄未亡數年。自營塚壙。澄既(既原作記。據明鈔本改。)知塚必開。又屍不在中。何容預作。恐融之謬矣。澄或言佛圖澄。或言佛屠澄。皆取梵音之不同耳。(出高僧傳)

太平廣記卷第八十九

異僧三

釋道安
鳩摩羅什
法朗
李恒沙門

釋道安

釋道安姓魏氏。常山扶柳人也。家世為儒。早失覆蔭。為外兄孔氏所養。年七歲。讀書再覽能誦。鄉隣嗟異。至年十二出家。神性聰敏。而形貌甚陋。不為師之所重。數歲之後。方啟師求經。與辯意經一卷。可五千言。安齎經入田。因休息就覽。暮歸。以經還師。更求餘者。師曰。昨經未讀。今復求耶。答曰。即以闇誦。師雖異之。而未言也。復與成具光明經一卷。不減一萬言。齎之如初。暮復還師。師執覆之。不差一字。師大驚嗟。敬而異之。後為受具戒。(原作戒具。據明鈔本改。)恣其遊學。至鄴。遇佛圖澄。因事澄為師。及石氏將亂。與弟子惠遠等四百餘人渡河南遊。夜行值雷雨。乘電光而進。前行得人家。見門裏有一馬樁。樁之間懸一馬兜。可容一斛。安使呼林百升。百升謂是神人。厚相賞接。既而弟子問何以知其姓字。安曰。兩木為林。兜容百升也。既達襄陽。復宣佛法。時襄陽習鑿齒鋒辯天逸。籠罩當時。其先藉安高名。及聞安至止。即往修造。既坐。稱言四海習鑿齒。安曰。彌天釋道安。時人以為名答。時苻堅素聞安名。每云襄陽有釋道安。是神器。方欲致之。以輔朕躬。後遣苻平南攻襄陽。安與朱序。俱獲於堅。堅謂僕射權翼曰。朕以十萬之師取襄陽。唯得一人半。翼曰。誰耶。堅曰。安公一人。習鑿齒半人也。既至。住長安五重寺。初堅承石氏之亂。至是戶民殷富。四方略定。唯建業一隅。未能克伏。每與侍臣談語。未嘗不欲平一江左。堅弟平陽公融及朝臣石越、原紹等。

並切諫。終不能迴。眾以安為堅所信敬。乃共請曰。主上將有事東南。公何能不為蒼生致一言耶。會堅出東苑。命安外輦同載。僕射權翼諫曰。臣聞天子法駕。侍中陪乘。道安毀形。寧可參廁。堅勃然作色曰。安公道德可尊。朕以天下不易。輿輦之榮。未稱其德。即[來*攵] 僕射扶安登輦。俄而顧謂安曰。朕將與公南遊吳越。整六師而巡狩。陟會稽以觀滄海。不亦樂乎。安對曰。陛下應天御世。有八州之富。居中土而制四海。宜棲神無為。與堯舜比隆。今欲以百萬之師。求厥田下之土。且東南一隅。地卑氣厲。禹遊而止。舜狩而殂。秦王適而不歸。以貧道觀之。非愚心所同也。平陽公懿戚。石越重臣。謂並不可。猶尚見距。貧道輕淺。言必不允。既荷厚遇。故盡丹誠耳。堅曰。非為地不廣。民不足治也。將簡天心。明大運所在耳。順時巡狩。亦著前典。若如師言。則先帝王無省方之文乎。安曰。若鑾駕必動。可先幸洛陽。抗威蓄銳。傳檄江南。如其不伏。伐之未晚。堅不從。遣平陽公融等精銳二十五萬為前鋒。堅躬率步騎六十萬。至須城。晉遣征虜將軍謝石、徐州刺史謝玄距之。堅前軍大潰於八公山。晉軍遂北三十餘里。堅單騎而遁。如所諫焉。安註諸經。恐不合理。乃誓曰。若所說不甚遠(遠原作道。據明鈔本改。)理。願見瑞相。乃夢見道人。頭白眉長。語安云。君所註經。殊合道理。我不得入泥洹。住在西域。當相助通。可時時設食。後十(十原作日。據高僧傳改。)誦律至。遠公乃知和尚所夢賓頭盧也。後至秦建元二十一年正月二十七日。忽有異僧。形甚庸陋。來寺寄宿。寺房既窄。處之講堂。時維那直殿。夜見此僧。從窗而出入。遽以白安。安驚起禮訊。問其來意。答云。特相為來。安曰。自惟罪深。詎可度脫。答云。甚可以度耳。安請問來生所生之處。彼乃以手虛撥天之西北。即見雲開。備覩兜率妙勝之報。安至其年二月八日忽告眾曰。吾當去矣。是日齋畢。無疾而卒。葬城內五級寺中。是歲晉太元元年也。(出高僧傳)

鳩摩羅什

鳩摩羅什。此云童壽。天竺人也。善經律論。化行於西域。及東遊龜茲。龜茲王為造金獅子座一處之。時苻堅僭號關中。有外國前部王及龜茲王弟並來朝堅。堅引見。二王說堅云。西域多產珍奇。請兵往定。以求內附。至堅建元十三年正月。太史奏云。有星見外國分野。當有大德智人入輔中國。堅曰。朕聞西戎有鳩摩羅什。襄陽有沙門道安。將非此耶。即遣使求之。至十七年二月。鄯善上前部王等又說堅請兵西伐。十八年九月。堅遣驍將呂光、淩江將軍姜飛將前部王及車師王等率兵七萬西伐龜茲。臨發。堅餞光於建章。謂光曰。夫帝王應天而治。以子愛蒼生為本。豈貪其地而伐之。正以懷遠之人故也。朕聞西域有鳩摩羅什。深解法相。善閑陰陽。為後學之宗。朕甚思之。賢哲者。國之大寶。若克龜茲。即馳驛送什。光軍未至。什謂龜茲王白純曰。國運衰矣。尚有勍敵從東方來。宜恭承之。勿抗其鋒。純不從而戰。光遂破龜茲。殺純。立純弟震為主。光既獲什。未測其智量。見年齒尚少。及以凡人戲之。強妻以龜茲王女。什拒而不受。辭甚苦至。光曰。道士之操。不踰先父。何所因辭。乃飲以醇酒。同閉密室。什被逼既至。遂虧其節。或令騎牛及乘惡馬。欲使墮落。什常懷忍辱。曾無異色。光慙愧而已。光還中路。置軍於山下。將士已休。什曰。不可在此。必見狼狽。宜徙軍隴上。光不納。至夜。果有大雨。洪潦暴起。水深數丈。死者數千。光始密而異之。什謂光曰。此凶亡之地。不宜淹留。推遷揆數。應速言歸。中路必有福土可居。光從之。至涼州。聞苻堅已為姚萇所害。光三軍縞素。大臨城南。於是竊號關外。年稱太安。太安二年正月。姑臧大風。什曰。不祥之風。當有姦叛。然不勞自定也。俄而梁謙、彭晃相係而反。尋亦殄滅。至光龍飛二年。張掖臨松盧水胡沮渠男成及從弟蒙遜反。推建康太守段業為主。遣庶子秦州刺史太原公纂。率眾五萬討之。時論謂業等烏合。纂有威聲。勢必全克。光以訪什。什曰。觀察此行。未見其利。既而纂敗績於合黎。俄有郭黁作亂。纂委大軍輕還。為黁所敗。僅以身免。光中書監張資。文翰溫雅。光甚器之。資病。光博營救療。有外國道人

羅叉。云能差資疾。光喜。給賜甚重。什知叉誑詐。告資曰。叉不能為。徒煩費耳。冥運雖隱。可以事試也。乃以五色絲作繩。結之。燒為灰末投水中。灰若出水還成繩者。病不可愈。須臾。灰聚浮出。復繩本形。既叉治無效。少日資亡。頃之。光又卒。子紹襲位。數日。光庶子纂殺紹自立。稱元咸寧。咸寧二年。猪生子。一身三頭。龍出東箱井中。到殿前蟠臥。比旦失之。纂以為美瑞。號大殿為龍翔殿。俄而有黑龍升於當陽九宮門。纂改為龍興門。什奏白。此日潛龍出遊。豕妖來異。龍者陰類。出入有時。而今屢見。則為災眚。必有下人謀上之變。宜克己修德。以答天戒。纂不納。與什博戲。殺棊曰。斫胡奴頭。什曰。不能斫胡奴頭。胡奴將砟人頭。此言有旨 。而纂終不悟也。光弟保。有子名超。超小字胡奴。後果殺纂斬首。立其兄隆為主。時人方驗什之言也。什住凉積年。呂光父子既不弘道教。故蘊其深解。無所宣化。苻堅已亡。竟不相見。及姚萇僭有關中。亦挹其高名。虛心要請。呂以什智計多解。恐為姚謀。不許東入。及萇卒。子興襲位。復遣敦請。興弘始三年三月。有樹連理。生于廟庭逍遙園。葱變為茝。以為美瑞。謂智人應入。至五月。興遣隴西公碩德西伐呂隆。隆軍大破。至九月。隆上表歸降。方得迎什入關。以其年十二月二十日至于長安。興待以國師之禮。甚見優寵。自大法東被。始於漢明。涉歷魏晉。經論漸多。而支竺所出。多滯文格義。興少崇三寶。銳志講集。什既至止。仍請入西明閣及逍遙園譯出眾經。什既率多諳誦。無不究盡。轉能漢言。音譯流便。既覽舊經。義多紕僻。皆由先度失旨 。不與梵本相應。於是興使沙門僧碧、僧遷、法欽、道流、道恒、道標、僧叡、僧肇等八百餘人。諮受什旨 。更令出大品。什持梵本。興執舊經。以相讎校。其新文異舊者。義皆圓通。眾心愜伏。莫不欣贊。什為人神情鑒徹。傲岸出群。應機領會。鮮有其匹。且篤性仁厚。汎愛為心。虛己善誘。終日無倦。姚興常謂什曰。大師聰明超悟。天下莫二。若一旦後世。何可使法種無嗣。遂以妓女十人。逼令受之。自爾已來。不住僧坊。別立廨舍。供給豐盈。每至講說。

常先自說譬。譬如臭泥中生蓮華。但採蓮華。勿取臭泥也。什初在龜茲。從卑摩羅叉律師受律。卑摩後入關中。什聞至欣然。師敬盡禮。卑摩未知被逼之事。因問什曰。汝於漢地。大有重緣。受法弟子。可有幾人。什答云。漢境經律未備。新經及諸論等。多是什所傳出。三千徒眾。皆從什受法。但什累業障深。故不受師敬耳。又杯渡比丘在彭城。聞什在長安。乃歎曰。吾與此子戲。別三百餘年。杳然未期。遲有遇於來生耳。什未終少日。覺四大不愈。乃口出三番神呪。令外國弟子誦之以自救。未及致力。轉覺危殆。於是力疾。與眾僧告別曰。因法相遇。殊未盡心。方復後世。惻愴何言。自以闇昧。謬充傳譚。凡所出經論三百餘卷。唯十誦一部。未及刪繁。存其本旨 。必無差失。願凡所宣譚。傳流後世。咸共弘通。今於眾前。發誠實誓。若所傳無謬者。當使焚身之後。舌不焦爛。以偽秦弘始十一年八月二十日卒於長安。是歲晉義熙五年也。即於逍遙園依外國法以火焚屍。薪滅形碎。唯舌不灰耳。(出高僧傳)

法朗

晉沙門康法朗學于中山。永嘉中。與一比丘西入天竺。行過流沙千有餘里。見道邊敗壞佛圖。無復堂殿。蓬蒿沒人。法朗等下拜瞻禮。見有二僧。各居其旁。一人讀經。一人患痢。穢污盈房。其讀經者。了不營視。朗等惻然興念。留為煮粥。掃除浣濯。至六日。病者稍困。注痢如泉。朗等共料理之。其夜。朗等並謂病者必不起。至明晨往視之。容色光悅。病狀頓除。然屋中穢物。皆是華馨。朗等乃悟是得道之士以試人也。病者曰。隔房比丘。是我和尚。久得道惠。可往禮覲。法朗等先嫌讀經沙門無慈愛心。聞已。乃作禮悔過。讀經者曰。諸(諸原作請。據陳校本改。)君誠契並至。同當入道。朗公宿學業淺。此世未得願也。謂朗伴云。惠若植根深。當現世得願。因而留之。法朗後還山中。為大法師。道俗宗之。(出冥祥記)

李恒沙門

晉李恒字元文。譙國人。少時。有一沙門造恒謂曰。君福報對至。而復對來隨之。君能守貧修道。不仕宦者。福增對滅。君其勉之。恒性躁。又寒門。但問仕宦當何所至。了不尋究修道意也。沙門與一卷經。恒不肯取。固問榮途貴賤何如。沙門曰。當帶金紫。極於三郡。若能於一郡止者。亦為善道。恒曰。且當富貴。何顧後患。因留宿。恒夜起。見沙門身滿一牀。入呼家人闚視。復變為大鳥跱屋梁上。天曉而形如舊。恒送出門。忽不復見。知是神人。因此事佛。而亦不能精至。後為西陽、江夏、廬江太守。加龍驤將軍。太興中。預錢鳳之亂。被誅。(出法苑珠林)

太平廣記卷第九十

異僧四

杯渡
釋寶誌

杯渡

杯渡者。不知姓名。常乘木杯渡水。因而為號。初在冀州。不修細行。神力卓越。世莫測其由。嘗於北方。寄宿一家。家有一金像。渡竊而將去。家主覺而追之。見渡徐行。走馬逐之不及。至於孟津河。浮木杯於水。憑之渡河。不假風棹。輕疾如飛。俄而渡岸。達于京師。見時可年四十許。帶索襤縷。殆不蔽身。言語出沒。喜怒不均。或剖氷扣凍而洗浴。或著履上山。或徒行入市。唯荷一蘆圌子。更無餘物。嘗往延賢寺法意道人處。意以別房待之。後欲往瓜步。至(至原作江。據明鈔本改。)於江側。就航人告渡。不肯載之。復累足杯中。顧眄言詠。杯自然流。直渡北岸。向廣陵。遇村舍、李家八關齋。先不相識。乃直入齋堂而坐。置圌於中庭。眾以其形陋。無恭敬之心。李見蘆圌當道。欲移置墻邊。數人舉不能動。渡食竟。提之而去。笑曰。四天王李家。于時有一豎子。窺其圌中。有四小兒。並長數寸。面目端正。衣裳鮮潔。於是追覓。不知所在。後三日。乃見在西界蒙龍樹下坐。李禮拜請還家。日日供養。渡不甚持齋。飲酒噉肉。至於辛膾。與俗不殊。百姓奉上。或受不受。沛國劉興伯為兗州刺史。遣使要之。負圌而來。興伯使人舉視。十餘人不勝。伯自看。唯見一敗衲及一木杯。後李家復得二十餘日。清旦忽云。欲得一袈裟。中時令辦。李即經營。至中未成。渡云暫出。至暝不返。合境聞有異香。疑之為怪。處處覓渡。乃見在北巖下。敷敗袈裟於地。臥之而死。頭前脚後。背生蓮華。極鮮香。一夕而萎。邑共殯葬之。後日有人從北來云。見渡負蘆圌。行向彭城。乃共開棺。唯見敗衣。既至彭城。遇有白衣黃欣。深信佛

法。見渡禮拜。請還家。至貧。但有麥飯而已。渡食之怡然。止得半年。忽語欣云。可覓蘆圌三十六枚。吾須用之。答云。此間止可有十枚。貧無以買。恐不盡辦。渡曰。汝但檢覓。宅中應有。欣即窮檢。果得三十六枚。列之庭中。雖有其數。亦多破敗。命欣次第孰視。皆已新完。渡密封之。因語欣令開。乃見錢帛皆滿。可堪百許萬。識者謂杯渡分身他土。所得賙施。廻以施欣。欣受之。皆為功德。經一年許。渡辭出。欣為辦糧食。明晨。見糧食皆存。不知渡所在。經一月許。復至京師。時潮溝有朱文殊者。少奉佛法。渡多來其家。文殊謂渡云。弟子脫捨身沒後。願見救濟。脫在好處。願為法侶。渡不答。文殊喜。佛法默默。已為許矣。後東遊入吳郡。路見釣魚師。因就乞魚。魚師施一餧者。渡手弄反覆。還投水。遊活而去。又見網(網原作往。據明鈔本改。)師。更從乞魚。網師瞋罵不與。渡乃拾取兩石子擲水中。俄而有兩水牛鬬其網中。網碎敗。不復見牛。渡亦已隱。行至松江。乃仰蓋於水中。乘而渡岸。經涉會稽剡縣。登天台山。數月而反京師。少時。遊止無定。請召或往不往。時南州有陳家。頗有衣食。渡往其家。甚見迎奉。聞都下復有一杯渡。陳父子五人。咸不信。故下都(都原作鄉。據明鈔本改。)看之。果於其家杯渡形相一種。陳設一合蜜薑。及刀子陸香(高僧傳子下有薰字。香下有手巾二字。)等。伺渡。渡即食蜜薑都盡。餘物宛在膝前。其父子五人。恐是其家杯渡。即留二弟停都守視。餘三人還家。見杯渡如舊。膝前亦有香刀子等。但不噉密薑為異爾。乃語陳云。刀子鈍。可為磨之。二弟還都。云。杯渡已移靈鷲寺。其家忽求黃紙兩幅。作書不成字。合同其背。陳問上人作何券書。渡不答。竟莫測其然。時吳部民朱靈期使高麗還。值風。舶飄經九日。至一洲邊。洲上有山。山甚高大。入山採薪。見有人於路。靈期乃將數人隨路告乞。行千餘里。聞磬聲香煙。於是共稱佛禮拜。須臾。見一寺甚光麗。多是七寶莊嚴。又見十餘石人。乃共禮拜。還反行少許。聞唱道聲。還往更看。猶是石人。靈期等相謂。此是聖

僧。吾等罪人。不能得見。因共竭誠懺悔。更往。乃見真人。為期等設食。食味是菜。而香美不同。眾食竟。共叩頭禮拜。乞速還至鄉。有一僧云。此間去都乃二十餘萬里。但令至心。不憂不速也。因問期云。識杯渡道人不。答言甚識。因指北壁。有一壺。掛錫杖及鉢。云。此是杯渡住處。今因君以鉢與之。並作書著函中。別有一青竹杖。謂期言。但擲此杖置舫前水中。閉目 靜坐。不假勞力。必令速至。於是辭別。令一沙彌送至門上。語曰。此道去。行七里至船。不須從先路去也。如言西轉。行七里許。至船。即具如所示。唯聞舫從山頂樹木上過。都不見水。經三日。至石頭淮而住。亦不復見竹杖所在。舫入淮。至朱雀。乃見杯渡騎大航蘭。以捶捶之曰。馬何不行。觀者甚多。靈期等在舫。遙禮之。渡乃自下舫。取書並鉢。開書視之。字無人識者。渡大笑曰。使我還耶。取鉢擲雲中。還接之曰。我不見此鉢。四千年矣。渡多在延賢寺法意處。時世以此鉢異物。競往觀之。一說云。靈期舫漂至一窮山。遇見一僧來。云是渡弟子。昔持師鉢而死冶城寺。今因君以鉢還師。但令一人擎鉢舫前。自安隱至也。期如所教。果獲全濟。至南州杯渡。期當騎蘭之日。爾日早出。至晚不還。陳氏明但見門扇上有青書六字云。福徑門。靈人降。字勁可識。其家杯渡遂絕迹矣。都下杯渡往來山邑。多行神呪。時庾常婢偷物而叛。四追不擒。乃問渡。云。已死。在城江邊空塚中。往看果如所言。孔寧子時以黃門侍郎在家患痢。遣信請渡。呪竟云。難差。見有四鬼。皆被傷截。寧子泣曰。昔孫恩作亂。家為軍人所破。二親及叔。皆被痛酷。寧子果死。又有齊諧妻胡母氏病。眾治不愈。被請僧設齋。坐有僧。勸迎杯渡。渡既至。一呪。病者即愈。齊諧伏事為師。因為作傳。記其從來神異。不可備紀。元嘉三年九月。辭諧入東。留一萬錢物寄諧。請為營齋。於是別去。行至赤山湖。患痢而死。諧即為營齋。並接屍還。葬建康覆舟山。至四年。有吳(吳原作五。據明鈔本改。)興邵信者。甚奉法。遇傷寒病。無人敢看。乃悲泣念觀音。忽見一僧來。云是杯渡弟子。語云。莫憂。家師尋來相看。答云。渡久已

死。何容得來。道人云。來復何難。便衣帶頭出一合許散。與服之。病即差。又有杜僧哀者。住在南岡下。昔經伏事杯渡。兒病甚篤。乃思念。恨不得渡與念神呪。明日。忽見渡來。言語如常。即為呪。病者便愈。至五年三月。渡復來齊諧家。呂道惠、聞人(人原作而。據高僧傳改。)怛之、杜天期、水丘熙等並見。皆大驚。即起禮拜。渡語眾人。言年當大凶。可勤修福業。法意道人甚有德。可往就之。修立故寺。以禳災禍也。須臾。門上有一僧喚。渡便辭去。云。貧道當向交廣之間。不復來也。齊諧等拜送慇懃。於是絕迹。頃世亦言時有見者。(出高僧傳)

釋寶誌

釋寶誌本姓朱。金城人。少出家。止江東道林寺。修習禪業。至宋大始初。忽如僻異。居止無定。飲食無時。髮長數寸。常跣行街巷。執一錫杖。杖頭挂剪刀及鏡。或挂一兩匹帛。齊建元中。稍見異迹。數日不食。亦無飢容。與人言。始苦難曉。後皆效驗。時或賦詩。言如讖記。江東士庶皆共事之。齊武帝謂其惑眾。收駐建康。既旦。人見其入市。還檢獄中。誌猶在焉。誌語獄吏。門外有兩輦食來。金鉢盛飯。汝可取之。既而齊文惠太子、竟陵王子良並送食餉誌。果如其言。建康令呂文顯以事聞。武帝即迎入宮。居之後堂。一時屏除內宴。誌亦隨眾出。既而景陽山上。猶有一誌。與七僧具。帝怒。遣推檢其所。關(明鈔本關作閣。)吏啟云。誌久出在(在原作有。據高僧傳改。)省。方以墨塗其身。時僧正法獻欲以一衣遺誌。遣使於龍光罽賓二寺求之。並云昨宿且去。又至其常所造屬侯伯家尋之。伯云。誌昨在此行道。旦眠未覺。使還以告。獻方知其分身三處宿焉。誌常盛冬袒(冬袒原作束袒。據高僧傳改。)行。沙門寶亮欲以衲衣遺之。未及發言。誌忽來引衲而去。後假齊武帝神力。使見高帝於地下。常受錐刀之苦。帝自是永廢錐刀。武帝又常於華林園召誌。誌忽著三重布帽以見。俄而武帝崩。文惠太子及豫章王相

繼而薨。永明中。常住東宮後堂。一日平明。從門出入。忽云。門上血污衣。褰衣走過。及鬱林見害。車載出此。帝頸血流於門限。齊衛尉胡諧疾。請誌。誌註疏云明日。竟不往。是日諧亡。載屍還宅。誌曰。明日屍出也。齊太尉司馬殷齊之隨陳顯達鎮江州。辭誌。誌畫紙作樹。樹上有鳥。語云。急時可登此。後顯達逆節。留齊之鎮州。及敗。齊之叛入廬山。追騎將及。齊之見林中有一樹。樹上有鳥。如誌所畫。悟而登之。鳥竟不飛。追者見鳥。謂無人而反。卒以見免。齊屯騎桑偃將欲謀反。往詣(原無詣字。據明鈔本補。)誌。遙見而走。大呼云。圍臺城。欲反逆。斫頭破腹。後有旬事發。偃叛往朱方。為人所得。果斫頭破腹。梁鄱陽忠烈王。嘗屈誌至第。忽令覓荊子甚急。既得。安於門上。莫測所以。少時王出為荊州刺史。其預鑒之明。此類非一。誌多往來興皇、淨名兩寺。及梁武即位。下詔曰。誌公迹均塵垢。神遊冥漠。水火不能焦濡。蛇虎不能侵懼。語其佛理。則聲聞無上。談其隱淪。則道行高著。豈得以俗士凡情。空相拘制。何其鄙陋。一至於此。自今行來。隨意出入。勿得復禁。誌自是多出入禁中。長於臺城。對梁武帝喫鱠。昭明諸王子皆侍側。食訖。武帝曰。朕不知味二十餘年矣。師何謂爾。誌公乃吐出小魚。依依鱗尾。武帝深異之。如今秣陵尚有鱠殘魚也。天監五年冬旱。雩祭備至。而未降雨。忽上啟云。誌病不差。就官乞活。若不啟白官。應得鞭杖。願於華光殿講勝鬘經請雨。梁武即使沙門法雲講勝鬘竟。夜更大雨。誌又云。須一盆水。加刀其上。俄而天雨大降。高下皆足。梁武嘗問誌云。弟子煩惑未除。何以治之。答云。十二。識(識原作識。據明鈔本改。)者以為十二因緣。治惑藥也。又問十二之(文原作之。據明鈔本改。)旨。答云。在書字時節刻漏中。識者以為書之在十二時中。又問弟子何時得靜心修習。答云。安樂(樂原作藥。據明鈔本改。)禁。識者以為禁者止也。至安樂(樂原作藥。據明鈔本改。)時乃止(原無止字。據高僧傳補。)耳。後法雲於華林講法華經。至假使黑風。(假使黑風原作假使風墨。據法華經

改。)誌忽問之有無。答云。世諦(諦原作帝。據明鈔本改。)故有。第一義則無也。誌往復三四番。便笑云。若體是假有。此亦不可解。難可解。其辭旨 隱沒。類皆如此。有陳征虜者。舉家事誌甚篤。誌嘗為其見真形。光相如菩薩像焉。誌知名顯奇。四十餘載。士女供事者。不可勝數。然好用小便濯髮。俗僧闇有譏笑者。誌亦知眾僧多不斷酒肉 。譏之者飲酒食猪肚。誌勃然謂曰。汝笑我以溺洗頭。汝何為食盛糞袋。譏者懼而慙服。晉安王蕭綱初生日。梁武遣使問誌。誌合掌云。皇子誕育幸甚。然冤家亦生。於後推尋曆數。與侯景同年月日而生也。會稽臨海寺有大德。常聞揚州都下有誌公。語言顛狂。放縱自在。僧云。必是狐狸之魅也。願向都下。覓獵犬以逐之。於是輕船入海。趨浦口。欲西上。忽大風所飄。意謂東南。六七日始到一島中。望見金裝浮圖。干雲秀出。遂尋徑而往。至一寺。院宇精麗。花卉芳菲。有五六僧。皆可年三十。美容色。並著員緋袈裟。倚杖於門樹下言語。僧云。欲向都下。為風飄蕩。不知上人此處何州國。今四望環海。恐本鄉不可復見。答曰。必欲向揚州。即時便到。今附書到鍾山寺西行南頭第二房。覓黃頭付之。僧因閉目 坐船。風聲定開眼。如言奄至西岸。入數十里。至都。徑往鍾山寺訪問。都無有黃頭者。僧具說委曲 。報云。西行南頭第二房。乃風病道人誌公。雖言配在此寺。在都下聚樂(樂原作藥。據明鈔本改。)處。百日不一度來。房空無人也。問答之間。不覺誌公已在寺廚上。乘醉索食。人以齋過日晚。未與間。便奮身惡罵。寺僧試遣沙彌繞廚側。漫叫黃頭。誌公忽云。阿誰喚我。即逐沙彌來到僧處。謂曰。汝許將獵狗捉我。何為空來。僧知是非常人。頂禮懺悔。授書與之。誌公看書云。方丈道人喚我。不久亦當自還。誌公遂屈指云。某月日去。便不復共此僧語。眾但記某月日。至天監十三年冬。於臺城後堂謂人曰。菩薩將去。未及旬日。無疾而終。屍體香軟。形貌熙悅。臨亡。燃一燭以付後閤舍人吳慶。慶即啟聞。梁武歎曰。大師不復留。以燭者。將以後事屬我乎。因厚加殯送。

葬于鍾山獨龍之阜。仍於墓所立開善寺。勅陸倕製銘於塚內。王筠勒碑文於寺門。傳其遺像。處處存焉。初誌顯迹之始。年可無五六十許。而終亦不老。人誠莫測其年。有餘捷道者。居於京師九日臺北。自言是誌外舅弟。小誌四年。計誌亡時。應年九十七矣。又後魏有沙門寶公者。不知何處人也。形貌寢陋。心識通達。過去未來。預覩三世。發言似讖。不可得解。事過之後。始驗其實。胡太后問以世事。寶公把粟與鷄。喚朱朱。時人莫解。建義元年。後為爾朱榮所害。始驗其言。時有洛陽人趙法和。請占 早晚當有爵。寶公曰。大竹箭。不須羽。東廂屋。急手作。時人不曉其意。經月餘。法和父亡。大竹箭者。苴杖。東廂屋者。倚廬。初造十二辰歌。終其言也。此寶公與江南者。未委是一人也兩人也。(出高僧傳及洛陽伽藍記)

太平廣記卷第九十一

異僧五

求那跋摩
法度
通公
阿專師
阿禿師
稠禪師
釋知苑
法喜
法琳
徐敬業
駱賓王

求那跋摩

求那跋摩者。西域僧也。宋元嘉中。東遊渡江。居於金陵祇園寺。宋文帝常謂之曰。弟子恒願持齋。不殺生命。以身徇物。不獲其志。法師不遠萬里。來化此國。將何以教之。對曰。道在心。不在事。法由己。非由人。且帝王與凡庶。所修亦有殊矣。若凡庶者。身賤名微。德不及遠。其教不出於門庭。其言不行於僕妾。若不苦身刻己。行善持誠。將何以用其心哉。帝王以四海為家。萬民為子。出一嘉言。則士庶咸悅。布一善政。則人神以和。刑清則不夭其命。役簡則無勞其力。然後辨鐘律。正時令。鐘律辨則風雨調。號令時則寒暑節。如此則持齋亦已大矣。不殺亦已眾矣。安在乎缺一時之膳。全一禽之命。然後乃為弘濟也。文帝撫几嗟歎。稱善者良久。乃曰。俗人迷於遠理。沙門滯於近教。迷遠理者謂為虛說。滯近教者拘戀章句。如法師者。真所謂開悟明達。可以言天人之際矣。(出劇談錄)

法度

釋法度。黃龍人也。南齊初。遊于金陵。高士齊郡名僧紹。隱居瑯琊之攝山。挹度清真。待以師友。及亡。捨所居山為棲霞寺。先是有道士欲以寺地為觀。住者輒死。後為寺。猶多恐懼。自度居之。群妖皆息。經歲餘。忽聞人馬鼓角之聲。俄見一人投刺於度曰。靳尚。度命前之。尚形甚閒雅。羽衛亦眾。致敬畢。乃言弟子主有此山。七百餘年矣。神道有法。物不得干。前後棲託。或非真實。故死病繼之。亦其命也。法師道德所歸。謹捨以奉給。並願受五戒。永結來緣。度曰。人神道殊。無容相屈。且檀越血食世祀。此最五戒所禁。尚曰。若備門庭。輒先去殺。於是辭去。明旦。一人送錢一萬。並香燭等。疏云。弟子靳尚奉供。至其月十五日。度為設會。尚又來。同眾禮拜行道。受戒而去。既而攝山廟巫夢神告曰。吾已受戒於度法師矣。今後祠祭者勿得殺戮。由是廟中薦獻菜飯而已。(出歙州圖經)

通公

梁末有通公道人者。不知其姓氏。居處無常。所語狂譎。然必有應驗。飲酒食肉。遊行民間。侯景甚信之。揚州未陷之日。多拾無數死魚頭。積於西明門外。又拔青草荊棘栽市里。及侯景渡江。先屠東門。(明鈔本門作府。)一城盡斃。置其首于西明門外。為京觀焉。市井破落。所在荒蕪。通公言說得失。於景不便。景惡之。又憚非常人。不敢加害。私遣小將于子悅將武士四人往候之。景謂子悅云。若知殺。則勿害。不知則密捉之。子悅立四人於門外。獨入見。通脫衣燎火。逆謂子悅曰。汝來殺我。我是何人。汝敢輒殺。子悅作禮拜云。不敢。於是馳往報景。景禮拜謝之。卒不敢害。景後因宴召僧通。僧通取肉揑鹽。以進於景。問曰。好否。景曰。大鹹。僧通曰。不鹹則爛。及景死數日。眾以鹽五石置腹中。送尸于建康市。百姓爭屠膾羹。食之皆盡。後竟不知所去。(出廣古今五行記)

阿專師

侯景為定州刺史之日。有僧不知氏族。名阿專師。多在州市。聞人有會社齋供嫁娶喪葬之席。或少年放鷹走狗追隨宴集之處。未嘗不在其間。鬪爭喧囂。亦曲助朋黨。如此多年。後正月十五日夜。觸他長幼坐席。惡口聚罵。主人欲打死之。市道之徒救解將去。其家兄弟明旦捕覓。正見阿專師騎一破墻上坐。嘻笑謂之曰。汝等此間何厭賤我。我捨汝去。捕者奮杖欲擲。前人復遮約。阿專師復云。定厭賤我。我去。以杖擊墻。口唱叱叱。所騎之墻一堵。忽然昇上。可數十仞。舉手謝鄉里曰。好住。百姓見者。無不禮拜悔咎。須臾。暎雲而滅。可經一年。聞在長安。還如舊態。於後不知所終。(出廣古今五行記)

阿禿師

北齊初。并州阿禿師者。亦不知鄉土姓名所出。爾朱未滅之前。已在晉陽。遊諸郡邑。不居寺舍。出入民間。語譎必有徵驗。每行市里。人眾圍繞之。因大呼。以手指胸曰。憐你百姓無所知。不識并州阿禿師。人遂以此名焉。齊神武遷鄴之後。以晉陽兵馬之地。王業所基。常鎮守并州。時來鄴下。所有軍國大事。未出帷幄者。禿師先于人眾間泄露。末年。執置城內。遣人防守。不聽輒出。若其越逸。罪及門司。當日并州時三門。各有一禿師溢出。遍執不能禁。未幾。有人從北州來云。禿師四月八日於鴈門郡市捨命郭下。大家以香花送之。埋於城外。并州人怪笑此語。謂之曰。禿師四月八日從汾橋過。東出。一脚有鞋。一脚徒跣。但不知入何巷坊。人皆見之。何云鴈門死也。此人復往北州。報語鄉邑。眾共開塚看之。唯有一隻鞋耳。後還遊并州。齊神武以制約不從。浪語不出。慮動民庶。遂以妖惑戮之。沙門無髮。以繩鉤首。伏法之日。舉州民眾。詣寺觀之。禿師含笑。更無言語。刑後六七日。有人從河西

部落來云。道逢禿師。形狀如故。但背負一繩。籠禿師頭。(頭原作欲。据明鈔本改。)與語不應。急走西去。(出廣古今五行記)

稠禪師

北齊稠禪師。鄴人也。初落髮為沙彌。時輩甚眾。每休暇。常角力騰趠為戲。而禪師以劣弱見淩。紿侮毆擊者相繼。禪師羞之。乃入殿中閉戶。抱金剛足而誓曰。我以羸弱。為等類輕負。為辱已甚。不如死也。汝以力聞。當祐我。我捧汝足七日。不與我力。必死于此。無還志。約既畢。因至心祈之。初一兩夕恒爾。念益固。至六日將曙。金剛形見。手執大鉢。滿中盛筋。謂稠曰。小子欲力乎。曰。欲。念至乎。曰。至。能食筋乎。曰。不能。神曰。何故。稠曰。出家人斷肉故耳。神因操鉢舉匕 。以筋視之。禪師未敢食。乃怖以金剛杵。稠懼遂食。斯須入口。神曰。汝已多力。然善持教。勉旃。神去且曉。乃還所居。諸同列問曰。豎子頃何至。稠不答。須臾。於堂中會食。食畢。諸同列又戲毆。禪師曰。吾有力。恐不堪於汝。同列試引其臂。筋骨彊勁。殆非人也。方驚疑。禪師曰。吾為汝試。因入殿中。橫蹋壁行。自西至東。凡數百步。又躍首至於梁數四。乃引重千鈞。其拳捷驍武。動駭物聽。先輕侮者。俯伏流汗。莫敢仰視。禪師後證果。居於林慮山。入山數千里。搆精廬殿堂。窮極土木。諸僧從其禪者。常數千人。齊文宣帝怒其聚眾。因領驍勇數萬騎。躬自往討。將加白刃焉。禪師是日。領僧徒谷口迎候。文宣問曰。師何遽此來。稠曰。陛下將殺貧道。恐山中血污伽藍。故至谷口受戮。文宣大驚。降駕禮謁。請許其悔過。禪師亦無言。文宣命設饌。施畢請曰。聞師金剛處祈得力。今欲見師效少力。可乎。稠曰。昔力者人力耳。今為陛下見神力。欲見之乎。文宣曰。請與同行寓目 。先是禪師造寺。諸方施木數千根。臥在谷口。禪師呪之。諸木起空中。自相搏擊。聲若雷霆。鬬觸摧折。繽紛如雨。文宣大懼。從官散走。文宣叩頭請止之。因敕禪師度人造

寺。無得禁止。後於并州營幢子。未成遘病。臨終歎曰。夫生死者。人之大分。如來尚所未免。但功德未成。以此為恨耳。死後願為大力長者。繼成此功。言終而化。至後三十年。隋帝過并州。見此寺。心中渙然記憶。有似舊修行處。頂禮恭敬。無所不為。處分并州。大興營葺。其寺遂成。時人謂帝為大力長者云。(出紀聞及朝野僉載)

釋知苑

唐幽州沙門知苑。精練有學識。隋大業中。發心造石室一切經藏。以備法戒。既而於幽州西山鑿巖為石室。即摩四壁而以寫經。又取方石。別更摩寫。藏諸室內。每一室滿。即以石塞門。鎔鐵固之。時隋煬帝幸涿郡。內史侍郎蕭瑀。皇后弟也。性篤信佛法。以其事白后。后施絹千匹。瑀施絹五百匹。朝野聞之。爭共捨施。故苑得成功。苑常以役匠既多。道俗奔湊。欲與巖前造木佛堂並食堂。寐而念木瓦難辦。恐繁經費。未能起作。忽一夜暴雷震電。明旦既晴。乃見山下有大木松柏數千萬。為水所漂。積於道次。道俗驚駭。不知來處。於是遠近歎服。苑乃使匠擇取其木。餘皆分與邑里。邑里喜悅而助造堂宇。頃之畢成。如其志焉。苑所造石經。已滿七室。以貞觀十三年卒。弟子繼其功焉。(出冥報錄)

法喜

隋煬帝時。南海郡送一僧。名法喜。帝令宮內安置。於時內造一堂新成。師忽升堂觀看。因驚走下堦。廻顧云。幾壓殺我。其日中夜。天大雨。堂崩。壓殺數十人。其後又於宮內環走。索羊頭。帝聞而惡之。以為狂言。命鏁著一室。數日。三衛于市見師。還奏云。法喜在市內慢行。敕責所司。檢驗所禁之處。門鏁如舊。守者亦云。師在室內。於是開戶入室。見袈裟覆一叢白骨。鏁在項骨之上。以狀奏聞。敕遣長史王恒驗之。皆然。帝由是始信非常人也。

敕令勿驚動。至日暮。師還室內。或語或笑。守門者奏聞。敕所司脫鑰。放師出外。隨意所適。有時一日之中。凡數十處齋供。師皆赴會。在在見之。其間亦飲酒噉肉。俄而見身有疾。常臥牀。去薦蓆。令人於牀下鋪炭火。甚熱。數日而命終。火炙半身。皆焦爛。葬于香山寺。至大業四年。南海郡奏云。法喜見還在郡。敕開棺視之。則無所有。(出拾遺記。明鈔本作出大業拾遺記)

法琳

唐武德中。終南山宣律師修持戒律。感天人韋將軍等十二人自天而降。旁加衛護。內有南天王子張瓊。常侍於律師。時法琳道人飲酒食肉。不擇交遊。至有妻子。律師在城內。法琳過之。律師不禮焉。天王子謂律師曰。自以為何如人。律師曰。吾頗聖也。王子曰。師未聖。四果人耳。法琳道人即是聖人。律師曰。彼破戒如此。安得為聖。王子曰。彼菩薩地位。非師所知。然彼更來。師其善待之。律師乃改觀。後法琳醉。猝造律師。直坐其牀。吐於牀下。臭穢雖甚。律師不敢嫌之。因以手攫造功德錢。納之袖中徑去。便將沽酒市肉。錢盡復取。律師見即與之。後唐高祖納道士言。將滅佛法。法琳與諸道士競論。道士慙服。又犯高祖龍顏。固爭佛法。佛法得全。琳之力也。佛經護法菩薩。其琳之謂乎。(出感通記)

徐敬業

唐則天朝。徐敬業揚州作亂。則天討之。軍敗而遁。敬業竟養一人。貌類於己。而寵遇之。及敬業敗。擒得所養者。斬其元以為敬業。而敬業實隱大孤山。與同伴數十人結廬不通人事。乃削髮為僧。其侶亦多削髮。天寶初。有老僧法名住括。年九十餘。與弟子至南岳衡山寺訪諸僧而居之。月餘。忽集諸僧徒。懺悔殺人罪咎。僧徒異之。老僧曰。汝頗聞有徐敬業乎。則吾身也。吾兵敗。入於

大孤山。精勤修道。今命將終。故來此寺。令世人知吾已證第四果矣。因自言死期。果如期而卒。遂葬於衡山。(出紀聞)

駱賓王

唐考功員外郎宋之問以事累貶黜。後放還。至江南。遊靈隱寺。夜月極明。長廊行吟。且為詩曰。鷲嶺鬱岧嶤。龍宮鎖寂寥。第一聯搜奇覃思。終不如意。有老僧點長命燈。坐大禪牀。問曰。少年夜久不寐。而吟諷甚苦。何耶。之問答曰。弟子業詩。適遇欲題此寺。而興思不屬。僧曰。試吟上聯。即吟與之。再三吟諷。因曰。何不云樓觀滄海日。門對浙江潮。之問愕然。訝其遒麗。又續終篇曰。桂子月中落。天香雲外飄。捫蘿登塔遠。刳木取泉遙。霜薄花更發。冰輕葉未凋。待入天台路。看余度石橋。僧所贈句。[刃-刀+乃]為一篇之警策。遲明更訪之。則不復見矣。寺僧有知者曰。此駱賓王也。之問詰之。答曰。當徐敬業之敗。與賓王俱逃。捕之不獲。將帥慮失大魁。得不測罪。時死者數萬人。因求類二人者函首以獻。後雖知不死。不敢捕送。故敬業得為衡山僧。年九十餘乃卒。賓王亦落髮。徧遊名山。至靈隱。以周歲卒。當時雖敗。且以興復唐朝為名。故人多獲脫之。(出本事詩)

太平廣記卷第九十二

異僧六

玄奘
萬迴
一行
無畏
明達師
惠照

玄奘

沙門玄奘俗姓陳。偃師縣人也。幼聰慧。有操行。唐武德初。往西域取經。行至罽賓國。道險。虎豹不可過。奘不知為計。乃鑰房門而坐。至夕開門。見一老僧。頭面瘡痍。身體膿血。牀上獨坐。莫知來由。奘乃禮拜勤求。僧口授多心經一卷。令奘誦之。遂得山川平易。道路開闢。虎豹藏形。魔鬼潛跡。遂至佛國。取經六百餘部而歸。其多心經至今誦之。初奘將往西域。於靈巖寺見有松一樹。奘立於庭。以手摩其枝曰。吾西去求佛教。汝可西長。若吾歸。即却東迴。使吾弟子知之。及去。其枝年年西指。約長數丈。一年忽東迴。門人弟子曰。教主歸矣。乃西迎之。奘果還。至今眾謂此松為摩頂松。(出獨異志及唐新語)

萬迴

萬迴師。閿鄉人也。俗姓張氏。初母祈於觀音像而因娠迴。迴生而愚。八九歲乃能語。父母亦以豚犬畜之。年長。父令耕田。迴耕田。直去不顧。口但連稱平等。因耕一壟。耕數十里。遇溝坑乃止。其父怒而擊之。迴曰。彼此總耕。何須異相。乃止擊而罷耕。迴兄戍役於安西。音問隔絕。父母謂其死矣。日夕涕泣而憂思焉。迴顧父母感念之甚。忽跪而言曰。涕泣豈非憂兄耶。父母且疑且信。曰。然。迴曰。詳思我兄所要者。衣裘糗糧巾履之屬。請悉備

焉。某將往之。忽一日。朝齎所備而往。夕返其家。告父母曰。兄平善矣。視之。乃兄迹也。一家異之。弘農抵安西。蓋萬餘里。以其萬里廻。故號曰萬廻也。先是玄奘法師向佛國取經。見佛龕題柱曰。菩薩萬廻。謫向閿鄉地教化。奘師馳驛至閿鄉縣。問此有萬廻師無。令呼之。萬廻至。奘師禮之。施三衣瓶鉢而去。後則天追入內。語事多驗。時張易之大起第宅。萬廻常指曰。將作。人莫之悟。及易之伏誅。以其宅為將作監。常謂韋庶人及安樂公主曰。三郎斫汝頭。韋庶人以中宗第三。恐帝生變。遂鴆之。不悟為玄宗所誅也。又睿宗在藩邸時。或遊行人間。萬廻於聚落街衢中高聲曰。天子來。或曰。聖人來。其處信宿間。睿宗必經過徘徊也。惠莊太子。即睿宗第二子也。初則天曾 以示萬廻。萬廻曰。此兒是西域大樹精。養之宜兄弟。後生申王。儀形瓌偉。善於飲啖。景龍中。時時出入。士庶貴賤。競來禮拜。萬廻披錦袍。或笑罵。或擊鼓。然後隨事為驗。太平公主為造宅於己宅之右。景雲中。卒於此宅。臨終大呼。遣求本鄉河水。弟子徒侶覓無。萬廻曰。堂前是河水。眾於堦下掘井。忽河水湧出。飲竟而終。此坊井水。至今甘美。(出談賓錄及兩京記)

一行

僧一行姓張氏。鉅鹿人。本名遂。唐玄宗既召見。謂曰。卿何能。對曰。唯善記覽。玄宗因詔掖庭。取宮人籍以示之。周覽既畢。覆其本。記念精熟。如素所習。讀數幅之後。玄宗不覺降御榻。為之作禮。呼為聖人。先是一行既從釋氏。師事普寂於嵩山。師嘗設食於寺。大會群僧及沙門。居數百里者。皆如期而至。且聚千餘人。時有盧鴻者。道高學富。隱于嵩山。因請鴻為文。讚歎其會。至日。鴻持其文至寺。其師授之。致於几案上。鐘梵既作。鴻請普寂曰。某為文數千言。況其字僻而言怪。盍於群僧中選其聰悟者。鴻當親為傳授。乃令召一行。既至。伸紙微笑。止於一覽。復致於几

上。鴻輕其疎脫而竊怪之。俄而群僧會於堂。一行攘袂而進。抗音興裁。一無遺忘。鴻驚愕久之。謂寂曰。非君所能教導也。當縱其遊學。一行因窮大衍。自此訪求師資。不遠數千里。嘗至天台國清寺。見一院。古松數十步。門有流水。一行立於門屏間。聞院中僧於庭布算。其聲簌簌。既而謂其徒曰。今日當有弟子求吾算法。已合到門。豈無人導達耶。即除一算。又謂曰。門前水合却西流。弟子當至。一行承言而入。稽首請法。盡授其術焉。而門水舊東流。忽改為西流矣。邢和璞嘗謂尹愔曰。一行其聖人乎。漢之洛下閎造曆云。後八百歲。當差一日。則有聖人定之。今年期畢矣。而一行造大衍曆。正在差謬。則洛下閎之言信矣。一行又嘗詣道士尹崇借楊雄太玄經。數日。復詣崇還其書。崇曰。此書意旨 深遠。吾尋之積年。尚不能曉。吾子試更研求。何遽見還也。一行曰。究其義矣。因出所撰大衍玄圖及義訣一卷以示崇。崇大嗟伏。謂人曰。此後生顏子也。初一行幼時家貧。鄰有王姥。前後濟之約數十萬。一行常思報之。至開元中。一行承玄宗敬遇。言無不可。未幾。會王姥兒犯殺人。獄未具。姥詣一行求救。一行曰。姥要金帛。當十倍酬也。君上執法。難以情求。如何。王姥戟手大罵曰。何用識此僧。一行從而謝之。終不顧。一行心計渾天寺中工役數百。乃命空其室內。徙一大甕於中央。密選常住奴二人。授以布囊。謂曰。某坊某角有廢園。汝向中潛伺。從午至昏。當有物入來。其數七者。可盡掩之。失一則杖汝。如言而往。至酉後。果有群豕至。悉獲而歸。一行大喜。令寘甕中。覆以木蓋。封以六一泥。朱題梵字數十。其徒莫測。詰朝。中使叩門急召。至便殿。玄宗迎問曰。太史奏。昨夜北斗不見。是何祥也。師有以禳之乎。一行曰。後魏時失熒惑。至今帝車不見。古所無者。天將大警於陛下也。夫匹婦匹夫。不得其所。則殞霜赤旱。盛德所感。乃能退舍。感之切者。其在葬枯出繫乎。釋門以瞋心壞一切喜。(陳校喜作善。)慈心降一切魔。如臣曲見。莫若大赦天下。玄宗從之。又其夕。太史奏北斗一星見。凡七日而復。至開元末。裴寬為河南尹。深信釋氏。師事普

寂禪師。日夕造焉。居一日。寬詣寂。寂云。方有少事。未暇款語。且請遲回休憩也。寬乃屏息。止於空室。見寂潔滌正堂。焚香端坐。坐未久。忽聞扣門。連云天師一行和尚至矣。一行入。詣寂作禮。禮訖。附耳密語。其貌絕恭。寂但領云。無不可者。語訖禮。禮訖又語。如是者三。寂唯云。是是。無不可者。一行語訖。降階入南室。自闔其戶。寂乃徐命弟子云。遣鐘。一行和尚滅度矣。左右疾走視之。一如其言。滅度後。寬乃服衰絰葬之。自(明鈔本、陳校本自作日。)徒步出城送之。(出開天傳信記及明皇雜錄、酉陽雜俎)

無畏

唐無畏三藏初自天竺至。所司引謁於玄宗。玄宗見而敬信焉。因謂三藏曰。師不遠而來。故倦矣。欲於何方休息耶。三藏進曰。臣在天竺。常時聞大唐西明寺宣律師持律第一。願往依止焉。玄宗可之。宣律禁戒堅苦。焚修精潔。三藏飲酒食肉。言行麤易。往往乘醉喧競。穢污綑席。宣律頗不能甘之。忽中夜。宣律捫虱。將投于地。三藏半醉。連聲呼曰。律師律師。撲死佛子耶。宣律方知其異人也。整衣作禮而師事焉。宣律精苦之甚。常夜後行道。臨堦墜墮。忽覺有人捧承其足。宣顧視之。乃一少年也。宣遽問弟子何人。中夜在此。少年曰。某非常人。即毗沙門天王子那吒太子也。以護法之故。擁護和尚。時已久矣。宣律曰。貧道修行。無事煩太子。太子威神自在。西域有可以作佛事者。願太子致之。太子曰。某有佛牙。寶事雖久。然頭目 猶捨。敢不奉獻。宣律得之。即今崇聖寺佛牙是也。(出開天傳信記)

明達師

明達師者。不知其所自。於閿鄉縣住萬廻故寺。往來過客。皆謁明達。以問休咎。明達不答。但見其旨 趣而已。曾 有人謁明達。問曰。欲至京謁親。親安否。明達授以竹杖。至京而親亡。又有謁達

者。達取寺家馬。令乘之。使南北馳驟而去。其人至京。授採訪判官。乘驛無所不至。又有謁達者。達以所持杖。畫地為堆阜。以杖撞築地為坑。其人不曉。至京。背發腫。割之。血流殆死。李林甫為黃門侍郎。扈從西還。謁達。加秤於其肩。至京而作相。李雍門為湖城令。達忽請其小馬。雍門不與。間一日。乘馬將出。馬忽庭中人立。雍門墜馬死。如此頗眾。達又常當寺門北望。言曰。此川中兵馬何多。又長歎曰。此中觸處總是軍隊。及後哥舒翰擁兵潼關。拒逆胡。關下閿鄉。盡為戰場矣。(出紀聞錄)

惠照

唐元和中。武陵郡開元寺有僧惠照。貌衰體羸。好言人之休戚而皆中。性介獨。不與群狎。常閉關自處。左右無侍童。每乞食於里人。里人有年八十餘者云。照師居此六十載。其容狀無少異於昔時。但不知其甲子。後有陳廣者。由孝廉科為武陵官。廣好浮圖氏。一日因謁寺。盡訪群僧。至惠照室。見廣。且悲且喜曰。陳君何來之晚耶。廣愕然。自以為平生不識照。則謂曰。未嘗與師遊。何見訝來之晚乎。照曰。此非立可盡言。當與子一夕靜語耳。廣異之。後一日。仍詣照宿。因請其事。照乃曰。我劉氏子。彭城人。宋孝文帝之玄孫也。曾祖鄱陽王休業。祖士弘。並詳于史氏。先人以文學自負。為齊竟陵王子良所知。子良招召賢俊文學之士。而先人預焉。後仕齊梁之間。為會稽令。吾生於梁普通七年夏五月。年三十。方仕於陳。至宣帝時。為卑官。不為人知。與吳興沈彥文為詩酒之交。後長沙王叔堅與始興王叔陵皆廣聚賓客。大為聲勢。各恃權寵。有不平心。吾與彥文俱在長沙之門下。及叔陵被誅。吾與彥文懼長沙之不免。則禍且相及。因偕遁去。隱於山林。用橡栗食。衣一短褐。雖寒暑不更。一日。有老僧至吾所居曰。子骨甚奇。當無疾耳。彥文亦拜請其藥。僧曰。子無劉君之壽。奈何。雖餌吾藥。亦無補耳。遂告去。將別。又謂我曰。塵俗以名利相勝。

竟何有哉。唯釋氏可以捨此矣。吾敬佩其語。自是不知人事。凡十五年。又與彥文俱至建業。時陳氏已亡。宮闕盡廢。臺城牢落。荊榛蔽路。景陽結綺。空基尚存。衣冠文物。闃無所觀。故老相遇。捧袂而泣曰。後主驕淫。為隋氏所滅。良可悲乎。吾且泣不能已。又問後主及陳氏諸王。皆入長安。即與彥文挈一囊。乞食于路。以至關中。吾長沙之故客也。恩遇甚厚。聞其遷于瓜州。則又徑往就謁。長沙少長綺紈。而又早貴。雖流放之際。尚不事生業。時方與沈妃酣飲。吾與彥文再拜于前。長沙悲慟久之。洒泣而起。乃謂吾曰。一日家國淪亡。骨肉播遷。豈非天耶。吾自是留瓜州數年。而長沙殂。又數年。彥文亦亡。吾因髡髮為僧。遁迹會稽山佛寺。凡二十年。時已百歲矣。雖容狀枯瘠。而筋力不衰。尚日行百里。因與一僧同至長安。時唐帝有天下。建號武德。凡六年矣。吾自此。或居京洛。或遊江左。至於三蜀五嶺。無不往焉。迨今二百九十年矣。雖烈寒盛暑。未嘗有微恙。貞元末。于此寺嘗夢一丈夫。衣冠甚偉。視之乃長沙王也。吾迎延坐。話舊傷感如平生。而謂吾曰。後十年。我之六世孫廣。當官於此郡。師其念之。吾因問曰。王今何為。曰。冥官甚尊。既而泣曰。師存而我已六世矣。悲夫。吾既覺。因紀君之名於經笥中。至去歲凡十年。乃以君之名氏。訪於郡人。尚訝君之未至。昨因乞食里中。遇邑吏訪之。果得焉。及君之來。又依然長沙之貌。然自夢及今。十一年矣。故訝君之晚也。已而悲惋。泣下數行。因出經笥示之。廣乃再拜。願執履錫為門弟子。照曰。君且去。翌日當再來。廣受教而還。明日至居。而照已遁去。莫知其適。時元和十一年。至大和初。廣為巴州掾。於蜀道忽逢照。驚喜再拜曰。願棄官。從吾師為物外之遊。照許之。其夕偕舍于逆旅氏。天未曉。廣起而照已去矣。自是竟不知所往。然照自梁普通七年生。按梁史。普通七年。歲在丙午。至唐元和十年乙未。凡二百九十年。則與照言果符矣。愚常以梁陳二史校其所說。頗有同者。由是益信其不誣矣。(出宣室志)

太平廣記卷第九十三

異僧七

宣律師

宣律師

大唐乾封二年春二月。西明寺道律師逐靜在京師城南故淨業寺修道。律師積德高遠。抱素日久。忽有一人來至律師所。致敬申禮。具敘暄凉。律師問曰。檀越何處。姓字誰耶。答曰。弟子姓王名璠。是大吳之蘭臺臣也。會師初至建業。孫主即未許之。令感希有之瑞。為立非常之廟。於時天地神祇。咸加靈被。於三七日。遂感舍利。吳王手執銅瓶。傾銅盤內。舍利所衝。盤即破裂。乃至火燒鎚試。俱不能損。闞澤、張昱之徒。亦是天人護助。入其身中。令其神爽通敏。答對諧允。今業在天。弘護佛法為事。弟子是南方天王韋將軍下之使者。將軍事務極多。擁護三洲之佛法。有鬬爭凌危之事。無不躬往。和喻令解。今附和南。天欲即至。前事擁閙。不久當至。具令弟子等共師言。不久復有人來。云姓羅氏。是蜀人也。言作蜀音。廣說律相。初相見時。如俗禮儀。敘述緣由。多有次第。遂用忽忘。次又一人。云姓費氏。禮敬如前。云弟子迦葉佛時。生在初天。在韋將軍下。諸天貪欲所醉。弟子以宿願力。不交天欲。清淨梵行。偏敬毗尼。韋將軍童真梵行。不受天欲。一王之下。有八將軍、四王、三十二將。周四天下。往還護助諸出家人。四天下中。北天一洲。少有佛法。餘三天下。佛法大弘。然出家之人。多犯禁戒。少有如法。東西天下。人少黠慧。煩惱難化。南方一洲。雖多犯罪。化令從善。心易調伏。佛臨涅槃。親受付囑。並令守護。不使魔嬈。若不守護。如是破戒。誰有行我之法教者。故佛垂誡。不敢不行。雖見毀禁。愍而護之。見行一善。萬過不咎。事等忘瑕。不存往失。且人中臭氣。上薰空界四十萬里。諸天清淨。無不厭之。但以受佛付囑。令護佛法。尚與人同止。諸天不敢

不來。韋將軍三十二將之中。最存弘護。多有魔子魔女。輕弄比丘。道力微者。並為惑亂。將軍棲遑奔至。應機除剪。故有事至。須往四王所時。王見皆起。為韋將軍修童真行護正法故。弟子性樂戒律。如來一代所制毗尼。並在座中聽受戒法。因問律中諸隱文義。無不決滯。然此東華三寶。素有山海水石。往往多現。但謂其靈而敬之。顧訪失由。莫知投詣。遂因此緣。隨而諮請。且沈冥之相。以理括之。未曾 持觀。不可以語也。宣師又以感通記問天人云。益州成都多寶石佛者。何代時像。從地湧出。答曰。蜀都元基青城山上。今之成都。大海之地。昔迦葉佛時。有人於西洱河造之。擬多寶佛全身相也。在西洱河鷲山寺。有成都人往彼興易。請像將還。至今多寶寺處。為海神蹋船所沒。初取像人見海神於岸上遊。謂是山鬼。遂即殺之。因爾神瞋覆沒。人像俱溺。同在一船。其多寶舊在鷲頭山寺。古基尚在。仍有一塔。常有光明。令向彼土。道由郎州過。大小不算。三千餘里。方達西洱河。河大濶。或百里。或五百里。中有山洲。亦有古寺。經像尚存。而無僧住。經同此文。時聞鐘聲。百姓殷實。每年二時。供養古塔。塔如戒壇。三重石砌。上有覆釜。其數極多。彼土諸人。但言神冢。每發光明。人以蔬食祭之。求其福祚也。其地西北去嶲州二千餘里。問去天竺非遠。往往有至彼者。自下云云至晉時。有僧於此地。見土墳。隨出隨除。怪不可平。後見拆開。深怪其爾。乃深掘丈餘。獲像及人骨在船。其髏骨肘脛。悉皆麤大數倍。過於今人。即迦葉佛時。閻浮人壽二萬歲時人也。今時刼減。命促人小。固其常然。不可怪也。初出之時。牽曳難得。弟子化為老人。指撝方便。須臾至周。滅法暫隱。到隋重興。更復出之。蜀人但知其靈從地而出。亦不測其根源。見其花趺有多寶字。因遂名焉。又名多寶寺。又問多寶字是其隸書。出於亡秦之代。如何迦葉佛時。已有神州書耶。答曰。亡秦李斯隸書。此乃近代遠承。隸書之興。興於古佛之世。見今南洲四面千有餘洲。莊嚴閻浮。一方百有餘國。文字言音。同今唐國。但以海路遼遠。動數十萬里。重譯莫傳。故使此方封守株

柱。不足怪也。師不聞乎。梁顧野王。太學之大博也。周訪字源。出沒不定。故玉篇序云。有開春申君墓得其銘文。皆是隸字。檢春申是周武(明鈔本無周武二字。)六國同時。隸文則非吞併之日也。此國篆隸諸書。尚有茫昧。寧知迦葉佛時之事。決非其耳目 之所聞見也。又問今西京城西高四土臺。俗諺云。是蒼頡造書臺。如何云隸書字古時已有。答曰。蒼頡於此臺上。增土造臺。觀鳥跡者。非無其事。且蒼頡之傳。此土罕知其源。或云黃帝之臣。或云古帝王也。鳥跡之書時變。一途今所絕有。無益之言。不勞述也。又有天人。姓陸名玄暢。來謁律師云。弟子是周穆王時。生在初天。本是迦葉佛時天。為通化故。周時暫現。所問高四土臺者。其本迦葉佛於此第三會。說法度人。至穆王時。文殊、目 連來化。穆王從之。即列子所謂化人者是也。化人示穆王云。高四臺是迦葉佛說法處。因造三會道場。至秦穆公時。扶風獲一石佛。穆公不識。棄馬坊中。穢污此像。護像神瞋。令公染疾。公又夢遊上帝。極被責疏。覺問侍臣由余。便答云。臣聞周穆王時。有化人來此土。云是佛神。穆王信之。於終南山造中天臺。高千餘尺。基址見在。又於蒼頡臺造神廟。名三會道場。公今所患。殆非佛為之耶。公聞大怖。語由余曰。吾近獲一石人。衣冠非今所製。棄之馬坊。得非此是佛神耶。由余聞。往視之。對曰。此真佛神也。公取像澡浴。安清淨處。像遂放光。公又怖。謂神瞋也。宰三牲以祭之。諸善神等。擎棄遠處。公又大怖。以問由余。答曰。臣聞佛清淨。不進酒肉 。愛重物命。如護一子。所有供養。燒香而已。所可祭祀。餅果之屬。公大悅。欲造佛像。絕於工人。又問由余。答曰。昔穆王造寺之側。應有工匠。遂於高四臺南村內。得一老人。姓王名安。年百八十。自云曾 於三會道場見人造之。臣今年老。無力能作。所住村北。有兄弟四人。曾 於道場內為諸匠執作。請追共造。依言作之。成一銅像。相好圓備。公悅。大賞賚之。彼人得財。並造功德。於土臺上造重閣。高三百尺。時人號之高四臺。或曰高四樓。其人姓高。大者名四。或曰。兄弟四人同立故也。或取大兄名以目 之。故

有高四之名。至今稱也。又問目 連舍利弗。佛在已終。如何重見。答曰。同名六人。此目 連非大目 連也。至宇文周時。文殊師利化為梵僧。來遊此土。云欲禮拜迦葉佛說法處。並往文殊所住之處。名清涼山。遍問道俗。無有知者。時有智猛法師。年始十八。反問梵僧。何因知有二聖餘迹。答曰。在秦都城南二十里。有蒼頡造書臺。即其地也。又云。在沙河南五十里。青山北四十里。即其處也。又問沙河青山是何語。答曰。渭水終南山也。此僧便從渭水直南而步。遂得高四臺。便云此是古佛說法處也。於時智猛法師。隨往禮拜。不久失梵僧所在。智猛長大。具為太常韋卿說之。請其臺處。依本置寺。遂奏周主。名三會寺。至隋大業。廢入大寺。因被廢毀。配入菩提。今京城東市西平康坊南門東菩提寺西堂佛首。即是三會寺佛。釋迦如來得度大迦葉後。十二年中。來至此臺。其下見有迦葉佛舍利。周穆王遊大夏。佛告彼土見有古塔。可返禮事。王問何方。佛答在鄗京之東南也。西天竺國具有別傳。云歲長年。是師子國僧。年九十九夏。是三果阿那含人。聞斯勝迹。躬至禮拜。又奏請欲往北岱清涼山文殊師利菩薩坐處。皇帝聞喜。敕給驛馬內使及弟子官佐二十餘人。在處供給。諸官人弟子等。並乘官馬。唯長年一人。少小已來。精誠苦行。不乘雜畜。既到岱州清涼山。即便肘行膝步而上。至中臺佛堂。即是文殊廟堂。從下至上。可行三十餘里。山石勁利。入肉到骨。無血乳出。至於七日。五體投地。布面在土。不起不食。七日滿已。忽起。踴躍指揮。四方上下空界。具見文殊師利菩薩聖僧羅漢。從者道俗數十人。有見不見。復有一蟒虵。身長數里。從北而來。直上長年。長年見喜。銜師脚過。變為僧形。諸人懼怕。皆悉四散。唯長年一人。心不驚動。種種靈應。不可具述。律師又問天人曰。自昔相傳。文殊在清涼山。領五百仙人說法。經中明文殊是久住娑婆世界菩薩。娑婆則大千總號。如何偏在此方。答曰。文殊是諸佛之元帥。隨緣利見。應變不同。大士大功。非人境界。不勞評泊。但知仰信。多在清涼山五臺之中。今屬北岱州西。見有五臺縣清涼府。皇唐已來。有僧

名解脫。在巖窟亡來三十餘年。身肉不壞。似如入滅盡定。復有一尼。亦入定不動。各經多年。聖迹迦藍。菩薩聖僧。仙人仙花。屢屢人見。具在別篇。豈得不信。又問今五臺山中臺之東南三十里。見有大孚靈鷲寺。兩堂隔澗猶存。南有花園。可二頃許。四時發彩。色類不同。四周樹圍。人移(移原作侈。據法苑珠林二二改。)花栽(栽原作伏。據法苑珠林二二改。)別處種植。皆悉不生。唯在園內。方得久榮。(榮原作營。據法苑珠林二二改。)人究年月。莫知來由。或云漢明所立。或云魏孝文帝栽植。古老相傳。互說不同。如何為實。答曰。但是二帝所作。昔周穆之時。已有佛法。此山靈異。文殊所居。周穆於中造寺供養。及阿育王。亦依置塔。漢明之初。摩騰法師是阿羅漢天眼。亦見有塔。請帝立寺。其山形像似靈鷲山。名曰大孚。孚者信也。帝深信佛法。立寺勸人。元魏孝文。北臺不遠。常來禮謁。見人馬行跡。石上分明。其事可驗。豈唯五臺獨驗。今終南太白太華五嶽名山。皆有聖人為住持佛法。令法久住。有人設供。感訃徵應。事在別篇。不煩此術也。又問今涼州西番(音盤。)和縣山裂像。出何代造耶。答云。迦葉佛時。有利賓菩薩。見此山人。不信業報。以殺害為事。於時住處有數萬家。無重佛法者。菩薩救之。為立迦藍。大梵天王手造像身。初成以後。菩薩神力能令如真佛不異。遊步說法。教化諸人。雖蒙此道。猶故不信。於時菩薩示行怖畏。手擎大石。可於聚落。欲下壓之。菩薩揚威勸化。諸人便欻廻心。敬信於佛。所有殺具。變成蓮花。隨處街巷。華如種植。瑞像方攝神力。菩薩又勸諸清信士。令造七寺。南北一百四十里。東西八十里。彌山亘谷。處處僧坊佛殿。營造經十三年。方得成就。同時出家者。有二萬人。在七寺住。經三百年。彼諸人等。現業力大。昔所造惡。當世輕受。不入地獄。前所害者。在惡趣中。又發惡願。彼害我者。及未成聖。我當害之。若不加害。惡業便盡。我無以報。共吐大火。焚燒寺舍。及彼聚落。一時焚蕩。縱盜得活。又以大水漂溺殺之。無一得存。時彼山神。寺未破前。收取此像。

遠在空中。寺破已後。下內石室。安置供養。年月既久。石生室滅。至劉薩訶師禮山。逆示像出。其薩訶者。前身元是利賓菩薩。身首別處。更在別篇也。又問江表龍光瑞像。人傳羅什將來。有言扶南所得。如何為定。答曰。此非羅什所得。斯乃宋孝武帝征扶南獲之。昔佛滅後三百年中。北天竺大阿羅漢優婆質那。以神力加工匠。後三百年中。鑿大石山。安置佛窟。從上至下。凡有五重。高三百餘尺。請彌勒菩薩指揮。作檀室處之。玄奘師傳云。百餘尺。聖跡記云。高八丈。足趺八尺。六齋日常放光明。其初作時。羅漢將工人上天。三往方成。第二牛頭旃檀。第三金。第四玉。第五銅像。凡夫今見。止在下重。上四重閉。石窟暝徹。見人臟腑。第六百年。有佛柰遮阿羅漢。生已母亡。復生扶南國。念母重恩。從上重中。取小檀像。令母供養。母終。生揚州。出家。住新興寺。獲得三果。宋孝武征扶南。獲此像來都。亦是羅漢神力。母今見在。時往羅浮天台西方諸處。昔法盛曇無謁者。再往西方。有傳五卷。略述此緣。何忽云羅什法師背負而來耶。宣律師因問。什師一代所翻之經。人多偏樂。受持轉盛。何耶。答曰。其人聰明。善解大乘。已下諸人同時翻譯者並僞。又一代之寶也。絕後光前。仰之所不及。故其所譯。以悟達為先。得佛遺寄之意也。又問。俗中常論被秦姚興抑破重戒。云何得佛意耶。答曰。此非悠悠凡所籌度。何須評論。什師德行在三賢。所在通化。那繁補闕。隨機而作。故大論一部。十分略九。自餘經論。例此可知。冥祥感應。歷代彌新。深會聖旨 。罕逢難遇。又蒙文殊指受。令其刪定。特異恒倫。豈以別室見譏。頓亡玄致者也。又問邠州顯際寺山出石像者。何代所立。答曰。像是秦穆公所造。像元出處。是周穆王造寺處也。佛去世後。育王第四女。又造像塔。於此供養。於時此寺有一二三果人住中。秦相由余常所奉敬。往者迦葉佛時。亦於此立寺。是彼沙彌顯際造也。仍將本名。以顯寺額。又問金玉華宮南檀臺山上。有塼塔。面別四十步。下層極壯。四面石龕。傍有碎磚。又有三十餘[宋-木+羔]塼。古老莫知何代。然每聞鐘聲。答曰。此穆王寺也。

名曰靈山。至育王時。敕山神於此造塔。西晉末亂。五胡控權。劉曜京都長安。數夢此山佛見。在磚塔中坐。語曜曰。汝少飲酒。莫耽色欲。黜去邪佞。進用忠良。曜不能從。後於洛陽。酒醉落馬。為石勒所擒。初曜因夢所悟。令人尋山訪之。遂見此像。坐小塼塔。與夢符同。便毀小塔。更造大者。高一十九級。並造寺宇。極存壯麗。寺名法燈。度三百僧住之。曜沒趙後。寺有四十三人。修得三果。山神於今塔後又造一寺。供三果僧。神往太白。採取芝草。供養聖僧。皆獲延齡。寺今現在。凡人不見。所聞鐘聲。即是寺鐘也。其塔本基。雖因劉曜。仍是穆王立寺之處也。又是迦葉如來之古寺也。至貞觀年。於玉華北慈烏川山上。常見羣鹿來集其所。逐去還來。有人異之。於鹿集處。掘深一丈。獲一石像。長一丈許。見今供養。又問荊州前大明寺旃檀像者。云是優填王所造。依傳從彼摸來。將至梁朝。今京師復有。何者是本。答曰。大明是本像。梁高既崩。像來荊渚。至元帝承聖三年。周平梁後。收薄國寶。皆入北周。其檀像者。有僧珍師藏隱房內。多以財物贈遺使人。像遂得停。至隋開皇九年。文帝遣使人柳顧言往迎。寺僧又求像。令鎮荊楚。顧是鄉人。從之。令別刻檀。將往恭旨 。當時訪匠。得一婆羅門僧。名真達。為造。即今西京大興善寺像是也。亦甚靈異。本像在荊州。僧以漆布幔之。相好不及真者。大明本是古佛住處。靈像不肯北遷故也。近有長沙義法師。天人冥讚。遂悟開發。別除漆布。真容重顯。大動信心。披覩靈儀。令檀所作。本無補接。光趺殊異。象牙雕刻。卒非人工所成。興善像身。一一乖本。又問涪州相思寺側。多有古迹。篆銘勒之。不識其緣。此事云何。答曰。此迦葉佛時。有山神姓羅。名子明。蜀人也。舊是持戒比丘。生憎破戒者。發諸惡願。令我死後。作大惡鬼。噉破戒人。因願受身。作此山神。多有眷屬。所主土地。東西五千餘里。南北二千餘里。年噉萬人已上。此神本僧為迦葉佛兄。後為弟子。彼佛憐愍。故來教化。種種神變。然始調伏。與受五戒。隨識宿命。因不噉人。恐後心變。故佛留跡。育王於上起塔。在山頂。神便藏於

石中。塔是白玉所作。其神現在。其郭下寺塔。育王所立。見付囑儀中。又問南海循州北山興寧縣界靈龕寺。多有靈跡。何也。答曰。此乃文殊聖者弟子。為此山神。多造惡業。文殊愍之。便來教化。遂識宿命。請為留跡。我常禮事。得離諸惡。文殊為現。今者是也。於貞觀三年。山神命終。生兜率天。別有一鬼。來居此地。即舊神親家也。大造諸惡。生天舊神憐之。下請文殊。為現小跡。以化後神。又從正法。故今此山。大小跡現。莫匪有由焉。見付囑儀。又問沁州北山石窟佛。常有光明。此像出來久近耶。答曰。此窟迦葉佛釋迦佛二時備有。往昔周穆王弟子造迦葉佛像也。又問渭南終南二山。有佛面山七佛澗者。答曰。此事同於前。南山庫谷天藏。是迦葉佛自手所造之藏也。今現有十三緣覺。在谷內住。又問此土常傳有佛。是殷時周昭莊王等造。互說不同。如何取定。答曰。皆有所以。弟子夏桀時生天。具見佛之垂化。且佛有三身。法報二身。則非凡見。並化登地以上。唯有化身。被該三千。百億釋迦。隨人所感。前後不定。或在殷末。或在魯莊。俱在大千之中。前後咸傳一化。感見隨機。前後何定。若據法報。常自湛然。不足歎也。又問漢地所見諸瑞像。多傳育王第四女所造。其爭幽冥。難得其實。此事云何。答曰。此實不疑。為育王第四女。厥貌非妍。久而未出。常恨其醜。乃圖佛形相。還如自身。成已發願。佛之相好。挺異於人如何同我之形儀也。以此苦邀。彌經年月。後感佛現。忽異本形。父具問之。述其所願。今北山玉華、荊州長沙、楊都高悝、及京城崇敬寺像。並是育王第四女造。或有書其光趺。依梵本書。漢人讀者。罕識其文。育王因將此像。令諸鬼神。隨緣所感。流傳開悟。今覩像面。莫非女形。其崇敬寺地。本是戰場。西晉將末。有五胡大起。兵戈相殺。此地特多地下人骨。今掘猶得。所殺無辜。殘害酷濫。故諸神鬼。攜以鎮之。令諸冤魂。得生善念。周朝滅法。神亦徙之。隋祖載(法苑珠林二二載作再。)隆。佛還重起。又問幽冥所感。俗中常有。神去形朽。如何重來。或經七日多

日。如生不異。答曰。人稟七識。各有神。(神原作人。據法苑珠林二二改。)心識為主。主雖前去。餘神守護。不足怪也。如五戒中。一戒五神。五戒便有二十五神。戒破五神去。餘者仍在。如大僧受戒。戒有二百五十神。亦戒戒之中。感得二百五十。防衛比丘。若毀一重戒。但二百五十神去。餘者恒隨。律師又問天人曰。其蜀地簡(簡原作蘭。據道宣律師感通錄改。)州三學山寺。空燈常照。因何而有。答曰。山有菩薩寺。迦葉佛正法時初立。有歡喜王菩薩造之。寺名法燈。自彼至今。常明室表。有小菩薩三百人。斷粒遐齡。常住此山。此燈又是山神李特。續後供養。故至正月。處處燃燈。以供佛寺云爾。(出法苑珠林)

太平廣記卷第九十四

異僧八

華嚴和尚
唐休璟門僧
儀光禪師
玄覽
法將

華嚴和尚

華嚴和尚學於神秀。禪宗(宗原作師。據陳校本改。)謂之北祖。常在洛都天宮寺。弟子三百餘人。每日堂食。和尚嚴整。瓶鉢必須齊集。有弟子。夏臘道業。高出流輩。而性頗褊躁。時因臥疾。不隨眾赴會。一沙彌瓶鉢未足。來詣此僧。頂禮云。欲上堂。無鉢如何。暫借。明日當自置之。僧不與曰。吾鉢已受持數十年。借汝必恐損之。沙彌懇告曰。上堂食頃而歸。豈便毀損。至於再三。僧乃借之曰。吾愛鉢如命。必若有損。同殺我也。沙彌得鉢。捧持兢懼。食畢將歸。僧已催之。沙彌持鉢下堂。不意磚破蹴倒。遂碎之。少頃。僧又催之。既懼。遂至僧所。作禮承過。且千百拜。僧大叫曰。汝殺我也。怒罵至甚。因之病亟。一夕而卒。爾後經時。和尚於嵩山嶽寺與弟子百餘人。方講華嚴經。沙彌亦在聽會。忽聞寺外山谷。若風雨聲。和尚遂招此沙彌。令於己背後立。須臾。見一大虵。長八九丈。大四五圍。直入寺來。努目 張口。左右皆欲奔走。和尚戒之不令動。虵漸至講堂。升階睥睨。若有所求。和尚以錫杖止之。云。住。虵欲至坐。遂俛首閉目 。和尚誡之。以錫杖扣其首曰。既明所業。今當回向三寶。令諸僧為之齊聲念佛。與受三歸五戒。此虵宛轉而出。時亡僧弟子已有登會者。和尚召謂曰。此虵汝之師也。修行累年。合證果之位。為臨終之時。惜一鉢破。怒此沙彌。遂作一蟒虵。適此來者。欲殺此沙彌。更若殺之。當墮大地獄。無出期也。賴吾止之。與受禁戒。今當捨此身矣。汝往尋之。

弟子受命而出。虵行所過。草木開靡。如車路焉。行四十五里。至深谷間。此虵自以其首叩石而死矣。歸白和尚曰。此虵今以受生。在裴郎中宅作女。亦甚聰慧。年十八當亡。即却為男。然後出家修道。裴郎中即我門徒。汝可入城。為吾省問之。其女今已欲生。而甚艱難。汝可救之。時裴寬為兵部郎中。即和尚門人也。弟子受命入城。遙指裴家。遇裴請假在宅。遂令報云。華嚴和尚傳語。郎中出見。神色甚憂。僧問其故。云妻欲產。已六七日。燈燭相守。甚危困矣。僧曰。我能救之。遂令於堂門之外。淨設牀席。僧入焚香擊磬。呼和尚者三。其夫人安然而產一女。後果年十八歲而卒。(出原化記)

唐休璟門僧

唐中宗時。唐公休璟為相。嘗有一僧。發言多中。好為厭勝之術。休璟甚敬之。一日。僧來謂休璟曰。相國將有大禍。且不遠數月。然可以禳去。休璟懼甚。即拜之。僧曰。某無他術。但奉一計耳。願聽之。休璟曰。幸吾師教焉。僧曰。且天下郡守。非相國命之乎。曰。然。僧曰。相國當於卑冗官中。訪一孤寒家貧有才幹者。使為曹州刺史。其深感相國恩。而可以指蹤也。既得之。願以報某。休璟且喜且謝。遂訪於親友。張君者。家甚貧。為京卑官。即日拜贊善大夫。又旬日。用為曹州刺史。既而召僧謂曰。已從師之計。得張某矣。然則可教乎。僧曰。張君赴郡之時。當令求二犬。高數尺而神俊者。休璟唯之。已而張君荷唐公特達之恩。然莫喻其旨 。及將赴郡。告辭於休璟。既而謝之曰。某名跡幽昧。才識疎淺。相國拔此沈滯。牧守大郡。由擔石之儲。獲二千石之祿。自涸轍而泛東溟。出窮谷而陟層霄 。德固厚矣。然而感恩之外。竊所憂惕者。未知相國之旨 何哉。休璟曰。用君之才耳。非他也。然常聞貴郡多善犬。願得神俊非常者二焉。張君曰。謹奉教。既至郡。數日。乃悉召郡吏。告之曰。吾受丞相唐公深恩。拔於不次。得守大

郡。今唐公求二良犬。可致之乎。有一吏前曰。某家育一犬。質狀異常。願獻之。張大喜。即獻焉。既至。其犬高數尺而肥。其臆廣尺餘。神俊異常。而又馴擾。張君曰。相國所求者二也。如何。吏白曰。郡內唯有此。他皆常也。然郡南十里某村某民家。其亦有一焉。民極惜之。非君侯親往。不可取之。張君即命駕。齎厚直而訪之。果得焉。其狀與吏所獻者無異。而神彩過之。張君甚喜。即召親吏。以二犬獻休璟。休璟大悅。且奇其狀。以為未常見。遂召僧視之。僧曰。善育之。脫相君之禍者。二犬耳。後旬日。其僧又至。謂休璟曰。事在今夕。願相君嚴為之備。休璟即留僧宿。是夜。休璟坐於堂之前軒。命左右十餘人。執弧矢立於榻之隅。其僧與休璟共處一榻。至夜分。僧笑曰。相君之禍免矣。可以就寢。休璟大喜。且謝之。遂徹左右。與僧寢焉。迨曉。僧呼休璟曰。可起矣。休璟即起。謂僧曰。禍誠免矣。然二犬安所用乎。僧曰。俱往觀焉。乃與休璟偕尋其跡。至後園中。見一人仆地而卒矣。視其頸有血。蓋為物所噬者。又見二犬在大木下。仰視之。見一人袒而匿其上。休璟驚且詰曰。汝為誰。其人泣而指死者曰。某與彼。俱賊也。昨夕偕來。且將致害相國。蓋遇此二犬。環而且吠。彼遂為噬而死。某懼。因匿身於此。伺其他去。將逃焉。迨曉終不去。今即甘死於是矣。休璟即召左右。令縛之。曰。此罪固當死。然非其心也。蓋受制於人耳。願釋之。休璟命解縛。其賊拜泣而去。休璟謝其僧曰。賴吾師。不然。死於二人之手。僧曰。此蓋相國之福也。豈所能為哉。休璟有表弟盧軫。在荊門。有術士告之。君將有災戾。當求一善禳厭者為。庶可矣。軫素知其僧。因致書於休璟。請求之。僧即以書付休璟曰。事在其中耳。及書達荊州。而軫已卒。其家開視其書。徒見一幅之紙。並無有文字焉。休璟益奇之。後數年。其僧遯去。竟不知其所適。(出宣室記)

儀光禪師

長安青龍寺儀光禪師。本唐室之族也。父瑯琊王。與越王起兵。伐天后。不克而死。天后誅其族無遺。惟禪師方在襁褓。乳母抱而逃之。其後數歲。天后聞瑯琊王有子在人間。購之愈急。乳母將至岐州界中。鬻女工以自給。時禪師年已八歲矣。聰慧出類。狀貌不凡。乳母恐以貌取而敗。大憂之。乃求錢為造衣服。又置錢二百於腰下。於桑野中。具告以其本末。泣而謂曰。吾養汝已八年矣。亡命無所不至。今汝已長。而天后之敕訪不止。恐事洩之後。汝與吾俱死。今汝聰穎過人。可以自立。吾亦從此逝矣。乳母因與流涕而訣。禪師亦號慟不自勝。方知其所出。乳母既去。師莫知其所之。乃行至逆旅。與諸兒戲。有郡守夫人者。之夫任處。方息於逆旅。見禪師與諸兒戲。狀貌異於人。因憐之。召而謂曰。郎家何在。而獨行在此耶。師偽答曰。莊臨於此。有時而戲。夫人食之。又賜錢五百。師雖幼而有識。恐人取其錢。乃盡解衣。置之於腰下。時日已晚。乃尋小逕。將投村野。遇一老僧獨行。而呼師曰。小子。汝今一身。家已破滅。將何所適。禪師驚愕佇立。老僧又曰。出家閒曠。且無憂畏。小子汝欲之乎。師曰。是所願也。老僧因攜其手。至桑陰下。令禮十方諸佛已。因削其髮。又解衣裝。出袈裟。令服之。大小稱其體。因教其披著之法。禪師既披法服。執持收掩。有如舊僧焉。老僧喜曰。此習性使之然。其僧將行。因指東北曰。去此數里有伽藍。汝直詣彼。謁寺主云。我使爾為其弟子也。言畢。老僧已亡矣。方知是聖像也。師如言趣寺。寺主駭其所以。因留之。向十年。禪師已洞曉經律。定於禪寂。遇唐室中興。求瑯琊王後。師方謂寺僧言之。寺僧大駭。因出詣岐州李使君。師從父也。見之悲喜。因舍之於家。欲以狀聞。師固請不可。使君有女。年與禪師侔。見禪師悅之。願致欵曲。師不許。月餘。會使君夫人出。女盛服多將使者來逼之。師固拒萬端。終不肯。師紿曰。身不潔淨。沐浴待命。女許諾。方令沐湯。師候女出。因之噤門。女還排戶。不果入。自牖窺之。師方持削髮刀。顧而言曰。以有此根。故為慾逼。今既除此。何逼之為。女懼。止之不可。遂斷其根。棄於

地。而師亦氣絕。戶既閉。不可開。女惶惑不知所出。俄而府君夫人到。女言其情。使君令破戶。師已復蘇。命良醫至。以火燒地既赤。苦酒沃之。坐師於燃地。傅以膏。數月疾愈。使君奏禪師是瑯琊王子。有敕。命驛置至京。引見慰問。賞賜優給。復以為王。禪師曰。父母非命。鄙身殘毀。今還俗為王。不願也。中宗降敕。令禪師廣領徒眾。尋山置蘭若。恣聽之。禪師性好終南山。因居于興法寺。又於諸谷口。造禪菴蘭若凡數處。或入山數十里。從者僧俗常數千人。迎候瞻侍。甚於卿相。禪師既證道果。常先言將來事。是以人益歸之。開元二十三年六月二十三日。無疾而終。先告弟子。以修身護戒之事。言甚切至。因臥。頭指北方。足指南方。以手承頭。右脇在下。遂亡。遺命葬於少陵原之南面。鑿原為室而封之。柩將發。異香芬馥。狀貌一如生焉。車出城門。忽有白鶴數百。鳴舞於空中。五色彩雲。徘徊覆車。而行數十里。所封之處。遂建天寶寺。弟子輩留而守之。(出紀聞)

玄覽

唐大曆末。禪師玄覽住荊州陟屺寺。道高有風韻。人不可得而親。張璪常畫古松於齋壁。符載贊之。衛象詩之。亦一時三絕也。悉加堊焉。人問其故。曰。無事疥吾壁也。僧那即其甥。為寺之患。發瓦探鷇。壞牆熏鼠。覽未常責之。有弟子義詮。布衣一食。覽亦不稱之。或有怪之。乃題詩於竹上曰。欲知吾道廓。不與物情違。大海從魚躍。長空任鳥飛。忽一夕。有一梵僧。排戶而進曰。和尚速作道場。覽言。有為之事。吾未常作。僧熟視而出。反手闔戶。門扃如舊。覽笑謂左右曰。吾將歸矣。遂遽浴訖。隱几而化。(出酉陽雜俎)

法將

長安有講涅槃經僧曰法將。聰明多識。聲名籍甚。所在日講。僧徒歸之如市。法將僧到襄陽。襄陽有客僧。不持僧法。飲酒食肉。體貌至肥。所與交。不擇人。僧徒鄙之。見法將至。眾僧迎而重之。居處精華。盡心接待。客僧忽持斗酒及一蒸豘來造法將。法將方與道俗正開義理。共志心聽之。客僧逕持酒殽。謂法將曰。講說勞苦。且止說經。與我共此酒肉。法將驚懼。但為推讓。客僧因坐戶下。以手擘豘裹而飡之。舉酒滿引而飲之。斯須。酒肉皆盡。因登其牀且寢。既夕。講經僧方誦涅槃經。醉僧起曰。善哉妙誦。然我亦嘗誦之。因取少草。布西牆下。露坐草中。因講涅槃經。言詞明白。落落可聽。講僧因輟誦聽之。每至義理深微。常不能解處。聞醉僧誦過經。心自開解。比天方曙。遂終涅槃經四十卷。法將生平所疑。一朝散釋都盡。法將方慶希有。布座禮之。比及舉頭。醉僧已滅。諸處尋訪。不知所之。(出紀聞)

太平廣記卷第九十五

異僧九

洪昉禪師
相衛間僧
道林
淨滿
法通

洪昉禪師

陜州洪昉。本京兆人。幼而出家。遂證道果。志在禪寂。而亦以講經為事。門人常數百。一日。昉夜初獨坐。有四人來前曰。鬼王今為小女疾止造齋。請師臨赴。昉曰。吾人汝鬼。何以能至。四人曰。閣梨但行。弟子能致之。昉從之。四人乘馬。人持繩牀一足。遂北行。可數百里。至一山。山腹有小朱門。四人請昉閉目 。未食頃。人曰。開之。已到王庭矣。其宮闕室屋。崇峻非常。侍衛嚴飾。頗侔人主。鬼王具冠衣。降階迎禮。王曰。小女久疾。今幸而痊。欲造小福。修一齋。是以請師臨顧。齋畢。自令侍送無慮。於是請入宮中。其齋場嚴飾華麗。僧且萬人。佛像至多。一如人間事。昉仰視空中。不見白日。如人間重陰狀。須臾。王夫人後宮數百人。皆出禮謁。王女年十四五。貌獨病色。昉為贊禮願畢。見諸人持千餘牙盤食到。以次布於僧前。坐昉於大牀。別置名饌。饌甚香潔。昉且欲食之。鬼王白曰。師若常住此。當飡鬼食。不敢留師。請不食。昉懼而止。齋畢。餘食猶數百盤。昉見侍衛臣吏向千人。皆有欲食之色。昉請王賜之餘食。王曰。促持去。賜之。諸官拜謝。相顧喜笑。口開達於兩耳。王因跪曰。師既惠顧。無他供養。有絹五百疋奉師。請為受八關齋戒。師曰。鬼絹紙也。吾不用之。王曰。自有人絹奉師。因為受八關齋戒。戒畢。王又令前四人者。依前送之。昉忽開目 。已到所居。天猶未曙。門人但為入禪。不覺所適。昉忽開目 。命火照牀前。五百絹在焉。弟子問之。乃言

其故。昉既禪行素高。聲價日盛。頃到鬼所。但神往耳。其形不動。未幾晨坐。有一天人。其質殊麗。拜謁請曰。南天王提頭賴吒。請師至天供養。昉許之。因敷天衣坐昉。二人執衣。舉而騰空。斯須已到。南天王領侍從。曲躬禮拜曰。師道行高遠。諸天願覩師講誦。是以輒請師。因置高座坐昉。其道場崇麗。殆非人間。過百千倍。天人皆長大。身有光明。其殿堂樹木。皆是七寶。盡有光彩。奪人目睛。昉初到天。形質猶人也。見天王之後。身自長大。與天人等。設諸珍饌。皆自然味。甘美非常。食畢。王因請入宮。更設供具。談話款至。其侍衛天官兼鬼神甚眾。後忽言曰。弟子欲至三十三天議事。請師且少留。又戒左右曰。師欲游觀。所在聽之。但莫使到後園。再三言而去。去後。昉念曰。後園有何利。而不欲吾到之。伺無人之際。竊至後園。其園甚大。泉流池沼。樹林花藥。處處皆有。非人間所見。漸漸深入。遙聞大聲呻(呻原作叫。據明鈔本改。)叫。不可忍聽。遂到其旁。見大銅柱。徑數百尺。高千丈。柱有穿孔。左右傍達。或有銀鐺鏁其項。或穿其胃骨者。至有數萬頭。皆夜叉也。鋸牙鉤爪。身倍於天人。見禪師至。叩頭言曰。我以食人故。為天王所鏁。今乞免我。我若得脫。但人間求他食。必不敢食人為害。為飢渴所逼。發此言時。口中火出。問其鏁早晚。或云毗婆師尸佛出世時。動則數千萬年。亦有三五輩老者。志誠懇。僧許解其縛而遽還。斯須王至。先問師頗遊後園乎。左右曰。否。王乃喜。坐定。昉曰。適到後園。見鏁眾生數萬。彼何過乎。王曰。師果遊後園。然小慈是大慈之賊。師不須問。昉又固問。王曰。此諸惡鬼。常害於人。唯食人肉。非諸天防護。世人已為此鬼食盡。此皆大惡鬼。不可以禮待。故鏁之。昉曰。適見三五輩老者。發言頗誠。言但於人間求他食。請免之。若此曹不食人。餘者亦(亦下原有不字。據明鈔本刪。)可舍也。王曰。此鬼言不可信。昉固請。王目左右。命解老者三五人來。俄而解至。叩頭言曰。蒙恩釋放。年已老矣。今得去。必不敢擾人。王曰。以禪師

故。放汝到人間。若更食人。此度重來。當令若死。皆曰。不敢。於是釋去。未久。忽見王庭前有神至。自稱山嶽川瀆之神。被甲。面金色。奔波而言曰。不知何處。忽有四五夜叉到人間。殺人食甚眾。不可制。故白之。王謂昉曰。弟子言何如。適語師。小慈是大慈之賊。此等惡鬼。言寧可保。王語諸神曰。促擒之。俄而諸神執夜叉到。王怒。何違所請。命斬其手足。以鐵鑲貫腦。曳去而鑲之。昉乃請還。又令前二人送至寺。寺已失昉二七日。而在天猶如少頃。昉於陝城中。選空曠地造龍光寺。又建病坊。常養病者數百人。寺極崇麗。遠近道俗。歸者如雲。則為釋提栢國(明鈔本栢國作桓因。)所請矣。昉晨方漱。有夜叉至其前。左肩頭負五色毯而言曰。帝釋(帝釋原本作釋迦。據許本改。)天王。請師講大涅槃經。昉默然還座。夜叉遂挈繩牀。置於左膊曰。請師合目 。因舉其左手。而伸其右足。曰。請師開目 。視之。已到善法堂。禪師既到天堂。天光眩目 。開不能得。天帝曰。師念彌勒佛。昉遽念之。於是目 開不眩。而人身卑小。仰視天形。不見其際。天帝又曰。禪師又念彌勒佛。身形當大。如言念之。三念而身三長。遂與天等。天帝與諸天禮敬言曰。弟子聞師善講大涅槃經。為日久矣。今諸天欽仰。敬設道場。固請大師講經聽受。昉曰。此事誠不為勞。然病坊之中。病者數百。待昉為命。常行乞以給之。今若流連講經。人間動涉年月。恐病人餒死。今也固辭。天帝曰。道場已成。斯願已久。固請大師勿為辭也。昉不可。忽空中有大天人。身又數倍於釋。天帝敬起迎之。大天人言曰。大梵天王有敕。天帝憮然曰。本欲留師講經。今梵天有敕不許。然師已至。豈不能暫開經卷。少講經旨 。令天人信受。昉許之。於是置食。食器皆七寶。飲食香美。精妙倍常。禪師食(食原作日。據陳校本改。)已。身諸毛孔。皆出異光。毛孔之中。盡能觀見諸物。方悟天身騰妙也。既登高座。敷以天衣。昉遂登座。其善法堂中。諸天數百千萬。兼四天王。各領徒眾。同會聽法。階下左右。則有龍王夜叉諸鬼神非人等。皆合掌而聽。昉因開涅槃經

首。講一紙餘。言辭典暢。備宣宗旨 。天帝大稱贊功德。開經畢。又令前夜叉送至本寺。弟子失昉。已二十七日矣。按佛經。善法堂在歡喜園。天帝都會。天王之正殿也。其堂七寶所作。四壁皆白銀。階下泉池交注。流渠暎帶。其果木(明鈔本· 陳校本果木作渠水。)皆與樹行相直。寶樹花果。亦皆奇異。所有物類。皆非世人所識。昉略言其梗槩。階下寶樹。行必相直。每相表裏。必有一泉。夤緣枝間。自葉流下。水如乳色。味佳於乳。下注樹根。灑入渠中。諸天人飲樹本中泉。其溜下者。眾鳥同飲。以黃金為地。地生軟草。其軟如綿。天人足履之。沒至足。舉後其地自平。其鳥數百千。色名無定相。入七寶林。即同其樹色。其天中物皆自然化生。若念食時。七寶器盛食即至。若念衣時。寶衣亦至。無日月光。一天人身光。踰於日月。須至遠處。飛空而行。如念即到。昉既覩其異。備言其見。乃請畫圖為屏風。凡二十四扇。觀者驚駭。昉初到寺。毛孔之中。盡能見物。既而弟子進食。食訖。毛孔皆閉如初。乃知人食天食。精粗之分如此。昉既盡出天中之相。人以為妖。時則天在位。為人告之。則天命取其屏。兼徵昉。昉既至。則天問之而不罪也。留昉宮中。則天手自造食。大申供養。留數月。則天謂昉曰。禪師遂無一言教弟子乎。昉不得已。言曰。貧道唯願陛下無多殺戮。大損果報。其言唯此。則天信受之。因賜墨敕。昉所行之處。修造功德。無(無原本作吾既二字。據陳校本改。)得遏止。昉年過下壽。如入禪定。遂卒於陝中焉。(出紀聞)

相衛間僧

相衛間有僧。自少博習經論。善講說。每有講筵。自謂超絕。然而聽者稀少。財利寡薄。如此積年。其僧不憤。遂將經論。徧歷名山。以訪知者。後至衡嶽寺。憩泊月餘。常於寺閒齋獨坐。尋繹經論。又自咎曰。所曉義理。無乃乖於聖意乎。沈思之次。忽舉頭見一老僧。杖錫而入曰。師習讀何經論。窮究何義理。僧疑是異人。

乃述其由。兼自咎曰。儻遇知者。分別此事。即鉗口結舌。不復開演耳。老僧笑曰。師識至廣。豈不知此義。大聖猶不能度無緣之人。況其初心乎。師只是與眾僧無緣耳。僧曰。若然者。豈終世如此乎。老僧曰。吾試為爾結緣。因問師今有幾許貲糧。僧曰。自徂南縣。歷行萬里。糧食所費。皆已竭矣。今惟大衣七條而已。老僧曰。只此可矣。可賣之。以所得直皆作麋餅油食之物。僧如言作之。約數千人食。遂相與携至平野之中。散掇。焚香長跪。呪曰。今日食我施者。願當來之世。與我為弟子。我當教之。得至菩提。言訖。鳥雀亂下啄食。地上螻蟻。復不知數。老僧謂曰。爾後二十年。方可歸開法席。今且周遊。未用講說也。言訖而此僧如言。後二十年。却歸河北開講。聽徒動千萬人。皆年二十已下。老壯者十無一二。(出原化記)

道林

唐調露年中。桂州人薛甲常供一僧。法號道林。道德甚高。瞻敬尤切。如是供給。十有餘年。忽一旦辭去。云。貧道在此撓瀆多年。更無所酬。今有舊經一函。且寄宅中。一周年不回。即可開展。經歲餘。開鏁。見有金數千兩。後賣一半。買地造菩提寺。並建道林真身。供養至今。像儀見存。薛甲今見有孫禹賓。在桂林效職。(出桂林風土記)

淨滿

則天朝。恒州鹿泉寺僧淨滿有高行。眾僧嫉之。乃密畫女人居高樓。而淨滿引弓射之狀。藏於經笥。令其弟詣闕告之。則天大怒。命御史裴懷古推案。便行誅戮。懷古執之不屈。李昭德進曰。懷古推事疎畧。請令重推。懷古厲聲而言曰。陛下法無親疎。當與天下畫一。奈何使臣誅無辜之人。以希聖旨 。向使淨滿有不臣之狀。臣復何顏能寬之乎。臣守平典。庶無冤濫。死不恨矣。則天意乃解。

懷古後副閻知微和親於突厥。突厥(突厥二字原闕。據陳校補。)立知微為南面可汗。而入寇趙。定。懷古因得逃歸。素羸弱。不堪奔馳。乃懇誠告天。願投死南土。力倦而寢。夢一僧如淨滿者。引之曰。可從此路出。覺而從之。果獲全。人以為忠恕之報。(出大唐新語)

法通

長安懿德禪院者。唐中宗為懿德太子追福。改名加飾焉。禪院內有大石臼。重五百斤。隋末。鄠縣沙門法通自南莊致於此寺。法通自少出家。初極厊劣。同侶輕之。乃發憤乞願壯健。晝寢樹下。忽口中涎沫流出三升。其母驚遽呼覺。法通云。忽夢有人遺三馱筋。使我噉之。適噉一馱筋。遽覺。便壯健。試舉大石臼。不以為困。有寺僧行戡。本稱有力。通於是遂乃竊其所服之袈裟。舉堂柱而壓之。行戡見而驚異。盡力莫能取。通徐舉柱而取。眾大駭之。通力兼百人。時咸服之。以為神助焉。(出西京記)

太平廣記卷第九十六

異僧十

僧伽大師
廻向寺狂僧
懶殘
韋皐
釋道欽
辛七師
嘉州僧
金剛仙
鴟鳩和尚

僧伽大師

僧伽大師。西域人也。俗姓何氏。唐龍朔初來遊北土。隸名於楚州龍興寺。後於泗州臨淮縣信義坊乞地施標。將建伽藍。於其標下。掘得古香積寺銘記。并金像一軀。上有普照王佛字。遂建寺焉。唐景龍二年。中宗皇帝遣使迎師。入內道場。尊為國師。尋出居薦福寺。常獨處一室。而其頂有一穴。恒以絮塞之。夜則去絮。香從頂穴中出。煙氣滿房。非常芬馥。及曉。香還入頂穴中。又以絮塞之。師常濯足。人取其水飲之。痼疾皆愈。一日。中宗於內殿語師曰。京畿無雨。已是數月。願師慈悲。解朕憂迫。師乃將瓶水泛洒。俄頃陰雲驟起。甘雨大降。中宗大喜。詔賜所修寺額。以臨淮寺為名。師請以普照王字(明鈔本、陳校本字作寺。)為名。蓋欲依金像上字也。中宗以照字是天后廟諱。乃改為普光王寺。仍御筆親書其額以賜焉。至景龍四年三月二日。於長安薦福寺端坐而終。中宗即令於薦福寺起塔。漆身供養。俄而大風歘起。臭氣徧滿於長安。中宗問曰。是何祥也。近臣奏曰。僧伽大師化緣在臨淮。恐是欲歸彼處。故現此變也。中宗默然心許。其臭頓息。頃刻之間。奇香郁烈。即以其年五月。送至臨淮。起塔供養。即今塔是也。後中宗問萬廻師曰。僧伽大師何人耶。萬廻曰。是觀音化身也。如法華經普

門品云。應以比丘、比丘尼等身得度者。即皆見之而為說法。此即是也。先是師初至長安。萬廻禮謁甚恭。師拍其首曰。小子何故久留。可以行矣。及師遷化後。不數月。萬廻亦卒。師平生化現事跡甚多。具在本傳。此聊記其始終矣。(出本傳及紀聞錄)

廻向寺狂僧

唐玄宗開元末夢人云。將手巾五百條。袈裟五百領。於廻向寺布施。及覺。問左右。並云無。乃遣募緇徒道高者。令尋訪。有一狂僧。本無住著。人亦不知其所來。自出應召曰。某知廻向寺處。問要幾人。曰。但得齎持所物。及名香一斤。即可去。授之。其僧徑入終南。行兩日。至極深峻處。都無所見。忽遇一碾石。驚曰。此地人迹不到。何有此物。乃於其上。焚所攜香。禮祝哀祈。自午至夕。良久。谷中霧起。咫尺不辨。近來漸散。當半崖。有朱柱粉壁。玲瓏如畫。少頃轉分明。見一寺若在雲間。三門巨額。諦視之。乃廻向也。僧喜甚。攀陟遂到。時已黃昏。聞鐘磬及禮佛之聲。守門者詰其所從來。遂引入。見一老僧曰。唐皇帝萬福。令與人相隨。歷房散手巾等。唯餘一分。一房但空榻者。亦無人也。又具言之。僧笑令坐。顧侍者曰。彼房取尺八來。乃玉尺八也。僧曰。汝見彼胡僧否。曰。見。僧曰。此是權代汝主也。國內當亂。人死無數。此名磨滅王。其一室是汝主房也。汝主在寺。以愛吹尺八。謫在人間。此常吹者也。今限已滿。即却歸矣。明日。遣就坐齋。齋訖曰。汝當回。可將此玉尺八付與汝主。并手巾袈裟令自收也。狂僧膜拜而回。童子送出。纔數步。又雲霧四合。及散。則不復見寺所在矣。乃持手巾尺八。進於玄宗。及召見。具述本末。玄宗大感悅。持尺八吹之。宛是先所御者。後二十餘年。遂有安祿山之亂。其狂僧所見胡僧。即祿山也。(出逸史)

懶殘

懶殘者。唐天寶初衡嶽寺執役僧也。退食。即收所餘而食。性懶而食殘。故號懶殘也。畫專一寺之工。夜止群牛之下。曾無倦色。已二十年矣。時鄴侯李泌寺中讀書。察懶殘所為曰。非凡物也。聽其中宵梵唱。響徹山林。李公情頗知音。能辨休戚。謂懶殘經音悽惋而後喜悅。必謫墮之人。時將去矣。候中夜。李公潛往謁焉。望席門通名而拜。懶殘大詬。仰空而唾曰。是將賊我。李公愈加敬謹。惟拜而已。懶殘正撥牛糞火。出芋啗之。良久乃曰。可以席地。取所啗芋之半以授焉。李公捧承。盡食而謝。謂李公曰。慎勿多言。領取十年宰相。公又拜而退。居一月。刺史祭嶽。修道甚嚴。忽中夜風雷。而一峯穨下。其緣山磴道。為大石所欄。乃以十牛縻絆以挽之。又以數百人皷噪以推之。力竭而愈固。更無他途。可以修事。懶殘曰。不假人力。我試去之。眾皆大笑。以為狂人。懶殘曰。何必見嗤。試可乃已。寺僧笑而許之。遂履石而動。忽轉盤而下。聲若雷震。山路既開。眾僧皆羅拜。一郡皆呼至聖。刺史奉之如神。懶殘悄然。乃懷去意。寺外虎豹。忽爾成群。日有殺傷。無由禁止。嬾殘曰。授我箠。為爾盡驅除。眾皆曰。大石猶可推。虎豹當易制。遂與之荊梃。皆躡而觀之。纔出門。見一虎銜之而去。嬾殘既去之後。虎豹亦絕踪跡。後李公果十年為相也。(出甘澤謠)

韋臯

唐故劒南節度使太尉兼中書令韋臯既生一月。其家召群僧會食。有一胡僧。貌甚陋。不召而至。韋氏家童咸怒之。以弊席坐於庭中。既食。韋氏命乳母出嬰兒。請群僧祝其壽。胡僧忽自升階。謂嬰兒曰。別久無恙乎。嬰兒若有喜色。眾皆異之。韋氏先君曰。此子生纔一月。吾師何故言別久耶。胡僧曰。此非檀越之所知也。韋氏固問之。胡僧曰。此子乃諸葛武侯之後身耳。武侯當東漢之季。為蜀丞相。蜀人受其賜且久。今降生於世。將為蜀門帥。且受蜀人之福。吾往歲在劒門。與此子友善。今聞降於韋氏。吾固不遠而來。

韋氏異其言。因以武侯字之。後韋氏自少金吾節制劒南軍。累遷太尉兼中書令。在蜀十八年。果契胡僧之語也。(出宣室志)

釋道欽

釋道欽住陘山。有問道者。率爾而對。皆造宗極。劉忠州晏常乞心偈。令執爐而聽。再三稱諸惡莫作。眾善奉行。晏曰。此三尺童子皆知之。欽曰。三尺童子皆知之。百歲老人行不得。至今以為名理。又梁元帝雜傳云。晉惠末。洛中沙門耆域。蓋得道者。長安人與域食於長安寺。流沙人與域食於石人前。數萬里同日而見。沙門竺法行嘗稽首乞言。域升高座曰。守口攝意。心莫犯戒。竺語曰。得道者當授所未聽。今有八歲沙彌。亦以誦之。域笑曰。八歲而至百歲誦不能行。(明鈔本至作致。酉陽雜俎續四作八歲而致誦百歲不能行。)嗟乎。人皆敬得道者。不知行即自得。(出酉陽雜俎)

辛七師

辛七師。陝人。辛其姓也。始為兒時。甚謹肅。未嘗以狎弄為事。其父母異而憐之。十歲好浮圖氏法。日閱佛書。自能辨梵音。不由師教。其後父為陝郡守。先是郡南有瓦窰七所。及父卒。辛七哀毀甚。一日。發狂遯去。其家僮迹其所往。至郡南。見辛七在一瓦窰中端坐。身有奇光。粲然若鍊金色。家僮驚異。次至一窰。又見一辛七在焉。歷七窰。俱有一辛七在中。由是呼為辛七師。(出宣室志)

嘉州僧

利州廣福禪院。則故戎帥張處釗所創。因請長老靈貴主掌。以安僧眾。經數年矣。靈貴好燒鍊。忽一日。取眾僧小便以大鑊鍊而成霜。穢惡之氣。充滿衢路。堂有一僧。元自嘉州來。似不得意。咄咄焉。靈貴覺之。遂請收買眾僧食米。冀其少在院內。不旬日。其僧盡將簿曆錢物。就方丈納之。云。緣有小事。暫出近地。遂欲辭

去。其夜。於堂內本位跏趺。奄然而逝。眾僧皆訝其無疾。告行常儀。堂內有僧遷化。即例破柴五十束。必普請眾僧。人擎一枝。送至郊外。壘而為棚。焚燒訖。即歸院集眾。以其所有衣鉢。盡歸眾用。以為常例。其日(日原作名曰。據陳校本改。)坐亡僧於柴棚之上。維那十念訖。將欲下火。其僧忽然驚起。謂維那曰。有米錢二貫文。在監(明鈔本監作藍。)行者處。又合掌謂眾僧曰。來去是常。謝諸人遠來相送。瞑目斂手。端然不動。右脇火燃。即成灰燼。眾咸驚駭。是知圓明真往。死而不亡。或來或去。得火自在者。信有之矣。(出野人閒話)

金剛仙

唐開成中。有僧金剛仙者。西域人也。居於清遠峽山寺。能梵音。彈舌搖錫而呪物。物無不應。善囚拘鬼魅。束縛蛟螭。動錫杖一聲。召雷立震。是日峽山寺有李朴者。持斧翦巨木。刳而為舟。忽登山。見一磐石。上有穴。覩一大蜘蛛。足廣尺餘。四馳(馳原作虵。據明鈔本、陳校本改。)嚼卉窒其穴而去。俄聞林木有聲。暴猛吼驟。工人懼而緣木伺之。果覩雙(雙原作枞。據下文改。)首之虺。長可數十丈。屈曲蹙怒。環其蛛穴。東西其首。俄而躍西之首。吸穴之卉團而飛去。顙脫俱盡。後迴東之首。大劃其目 。大呀其口。吸其蜘蛛。蜘蛛馳出。以足擒穴之口。翹屈毒。丹然若火。焌虺之咽喉。去虺之目 。虺懵然而復蘇。舉首又吸之。蛛不見。更毒虺。虺遂倒於石而殞。蛛躍出。緣虺之腹。咀內齒折二頭。俱出絲而囊之。躍入穴去。朴訝之。返峽山寺。語金剛仙。仙乃祈朴驗穴。振環杖而呪之。蛛即出於僧前。儼若神聽。及引錫觸之。蛛乃殂於穴側。及夜。金剛仙夢見老人。捧匹帛而前曰。我即蛛也。復能織耳。禮金剛仙曰。願為福田之衣。語畢遂亡。僧及覺。布已在側。其精妙奇巧。非世繭絲之所能製也。僧乃製而為衣。塵垢不觸。後數年。僧往番禺。泛舶歸天竺。乃於峽山金鑼潭畔。搖錫大呼而呪

水。俄而水闢見底矣。以澡缾張之。有一泥鰍魚。可長三寸許。躍入缾中。語眾僧曰。此龍矣。吾將至海門。以藥煑為膏。塗足。則渡海若履坦途。是夜。有白衣叟挈轉關榼。詣寺家人傅經曰。知金剛仙好酒。此榼一邊美醞。一邊毒醪。其榼即晉帝曾 用酖牛將軍者也。今有黃金百兩奉公。為持此酒。毒其僧也。是僧無何取吾子。欲為膏。恨伊之深。痛貫骨髓。但無計而奈何。傅經喜。受金與酒。得轉關之法。詣金剛仙。仙持盃向口次。忽有數歲(數歲二字原闕。據陳校本補。)小兒躍出。就手覆之曰。酒是龍所將來而毒師耳。僧大駭。詰傅經。傅經遂不敢隱。僧乃問小兒曰。爾何人而相救耶。小兒曰。吾昔日之蛛也。今已離其惡業。而託生為人。七稔矣。吾之魂稍靈於常人。知師有難。故飛魂奉救。言訖而沒。眾僧憐之。共禮金剛仙。求捨其龍子。僧不得已而縱之。後仙果泛舶歸天竺矣。(出傳奇)

鴟鳩和尚

鄧州有老僧日食鴟鳩。僧俗共非之。老僧終無所避。當饌之際。貧士求飡。分其二足而食。食訖。僧盥漱。雙鳩從口而出。一則能行。一則匍匐在地。貧士驚怪。亦吐其飯。其鳩二脚亦生。僧後不食此味。都(雲溪友議都作覩。)驗。眾加敬之。號曰南陽鴟鳩和尚也。(出雲溪友議)

太平廣記卷第九十七

異僧十一

秀禪師
義福
神鼎
廣陵大師
和和
空如禪師
僧些
阿足師
鑒師
從諫

秀禪師

洛都天宮寺有秀禪師者。俗姓李。汴州陳留人。習禪精苦。初至荊州。後移此寺。深為武太后所敬禮。玄鑒默識。中若符契。長安中入京。住資聖寺。忽戒禪院弟子滅燈燭。弟子留長明燈。亦令滅之。因說火災難測。不可不備。嘗有寺家不備火燭。佛殿被災。又有一寺鐘樓遭火。一寺經藏焚爇。殊可痛惜。寺眾不知其意。至夜失火。果焚佛殿鐘樓。及經藏三所。唐玄宗在藩時。常與諸王俱詣作禮。留施一笛。玄宗出後。秀召弟子曰。謹掌此。後有要時。當獻上也。及玄宗登極。達摩等方悟其言。取笛以進。秀師年百歲。卒於此寺。瘞於龍門山。道俗奔赴數千人。燕國公張說為其碑文。(出西京記)

義福

唐開元中。有僧義福者。上黨人也。梵行精修。相好端潔。縉紳士庶。翕然歸依。嘗從駕往東都。所歷郡縣。人皆傾向。擅施巨萬。皆委之而去。忽一旦。召其學徒。告已將終。兵部侍郎張均、中書侍郎嚴挺之、刑部侍郎房琯、禮部侍郎韋陟。常所禮謁。是日亦同

造焉。義福乃昇座。為門徒演法。乃曰。吾沒於是日。當以訣別耳。久之。張謂房曰。某宿歲餌金丹。爾來未嘗臨喪。言訖。張遂潛去。義福忽謂房曰。某與張公遊有數年矣。張有非常之咎。名節皆虧。向來若終法會。足以免難。惜哉。乃攜房之手曰。必為中興名臣。公其勉之。言訖而終。及祿山之亂。張均陷賊庭。授偽署。房琯贊兩朝。竟立大節。(出明皇雜錄)

神鼎

唐神鼎師不肯剃頭。食醬一斗。每巡門乞物。得粗布破衣亦著。得細錦羅綺亦著。於利真師座前聽。問真師曰。萬物定否。真曰。定。鼎曰。闍梨言若定。何因高岸為谷。深谷為陵。有死即生。有生即死。萬物相糾。六道輪迴。何得為定耶。真曰。萬物不定。鼎曰。若不定。何不喚天為地。喚地為天。喚月為星。喚星為月。何得為不定。真無以應之。時張文成見之。謂曰。觀法師即是菩薩行人也。鼎曰。菩薩得之不喜。失之不悲。打之不怒。罵之不嗔。此乃菩薩行也。鼎今乞得即喜。不得即悲。打之即怒。罵之即嗔。以此論之。去菩薩遠矣。(出朝野僉載)

廣陵大師

唐貞元中。有一僧客於廣陵。亡其名。自號大師。廣陵人。因以大師呼之。大師質甚陋。好以酒肉為食。常以縗裘。盛暑不脫。由是蚤蟣聚其上。僑居孝感寺。獨止一室。每夕闔扉而寢。率為常矣。性狂悖。好屠犬彘。日與廣陵少年鬬毆。或醉臥道傍。廣陵人俱(俱原作懼。據明鈔本、陳校本改。)以此惡之。有一少年。以力聞。常一日。少年與人對博。大師大怒。以手擊其博局盡碎。少年曰。騃兒。何敢逆壯士耶。大師且罵而唾其面。於是與少年鬬擊。而觀者千數。少年卒不勝。竟遯去。自是廣陵人謂大師有神力。大師亦自負其力。往往剽奪市中金錢衣物。市人皆憚其勇。莫敢拒。後有老

僧召大師至曰。僧當死心奉戒。奈何食酒食。殺犬彘。剽奪市人錢物。又與少年同毆擊。豈僧人之道耶。一旦吏執以聞官。汝不羞天耶。大師怒罵曰。蠅蚋徒嗜羶腥耳。安能如龍鶴之心哉。然則吾道亦非汝所知也。且我清其中而混其外者。豈若汝齷齪無大度乎。老僧卒不能屈其詞。後一日。大師自外來歸。既入室。閉戶。有於門隙視者。大師坐於席。有奇光。自眉端發。晃然照一室。觀者奇之。具告群僧。群僧來。見大師眉端之光相。指語曰。吾聞佛之眉有白毫相光。今大師有之。果佛矣。遂相率而拜。至明日清旦。群僧俱集於庭。候謁廣陵大師。比及開戶。而廣陵大師已亡去矣。群僧益異其事。因號大師為大師佛焉。(出宣室志)

和和

唐代國公主適滎陽鄭萬鈞。數年無子。時有僧和和者。如狂如愚。眾號為聖。言事多中。住大安寺。修營殿閣。和和常至公主家。萬鈞請曰。吾無嗣。願得一子。惟師降恩。可得乎。師曰。遺我三千疋絹。主當誕兩男。鈞如言施之。和和取絹付寺。云修功德。乃謂鈞曰。主有娠矣。吾令二天人下。為公主作兒。又曰。公主腹小。能併娠二男乎。吾當使同年而前後耳。公主遂娠。年初歲終。各誕一子。長曰潛耀。少曰晦明。皆美丈夫。博通有識焉。(出紀聞錄)

空如禪師

空如禪師者。不知何許人也。少慕修道。父母抑婚。以刀割其勢。乃止。後成丁。徵庸課。遂以麻蠟裹臂。以火爇之。成廢疾。入陸渾山。坐蘭若。虎不暴。山中偶見野猪與虎鬬。以藜杖揮之曰。檀越不須相爭。即分散。人皆敬之。無敢媟者。(出朝野僉載)

僧些

唐貞元初。荊州有狂僧。些其名者。善歌河滿子。常遇伍伯乘醉。於途中辱之。令歌。僧即發聲。其詞皆陳伍伯從前隱慝也。伍伯驚而自悔。(出酉陽雜俎)

阿足師

阿足師者。莫知其所來。形質癡濁。神情不慧。時有所言。靡不先覺。居雖無定。多寓閿鄉。憧憧往來。爭路禮謁。山嶽檀施。曾不顧瞻。人或憂或疾。獲其指南者。其驗神速。時陝州有富室張臻者。財積鉅萬。止有一男。年可十七。生而愚騃。既孿手足。復懵語言。惟嗜飲食。口如溪壑。父母鍾愛。盡力事之。迎醫求藥。不遠千里。十數年後。家業殆盡。或有謂曰。阿足賢聖。見世諸佛。何不投告。希其痊除。臻與其妻。來抵閿鄉。叩頭抆淚。求其拯濟。阿足久之謂臻曰。汝冤未散。尚須十年。愍汝勤虔。為汝除去。即令選日。於河上致齋。廣召眾多。同觀度脫。仍令齎致其男。亦赴道場。時眾謂神通。而觀者如堵。跂竦之際。阿足則指壯力者三四人。扶拽其人。投之河流。臻洎舉會之人。莫測其為。阿足顧謂臻曰。為汝除災矣。久之。其子忽於下流十數步外。立於水面。戟手於其父母曰。與汝冤仇。宿世緣業。賴逢聖者。遽此解揮。儻或不然。未有畢日。挺身高呼。都不愚癡。須臾沈水。不知所適。(出集異記)

鑒師

唐元和初。有長樂馮生者。家於吳。以明經調選於天官氏。是歲見黜於有司。因僑居長安中。有老僧鑒其名者。一日來詣生。謂生。汝吾姓也。因相與往來。近歲餘。及馮尉於東越。既治裝。鑒師負笈來。告去。馮問曰。師去安所詣乎。鑒師曰。我廬於靈巖寺之西廡下且久。其後遊長安中。至今十年矣。幸得與子相遇。今將歸故居。故來告別。然吾子尉於東越。道出靈巖寺下。當宜一訪我也。

生諾曰。謹受教。後數月。馮生自長安之任。至靈巖寺門。立馬望曰。豈非鑒師所居寺乎。即入而詣焉。時有一僧在庭。生問曰。不知鑒師廬安在。吾將詣之。僧曰。吾曹數輩。獨無鑒其名者。生始疑異。默而計曰。鑒師信士。豈欺我耶。於是獨遊寺庭。行至西廡下。忽見有群僧畫像。其一人狀同鑒師。生大驚曰。鑒師果異人也。且能神降於我。因慨然泣下者久之。視其題曰。馮氏子。吳郡人也。年十歲。學浮圖法。以道行聞。卒年七十八。馮閱其題。益異之。(出宣室志)

從諫

東都敬愛寺北禪院大德從諫。姓張氏。南陽人。徙居廣陵。為土著姓。身長八尺。眉目 魁奇。越壯室之年。忽頓悟真理。遂捨妻子從披削焉。於是研精禪觀。心境明白。不逾十載。耆年宿德。皆所推服。及來洛。遂止敬愛寺。年德並成。緇黃所宗。每赴供。皆與賓頭盧尊者對食。其為人天欽奉若此。唐武宗嗣曆。改元會昌 。愛馭鳳驂鶴之儀。薄點墨降龍之教。乃下郡國。毀塔廟。令沙門復初。諫公乃烏帽麻衣。潛於皇甫枚之溫泉別業。後岡上喬木駢鬱。巨石砥平。諫公夏日。常於中入寂。或補毳事。忽一日。積雲駃雨。霆擊石傍大檀。雨至。諸兄走往林中。諫公恬然趺坐。若無所聞者。諸兄致問。徐曰。惡畜生而已。至大中初。宣宗復興內教。諫公歸東都故居。其子自廣陵來觀。適與遇於院門。威貌崇嚴。不復可識。乃拜而問從諫大德所居。諫公指曰。近東頭。其子既去。遂闔門不出。其割裂愛網(網原作剛。據明鈔本改。)又如此。咸通丙戌歲夏五月。忽遍詣所信嚮家。皆謂曰。善建福業。貧道秋初當遠行。故相別耳。至秋七月朔。清旦。盥手焚香。念慈氏如來。遂右脇而臥。呼門人玄章等戒曰。人生難得。惡道易淪。唯有歸命釋尊。勵精梵行。龍花會上。當復相逢。生也有涯。與爾少別。是日無疾奄化。年有八十餘矣。玄章等奉遺旨 。送屍於建春門外尸陁林中。施

諸鳥獸。三日復視之。肌貌如生。無物敢近。遂覆以餅餌。經宿。有狼狐跡。唯啗餅餌。而豐膚宛然。乃依天竺法闍維訖。收餘燼。起白塔於道傍。春秋奉香火之薦焉。(出三水小牘)

太平廣記卷第九十八

異僧十二

李德裕
齊州僧
抱玉師
束草師
惠寬
素和尚
懷信
佛陀薩
興元上座
趙蕃
懷濬
智者禪師
法本

李德裕

唐相國李德裕為太子少保分司東都。嘗召一僧。問己之休咎。僧曰。非立可知。願結壇設佛像。僧居其中。凡三日。謂公曰。公災戾未已。當萬里南去耳。公大怒。叱之。明日。又召其僧問焉。慮所見未子細。請更觀之。即又結壇三日。告公曰。南行之期。不旬月矣。不可逃。公益不樂。且曰。然則吾師何以明其不妄耶。僧曰。願陳目 前事為驗。庶表某之不誣也。公曰。果有說也。即指其地曰。此下有石函。請發之。即命窮其下數尺。果得石函。啟之亦無覩焉。公異而稍信之。因問南去誠不免矣。然乃遂不還乎。僧曰。當還耳。公訊其事。對曰。相國平生當食萬羊。今食九千五百矣。所以當還者。未盡五百羊耳。公慘然而歎曰。吾師果至人。且我元和十三年。為丞相張公從事於北都。嘗夢行於晉山。見山上盡目 皆羊。有牧者十數。迎拜我。我因問牧者。牧者曰。此侍御平生所食羊。吾嘗記此夢。不洩於人。今者果如師之說耶。乃知陰隲固不誣也。後旬日。振武節度使米暨遣使致書於公。且饋五百羊。公

大驚。即召告其事。僧歎曰。萬羊將滿。公其不還乎。公曰。吾不食之。亦可免耶。曰。羊至此。已為相國所有。公戚然。旬日。貶潮州司馬。連貶崖州司戶。竟沒於荒裔也。(出宣室志)

齊州僧

史論在齊州時。出獵至一縣界。憩蘭若中。覺桃香異常。訪其僧。僧不及隱。言近有一人。施二桃。因從經案下取出。獻論。大如飯碗。論時飢。盡食之。核大如雞卵。論因詰其所自。僧笑曰。向實謬言之。此桃去此十餘里。道路危險。貧道偶行脚見之。覺異。因掇數枚。論曰。願去騎從。與和尚偕往。僧不得已。導論出荒榛中。經五里許。抵一水。僧曰。恐中丞不能渡此。論志訣往。乃依僧解衣。載之而浮。登岸。又經西北。涉二水。上山越澗。數里至一處。奇泉怪石。非人境也。有桃數百株。枝幹掃地。高二三尺。其香破鼻。論與僧各食一蒂。腹飽矣。論解衣。將盡力包之。僧曰。此域靈境。不可多取。貧道常聽長老說。昔有人亦嘗至此。懷五六枚。迷不得出。論亦疑僧(僧原作生。據明鈔本改。)非常。取兩顆而返。僧切戒論不言。論至州。使召僧。僧已逝矣。(出酉陽雜俎)

抱玉師

抱玉師以道行聞。居長安中。師而事者千數。每夕獨處一室。闔戶撤燭。嘗有僧於門隙視之。見有慶雲自口中出。後年九十卒。時方大暑。而其尸無萎敗。唐宰相第五琦與師善。及卒。來治喪。將以香乳灌其口。已而有祥光自口出。晃然四照。公甚奇之。或曰。佛有慶祥光。今抱玉師有之。真佛矣。(出宣室志)

束草師

長安平康坊菩提寺。先有僧。不言姓名。常負束藁。坐臥於寺西廊下。不肯住院。經數年。寺綱維或勸其住房。曰。爾厭我耶。其

夕。遂以束藁焚身。至明。唯灰燼耳。無血膋之臭。眾方知為異人。遂塑灰為僧於佛殿上。世號為束草師。(出酉陽雜俎)

惠寬

綿州淨慧寺僧惠寬。先時年六歲。隨父設黃籙齋。眾禮石天尊像。惠寬時在。不肯禮。曰。禮則石像遂倒。不勝致也。既禮而天尊像果倒。腰已折矣。後出家在寺。寺近池。人多捕魚為業。惠寬與受戒。且曰。爾輩不當以此為給。吾能令汝所得。不失於舊。因指其池畔。盡生菌蕈。魚人採之。省力得利。後人呼為和尚蕈也。(出成都記)

素和尚

長安興善寺素和尚院庭有青桐數株。皆素之手植。唐元和中。卿相多遊此院。桐至夏有汗。污人衣如輮脂。不可浣。昭國鄭相。嘗與丞郎數人避暑。惡其汗。謂素曰。弟子為和尚伐此桐。各植一松也。及暮。素戲祝樹曰。我種汝二十餘年。汝以汗為人所惡。來歲若復有汗。我必薪之。自是無汗矣。素公不出院。轉法華經三萬七千部。夜常有狼子聽經。齋時。有烏鵲就案(酉陽雜俎續五案作掌。)取食。長慶初。有僧玄幽題此院詩云。三萬華經三十春。半生不蹋院門塵。當時以為佳句也。(出酉陽雜俎)

懷信

揚州西靈塔。中國之尤峻峙者。唐武宗末。拆寺之前一年。有淮南詞客劉隱之薄游明州。夢中如泛海。見塔東渡海。時見門僧懷信居塔三層。憑闌與隱之言曰。暫送塔過東海。旬日而還。數日。隱之歸揚州。即訪懷信。信曰。記海上相見時否。隱之了然省記。數夕後。天火焚塔俱盡。白雨如瀉。旁有草堂。一無所損。(出獨異志)

佛陀薩

有佛陀薩者。其籍編於岐陽法門寺。自言姓佛氏。陀薩其名也。常獨行岐隴間。衣黃持錫。年雖老。然其貌類童騃。好揚言於衢中。或詬辱群僧。僧皆怒焉。其資膳裘紵。俱乞於里人。里人憐其愚。厚與衣食。以故資用獨饒於羣僧。陀薩亦轉均於里中窮餓者焉。里人益憐其心。開成五年夏六月。陀薩召里中民告曰。我今夕死矣。汝為吾塔瘞其尸。果端坐而卒。於是里中之人。建塔於岐陽之西岡上。漆其尸而瘞焉。後月餘。或視其首。髮僅寸餘。弟子即剃去。已而又生。里人大異。遂扃其戶。竟不開焉。(出宣室志)

興元上座

興元縣西墅有蘭若。上座僧常飲酒食肉。群輩皆效焉。一旦多作大餅。招群徒眾。入尸陁林。以餅裹腐尸肉而食。數啖不已。眾僧掩鼻而走。上座曰。汝等能食此肉。方可食諸肉。自此緇徒因成精進也。(出雲溪友議)

趙蕃

唐國子祭酒趙蕃。大和七年為南宮郎。忽一日。有僧乞食於門。且謂其家僮曰。吾願見趙公。可乎。家僮告蕃。蕃即命延入與坐。僧乃曰。君將有憂。然亦可禳去。蕃即拜而祈之。僧曰。遺我裁刀一千五百。庶可脫君之禍。不然。未旬日。當為東南一郡耳。蕃許之。約來日就送焉。且訪其名暨所居。僧曰。吾居青龍寺。法安其名也。言已遂去。明日。蕃即辦送之。使者至寺。以物色訪群僧。僧皆不類。且詢法安師所止。周徧院宇。無影響踪跡。後數日。蕃出為袁州刺史。(出宣室志)

懷濬

秭歸郡草聖僧懷濬者。不知何處人。唐乾寧初到彼。知來藏往。皆有神驗。愛草書。或經、或釋、或老。至於歌詩鄙瑣之言。靡不集其筆端。與之語。即阿唯而已。里人以神聖待之。刺史于公。以其惑眾。繫而詰之。乃以詩代通狀曰。家在閩川西復西。其中歲歲有鶯啼。如今不在鶯啼處。鶯在舊時啼處啼。又詰之。復有詩曰。家住閩川東復東。其中歲歲有花紅。而今不在花紅處。花在舊時紅處紅。郡牧異而釋之。詳其詩意。似在海中。得非杯渡之流乎。行旅經過。必維舟而禮謁。告其吉凶。唯書三五行。終不明言。事往果驗。荊南大校周崇賓謁之。書字遺之曰。付皇都勘。爾後入貢。因王師南討。遂縶於南府。竟就戮也。押衙孫道能謁之。書字曰。付竹林寺。其年物故。營葬乃古竹林寺基也。皇甫鉉知州。乃畫一人荷校。一女子在旁。後為娶民家女遭訟。錮身入府。波斯穆昭嗣幼好藥術。隨其父謁之。乃畫一道士乘雲把胡盧。書云。指揮使高牒衙推。穆生後以醫藥有效。南平王高從誨與巾裹。攝府衙推。王師伐荊州。師寄南平王詩云。馬頭漸入揚州路。親眷應須洗眼看。是歲輸誠淮海。獲解重圍。其他不可殫記。或一日。題庭前芭蕉葉上云。今日還債。幸州縣無更勘窮。來日為人所害。尸首宛然。刺史高公為之荼毗之。(出北夢瑣言)

智者禪師

唐越州山陰縣有智禪師。院內有池。恒贖生以放之。有一鼉。長三尺。恒食其魚。禪師患之。取鼉送向禹王廟前池中。至夜還來。禪師呪之曰。汝勿食我魚。即從汝在此。鼉於是出外放糞。皆是青泥。禪師每至池上。喚鼉即出。於師前伏地。經數十年。漸長七八尺。禪師亡後。鼉亦不復見。(出朝野僉載)

法本

晉天福中。考功員外趙洙言。近日有僧自相州來。云。貧道於襄州禪院內與一僧名法本同過夏。朝昏共處。心地相洽。法本常言曰。貧道於相州西山中住持竹林寺。寺前有石柱。他日有暇。請必相訪。其僧追念此言。因往彼尋訪。洎至山下村中。投一蘭若寄宿。問其村僧曰。此去竹林寺近遠。僧乃遙指孤峯之側曰。彼處是也。古老相傳。昔聖賢所居之地。今則但有名存焉。故無院舍。僧疑之。詰朝而往。既至竹林叢中。果有石柱。罔然不知其涯涘。當法本臨別云。但扣其柱。即見其人。其僧乃以小杖扣柱數聲。乃風雨四起。咫尺莫窺。俄然耳目豁開。樓臺對峙。身在山門之下。逡巡。法本自內而出。見之甚喜。問南中之舊事。乃引其僧。度重門。升秘殿。叅其尊宿。尊宿問其故。法本云。早年相州同過夏。期此相訪。故及山門也。尊宿曰。可飯後請出。在此無座位。食畢。法本送至山門相別。既而天地昏暗。不知所進。頃之。宛在竹叢中石柱之側。餘並莫覩。即知聖賢之在世。隱顯難涯。豈金粟如來獨能化見者乎。(出玉堂閒話)

太平廣記卷第九十九

釋證一

僧惠祥
阿育王像
王淮之
惠凝
靈隱寺
侯慶
大業客僧
蛤像
光明寺
十光佛
李大安
韋知十
劉公信妻

僧惠祥

東晉義熙初。金陵長干寺僧惠祥與法向連堂而居。夜四更中。惠祥遙喚向暫來。向往視祥。祥仰眠。交手胸(胸原作腦。據明鈔本改。)上。云。可解我手足繩。向曰。並無繩也。惠祥因得轉動。云。適有人眾縛我手足。鞭箠交下。問何故齧虱。又語祥云。若更不止。當入於兩山間磕之。祥自後戒於齧虱焉。(出三教珠英)

阿育王像

長沙寺有阿育王像。相傳是阿育王女所造。太元中。夜浮至江津。漁人見異光如晝。而諸寺以千人迎之。嶷然不動。長沙寺翼法師者。操行精苦。乃率十僧。至誠祈啟。即時就輦。至齊末。像常夜行。不知者以槊刺之。作銅聲而倒。每南朝大事及災役。必先流汗數日。自像教已來。最為靈應也。(出渚宮遺事)

王淮之

宋王淮之字元曾 。瑯琊人也。世尚儒業。不信佛法。常謂身神俱滅。寧有三世耶。元嘉中。為丹陽令。十年。得病絕氣。少時還復暫蘇。時建康令賀道力省疾。適會下牀。淮之語道力曰。始知釋教不虛。人死神存。信有徵矣。道力曰。明府生平置論不爾。今何見而乃異之耶。淮之斂眉答云。神實不盡。佛教不得不信。語訖而終。(出冥祥記)

惠凝

元魏時。洛中崇真寺有比丘惠凝死七日還活。云。閻羅王檢閱。以錯名放免。惠凝具說過去之事。有比丘五人同閱。一比丘云寶明寺智聖。以坐禪苦行。得昇天堂。有一比丘是般若寺道品。以誦涅槃經四十卷。亦昇天堂。有一比丘云是融覺寺曇謨最。講涅槃、華嚴。領眾千人。閻羅王曰。講經者。心懷彼我。以驕凌物。比丘中第一麤行。今唯試坐禪誦經。不問講經。其曇謨最曰。貧身立道已來。唯好講經。實不諳誦。閻羅王令付司。即有青衣十人。送曇謨最向西北門。屋舍皆黑。似非好處。有一比丘云是禪林寺道弘。自云。教化四輩檀越。造一切經人中像十軀。閻羅王曰。沙門之體。必須攝心守道。志在禪誦。不干世事。不作有為。雖造作經像。正欲得他人財物。既得財物。貪心既起。(明鈔本、陳校本既起作即起。下又有既懷貪心四字。)便是三毒不出。具足煩惱。亦付司。仍與曇謨最同入黑門。有一比丘云是靈覺寺寶明。自云。出家之先。常(常原作帝。據明鈔本、陳校本改。)作隴西太守。造靈覺寺成。即棄官入道。雖不禪誦。禮拜不缺。閻羅王曰。卿作太守之日。曲理枉法。刼奪民財。假作此寺。非卿之力。何勞說此。亦付青衣送入黑門。時魏太后聞之。遣黃門侍郎徐紇依惠凝所說即訪寶明等寺。城東有寶明寺。城中有般若寺。城西有融覺、禪林、靈覺等三寺。並問智聖、道品、曇謨最、道弘、寶明等。皆實有之。即請坐禪僧一百人。常在殿中供養之。詔不聽持經像在巷路乞索。若私用財物造經像者任

意。惠凝亦入白鹿山。隱居修道。自此以後。京邑之比丘皆事禪誦。不復以講經為意。(出洛陽記)

靈隱寺

高齊初。沙門寶公者。嵩山高棲士也。且從林慮向白鹿山。因迷失道。日將禺中。忽聞鐘聲。尋嚮而進。巖岫重阻。登陟而趨。乃見一寺。獨據深林。山門正南。赫奕輝煥。前至門所。看額靈隱寺。門外五六犬。其犬如牛。白毛黑喙。或踴或臥。廻眸眄寶。寶怖將返。須臾。見胡僧外來。寶喚不應。亦不廻顧。直入門內。犬亦隨之。良久。寶見人漸次入門。屋宇四周。門房並閉。進至講堂。唯見牀榻高座儼然。寶入西南隅牀上坐。久之。忽聞東間有聲。仰視。見開孔如井大。比丘前後從孔飛下。遂至五六十人。依位坐乞。自相借問。今日齋時。何處食來。或言豫章、成都、長安、隴右、薊北、嶺南、五天竺等。無處不至。動即千萬餘里。末後一僧從空而下。諸人競問。來何太遲。答曰。今日相州城東彼岸寺鑒禪師講會。各各屈義。有一後生聰俊。難問詞音鋒起。殊為可觀。不覺遂晚。寶本事鑒為和尚。既聞此語。望得參話。因整衣而起。白諸僧曰。鑒是寶和尚。諸僧直視寶。頃之。已失靈隱寺所在矣。寶但獨坐於柞木之上。一無所見。唯覩巖谷。禽鳥翔集喧亂。及出山。以問於尚統法師。法師曰。此寺石趙時佛圖澄法師所造者。年歲久遠。賢聖居之。非凡所住。或沈或隱。遷徙無定。今山行者。猶聞鐘聲焉。(出侯君素旌異記)

侯慶

宋南陽人侯慶有銅像一軀。可高尺餘。慶有牛一頭。擬貨為金色。遇有急事。遂以牛與他用之。經二年。慶妻馬氏忽夢此像謂之曰。卿夫婦負我金色。久而不償。今取卿兒醜多。以充金色。馬氏寤覺而心不安。至曉。醜多得病而亡。慶年五十餘。唯有一子。悲哀之

聲。感於行路。醜多亡日。像忽自有金色。光照四隣。隣里之內。咸聞香氣。道俗長幼。皆來觀矚焉。(出法苑珠林)

大業客僧

隋大業中。有客僧行至泰山廟求寄宿。廟令曰。此無別舍。唯神廟廡下可宿。然而來此寄宿者輒死。僧曰。無苦也。不得已從之。為設牀於廡下。僧至夜。端坐誦經。可一更。聞屋中環珮聲。須臾神出。為僧禮拜。僧曰。聞此宿者多死。豈檀越害之耶。願見護之。神曰。遇死者將至。聞弟子聲。因自懼死。非殺之也。願師無慮。僧因延坐談說。如食頃時。因問神曰。聞世人傳說云。泰山治鬼。寧有之耶。神曰。弟子薄福有之。豈欲見先亡者乎。僧曰。有兩同學僧先死。願見之。神問其名。曰。一人已生人間。一人在獄罪重。不可喚來。師就見可也。僧聞甚悅。因起出。不遠而至一所。見獄火光焰甚盛。神將僧入一院。遙見一人。在火中號呼。不能言。形變不復可識。而血肉焦臭。令人傷心。師不欲歷觀。愍然求出。俄而至廟。又與神坐。因問欲救同學。有得理耶。神曰。可。能有為寫法華經者。便應得脫。既而將曙。神辭僧入堂。旦而廟令視僧不死。怪異之。僧因為說。仍即時為寫法華經一部。經既成。莊嚴畢。又將經就廟宿。其夜神出如初。歡喜禮拜。慰問來意。以事告之。神曰。弟子知之。師為寫經。始書題目 。彼以脫免。令出生在人間也。然此處不潔。不可安經。願師還為彼送向在寺中。言語久之。將曉。辭訣而去。(出冥報記)

蛤像

隋帝嗜蛤。所食必兼蛤味。逾數千萬矣。忽有一蛤。椎擊如舊。帝異之。安置几上。乙夜有光。及明。肉自脫。中有一佛二菩薩像。帝悲悔。誓不食蛤。(出酉陽雜俎)一說。唐文宗皇帝好食蛤蜊。一日。左右方盈盤而進。中有劈之不(原無不字。據陳校補。)裂者。文宗

疑其異。即焚香祝之。俄頃之間。其蛤自開。中有二人。形貌端秀。體質悉備。螺髻瓔珞。足履菡萏。謂之菩薩。文宗遂置金粟檀香合。以玉屑覆之。賜興善寺。令致敬禮。至會昌中。毀佛像。遂不知所在。(出杜陽雜編)

光明寺

洛陽宜壽里有苞信縣令段暉宅。地下常聞鐘聲。時見五色光明。照於堂宇。暉甚異之。遂掘地。得金像一軀。可高三尺。並有二菩薩。趺上銘云。晉泰始二年五月十五日侍中中書監荀勗造。暉遂舍宅為光明寺。咸云。此是荀勗故宅。其後盜者欲竊此像。像與菩薩。合聲喝賊。盜者驚怖。即時殞倒。眾僧聞像叫聲。遂擒之。(出洛陽伽藍記)

十光佛

興福寺西北隅有隋朝佛堂。其壁有畫十光佛者。筆勢甚妙。為天下之摽冠。有識者云。此國手蔡生之跡也。蔡生隋朝以善畫聞。初建堂宇既成。有僧以百金募善畫者。得蔡生。既畫。謂人曰。吾平生所畫多矣。獨今日下筆。若有鬼神翼而成者。由是長安中盡傳其名。貞觀初。寺僧以此堂年月稍久。慮一旦有摧圮。遂召數工。及土木之費。且欲新其製。忽一日。群僧齋於寺庭。既坐。有僧十人。俱白皙清瘦。貌甚古。相次而來。列於席。食畢偕起。入佛堂中。群僧亦繼其後。俄而十人忽亡所見。群僧相顧驚歎者久之。因視北壁十光佛。見其風度。與向者十人果同。自是僧不敢毀其堂。且用旌十光之易也。(出宣室志)

李大安

唐隴西李大安。工部尚書大亮之兄也。武德中。大亮任越州總管。大安自京往省之。大亮遣奴婢數人從兄歸。至穀州鹿橋。宿於逆

旅。其奴有謀殺大安者。候大安眠熟。夜已過半。奴以小劍刺大安項。洞之。刃著於牀。奴因不拔而逃。大安驚覺。呼奴。其不叛者奴婢欲拔刃。大安曰。拔刃便死。可先取紙筆作書。書畢。縣官亦至。因為拔刃。洗瘡加藥。大安遂絕。忽如夢者。見一物長尺餘。濶厚四五寸。形似猪肉。去地二尺許。從戶入。來至牀前。其中有語曰。急還我猪肉。大安曰。我不食猪肉。緣何負汝耶。聞戶外有言曰。錯也。此物即還從戶出。大安仍見庭前有池水。清淺可愛。池西岸上。有金像。可高五寸。須臾漸大。俄化為僧。披袈裟甚新淨。語大安曰。被傷耶。我今為汝痛將去。汝當平復。還家念佛修善也。因以手摩大安頸瘡而去。大安視其形狀。見僧有紅縚補袈裟。可方寸許。甚分明。既而大安覺。遂蘇。而瘡亦不復痛。能起坐食。數十日。京宅子弟迎至家。家人親故來視。大安為說被傷由狀及見像之事。有一婢在旁聞說。因言大安之初行也。安妻使婢請匠工為造一佛。初成。以綵畫其衣。有一點朱污像之背上。當令工去之。不肯。今仍在。形狀如郎君所說。大安因與妻及家人共起觀相。乃同所見無異。其背點朱。宛然補處。於是歎異。信知聖教不虛。遂加崇信焉。(出冥報記)

韋知十

唐右金吾衛曹京兆韋知十於永徽中煑一羊脚。半日猶生。知十怒。家人曰。用柴十倍於常。不知何意如此。知十更命重煑。還復如故。乃命割之。其中遂得一銅像。長徑寸焉。光明照灼。相好成就。其家自此放生。不敢食酒肉。(出冥報記)

劉公信妻

唐龍朔三年。長安城內通軌坊三衛劉公信妻陳氏。母先亡。陳因患暴死。見人將入地獄。備見諸苦。不可具述。末後見一地獄。石門牢固。有兩大鬼。形容偉壯。守門左右。怒目 瞋陳曰。汝是何人到

此。見石門忽開。亡母在中受苦。不可具述。受苦稍歇。母子近門相見。母語女言。汝還努力為吾寫經。女云。娘欲寫何經。母曰。為吾寫法華經。言訖。石門便閉。陳還得蘇。具向夫說。即憑妹夫趙師子欲寫法華經。其師子舊解寫經。有一經生。將一部新寫法華經未裝潢者轉向趙師子處質錢。且云經主姓范。師子許。乃與婦(婦原作父。據下文義改。)兄云。今既待(待原作得。據法苑珠林五七改。)經。在家幸有此一部法華。兄贖取此經可否。陳夫從之。裝潢既訖。授與其妻。在家為母供養。後夢見母從女索經。云。吾先遣汝為吾寫一部法華。何因迄今不得。女報母言。已為(為原作得。據明鈔本、陳校本改。)娘贖得一部法華。見裝潢了。在家供養。母語女言。止為此經。吾轉受苦。冥道中獄卒打吾脊破。汝看吾身瘡。獄官語云。汝何因取他范家經將為己經。汝有何福。大是罪過。女見母說如此。更為母別寫法華。其經未了。女夢中復見母來催經。即見一僧。手捉一卷法華。語母云。汝女已為汝寫經第一卷了。功德已成。何須急急。後寫經成。母來報女。因汝為吾寫經。今已得出冥途。好處受生。得汝恩力。故來報汝。汝當好住。善為婦禮。信心為本。言訖。悲淚共別。後問前贖法華經主。果是姓范。(出法苑珠林)

太平廣記卷第一百

釋證二

長樂村聖僧
屈突仲任
婺州金剛
菩提寺猪
李思元
僧齊之
張無是
張應
道嚴

長樂村聖僧

開元二十二年。京城東長樂村有人家。素敬佛教。常給僧食。忽於途中得一僧座具。既無所歸。至家則寶之。後因設齋以為聖僧座。齋畢眾散。忽有一僧扣門請飡。主人曰。師何由知弟子造齋而來此也。僧曰。適到滻水。見一老師坐水濱。洗一座具。口仍怒曰。請我過齋。施錢半於眾僧。汙我座具。苦老身自浣之。吾前禮謁。老僧不止。因問之曰。老闍梨何處齋來。何為自澣。僧具言其由。兼示其家所在。故吾此來。主人大驚。延僧進戶。先是聖僧座。座上有羹汁翻汙處。主人乃告僧曰。吾家貧。卒辦此齋。施錢少。故眾僧皆三十。佛與聖僧各半之。不意聖僧親臨。而又汙其座具。愚戇盲冥。心既差別。又不謹慎於進退。皆是吾之過也。(出紀聞)

屈突仲任

同官令虞咸頗知名。開元二十三年春往溫縣。道左有小草堂。有人居其中。刺臂血朱和用寫一切經。其人年且六十。色黃而羸瘠。而書經已數百卷。人有訪者。必丐焉。或問其所從。亦有助焉。其人曰。吾姓屈突氏。名仲任。即仲將、季將兄弟也。父亦典郡。莊在

溫。唯有仲任一子。憐念其少。恣其所為。性不好書。唯以樗蒱弋獵為事。父卒時。家僮數十人。資數百萬。莊第甚眾。而仲任縱賞好色。荒飲博戲。賣易且盡。數年後。唯溫縣莊存焉。即貨易田疇。拆賣屋宇。又已盡矣。唯莊內一堂巋然。僕妾皆盡。家貧無計。乃於堂內掘地埋數甕。貯牛馬等肉。仲任多力。有僮名莫賀咄。亦力敵十夫。每昏後。與僮行盜牛馬。盜處必五十里外。遇牛即執其兩角。翻負於背。遇馬驢皆繩蓄其頸。亦翻負之。至家投於地。皆死。乃皮剝之。皮骨納之堂後大坑。或焚之。肉則貯於地甕。晝日。令僮於城市貨之。易米而食。如此者又十餘年。以其盜處遠。故無人疑者。仲任性好殺。所居弓箭羅網叉彈滿屋焉。殺害飛走。不可勝數。目 之所見。無得全者。乃至得刺蝟。亦以泥裹而燒之。且熟。除去其泥。而蝟皮與刺。皆隨泥而脫矣。則取肉而食之。其所殘酷。皆此類也。後莫賀咄病死。月餘。仲任暴卒。而心下煖。其乳母老矣。猶在。守之未瘞。而仲任復蘇。言曰。初見捕去。與奴對事。至一大院。廳事十餘間。有判官六人。每人據二間。仲任所對最西頭。判官不在。立仲任於堂下。有頃判官至。乃其姑夫鄆州司馬張安也。見仲任驚。而引之登階。謂曰。郎在世為惡無比。其所殺害千萬頭。今忽此來。何方相拔。仲任大懼。叩頭哀祈。判官曰。待與諸判官議之。乃謂諸判官曰。僕之妻姪屈突仲任造罪無數。今召入對事。其人年命亦未盡。欲放之去。恐被殺者不肯。欲開一路放生。可乎。諸官曰。召明法者問之。則有明法者來。碧衣跼蹐。判官問曰。欲出一罪人。有路乎。因以具告。明法者曰。唯有一路可出。然得殺者肯。若不肯。亦無益。官曰。若何。明法者曰。此諸物類。為仲任所殺。皆償其身命。然後託生。合召出來。當誘之曰。屈突仲任今到。汝食噉畢。即託生。羊更為羊。馬亦為馬。汝餘業未盡。還受畜生身。使仲任為人。還依舊食汝。汝之業報。無窮已也。今令仲任略還。令為汝追福。使汝各捨畜生業。俱得人身。更不為人殺害。豈不佳哉。諸畜聞得人身必喜。如此乃可放。若不肯。更無餘路。乃鑲仲任於廳事前房中。召

仲任所殺生類到。判官庭中。地可百畝。仲任所殺生命。填塞皆滿。牛馬驢騾猪羊麞鹿雉兔。乃至刺蝟飛鳥。凡數萬頭。皆曰。召我何為。判官曰。仲任已到。物類皆咆哮大怒。騰振蹴踏之而言曰。巨盜盍還吾債。方忿怒時。諸猪羊身長大。與馬牛比。牛馬亦大倍於常。判官乃使明法入曉諭。畜聞得人身。皆喜。形復如故。於是盡驅入諸畜。乃出仲任。有獄卒二人。手執皮袋兼秘木至。則納仲任於袋中。以木秘之。仲任身血。皆於袋諸孔中流出灑地。卒秘木以仲任血。遂遍流廳前。須臾。血深至階。可有三尺。然後兼袋投仲任房中。又扃鎖之。乃召諸畜等。皆怒曰。逆賊殺我身。今飲汝血。於是兼飛鳥等。盡食其血。血既盡。皆共舐之。庭中土見乃止。當飲血時。畜生盛怒。身皆長大數倍。仍罵不止。既食已。明法又告。汝已得債。今放屈突仲任歸。令為汝追福。令汝為人身也。諸畜皆喜。各復本形而去。判官然後令袋內出仲任。身則如故。判官謂曰。既見報應。努力修福。若刺血寫一切經。此罪當盡。不然更來。永無相出望。仲任蘇。乃堅行其志焉。(出紀聞)

婺州金剛

婺州開元寺門有二金剛。世稱其神。鳥雀不敢近。疾病祈禱者累有驗。往來致敬。開元中。州判司於寺門樓上宴會。眾人皆言金剛在此。不可。一人曰。土耳。何能為。乃以酒肉內口。須臾。樓上雲昏電掣。既風且雷。酒肉飛揚。眾人危懼。獨汙金剛者。曳出樓外數十丈而震死。(出廣異記)

菩提寺猪

唐開元十八年。京菩提寺有長生猪。體柔肥碩。在寺十餘年。其歲猪死。僧焚之。火既燼。灰中得舍利百餘粒。(出紀聞)

李思元

唐天寶五載夏五月中。左清道率府府史李思元暴卒。卒後心煖。家不敢殯。積二十一日。夜中而纔蘇。即言曰。有人相送來。且作三十人供。又曰。要萬貫錢與送來人。思元父為署令。其家頗富。因命具饌。且鑿紙為錢。饌熟。令堂前布三十僧供。思元白曰。蒙恩相送。薄饌單蔬。不足以辱大德。須臾若食畢。因令焚五千張紙錢於庭中。又令具二人食。置酒肉。思元向席曰。蒙恩釋放。但懷厚惠。又令焚五千張紙錢畢。然後偃臥。至天曉。漸平和。乃言曰。被捕至一處。官不在。有兩吏存焉。一曰馮江靜。一曰李海朝。與思元同召者三人。兩吏曰。能遺我錢五百萬。當舍汝。二人不對。思元獨許之。吏喜。俄官至。謂三人曰。要使典二人。三人內辦之。官因領思元等至王所。城門數重。防衛甚備。見王居有高樓十間。當王所居三間高大。盡垂簾。思元至。未進。見有一人。金章紫綬。形狀甚貴。令投刺謁王。王召見。思元隨而進至樓下。王命却簾。召貴人登樓。貴人自階陛方登。王見起。延至簾下。貴人拜。王答拜。謂貴人曰。今既來此。即須置對。不審在生有何善事。貴人曰。無。王曰。在生數十年。既無善事。又不忠孝。今當奈何。因嘖蹙曰。可取所司處分。貴人辭下。未數級。忽有大黑風到簾前。直吹貴人將去。遙見貴人在黑風中。吹其身忽長數丈。而狀隳壞。或大或小。漸漸遠去。便失所在。王見佇立。謂階下人曰。此是業風。吹此人入地獄矣。官因白思元等。王曰。可捻籌定之。因簾下投三疋絹下。令三人開之。二人開絹。皆有當使字。唯思元絹開無有。王曰。留二人。舍思元。思元出殿門。門西牆有門東向。門外眾僧數百。持旛花迎思元。云。菩薩要見。思元入院。院內地皆於清池。院內堂閣皆七寶。堂內有僧。衣金縷袈裟。坐寶牀。思元之禮謁也。左右曰。此地藏菩薩也。思元乃跪。諸僧皆為贊歎聲。思元聞之泣下。菩薩告眾曰。汝見此人下淚乎。此人去亦不久。聞昔之梵音。故流涕耳。謂曰。汝見此間事。到人間一一話之。當令世人聞之。改心修善。汝此生無雜行。常正念。可復來此。因令諸僧送歸。思元初蘇。具三十人食。別具二人肉食。皆有

贈益。由此也。思元活七日。又設大齋畢。思元又死。至曉蘇云。向又為菩薩所召。怒思元曰。吾令汝具宣報應事。何不言之。將杖之。思元哀請乃放。思元素不食酒肉。及得再生。遂乃潔淨長齋。而其家盡不過中食。而思元每人集處。必具言冥中事。人皆化之焉。(出紀聞)

僧齊之

勝業寺僧齊之好交游貴人。頗曉醫術。而行多雜。天寶五載五月中病卒。二日而蘇。因移居東禪定寺。院中建一堂。極華飾。長座橫列等身像七軀。自此絕交游。精持戒。自言曰。初死見錄至鬼王庭。見一段肉。臭爛在地。王因問曰。汝出家人。何因殺人。齊之不知所對。王曰。汝何故杖殺寺家婢。齊之方悟。先是寺中小僧何馬師與寺中青衣通。青衣後有異志。馬師怨之。因搆青衣於寺主。其青衣。不臧之人也。寺主亦素怨之。因眾僧堂食未散。召青衣對眾。且箠殺之。齊之諫寺主曰。出家之人。護身口意。戒律之制。造次不可違。而況集眾殺乎。馬師贊寺主。寺主大怒。不納齊之。遂箠朴交至。死於堂下。故齊之悟王之問。乃言曰。殺人者寺主。得罪者馬師。今何為見問。王前臭肉。忽有聲曰。齊之殺我。王怒曰。婢何不起而臥言。臭肉忽起為人。則所殺青衣。與齊之辯對數反。乃言曰。當死時。楚痛悶亂。但聞旁有勸殺之聲。疑是齊之。所以訴之。王曰。追寺主。階吏曰。福多不可追。曰。追馬師。吏曰。馬師命未盡。王曰。且收青衣。放齊之。初齊之入。見王座有一僧一馬。及門。僧亦出。齊之禮謁。僧曰。吾地藏菩薩也。汝緣福少。命且盡。所以獨追。今可堅持僧戒。舍汝俗事。住閒靜寺。造等身像七軀。如不能得錢。彩畫亦得。齊之既蘇。遂乃從其言焉。(出紀聞)

張無是

唐天寶十二載冬。有司戈張無是居在布政坊。因行街中。夜鼓絕門閉。遂趨橋下而跧。夜半。忽有數十騎至橋。駐馬言。使乙至布政坊。將馬一乘往取十餘人。其二人。一則無是妻。一則同曲富叟王翁。無是聞之大驚。俄而取者至云。諸人盡得。唯無是妻誦金剛經。善神護之。故不得。因喝所得人名。皆應曰。唯。無是亦識王翁。應聲答曰畢。俄而鼓動。無是歸家。見其妻猶誦經坐待。無是既至。妻曰。汝常不外宿。吾恐汝犯夜。故誦經不眠相待。天曉。聞南隣哭聲。無是問之。則王翁死矣。無是大懼。因以具告其妻。妻亦大懼。因移出宅。謁名僧。發誓願長齋。日則誦經四十九遍。由是得免。(出紀聞)

張應

歷陽張應本是魔家。取佛家女為婦。妻病困。為魔事不差。妻曰。我本佛家女。乞為佛事。應便往精舍中見竺曇鎧。鎧曰。佛普濟眾生。但當一心受持耳。曇鎧明當往其家。其夜。應夢見一人。長一丈四五尺。於南面趨走入門。曰。此家乃爾不淨。夢中見鎧隨此人後而白曰。此處如欲發意。未可以一二責之。應眠覺。遂把火作高座。鎧明日食時往應家。高座已成。夫妻受戒。病亦尋瘥。咸康二年。應病甚。遣人呼鎧。連不在。應死得蘇。說時(說時原作時說。據明鈔本改。)有數人。以鐵鉤鉤將北下一板岸。岸下見鑊湯刀山劒樹楚毒之具。應忘曇鎧字。但喚和尚救我。語(原無語字。據明鈔本補。)鉤將去人曰。我是佛子。人曰。汝和尚字何等。應忘其字。但喚佛而已。俄轉近鑊湯。有一人長一丈四五尺。捉金杵欲撞。應去。人怖散走。長人將應歸曰。汝命盡。不復得生。與汝三日中。期誦三偈。取和尚字還。當令汝生。(本書卷一一三張應條。當令汝生下有三日當復命過即生天矣十字。)遂推應著門內。便活。後三日復死。(出神鬼傳)

道嚴

有嚴師者。居於成都實曆寺。(明鈔本實曆作寶應。)唐開元十四年五月二十一日。於佛殿前軒。燃長明燈。忽見一巨手。在殿西軒。道嚴悸且甚。俯而不動。久之。忽聞空中語云。無懼無懼。吾善神也。且不敢害師之一毫。何俯而不動耶。道嚴既聞。懼少解。因問曰。檀越為何人。(明鈔本人作佛。)匿其軀而見其手乎。已而聞空中對曰。天命我護佛寺之地。以世人好唾佛祠地。我即以背接之。受其唾。由是背有瘡。潰吾肌且甚。願以膏油傅其上。可乎。道嚴遂以清油置巨手中。其手即引去。道嚴乃請曰。吾今願見檀越之形。使畫工寫於屋壁。且書其事以表之。冀世人無敢唾佛祠之地者。神曰。吾貌甚陋。師見之。無得慄然耶。道嚴曰。檀越但見其身。勿我阻也。見西軒下有一神。質甚異。豐首巨準。嚴目呀口。體狀魁碩。長數丈。道嚴一見。背汗如沃。其神即隱去。於是具以神狀告畫工。命圖於西軒之壁。(出宣室志)

太平廣記卷第一百一

釋證三

邢曹進
韋氏子
殭僧
雞卵
許文度
玄法寺
商居士
黃山瑞像
馬子雲
雲花寺觀音
李舟
惠原
延州婦人
鎮州鐵塔
渭濱釣者

邢曹進

唐故贈工部尚書邢曹進。至德已來。河朔之健將也。守職魏郡。因為田承嗣所縻。曾 因討叛。飛矢中肩。左右與之拔箭。而鏃留於骨。微露其末焉。即以鐵鉗。遣有力者拔而出之。其鏃堅然不可動。曹進痛楚。計無所施。妻孥輩但為廣脩佛事。用希慈蔭。不數日。則以索縛身於牀。復命出之。而特牢如故。曹進呻吟忍耐。俟死而已。忽因晝寢。夢一胡僧立於庭中。曹進則以所苦訴之。胡僧久而謂曰。能以米汁注於其中。當自愈矣。及寤。言於醫工。醫工曰。米汁即泔。豈宜漬瘡哉。遂令廣詢於人。莫有諭者。明日。忽有胡僧詣門乞食。因遽召入。而曹進中堂遙見。乃昨之所夢者也。即延之附近。告以危苦。胡僧曰。何不灌以寒食餳。當知其神驗也。曹進遂悟。餳為米汁。況所見復肖 夢中。則取之。如法以點。應手清涼。頓減酸疼。其夜。其瘡稍癢。即令如前鑷之。鉗纔及

瞼。鏃已突然而出。後傅藥。不旬日而瘥矣。吁。西方聖人。恩祐顯灼。乃若此之明徵乎。(出集異記)

韋氏子

韋氏子有服儒而任於唐元和朝者。自幼宗儒。非儒不言。故以釋氏為胡法。非中國宜興。有二女。長適相里氏。幼適胡氏。長夫執外舅之論。次夫則反之。常敬佛奉教。攻習其文字。其有不譯之字讀宜梵音者。則屈舌效之。久而益篤。及韋氏子寢疾。命其子曰。我儒家之人。非先王之教不服。吾今死矣。慎勿為俗態。鑄釋飯僧。祈祐於胡神。負吾平生之心。其子從之。既除服而胡氏妻死。凶問到相里氏。以其婦臥疾。未果訃之。俄而疾殆。其家泣而環之。且屬纊焉。欻若鬼神扶持。驟能起坐。呼其婦曰。妾季妹死已數月。何不相告。因泣下嗚咽。其夫紿之曰。安得此事。賢妹微恙。近聞平復。荒惑之見。未可憑也。勿遽惆悵。今疾甚。且須將息。又泣曰。妾妹在此。自言今年十月死。甚有所見。命吾弟兄來。將傳示之。昨到地府西曹之中。聞高墉之內。冤楚叫悔之聲。若先君聲焉。觀其上則火光迸出。焰若風雷。求入禮覲。不可。因遙哭呼之。先君隨聲叫曰。吾以平生謗佛。受苦彌切。無曉無夜。畧無憩時。此中刑名。言說不及。惟有罄家廻向。冥(明鈔本冥作竭。)資撰福。可救萬一。輪刼而受。難希降減。但百刻之中。一刻暫息。亦可畧舒氣耳。妹雖宿罪不輕。以夫家積善。不墮地獄。即當上生天宮也。妾以君心若先君。亦當受數百年之責。然委形之後。且當神化為烏。再七飯僧之時。可以來此。其夫泣曰。洪爐變化。物固有之。雀為蛤。蛇為雉。雉為鴿。鳩為鷹。田鼠為鴽。腐草為螢。人為虎為猨為魚為鼈之類。史傳不絕。為烏之說。豈敢深訝。然烏群之來。數皆數十。何以認君之身而加敬乎。曰。尾底毛白者妾也。為妾謝世人。為不善者。明則有人誅。暗則有鬼誅。絲毫不差。因其所迷。隨迷受化。不見天寶之人多而今人寡乎。蓋為善者少。為

惡者多。是以一廁之內。蟲豸萬計。一塼之下。螻蟻千萬。而昔之名城大邑。曠蕩無人。美地平原。目斷草莽。得非其驗乎。多謝世人。勉植善業。言訖復臥。其夕遂卒。其為婦也。奉上敬。事夫順。為長慈。處下謙。故合門憐之。憫其芳年而變異物。無幼無長。泣以俟烏。及期。烏來者數十。唯一止於庭樹低枝。窺其姑之戶。悲鳴屈曲。若有所訴者。少長觀之。莫不嗚咽。徐驗其尾。果有二毛。白如霜雪。姑引其手而祝之曰。吾新婦之將亡也。言當化為烏而尾白。若真吾婦也。飛止吾手。言畢。其烏飛來。馴狎就食。若素養者。食畢而去。自是日來求食。人皆知之。數月之後。烏亦不來。(出續玄怪錄)

殭僧

唐元和十三年。鄭滑節度使司空薛公平、陳許節度使李公光顏並准詔各就統所部兵自衛入討東平。抵濮陽南七里。駐軍焉。居人盡散。而村內有窣堵波者。中有殭僧。瞪目 而坐。佛衣在身。以物觸之。登時塵散。眾爭集視。填咽累 日。有許卒郝義曰。焉有此事。因以刀刺其心。如棖上壤。義下塔不三四步。捧心大叫。一聲而絕。李公遂令摽藉其事。瘞於其下。明日。陳卒毛清曰。豈有此乎。昨者郝義因偶會耳。即以刀環築去二齒。清下塔不三四步。捧頤大叫。一聲而絕。李公又令摽藉其事。瘞於其下。自是無敢犯者。而軍人祈福乞靈。香火大集。往環三四里。人稠不得入焉。軍人以錢帛衣裝檀施。環一二里而滿焉。司空薛公因令軍卒之戰傷瘡重者。許其落籍居。不旬日。則又從軍東入。而所聚之財。為盜賊挈去。則無怪矣。至今刀瘡齒缺。分明猶在。(出集異記)

雞卵

唐敬宗皇帝御曆。以天下無事。視政之餘。因廣浮屠教。由是長安中緇徒益多。及文宗嗣位。親閱萬機。思除其害於人者。嘗顧左右

曰。自吾為天子。未能有補於人。今天下幸無兵革。吾將盡除害物者。使億兆之民。指今日為堯、舜之世足矣。有不能補化而蠹於物者。但言之。左右或對曰。獨浮屠氏不能有補於大化。而蠹於物亦甚。可以斥去。於是文宗病之。始命有司。詔中外罷緇徒說佛書義。又有請斥其不脩教者。詔命將行。會尚食廚吏脩御膳。以鼎烹雞卵。方燃火於其下。忽聞鼎中有聲極微如人言者。迫而聽之。乃群卵呼觀世音菩薩也。聲甚悽咽。似有所訴。尚食吏異之。具其事上聞。文宗命左右驗之。如尚食所奏。文帝嘆曰。吾不知浮屠氏之力乃如是耶。翌日。敕尚食吏無以雞卵為膳。因頒詔郡國。各於精舍塑觀世音菩薩像。(出宣室志)

許文度

高(高本作岐。據明鈔本改。)陽許文度。唐太和中僑居岐陽郡。後以病熱。近月餘。一日臥於榻若沉醉狀。後數日始寤。初文度夢有衣黃袍數輩與俱行田野。四望間。迥然無雞犬聲。且不知幾百里。其時天景曛晦。愁思如結。有黃袍者謂文度曰。子無苦。夫壽之與夭。固有涯矣。雖聖人安能逃其數。文度忽悟身已死。恐甚。又行十餘里。至一水。盡目 無際。波若黑色。杳不知其深淺。黃衣人俱履水而去。獨文度懼不敢涉。已而有二金人。皆長五寸餘。奇光皎然。自水上來。黃衣者望見金人。沮色震慄。即辟易馳去。不敢偷視。二金人謂文度曰。汝何為來地府中。我今挈汝歸生途。慎無恐。文度懼稍解。因再拜謝之。於是金人與文度偕行數十里。俄望見里門。喜不勝。忽聞有厲聲呼文度者。文度悸而醒。見妻子方泣於前。且奇且嘆。而羸憊不能運支體。故未暇語其事。後旬日。疾少間。策而步於庭。忽見二金人皆長五寸餘。在佛舍下。即昔時夢中所見者。視其儀狀。無毫縷之異。心益奇之。始以其事告於妻。妻曰。昨者以君病且亟。妾憂不解。然常聞釋氏有救苦之力。由是棄資玩。鑄二金人之像。每清旦。常具食祭之。自是君之苦亦瘳除。

蓋其力也。文度感二金人報效之速。不食生牢。常閱佛書。因盡窮其指歸焉。(出宣室志)

玄法寺

長安安邑坊玄法寺者。本里人張頻宅也。頻嘗供養一僧。念法華經為業。積十餘年。張門人譖僧通其婢。因以他事殺之。僧死後。合宅常聞經聲不絕。張尋知其冤。慙悔不及。因舍宅為寺。(出酉陽雜俎)

商居士

有商居士者。三河縣人。年七歲。能通佛氏書。里人異之。後廬於三河縣西田中。有佛書數百編。手卷目 閱。未嘗廢一日。從而師者百輩。往往獨遊城邑。偕其行者。聞居士每運支體。瓏然若戛玉之音。聽者奇之。或曰。居士之骨。真鏁骨也。夫鏁骨連絡如蔓。故動搖之體。則有清越之聲。固其然矣。昔聞佛氏書言。佛身有舍利骨。菩薩之身有鏁骨。今商居士者。豈非菩薩乎。然輩俗之人。固不可辨也。居士後年九十餘。一日。湯沐具冠帶。悉召門弟子會食。因告之曰。吾年九十矣。今旦暮且死。汝當以火燼吾尸。慎無逆吾旨 。門弟子泣曰。謹聽命。是夕坐而卒。後三日。門弟子焚居士於野。及視其骨。果鏁骨也。支體連貫。若紉綴之狀。風一拂則纖韻徐引。於是里人競施金錢。建一塔。以居士鏁骨瘞於塔中。(出宣室志)

黃山瑞像

魯郡任城野黃山瑞像。蓋生於石。狀如胚混焉。昔有採椐者。山中見像。因往祈禱。如願必得。由是遠近觀者數千人。知盜官恐有姦起。因命石工破山石。輦瑞像。致之邑中大寺門樓下。於是邑人於寺建大齋。凡會數千人。齋畢眾散。日方午。忽然大風。黑雲覆

寺。雲中火起。電擊門樓。飛雨河注。邑人驚曰。門樓災矣。先是僧造門樓。高百餘尺。未施丹臒。而樓勢東傾。以大木撐之。及雨止。樓已正矣。蓋鬼神以像故。而共扶持焉。(出紀聞)

馬子雲

涇縣尉馬子雲。為人數奇。以孝廉三任為涇縣尉。皆數月丁憂而去。在官日。充本郡租綱赴京。途由淮水。遇風船溺。凡沉官米萬斛。由是大被拘繫。子雲在繫。乃專心念佛。凡經五年。後遇赦得出。因逃於南陵山寺中。常一食齋。天寶十年。卒於涇縣。先謂人曰。吾為人坎軻。遂精持內教。今西方業成。當往生安樂世界爾。明日沐浴。衣新衣。端坐合掌。俄而異香滿戶。子雲喜曰。化佛來矣。且迎吾行。言訖而歿。(出紀聞)

雲花寺觀音

長安雲花寺有觀音堂。在寺西北隅。大中末。百姓屈巖患瘡且死。夢一菩薩摩其瘡曰。我在雲花寺。巖驚覺汗流。數日而愈。因詣寺尋檢。至聖畫堂。見菩薩。一如其覩。傾城百姓瞻禮。巖遂立社。建堂移之。(出酉陽雜俎)

李舟

唐虔州刺史李舟與妹書曰。釋迦生中國。設教如周孔。周孔生西方。設教如釋迦。天堂無則已。有則君子登。地獄無則已。有則小人入。識者以為知言。(出國史補)

惠原

沙門惠原。本姓春氏。義陽人也。少以弓弩為業。至武陵山。射一孕鹿。將死能言曰。吾先身只殺汝。汝今遂併殺害我母子。既是緣

對。應為汝死。復向言曰。吾尋當成佛也。汝可行善。生生代代。勿復結冤。惠原即悟前緣。遂落髮於鹿死之處。而置迦藍。名耆闍窟山寺。王融別傳。言惠死後十年。有人於武當山下見之。(出朗州圖經)

延州婦人

昔延州有婦女。白皙頗有姿貌。年可二十四五。孤行城市。年少之子。悉與之遊。狎呢薦枕。一無所却。數年而歿。州人莫不悲惜。共醵喪具為之葬焉。以其無家。瘞於道左。大曆中。忽有胡僧自西域來。見墓。遂趺(明鈔本趺作敷。)坐具。敬禮焚香。圍繞讚嘆。數日。人見謂曰。此一淫縱女子。人盡夫也。以其無屬。故瘞於此。和尚何敬耶。僧曰。非檀越所知。斯乃大聖。慈悲喜捨。世俗之欲。無不狥焉。此即鑌骨菩薩。順緣已盡。聖者云耳。不信即啟以驗之。眾人即開墓。視遍身之骨。鉤結皆如鑌狀。果如僧言。州人異之。為設大齋。起塔焉。(出續玄怪錄)

鎮州鐵塔

唐天祐中。太原僧惠照因夢鎮州南三十里廢相國寺中埋鐵塔。特往訪之。至界上。為元戎王中令鎔所知。延在衙署供養。衙將任友義慮是隣道諜人。或致不測。懇要詰而逐之。元戎始疑。惠具以尋塔為對。遽差於府南三十里訪之。果得相國寺古基。掘其殿砌之前。得鐵塔。上刻三千人姓名。悉是見在常山將校親軍。唯任友義一人無名。乃知冥數前定。刻斯塔者。何神異哉。(出北夢瑣言)

渭濱釣者

清渭之濱。民家之子。有好垂釣者。不農不商。以香餌為業。自壯及中年。所取不知其紀極。仍得任公子之術。多以油煎燕肉置於纖鉤。其取鮮鱗如寄之於潭瀨。其家數口衣食。綸竿是賴。忽一日。

垂釣於大涯硤。竟日無所得。將及日晏。忽引其獨繭。頗訝沉重。迤邐挽之。獲一銅佛像。既悶甚。擲之於潭心。遂移釣於別浦。亦無所得。移時。又牽出一銅佛。於是折其竿。斷其綸。終身不復其業。(出玉堂閑話)

太平廣記卷第一百二

報應一(金剛經)

盧景裕
趙文若
趙文昌
新繁縣書生
牳武安
睦彥通
杜之亮
慕容文策
柳儉
蕭瑀
趙文信
劉弼
袁志通
韋克勤
沈嘉會
陸懷素

盧景裕

後魏盧景裕字仲儒。節閔初。為國子博士。信釋氏。註周易、論語。從兄神禮。據鄉人反叛。逼其同力以應西魏。繫晉陽獄。至心念金剛經。枷鎖自脫。齊神武作相。特見原宥。(出報應記)

趙文若

隋趙文若。開皇初病亡。經七日。家人初欲斂。忽縮一脚。遂停。既蘇云。被一人來追。即隨行。入一宮城。見王曰。卿在生有何功德。答云。唯持金剛經。王曰。此最第一。卿算雖盡。以持經之故。更為申延。又曰。諸罪中。殺生甚重。卿以猪羊充飽。如何。即遣使領文若至受苦之處。北行可三二里。至高墻下。有穴。才容身。從此穴出。登一高阜。四望遙濶。見一城極高峻。煙火接天。

黑氣溢地。又聞楚痛哀叫之聲不忍聽。乃掩蔽耳目 。叩頭求出。仍覺心破。口中出血。使者引廻見王曰。卿既噉肉 。不可空廻。即索長釘五枚。釘頭及手足疼楚。從此專持經。更不食肉 。後因公事至驛。忽夢一青衣女子求哀。試問驛吏曰。有何物食。報云。見備一羊。甚肥嫩。詰之。云。青牸也。文若曰。我不喫肉 。遂贖放之。(出報應記)

趙文昌

隋開皇十一年。大府寺丞趙文昌 忽暴卒。唯心上微煖。家人不敢斂。後復活。說云。吾初死。有人引至閻羅王所。王問曰。汝一生已來。作何福業。昌 答云。家貧。無力可營功德。唯專心持誦金剛般若經。王聞語。合掌低首。讚言善哉。汝既持般若。功德甚大。王即使人引文昌 。向經藏內取金剛般若經。文昌 向西行五六里。見數十間屋。甚華麗。其中經典遍滿。金軸寶帙。莊飾精好。文昌 合掌閉目 。信手抽取一卷開看。乃是金剛般若。文昌 捧至王所。令一人執卷在西。文昌 東立。面經讀誦。一字不遺。王大歡喜。即放昌 還家。令引文昌 從南門出。至門首。見周武帝在門側房內。著三重鉗鏁。喚昌 云。汝是我本國人。暫來至此。要與汝語。文昌 即拜之。帝曰。汝識我否。文昌 答云。臣昔宿衛陛下。武帝云。卿既是我舊臣。今還家。為吾向隋皇帝說。吾諸罪並欲辯了。唯滅佛法罪重。未可得免。望與吾營少功德。冀茲福祐。得離地獄。昌 受辭而行。及出南門。見一大糞坑中。有人頭髮上出。昌 問之。引人答云。此是秦將白起。寄禁於此。罪尤未了。昌 至家得活。遂以其事上奏。帝令天下出口錢為周武帝轉金剛般若經。設大供三日。仍錄事狀。入於隋史。(出法苑珠林)

新繁縣書生

益州新繁縣西四十里王李村。隋時有書生。姓苟氏。善王書而不顯迹。人莫能知之。嘗於村東空(空原作室。據明鈔本改。)中四面書金剛般若經。數日便了。云。此經擬諸天讀誦。人初不之覺也。後值雷雨。牧牛小兒於書經處立。而不沾濕。其地乾燥。可有丈餘。及暗。村人怪之。爾後每雨。小兒常集其中。衣服不濕。唐武德中。有異僧語村人曰。此地空中有金剛般若經。諸天於上設寶蓋覆之。不可輕犯。自爾於四周設欄楯。以阻人畜履踐。每至齋日。村人四遠就設佛供。常聞天樂。聲震寥泬。繁會盈耳。(出三寶感通記)

蒯武安

隋蒯武安。蔡州人。有巨力。善弓矢。常射大蟲。會嵩山南為暴甚。往射之。漸至深山。忽有異物如野人。手開大蟲皮。冒武安身上。因推落澗下。及起。已為大蟲矣。惶怖震駭。莫知所為。忽聞鐘聲。知是僧居。往求救。果見一僧念金剛經。即閉目 俯伏。其僧以手摩頭。忽爆作巨聲。頭已破矣。武安乃從中出。即具述前事。又撫其背。隨手而開。既出。全身衣服盡在。有少大蟲毛。蓋先灸瘡之所粘也。從此遂出家。專持金剛經。(出報應記)

睦彥通

睦彥通隋人。精持金剛經。日課十遍。李密盜起。彥通宰武牢。邑人欲殺之。以應義旗。彥通先知之。遂投城下。賊拔刀以逐之。前至深澗。迫急躍入。如有人接右臂。置盤石上。都無傷處。空中有言曰。汝為念經所致。因得還家。所接之臂。有奇香之氣。累日不滅。後位至方伯。九十餘終。(出報應記)

杜之亮

隋杜之亮。仁壽中為漢王諒府參軍。後諒於并州舉兵反。敗。亮與僚屬皆繫獄。亮惶懼。日夜涕泣。忽夜夢一僧曰。汝但念誦金剛

經。即此厄可度。至曉。即取經。專誠習念。及主者並引就戮。亮身在其中。唱者皆死。唯無亮姓名。主典之者皆坐罰。俄而會赦得免。顯慶中。卒於黃州刺史。(出報應記)

慕容文策

慕容文策隋人。常持金剛經。不喫酒肉。大業七年暴卒。三日復活。云。初見二鬼。把文牒。追至一城門。顧極嚴峻。入行四五里。見有宮殿羽衛。王當殿坐。僧道四夷。不可勝數。使者入見。文策最在後。一一問在生作善作惡。東西令立。乃唱策名。問曰。作何善。對曰。小來持金剛經。王聞。合掌嘆曰。功德甚大。且放還。忽見二僧。執火引策。即捉袈裟角問之。僧云。緣公持經。故來相衛。可隨燭行。遂出城門。僧曰。汝知地獄處否。指一大城門曰。此是也。策不忍看。求速去。二僧即領至道。有一橫垣塞路。僧以錫扣之。即開。云。可從此去。遂活。(出報應記)

柳儉

唐邢州司馬柳儉。隋大業十年任岐州岐陽宮監。義寧元年。坐誣枉繫大理寺。儉至心誦金剛般若經。有兩紙未通。不覺眠睡。夢一婆羅門僧報云。檀越宜誦經令遍。即應得出。儉忽寤。勤誦不懈。經二日。忽有敕喚。就朝堂放免。又儉別時。夜誦經至三更。忽聞有異香。散漫滿宅。至曉不絕。蓋感應所致也。儉至終。計誦經得五千餘遍。(出法苑珠林)

蕭瑀

蕭瑀。梁武帝玄孫。梁王巋之子。梁滅入隋。仕至中書令。封宋國公。女煬帝皇后。篤信佛法。常持金剛經。議伐高麗。不合旨 。上大怒。與賀若弼、高熲同禁。欲寘於法。瑀就其所。八日念金剛經七百遍。明日。桎梏忽自脫。守者失色。復為著。至殿前。獨宥

瑀。二人即重罰。因著般若經靈驗一十八條。乃造寶塔貯經。檀香為之。高三尺。感一鍮石像。忽在庭中。奉安塔中。獲舍利百粒。貞觀十一年。見普賢菩薩。冉冉向西而去。(出報應記)

趙文信

唐遂州人趙文信。貞觀元年暴死。三日後還蘇。自說云。初死時。被人遮擁驅逐。同伴十人。相隨至閻羅王所。其中有一僧。王先問云。師在世修何功德。師答云。道徒自(明鈔本道徒自三字作貧道從。)生以來。唯誦金剛般若經。王聞此語。忽即驚起。合掌讚言。善哉善哉。師審誦般若。當得昇天。何因錯來至此。言未訖。忽有天衣來下。引師上天去。王復喚遂州人前曰。汝在生有何功德。其人報言。臣一生以來。不讀佛經。唯好庾信文章集。王言庾信是大罪人。見此受苦。汝見庾信。頗識否。答云。雖讀渠文章。然不識其人。王即令引出庾信。乃見是龜身。王又令引去。少時復作人來。語云。我為生時好作文章。妄引佛經。雜揉俗書。又誹謗佛法。謂言不及孔老之教。今受罪報龜身。苦也。此人活已。具述其事。遂州人多好捕獵。及聞所說。共相鑒戒。永斷殺業。各發誠心。受持般若。迄今不絕。(出法苑珠林)

劉弼

唐劉弼。貞觀元年任江南縣尉。忽一日。有烏於房前樹上鳴。土人云。是烏所止為不祥。弼聞之恐懼。思欲脩崇功德。不知何者為勝。夜夢一僧。偏讚金剛般若經。令誦百遍。及寤。依命即誦至百遍。忽有大風。從東北來。拔此樹。隔舍遙擲巷外。其拔處土坎。縱廣一丈五尺。察暴風來處。小枝纖葉。並隨風迴靡。風止還起如故。乃知經力不可思議。(出法苑珠林)

袁志通

唐袁志通。天水人。常持金剛經。年二十。被驅為軍士。敗走巖嶮。經日不得食。而覺二童子。持滿盂飯來與之。志通拜。忽然不見。既食訖。累日不飢。後得還鄉。貞觀八年病死。兩日即蘇。曰。被人領見王。王問在生善業。答云。常持金剛經。王甚喜曰。且令送出。遂活。(出報應記)

韋克勤

唐韋克勤少持金剛經。為中郎將。從軍伐遼。沒高麗。貞觀中。太宗征遼。克勤少持金剛經。望見官軍。乃夜出投之。暗不知路。乃至心念經。俄見炬火前導。克勤隨火而去。遂達漢軍。(出報應記)

沈嘉會

唐沈嘉會。貞觀中任校書郎。以事配蘭州。思歸甚切。每旦夕。常東向拜太山。願得生還。積二百餘日。永徽六年十月三日夜。見二童子。儀服甚秀。云是太山府君之子。府君媿公朝夕拜禮。故遣奉迎。嘉會云。太山三千餘里。何能可去。童子曰。先生閉目 。勿憂道遠。即依其言。瞬息之間便到。宮殿宏麗。童子引入謁拜。府君即延入曲室。對坐談笑。無所不知。謂嘉會曰。人之為惡。若不為人誅。死後必為鬼得而治。無有徼幸而免者也。若日持金剛經一遍。即萬罪皆滅。鬼官不能拘矣。又云。前府君有過。天曹黜之。某姓劉。嘉會亦不敢問其他也。嘗與嘉會雙陸。兼設酒肴。嘉會起。於小廳東見姑臧令慕容仁軌執笏端坐。云。府君帖追到此。已六十日。未蒙處分。嘉會坐啟府君。便令召仁軌入。謂曰。公縣下有婦人阿趙。被縣尉無狀拷殺。阿趙來訴。遂誤追公。庭前有盆水。府君令洗面。仍遣一小兒送歸。嘉會亦辭。復令二男送。凡在太山二十八日。家人但覺其精神昏昧。既還如舊。嘉會話仁軌於眾。長史趙持滿令人驗之。無不同。自此常持金剛經。遇赦得歸。(出報應記)

陸懷素

唐吳郡陸懷素。貞觀二十年失火。屋宇焚燒。並從煙滅。惟金剛般若波羅密經獨存。函及標軸亦盡。惟經字竟如故。聞者莫不驚歎。懷素即高陽許仁則妻之兄也。仁則當時目 覩。常與人言之。(出冥報記)

太平廣記卷第一百三

報應二(金剛經)

司馬喬卿
孫壽
李觀
豆盧夫人
尼修行
陳文達
高紙
白仁晳
寶德玄
宋義倫
李岡
王陁
王令望
陳惠妻
何湜
張玄素
李丘一

司馬喬卿

唐大理司直河內司馬喬卿。天性純謹。有志行。永徽中。為揚州司戶曹。丁母憂。居喪毀瘠骨立。刺血寫金剛般若經二卷。未幾。於廬側生芝草二莖。九日長尺有八寸。綠莖朱蓋。日瀝汁一升食之。味甘如蜜。取而復生。喬卿同寮數人並目 覩其事。(出法苑珠林)

孫壽

唐顯慶中。平州人孫壽於海濱遊獵。遇野火。草木蕩盡。唯有一叢茂草。獨不焚。疑草中有伏獸。遂燭之以火。竟不熱。壽甚怪之。入草中窺視。乃獲一函 金剛般若經。其傍又有一死僧。顏色不變。

火不延燎。蓋由此也。始知經像非凡所測。孫壽親自說之。(出法苑珠林)

李觀

唐隴西李觀。顯慶中寓止滎陽。丁父憂。乃刺血寫金剛般若心經、隨願往生經各一卷。自後院中恒有異香。非常馥烈。隣側亦常聞之。無不稱歎。中山郎徐(明鈔本徐作餘。)令過鄭州。見彼親友。具陳其事。(出法苑珠林)

豆盧夫人

唐陳國竇公夫人豆盧氏。芮公寬之姊也。夫人信罪福。常誦金剛般若經。未盡卷一紙許。忽頭痛。至夜逾甚。夫人自念。儻死遂不得終經。欲起誦之。令婢然燭。而火悉已滅。婢空還。夫人深益歎恨。忽見厨中有燭炬。漸升堂陛。直入臥內。去地三尺許。而無人執。光明若晝。夫人驚喜。取經誦之。有頃。家人鑽鐩得火。燭光即滅。自此日誦五遍。以為常法。後芮公將死。夫人往視。公謂夫人曰。吾姊以誦經之福。當壽百歲。生好處也。夫人年至八十。無疾而終。(出法苑珠林)

尼修行

唐龍朔元年。洛州景福寺比丘尼修行房中。有侍僮伍五娘。死後。修行為五娘立靈座。經月餘日。其姊及弟於夜中。忽聞靈座上呻吟。其弟初甚恐懼。後乃問之。答曰。我生時於寺中食肉。坐此大苦痛。我體上有瘡。恐污牀席。汝可多將灰置牀上也。弟依其言。置灰後。看牀上大有膿血。又語弟曰。姊患不能縫衣。汝太藍縷。宜將布來。我為汝作衫及襪。弟置布於靈牀上。經宿即成。又語其姊曰。兒小時染患。遂殺一螃蟹。取汁塗瘡得差。今入刀林地獄。肉中見有折刀七枚。願姊慈愍。為作功德救助之。姊煎迫。卒難濟

辦。但隨身衣服。無益死者。今并未壞。請以用之。姊未報間。乃曰。兒自取去。良久又曰。衣服以來。見在牀上。其姊試往觀之。乃所斂之服也。遂送淨土寺寶獻師處。憑寫金剛般若經。每寫一卷了。即報云。已出一刀。凡寫七卷了。乃云。七刀並得出訖。今蒙福業助。即往託生。與姊及弟。哭別而去。吳興沈玄法說。淨土寺僧智整所說亦同。(出冥報記)

陳文達

唐陳文達。梓州鄰縣人。常持金剛經。願與亡父母念八萬四千卷。多有祥瑞。為人轉經。患難皆免。銅山縣人陳約曾 為冥司所追。見地下築臺。問之。云。此是般若臺。待陳文達。其為冥司所敬如此。(出法苑珠林)

高紙

高紙。隋僕射熲之孫也。唐龍朔二年。出長安順義門。忽逢二人乘馬。曰。王喚。紙不肯從去。亦不知其鬼使。策馬避之。又被驅擁。紙有兄。是化度寺僧。欲往寺內。至寺門。鬼遮不令入。紙乃毆鬼一拳。鬼怒。即拽落馬。曰。此漢大兇麤。身遂在地。因便昏絕。寺僧即令舁入兄院。明旦乃蘇。云。初隨二使見王。王曰。汝未合來。汝曾 毀謗佛法。且令生受其罪。令左右拔其舌。以犁耕之。都無所傷。王問本吏曰。彼有何福德如此。曰。曾 念金剛經。王稱善。即令放還。因與客語。言次忽悶倒。如吞物狀。咽下有白脈一道。流入腹中。如此三度。人問之。曰。少年盜食寺家果子。冥司罰令吞鐵丸。後仕為翊衛。專以念經為事。(出報應記)

白仁晢

唐白仁晢。龍朔中為虢州朱陽尉。差運米遼東。過海遇風。四望昏黑。仁晢憂懼。急念金剛經。得三百遍。忽如夢寐。見一梵僧。謂

曰。汝念真經。故來救汝。須臾風定。八十餘人俱濟。(出報應記)

竇德玄

竇德玄。麟德中為卿。奉使揚州。渡淮。船已離岸數十步。見岸上有一人。形容憔悴。擎一小襆坐於地。德玄曰。日將暮。更無船渡。即令載之。中流覺其有飢色。又與飯。乃濟。及德玄上馬去。其人即隨行。已數里。德玄怪之。乃問曰。今欲何去。答曰。某非人。乃鬼使也。今往揚州。追竇大使。曰。大使何名。云。名德玄。德玄驚懼。下馬拜曰。某即其人也。涕泗請計。鬼曰。甚媿公容載。復又賜食。且放。公急念金剛經一千遍。當來相報。至月餘。經數足。其鬼果來。云。經已足。保無他慮。然亦終須相隨見王。德玄於是就枕而絕。一宿乃蘇。云。初隨使者入一宮城。使者曰。公且住。我當先白王。使者乃入。於屏障後。聞王遙語曰。你與他作計。漏洩吾事。遂受杖三十。使者却出。袒以示公曰。喫杖了也。德玄再三媿謝。遂引入。見一著紫衣人。下堦相揖。云。公大有功德。尚未合來。請公還。出墮坑中。於是得活。其使者續至。云。飢未食。及乞錢財。並與之。問其將來官爵。曰。熟記取。從此改殿中監。次大司憲。次太子中允。次司元太常伯。次左相。年至六十四。言訖辭去。曰。更不復得來矣。後皆如其言。(出報應記)

宋義倫

唐宋義倫。麟德中為虢王府典籤。暴卒。三日方蘇。云。被追見王。王曰。君曾 殺狗兔鴿。今被論。君算合盡。然適見君師主云。君持金剛經。不惟滅罪。更合延年。我今放君。君能不喫酒肉 。持念尊經否。義倫拜謝曰。能。又見殿內牀上。有一僧年可五六十。披衲。義倫即拜禮。僧曰。吾是汝師。故相救。可依王語。義倫曰。諾。王令隨使者往看地獄。初入一處。見大鑊行列。其下燃

火。鑊中煑人。痛苦之聲。莫不酸惻。更入一處。鐵牀甚濶。人臥其上。燒炙焦黑。形容不辨。西顧有三人。枯黑佇立。頗似婦人。向義倫叩頭云。不得食噢。已數百年。倫答曰。我亦自無。何可與汝。更入一獄。向使者云。時熱。恐家人見斂。遂去。西南行數十步。後呼云。無文書。恐門司不放出。遂得朱書三行。字並不識。門司果問。看了放出。乃蘇。(出報應記)

李岡

唐兵部尚書李岡得疾暴卒。唯心上煖。三日復蘇。云。見一人引見大將軍。蒙令坐。索案看。云。錯追公。有頃。獄卒擎一盤來。中置鐵丸數枚。復舁一鐺放庭中。鐺下自然火出。鐺中銅汁湧沸。煑鐵丸。赤如火。獄卒進盤。將軍以讓岡。岡懼云飽。將軍吞之。既入口。舉身洞然。又飲銅汁。身遂火起。俛仰之際。吞並盡。良久復如故。岡乃前問之。答云。地下更無他饌。唯有此物。即吸食之。若或不飡。須臾即為猛火所焚。苦甚於此。唯與寫佛經十部。轉金剛經千卷。公亦不來。吾又離此。岡既復生。一依所約。深加敬異。(出報應記)

王陁

唐王陁為鷹揚府果毅。因病遂斷葷肉。發心誦金剛經。日五遍。後染瘴疾。見群鬼來。陁即急念經。鬼聞便退。遙曰。王令追汝。且止誦經。陁即為歇。鬼悉向前。陁乃昏迷欲絕。須臾又見一鬼來云。念經人。王令權放六月。既寤。遂一心持誦。晝夜不息。六月雖過。鬼亦不來。夜聞空中有聲呼曰。汝以持經功德。當壽九十矣。竟如其言。(出報應記)

王令望

唐王令望少持金剛經。還邛州臨溪。路極險阻。忽遇猛獸。振怖非常。急念真經。猛獸熟視。曳尾而去。流涎滿地。曾任安州判司。過揚子江。夜風暴起。租船數百艘。相接盡沒。唯令望船獨全。後終亳州譙令。(出報應記)

陳惠妻

唐陳惠妻王氏初未嫁。表兄褚敬欲婚王氏。父母不許。敬詛曰。若不嫁我。我作鬼。必相致。後歸於惠。惠為陵州仁壽尉。敬陰恚之。卒後。王夢敬。旋覺有娠。經十七月不產。王氏憂懼。乃發心持金剛經。晝夜不歇。敬永絕交。鬼胎亦銷。從此日持七遍。(出報應記)

何湛

唐何湛。天授初任懷州武德令。常持金剛經。至河陽。水漲橋倒。日已夕。人爭上船。岸遠未達。欲沒。湛懼。且急念經。須臾近岸。遇懸蘆。攀緣得出。餘溺死八十餘人。(出報應記)

張玄素

唐張玄素。洛陽人。少持金剛經。天授初。任黃梅宰。家有厄難。應念而消。年七十遘疾。忽有花蓋垂空。遂澡浴。與家人訣別。奄然而卒。(出報應記)

李丘一

唐李丘一好鷹狗畋獵。萬歲通天元年。任揚州高郵丞。忽一旦暴死。見兩人來追。一人自云姓段。時同被追者百餘人。男皆著枷。女即反縛。丘一被鐮前驅。行可十餘里。見大槐樹數十。下有馬槽。段云。五道大神每巡察人間罪福。於此歇馬。丘一方知身死。

至王門。段指一胥云。此人姓焦名策。是公本頭。遂被領見。王曰。汝安忍無親。好殺他命。以為己樂。須臾。即見所殺禽獸皆為人語云。乞早處分。焦策進云。丘一未合死。王曰。曾 作何功德。云。唯曾 造金剛經一卷。王即合掌云。冥間號金剛經最上功德。君能書寫。其福不小。即令焦策領向經藏。令驗。至一寶殿。眾經充滿。丘一試抽一卷。果是所造之經。既迴見王。知造有實。乃召所殺生類。令懇陳謝。許造功德。丘一依王命。願寫金剛經一百卷。眾歡喜盡散。王曰。放去。焦策領出城門。云。盡力如此。豈不相報。丘一許錢三百千。不受。云。與造經二十部。至一坑。策推之。遂活。身在棺中。惟聞哭聲。已三日矣。驚呼人至。破棺乃起。旬日。寫經二十卷了。焦策來謝。致辭而去。尋百卷亦畢。揚州刺史奏其事。敕加丘一五品。仍充嘉州招討使。(出報應記)

太平廣記卷第一百四

報應三(金剛經)

于昶
裴宣禮
吳思玄
銀山老人
崔文簡
姚待
呂文展
長安縣繫囚
李虛
盧氏
陳利賓
王宏
田氏

于昶

唐于昶。天后朝任并州錄事參軍。每至一更後。即喘息流汗。二更後愈。妻柳氏將召醫工。昶密曰。自無他苦。但晝決曹務。夜判冥司。事力不任耳。每知有災咎。即陰為之備。都不形言。凡六年。後丁母艱。持金剛經。更不復為冥吏。因極言此功德力。令子孫諷轉。後為慶州司馬。年八十四。將終。忽聞異香。非代所有。謂左右曰。有聖人迎我往西方。言訖而沒。(出報應記)

裴宣禮

唐裴宣禮。天后朝為地官侍郎。常持金剛經。坐事被繫。宣禮憂迫。唯至心念經。枷鏁一旦自脫。推官親訪之。遂得雪免。御史任植同禁。亦念經獲免。(出報應記)

吳思玄

唐吳思玄。天后朝為太學博士。信釋氏。持金剛經日兩遍。多有靈應。後稍怠。日夜一遍。□□□思玄在京病。有巫褚細兒言事如神。星下祈禱。思玄往就見。細兒驚曰。公有何術。鬼見皆走。思玄私負。知是經力。倍加精勵。日念五遍。兄疾。醫無效。思玄至心念經。三日而愈。思玄曾 於渭橋見一老人。年八十餘。著麤縗服。問之。曰。為所生母也。思玄怪之。答曰。母年四十三時。有異僧教云。汝欲長壽否。但念金剛經。母即發心。日念兩遍。終一百七。姨及隣母誦之。並過百歲。今遵母業。已九十矣。(出報應記)

銀山老人

饒州銀山。採戶逾萬。並是草屋。延和中火發。萬室皆盡。唯一家居中。火獨不及。時本州楊體幾自問老人。老人對曰。家事佛持金剛經。(出報應記)

崔文簡

唐崔文簡。先天中任坊州司馬。屬吐蕃奄至州城。同被驅掠。鑕械甚嚴。至心念經。三日。鑕忽自開。虜疑有奸。箠撻。具以實對。問云。汝有何術。答云。念金剛經。復令鑕之。念未終又解。眾皆嘆異。遂送出境。(出報應記)

姚待

唐姚待。梓州人。常持金剛經。並為母造一百部。忽有鹿馴戲。見人不驚。犬亦不吠。逡巡自去。有人宰羊。呼待同食。食了即死。使者引去。見一城門上有額。遂令入見王。王呼何得食肉 。待云。雖則食肉 。比元持經。王稱善。曰。既能持經。何不斷肉 。遂得生。為母寫經。有屠兒李廻奴請一卷。焚香供養。廻奴死後。有人見於冥間。枷鑕自脫。亦生善道。(出報應記)

呂文展

唐呂 文展。開元三年任閬中縣丞。雅好佛經。尤專心持誦金剛經。至三萬餘遍。靈應奇異。年既衰暮。三牙並落。念經懇請。牙生如舊。在閬中時。屬亢旱。刺史劉浚令祈雨。僅得一遍。遂獲沛然。又苦霖潦。別駕使祈晴。應時便霽。前後證驗非一。不能徧舉。(出報應記)

長安縣繫囚

唐長安縣死囚。入獄後四十餘日。誦金剛經不輟口。臨決脫枷。枷頭放光。長數十丈。照耀一縣。縣令奏聞。玄宗遂釋其罪。(出廣異記)

李虛

唐開元十五年。有敕天下村坊佛堂。小者並拆除。功德移入側近佛寺。堂大者。皆令閉封。天下不信之徒。並望風毀拆。雖大屋大像。亦殘毀之。敕到豫州。新息令李虛嗜酒倔強。行事違戾。方醉而州符至。仍限三日報。虛見大怒。便約胥正。界內毀拆者死。於是一界並全。虛為人。好殺愎戾。行必違道。當時非惜佛宇也。但以忿限故全之。全之亦不以介意。歲餘。虛病。數日死。時正暑月。隔宿即斂。明日將殯。母與子繞棺哭之。夜久哭止。聞棺中若指爪戛棺聲。初疑鼠 。未之悟也。斯須增甚。妻子驚走。母獨不去。命開棺。左右曰。暑月恐壞。母怒。促開之。而虛生矣。身頗瘡爛。於是浴而將養之。月餘平復。虛曰。初為兩卒拘至王前。王不在。見階前典吏。乃新息吏也。亡經年矣。見虛拜問曰。長官何得來。虛曰。適被錄而至。吏曰。長官平生。唯以殺害為心。不知罪福。今當受報。將若之何。虛聞懼。請救之。吏曰。去歲拆佛堂。長官界內獨全。此功德彌大。長官雖死。亦不合此間追攝。少

間王問。更勿多言。但以此對。虛方憶之。頃王坐。主者引虛見王。王曰。索李明府善惡簿來。即有人持一通案至。大合抱。有二青衣童子亦隨文案。王命啟牘唱罪。階吏讀曰。專好割羊脚。吏曰。合杖一百。仍割其身肉百斤。王曰。可令割其肉。虛曰。去歲有敕拆佛堂。毀佛像。虛界內獨存之。此功德可折罪否。王驚曰。審有此否。吏曰。無。新息吏進曰。有福簿在天堂。可檢之。王曰。促檢。殿前垣南有樓數間。吏登樓檢之。未至。有二僧來至殿前。王問師何所有。一答曰。常誦金剛經。一曰。常讀金剛經。王起合掌曰。請法師登階。王座之後。有二高座。右金左銀。王請誦者坐金座。讀者坐銀座。坐訖開經。王合掌聽之。誦讀將畢。忽有五色雲至金座前。紫雲至銀座前。二僧乘雲飛去。空中遂滅。王謂階下人曰。見二僧乎。皆生天矣。於是吏檢善簿至。唯一紙。因讀曰。去歲敕拆佛堂。新息一縣獨全。合折一生中罪。延年三十。仍生善道。言畢。罪簿軸中火出。焚燒之盡。王曰。放李明府歸。仍敕兩吏送出城南門。見夾道並高樓大屋。男女雜坐。樂飲笙歌。虛好絲竹。見而悅之。兩吏謂曰。急過此無顧。顧當有損。虛見飲處。意不能忍行。佇立觀之。店中人呼曰。來。吏曰。此非善處。既不相取信。可任去。虛未悟。至飲處。人皆起。就坐。奏絲竹。酒至。虛酬酢畢。將飲之。乃一杯糞汁也。臭穢特甚。虛不肯飲。即有牛頭獄卒。出於牀下。以叉刺之。洞胸。虛遽連飲數杯。乃出。吏引虛南。入荒田小徑中。遙見一燈炯然。燈旁有大坑。昏黑不見底。二吏推墮之。遂蘇。李虛素性兇頑。不知罪福。而被酒違戾。以全佛堂。明非己之本心也。然猶身得生天。火焚罪簿。獲福若此。非為善之報乎。與夫日夜精勤。孜孜為善。既持僧律。常行佛言。而不離生死。未之有也。(出紀聞)

盧氏

唐開元中。有盧氏者。寄住滑州。晝日閑坐廳事。見二黃衫人入門。盧問為誰。答曰。是里正。奉帖追公。盧甚愕然。問何故相追。因求帖觀。見封上作衛縣字。遂開。文字錯謬。不復似人書。怪而詰焉。吏言奉命相追。不知何故。俄見馬已備在堦下。不得已上馬去。顧見其屍。坐在牀上。心甚惡之。倉卒之際。不知是死。又見馬出不由門。皆行墻上。乃驚愕下泣。方知必死。恨不得與母妹等別。行可數十里。至一城。城甚壯麗。問此何城。吏言乃王國。即追君所司。入城後。吏欲將盧見王。經一院過。問此何院。吏曰。是御史大夫院。因問院大夫何姓名。云。姓李名某。盧驚喜。白吏曰。此我表兄。令吏通刺。須臾便出。相見甚喜。具言平昔。延入坐語。大夫謂曰。弟之念誦。功德甚多。良由金剛經是聖教之骨髓。乃深不可思議功德者也。盧初入院中。見數十人。皆是衣冠。其後太半繫在網中。或無衣。或露頂。盧問。此悉何人。云是陽地衣冠。網中悉緣罪重。弟若能為一說法。見之者悉得昇天。遂命取高座。令盧昇坐誦金剛般若波羅密經。網中人已有出頭者。至半之後。皆出地上。或褒衣大袖。或乘車御雲。誦既終。往生都盡。及入謁見。王呼為法師。致敬甚厚。王云。君大不可思議。算又不盡。歎念誦之功。尋令向吏送之廻。既至舍。見家人披頭哭泣。尸臥地上。心甚惻然。俄有一婢從庭前入堂。吏令隨上堦。及前。魂神忽已入體。因此遂活。(出廣異記)

陳利賓

陳利賓者。會稽人。弱冠明經擢第。善屬文。詩入金門集。(入金門集四字據明鈔本補。)釋褐長城尉。少誦金剛經。每至厄難。多獲其助。開元中。賓自會稽江。行之東陽。會天久雨。江水瀰漫。賓與其徒二十餘船同發。乘風掛帆。須臾。天色昧暗。風勢益壯。至界石竇上。水擁(原本此處空一格。據明鈔本補擁字。)閼眾流而下。波濤衝擊。勢不得泊。其前輩二十餘舟。皆至竇口而敗。舟人懼。利賓忙

遽誦金剛經。至眾流所。忽有一物。狀如赤龍。橫出扶舟。因得上。議者為誦經之功。(出廣異記)

王宏

王宏者。少以漁獵為事。唐天寶中。嘗放鷹逐兔。走入穴。宏隨探之。得金剛般若經一卷。自此遂不獵云。(出廣異記)

田氏

易州參軍田氏。性好畋獵。恒養鷹犬為事。唐天寶初。易州放鷹。於叢林棘上見一卷書。取視之。乃金剛經也。自爾發心持誦。數年。已誦二千餘遍。然畋獵亦不輟。後遇疾。暴卒數日。被追至地府。見諸鳥獸。周迴數畝。從己徵命。頃之。隨到見王。問罪何多也。田無以對。王令所由領往推問。其徒十人。至吏局。吏令啟口。以一丸藥擲口中。便成烈火遍身。須臾灰滅。俄復成人。如是六七輩。至田氏。累三丸而不見火狀。吏乃怪之。復引見王。具以實白。王問在生作何福業。田氏云。初以畋獵為事。王重問。云。在生之時。於易州棘上得金剛經。持誦已二千餘遍。王云。正此滅一切罪。命左右檢田氏福簿。還白如言。王自令田氏誦經。纔三紙。迴視庭中禽獸。並不復見。誦畢。王稱美之。云。誦二千遍。延十五年壽。遂得放還。(出廣異記)

太平廣記卷第一百五

報應四（金剛經）

李惟燕
孫明
三刀師
宋叅軍
劉鴻漸
張嘉猷
魏恂
杜思訥
龍興寺主
陳哲
豐州烽子
張鎰
崔寧

李惟燕

建德縣令李惟燕。少持金剛經。唐天寶末。惟燕為餘姚郡叅軍。秩滿北歸。過五丈店。屬上虞江埭塘破。水竭。時中夜晦暝。四廻無人。此路舊多刼盜。惟燕舟中有吳綾數百疋。懼為賊所取。因持一劒。至舡前誦經。三更後。見堤上兩炬火。自遠而至。惟燕疑是村人衛己。火去舡百步。便却復廻。心頗異之。愈益厲聲誦經。亦竊自思云。火之所為。得非金剛經力乎。時塘水竭而塘外水滿。惟燕便心念。塘破當得水助。半夕之後。忽聞船頭有流水聲。驚云。塘濶數丈。何由得破。久之。稍覺船浮。及明。河水已滿。對船所一孔。大數尺。乃知誦金剛經之助云。惟燕弟惟玉見任虔州別駕。見其兄誦經有功。因效之。後泛舟出峽。水急櫓折。船將欲敗。乃力念經。忽見一櫓隨流而下。遂獲濟。其族人亦常誦金剛經。遇安祿山之亂。伏於荒草。賊將至。思得一鞋以走。俄有物落其背。驚視。乃新鞋也。（出廣異記）

孫明

唐孫明者。鄭州陽武人也。世貧賤。為盧氏莊客。善持金剛經。日誦二十遍。經二十年。自初持經。便絕葷血。後正念誦次。忽見二吏來追。明意將是縣吏。便縣去。行可五六里。至一府門。門人云。王已出巡。吏因閉明於空室中。其室從廣五六十間。蓋若蔭雲。經七日。王方至。吏引明入府。王問汝有何福。答云。持金剛經已二十年。王言此大福也。顧謂左右曰。昨得祇洹家牒。論明念誦勤懇。請延二十載。乃知修道不可思議。所延二十載。以償功也。令吏送還舍。其家殯明已畢。神雖復體。家人不之知也。會獵者從殯宮過。聞號呼之聲。報其家人。因爾得活矣。天寶末。明活已六七年。甚無恙也。(出廣異記)

三刀師

唐三刀師者。俗姓張。名伯英。乾元中。為壽州健兒。性至孝。以其父在潁州。乃盜官馬往以迎省。至淮陰。為守遏者所得。刺史崔昭令出城腰斬。時屠劊號能行刀。再斬。初不傷損。乃換利刀。罄力砍。不損如故。劊者驚曰。我用刀砍。至其身則手懦。不知何也。遽白之。昭問所以。答曰。昔年十五。曾 絕葷血。誦金剛經十餘年。自胡亂以來。身在軍中。不復念誦。昨因被不測罪。唯志心念經爾。昭嘆息舍之。遂削髮出家。著大鐵鈴乞食。修千人齋供。一日便辦。時人呼為三刀師。謂是起敬菩薩。(出廣異記)

宋叅軍

唐坊州宋叅軍少持金剛經。及之官。權於司士宅住。舊知宅凶。每夕恒誦經。忽見婦人立於戶外。良久。宋問汝非鬼耶。曰。然。又問幽明理殊。當不宜見。得非有枉屈之事乎。婦人便悲泣曰。然。言身是前司士之婦。司士奉使。其弟見逼。拒而不從。因此被殺。

以氈裹屍。投於堂西北角溷廁中。不勝穢積。人來多欲陳訴。俗人怯懦。見形必懼。所以幽憤不達。凶惡驟聞。執事以持念為功。當亦大庇含識。眷言枉穢。豈不憫之。宋云。己初官位卑。不能獨救。翌日。必為上白府君。其鬼乃去。及明具白。掘地及溷。不獲其尸。宋誦經。婦人又至。問何以不獲。答云。西北只校一尺。明當求之。以終惠也。依言乃獲之。氈內但餘骨在。再為洗濯。移於別所。其夕又來拜謝。歡喜謂曰。垂庇過深。難以上答。雖在冥昧。亦有所通。君有二子。大者難養。小者必能有後。且有榮位。兼言宋後數改(明鈔本改作政。)官祿。又云。大媿使君。不知何以報答。宋見府君。具敘所論。府君令問。己更何官。至夕。婦人又至。因傳使君意。云。一月改官。然不稱意。當遷桂州別駕。宋具白。其事皆有驗。初。宋問身既為人所殺。何以不報。云。前人今尚為官。命未合死。所以未復云也。(出廣異記)

劉鴻漸

劉鴻漸者。御史大夫展之族子。唐乾元初。遇亂南徙。有僧令誦金剛經。鴻漸日誦經。至上元年。客於壽春。一日出門。忽見二吏云。奉太尉牒令追。鴻漸云。初不識太尉。何以見命。意欲抗拒。二吏忽爾直前拖曳。鴻漸請著衫。吏不肯放。牽行未久。倏過淮。至一村。須臾。持大麻衫及腰帶令鴻漸著。笑云。真醋大衫也。因而向北行。路漸梗澁。前至大城。入城有府舍。甚嚴麗。忽見向勸讀經之僧從署中出。僧後童子識鴻漸。徑至其所。問十六郎何以至此。因走白和尚云。劉十六郎適為吏追。以誦經功德。豈不往彼救之。鴻漸尋至僧所。虔禮求救。僧曰。弟子行無苦。須臾。吏引鴻漸入詣廳事。案後有五色浮圖。高三四尺。迴旋轉動。未及考問。僧已入門。浮圖變成美丈夫。年三十許。云是中丞。降階接僧。問和尚何以復來。僧云。劉鴻漸是己弟子。持金剛經。功力甚至。其算又未盡。宜見釋也。王曰。若持金剛經。當願聞耳。因令跪誦。

鴻漸誦兩紙訖。忽然遺忘。廳西有人。手持金鉤龍頭幡。幡上碧字。書金剛經。布於鴻漸前。令分明誦經畢。都不見人。但餘堂宇闃寂。因爾出門。唯見追吏。忽有物狀如兩日。來擊鴻漸。鴻漸惶懼奔走。忽見道傍有水。鴻漸欲止而飲之。追吏云。此是人膏。澄久上清耳。其下悉是餘皮爛肉。飲之不得還矣。須臾至舍。見骸形臥在牀上。心頗惆悵。鬼自後推之。冥然如入房戶。遂活。鬼得錢乃去也。(出廣異記)

張嘉猷

廣陵張嘉猷者。唐寶應初為明州司馬。遇疾卒。載喪還家。葬於廣陵南郭門外。永泰初。其故人有勞氏者。行至郭南。坐浮圖下。忽見猷乘白馬自南來。見勞下馬。相慰如平生。然不脫席帽。低頭而語。勞問冥中有何罪福。猷云。罪福昭然。莫不隨所為而得。但我素持金剛經。今得無累。亦當別有所適。在旬月間耳。卿還。為白家兄。令為轉金剛經一千遍。何故將我香爐盛諸惡物。卿家亦有兩卷經。幸為轉誦。增己之福。言訖。遂訣而去。勞昏昧。久之方寤云。(出廣異記)

魏恂

唐魏恂。左庶子尚德之子。持金剛經。神功初。為監門衛大將軍。時京有蔡策者。暴亡。數日方蘇。自云。初至冥司。怪以追人不得。將撻其使者。使者云。將軍魏恂持金剛經。善神擁護。追之不得。即別遣使覆追。須臾還報並同。冥官曰。且罷追。恂聞。尤加精進。(出廣異記)

杜思訥

唐潞州銅鞮縣人杜思訥。以持金剛經力。疾病得愈。每至持經之日。必覩神光。(出廣異記)

龍興寺主

唐原州龍興寺。因大齋會。寺主會僧。夏臘既高。是為宿德。坐麗賓頭之下。有小僧者。自外後至。以無坐所。唯寺主下曠一位。小僧欲坐。寺主輒叱之。如是數次。小僧恐齋失時。竟來就坐。寺主怒甚。倚杖而坐。以掌摑之。方欲舉手。大袖為杖所壓。不得下。合掌驚駭。小僧慚沮。不齋而還房。眾議恐是小僧道德所致。寺主遂與寺眾同往禮敬。小僧惶懼。自言初無道行。不敢濫受大德禮數。逡巡走去。因問平生作何行業。云。二十年唯持金剛經。眾皆讚嘆。謂是金剛護持之力。便於杖所焚香頂禮。呪云。若是金剛神力。當還此衣。於是隨手而出也。(出廣異記)

陳哲

唐臨安陳哲者。家住餘杭。精一練行。持金剛經。廣德初。武康草賊朱潭寇餘杭。哲富於財。將搬移產避之。尋而賊至。哲謂是官軍。問賊今近遠。群賊大怒曰。何物老狗。敢辱我。爭以劒刺之。每下一劒。則有五色圓光徑五六尺以蔽哲身。刺不能中。賊驚嘆。謂是聖人。莫不慚悔。捨之而去。(出廣異記)

豐州烽子

唐永泰初。豐州烽子暮出。為党項縛入西蕃養馬。蕃王令穴肩骨。貫以皮索。以馬數百蹄配之。經半歲。馬息一倍。蕃王賞以羊革數百。因轉近牙帳。贊普子愛其了事。遂令執纛左右。有剩肉餘酪與之。又居半年。因與酪肉。悲泣不食。贊普問之。云有老母。頻夜夢見。贊普頗仁。聞之悵然。夜召帳中語云。蕃法嚴。無放還例。我與爾馬有力者兩匹。於某道縱爾歸。無言我也。烽子得馬極騁。俱乏死。遂晝潛夜走。數日後。為刺傷足。倒磧中。忽風吹物窸窣過其前。因攬之裹足。有頃。不復痛。試起。步走如故。經宿方及

豐州界。歸家。其母尚存。悲喜曰。自失爾。我唯念金剛經。寢食不廢。以祈見爾。今果其誓。因取經。縫斷。亡數幅。不知其由。子因道磧中傷足事。母令解足視之。裹瘡乃數幅經也。其瘡亦愈。(出酉陽雜俎)

張鎰

唐丞相張鎰。父齊丘。酷信釋氏。每旦更新衣。執經於像前。念金剛經十五遍。積數十年不懈。永泰初。為朔方節度使。衙內有小將負罪。懼事露。乃扇動軍人數百。定謀反叛。齊丘因衙退。於小廳閒行。忽有兵數十。露刃走入。齊丘左右唯奴僕。遽奔宅門。過小廳數步。迴顧。又無人。疑是鬼物。將及宅。其妻女奴婢復叫呼出門。云。有兩甲士。身出廳屋上。時衙隊軍健聞變。持兵亂入。至小廳前。見十餘人。仡然庭中。垂手張口。投兵於地。眾遂擒縛。五六人瘖不能言。餘者具首云。欲上廳。忽見二甲士長數丈。瞋目叱之。初如中惡。齊丘聞之。因斷酒肉。(出酉陽雜俎)

崔寧

唐崔寧。大曆初鎮西蜀。時會楊林反。健兒張國英與戰。射中腹。鏃沒不出。醫曰。一夕必死。家人將備葬具。與同伍泣別。國英常持金剛經。至夜。夢胡僧與一丸藥。至旦。瀉箭鏃出。瘡便合瘥。(出報應記)

太平廣記卷第一百六

報應五(金剛經)

太原孝廉
李廷光
陸康成
薛嚴
任自信
段文昌
劉逸淮
孫咸
僧智燈
王氏
左營伍伯
宋衍
陳昭

太原孝廉

唐大曆中。太原偷馬賊誣一孝廉同情。考掠旬日。苦極強服。推吏疑其冤。未具獄。其人唯念金剛經。其聲哀切。晝夜不絕。一日。有竹兩節墜獄中。轉止其前。他囚爭取之。獄卒意藏刃。破視。內有字兩行云。法尚應捨。何況非法。書跡甚工。賊首悲悔。具承以舊嫌之故誣之也。(出酉陽雜俎)

李廷光

唐李廷光者。為德州司馬。敬佛。不茹葷血。常持金剛經。每念經時。即有圓光在前。用心苦至。則光漸大。少懷懈惰。則光漸小暗。因此砥礪。轉加精進。(出報應記)

陸康成

唐陸康成嘗任京兆府法曹掾。不避強禦。公退。忽見亡故吏抱案數百紙請押。問曰。公已去世。何得來。曰。此幽府文簿。康成視之。但有人姓名。略無他事。吏曰。皆來年兵刃死者。問曰。得無我乎。有則檢示。吏曰。有。因大駭曰。君既舊吏。得無情耶。曰。故我來啟明公耳。唯金剛經可託。即允之。乃遂讀金剛經。日數十遍。明年。朱泚果反。署為御史。康成叱泚曰。賊臣敢干國士。泚震怒。命數百騎環而射之。康成默念金剛經。矢無傷者。泚曰。儒以忠信為甲冑。信矣。乃舍去。康成遂入隱於終南山。竟不復仕。(出報應記)

薛嚴

唐薛嚴。忠州司馬。蔬食長齋。日念金剛經三十遍。至七十二將終。見幢蓋音樂來迎。其妻崔氏。即御史安儼之姑也。屬纊次。見嚴隨幢蓋冉冉昇天而去。呼之不顧。一家皆聞有異香之氣。(出報應記)

任自信

任自信。嘉州人。唐貞元十五年。曾 往湖南。常持金剛經。潔白無點。於洞庭湖中。有異物如雲冒 舟上。俄頃而散。舟中遂失自信。不知所在。久之。乃凌波而出。云至龍宮。謁龍王。四五人命昇殿念金剛經。與珠寶數十事。二僧相送出宮。一僧憑附少信。至衡岳觀音臺紹真師付之。云是汝和尚送來。令轉金剛經。至南岳訪僧。果見。云和尚滅度已五六年矣。(出報應記)

段文昌

唐貞元十七年。段文昌 自蘄入蜀。應南康王韋皐辟命。洎韋之暮年。為賊闢(闢原作嬖。據酉陽雜俎續七改。)讒構。遂攝尉靈池縣。韋尋卒。賊闢知留後。文昌 舊與闢不合。聞之連夜離縣。至城東門。闢

尋有帖。不令諸縣官離縣。其夕陰風。及返。出郭二里。見火兩炬夾道。百步為導。初意縣吏迎候。怪其不前。高下遠近不差。欲及縣郭方滅。及問縣吏。尚未知府帖也。時文昌念金剛經已五六年。數無虛日。信乎志誠必感。有感必應。向之道左右。乃經所著迹也。後闢逆節漸露。詔以袁滋為節度使。文昌從弟少從軍。知左營事。懼及禍。與監軍定計。以蠟丸帛書通謀於袁。事旋發。悉為魚肉。賊謂文昌知其謀於一時。文昌念經夜久。不覺困寐。門戶悉閉。忽聞開戶而入言不畏者再三。若物投案。暴然有聲。驚起之際。音尤在耳。顧視左右。吏僕皆睡。俾燭樺四索。初無所見。向之門扃。已開闢矣。文昌受持此經十餘萬遍。徵應孔著。(出酉陽雜俎)

劉逸淮

唐劉逸淮在汴時。韓弘為右廂虞候。王某為左廂虞候。與弘相善。或謂二人取軍情。將不利於劉。劉大怒。召俱詰之。弘即劉之甥。因控地叩首大言。劉意稍解。王某年老股戰。不能自辯。劉叱令拉坐。杖三十。時新造赤棒。頭徑數寸。固以筋漆。立之不仆。數五六當死矣。韓意其必死。及昏。造其家。怪無哭聲。又謂其不敢哭。訪兵門卒。即云。大使無恙。弘素與熟。遂至臥內。問之。云。我讀金剛經四十年矣。今方得力。記初被坐時。見巨手如箕。翕然遮背。因袒示韓。都無撻痕。韓舊不好釋氏。由此始與僧往來。日自寫十紙。及貴。計數百軸矣。後在中書。盛暑。有諫官因事見謁。韓方洽汗寫經。諫官怪問之。韓乃具道王某事。(出因話錄)

孫咸

唐梁崇義在襄州。未(未原作末。據明鈔本、許本改。)阻兵時。有小將孫咸暴卒。信宿却蘇。言至一處如王者所居。儀衛甚嚴。有吏引一僧對事。僧法號懷秀。亡已經年。在生極犯戒。及入冥。無善可錄。

乃紿云。我常囑孫咸寫法華經。敕咸被追對。初咸不省。僧固執之。經時不決。忽見沙門曰。地藏語云。若弟子招承。亦自獲祐。咸乃依言。因得無事。又說對勘時。見一戎王。衛者數百。自外來。冥王降階。齊級升殿。坐未久。乃大風卷去。又見一人。被考覆罪福。此人常持金剛經。又好食肉。左邊有經數千軸。右邊積肉成山。以肉多。將入重論。俄經堆中有火一星。飛向肉山。頃刻銷盡。此人遂履空而去。咸問地藏。向來外國王風吹何處。地藏王云。彼王當入無間。向來風即業風也。因引咸看地獄。及門。煙焰煽赫。聲若風雷。懼不敢視。臨視鑊湯。跳沫滴落左股。痛入心髓。地藏令一吏送歸。不許漏洩冥事。及廻如夢。妻兒環泣。已一日矣。遂破家寫經。因請出家。夢中所滴處成瘡。終身不差。(出酉陽雜俎)

僧智燈

唐貞元中。荊州天崇寺僧智燈。常持金剛經。遇疾死。弟子啟手猶熱。不即入木。經七日却活。云。初見冥中若王者。以念經故。合掌降階。因問訊曰。更容上人十年在世。勉出生死。又問人間眾僧中後食薏苡仁及藥食。此大違本教。燈報云。律中有開遮條如何。云。此後人加之。非佛意也。今荊州僧眾中後(原無後字。據明鈔本補。)無有飲藥者。(出酉陽雜俎)

王氏

公安潺陵村百姓王從貴妹未嫁。常持金剛經。唐貞元中。忽暴病卒。埋已三日。其家覆墓。聞塚中呻吟。遂發視之。果有氣。舁歸。數日能言。云。初至冥間。冥吏以持經功德放還。王從貴能治木。嘗於公安靈化寺起造。其寺僧曙中嘗見從貴說云。(出酉陽雜俎)

左營伍伯

唐南康王韋皐鎮蜀時。有左營伍伯。於西山行營。與同火卒學念金剛經。性頑。初一日纔得題目 。其夜堡外拾薪。為蕃騎縛去。行百餘里乃止。天未明。遂踣之於地。以髮繫橛。覆以駝罽。寢(寢原作寤。據明鈔本改。)其上。此人唯念經題。忽見金一鋌。放光止於前。試舉首動身。所縛悉脫。遂潛起。逐金鋌走。計行未得十餘里。遲明。不覺已至家。家在府東市。妻兒初疑其鬼。具陳來由。到家五六日。行營將方申其逃。初韋不信。以逃日與至家日不差。始免之。(出酉陽雜俎)

宋衍

宋衍。江淮人。應明經舉。元和初。至河陰縣。因疾病廢業。為鹽鐵院書手。月錢兩千。娶妻安居。不議他業。年餘。有為米綱過三門者。因不識字。請衍同去。通管簿書。月給錢八千文。衍謂妻曰。今數月不得八千。苟一月而致。極為利也。妻楊氏甚賢。勸不令往。曰。三門舟路。頗為險惡。身或驚危。利亦何救。衍不納。遂去。至其所。果遇暴風所擊。彼群船盡沒。唯衍入水。捫得粟藁一束。漸漂近岸。浮藁以出。乃活。餘數十人皆不救。因抱藁以謝曰。吾之微命。爾所賜也。誓存沒不相捨。遂抱藁疾行數里。有孤姥鬻茶之所。茅舍兩間。遂詣宿焉。具以事白。姥憫之。乃為設粥。及明旦。於屋南曝衣。解其藁以晒。於藁中得一竹筒。開之。乃金剛經也。尋以訊姥。且不知其詳。姥曰。是汝妻自汝來後。蓬頭禮念。寫經誠切。故能救汝。衍感泣請歸。姥指東南一徑曰。但尋此去。校二百里。可以後日到家也。與米二升。拜謝遂發。果二日達河陰。見妻媿謝。楊媛驚問曰。何以知之。盡述根本。楊氏怪之。衍乃出經。楊媛涕泣。拜禮頂戴。衍曰。用何以為記。曰。寫時。執筆者悞羅漢字。空維上無四。遂詣護國寺禪和尚處請添。和尚年老眼昏 。筆點過濃。字皆昏黑。但十日來。不知其所在。驗之。果如其說。衍更嗚咽拜其妻。每日焚香禮經於淨室。乃謂楊媛

曰。河濱之姥。不可忘也。遣使封茶及絹與之。使至。其居及人皆不見。詰於牧豎。曰。比水漲無涯際。何有人鬻茶。復云。路亦並無。乃神化也。數歲。相國鄭公絪為東都留守。乃召衍及楊媛往。問其本末。並令將經來。與其男武職。食月給五千。因求其經。至今為鄭氏所尊奉。故岳州刺史丞相弘農公因覩其事。遂敘之。名曰楊媛徵驗。(出報應記)

陳昭

唐元和初。漢州孔目 典陳昭。因患病。見一人著黃衣至牀前云。趙判官喚爾。昭問所因。云。至自冥間。劉闢與竇懸對事。要召為證。昭即留坐。逡巡又一人手持一物如毬胞。前吏怪其遲。答曰。只緣此。候屠行開。因笑謂昭曰。君勿懼。取生人氣。須得猪胞。君可面東側臥。昭依其言。不覺已隨二吏行。路甚平。可十里餘。至一城。大如府城。甲士守門。及入。見一人怒容可駭。即趙判官也。語云。劉闢敗東川。竇懸捕牛四十七頭。送梓州。稱准劉闢判殺。闢又云。先無牒。君為孔目 典。合知事實。未及對。隔壁聞竇懸呼。陳昭何在。及問兄弟妻子存亡。昭即欲參見。冥吏云。竇使君形容極惡。不欲相見。昭乃具說殺牛實奉劉尚書委曲 。非牒也。紙是麻。見在漢州某私房架上。即令吏領昭至漢州取之。門鎖扃鐍。乃於節竅中出入。委曲至。闢乃無言。趙語昭。爾自有一過知否。竇懸所殺牛。爾取一牛頭。昭未及答。趙曰。此不同人間。不可假也。須臾。見一卒挈牛頭而至。昭即恐懼求救。趙令檢格。合決一百。考五十日。因謂昭曰。爾有何功德。昭即自陳。曾 設若干齋。畫佛像。趙云。此來生福耳。昭又言。曾 於表兄家讀金剛經。趙曰。可合掌請。昭如言。有頃。見黃襆箱經自天而下。住昭前。昭取視之。即表兄所借本也。褾有燒處尚在。又合掌。其經即滅。趙曰。此足以免。便放回 。令昭往一司。曰生祿。按檢出修短。吏報云。昭本名釗。是金旁刀。至某年改為昭。更得十八年。昭聞惆

悵。趙笑曰。十八年大得作樂事。何不悅乎。乃令吏送昭。至半道。見一馬當路。吏云。此爾本屬。可乘此。即騎乃活。死半日矣。(出酉陽雜俎)

太平廣記卷第一百七

報應六(金剛經)

王忠幹
王俔
李元一
魚萬盈
于李回
強伯達
僧惟恭
王沔
董進朝
康仲戚
吳可久
玕行立
僧法正
沙彌道蔭
何老
勾龍義
趙安

王忠幹

唐大(大原作元。按舊唐書討李同在文宗大和間。元當是大字之誤。)和三年。李同捷阻兵滄(原本滄下有州字。據明鈔本刪。)景。帝命李祐統齊德軍討之。初圍德州城。城堅不拔。翌日又攻之。自卯至未。傷十八九。竟不能拔。時有齊州衙內八將官健兒王忠幹。博野縣人。長念金剛經。積二十餘年。日數不闕。其日。忠幹上飛梯。將及堞。身中箭如蝟。為櫑木擊落。同火卒曳出羊馬城外。置之水濠裏岸。祐以暮夜。命抽軍。其時城上矢下如雨。同火忙。忘取忠幹尸。忠幹既死。如夢。至荒野。遇大河。欲渡無因。仰天哭。忽聞人語聲。忠幹見一人。長丈餘。疑其神人。因求指營路。其人云。爾莫怕。我令爾可得渡此河。忠幹拜之。纔頭低未舉。神人把腰。擲之空中。

久方著地。忽如夢覺。聞賊城上交二更。初不記過水。亦不知瘡。擡手捫面。血塗眉睫。方知傷損。乃舉身強行。百餘步却倒。復見向人持刀叱曰。起起。忠幹驚懼。走一里餘。坐歇。方聞本軍喝號聲。遂及本營。訪同火卒。方知其身死水濠岸裡。即是夢中所過河也。(出酉陽雜俎)

王俔

王俔家於晉州。性頑鄙。唐元和四年。其家疾疫。亡者十八九。唯俔偶免。方疾。食狗肉。目 遂盲。不知醫藥。唯禱鬼神。數年無報。忽有一異僧請飯。謂曰。吾師之文。有金剛經。能排眾苦。報應神速。居士能受之乎。俔辭愚。又無目 。固不可記。僧勸寫之。俔從其言。得七卷。請僧誦之。數日。夢前僧持刀決其目 。乃驚寤。覺有所見。久而遍明。數月如舊。俔終身轉經不替。(出報應記)

李元一

李元一。唐元和五年任饒州司馬。有女居別院。中宵忽見神人。驚悸而卒。顏色不改。其夫嚴訥自秦來。至蒼湖。恍惚見其妻行水上而至。訥驚問之。妻泣曰。某已亡矣。今鬼也。訥駭異之。曰。近此鴈浦村。有嚴夫子。教眾學。彼有奇術。公往懇請哀救。某庶得復生矣。訥後果見嚴夫子。拜謁泣訴。盡啟根本。嚴初甚怒。郎君風疾。何乃見凌。訥又拜悲泣。久乃方許。曰。殺夫人者。王將軍也。葬在此堂內西北柱下。可為寫金剛經。令僧轉讀。於其所祠焉。小娘子必當還也。訥拜謝。疾往郡城。明日到。具白元一。寫經。速令讀之。七遍。女乃開目 。久之能言。媿謝其夫曰。茲堂某柱下。有王將軍枯骨。抱一短劒。為改葬之。劒請使留。以報公德。發之果驗。遂改瘞。留其劒。元一因寫經數百卷。以施冥寞。(出報應記)

魚萬盈

魚萬盈。京兆市井粗猛之人。唐元和七年。其所居宅有大毒蛇。其家見者皆驚怖。萬盈怒。一旦持巨棒。伺其出。擊殺之。烹炙以食。因得疾。臟腑痛楚。遂卒。心尚微煖。七日後蘇。云。初見冥使三四人追去。行暗中十餘里。見一人獨行。其光繞身。四照數尺。口念經。隨走就其光。問姓字。云。我姓趙名某。常念金剛經者。汝但莫離我。使者不敢進。漸失所在。久之。至其家。萬盈拜謝曰。向不遇至人。定不回矣。其人授以金剛經。念得遂還。及再生。持本重念。更無遺闕。所疾亦失。因斷酒肉。不復殺害。日念經五十遍。(出報應記)

于李回

于李回舉進士。唐元和八年。下第將歸。有僧勸曰。郎君欲速及第。何不讀金剛經。遂日念數十遍。至王橋宿。因步月。有一美女與言。遂被誘去。十餘里至一村舍。戲笑甚喧。引入升堂。見五六人皆女郎。李回慮是精怪。乃陰念經。忽有異光自口出。群女震駭奔走。但聞腥穢之氣。蓋狐狸所宅。榛棘滿目 。李回茫然。不知所適。俄有白犬。色逾霜雪。似導李回前行。口中有光。復照路。逡巡達本所。後至數萬遍。(出報應記)

強伯達

唐強伯達。元和九年。家於房州。世傳惡疾。子孫少小。便患風癩之病。二百年矣。伯達纔冠便患。囑於父兄。疾必不起。慮貽後患。請送山中。父兄裹糧送之巖下。泣涕而去。絕食無幾。忽有僧過。傷之曰。汝可念金剛經內一四句偈。或脫斯苦。伯達既念。數日不絕。方晝。有虎來。伯達懼甚。但瞑目 至誠念偈。虎乃遍舐其瘡。唯覺凉冷。如傅上藥。了無他苦。良久自看。其瘡悉已乾合。

明旦。僧復至。伯達具說。僧即於山邊。拾青草一握以授。曰。可以洗瘡。但歸家。煎此以浴。乃嗚咽拜謝。僧撫背而別。及到家。父母大驚異。因啟本末。浴訖。身體鮮白。都無瘡疾。從此相傳之疾遂止。念偈終身。(出報應記)

僧惟恭

唐荊州法性寺僧惟恭。三十餘年念金剛經。日五十遍。不拘僧儀。好酒。多是非。為眾僧所惡。遇病且死。同寺有僧靈巖。其跡類惟恭。為一寺二害。因他故出。去寺一里。逢五六人。年少甚都。衣服鮮潔。各執樂器。如龜茲部。問靈巖。惟恭上人何在。靈巖即語其處所。疑寺中有供也。及晚回。入寺聞鐘聲。惟恭已死。因說向來所見。其日。合寺聞絲竹聲。竟無樂人入寺。當時名僧云。惟恭蓋承經之力。生不動國。(國原作罔。據明鈔本改。)亦以其迹勉靈巖也。靈巖感悟。折節緇門。(出酉陽雜俎)

王沔

唐元和中。嚴司空綬在江陵時。岑陽鎮將王沔。常持金剛經。因使歸州勘事。回至咤灘。船破。五人同溺。沔初入水。若有人授竹一竿。隨波出沒。至下牢鎮。著岸不死。視手中物。乃金剛經也。咤灘至於下牢鎮三百餘里。(出酉陽雜俎)

董進朝

董進朝。唐元和中入軍。時宿直城東樓上。一夕月明。忽見四人著黃從東來。聚立城下。說己姓名。狀若追捕。因相語曰。董進朝常持金剛經。以一分功德祝庇冥司。我輩蒙惠。如何殺之。須枉命相待。若此人他去。我等無所賴矣。其一人云。董進朝對門有一人。同年同姓。壽限相埒。可以代矣。因忽不見。進朝驚異之。及明。

聞對門哭聲。問其故。死者父母云。子昨宵暴卒。進朝感泣說之。因為殯葬。供養其母。後出家。法名慧通。住興元寺。(出報應記)

康仲戚

康仲戚。唐元和十一年往海東。數歲不歸。其母唯一子。日久憶念。有僧乞食。母具語之。僧曰。但持金剛經。兒疾回矣。母不識字。令寫得經。乃鑿屋柱以陷之。加漆其上。晨暮敬禮。一夕。雷霆大震。拔此柱去。月餘。兒果還。以錦囊盛巨木以至家。入拜跪母。母問之。仲戚曰。海中遇風。舟破墜水。忽有雷震。投此木於波上。某因就浮之。得至岸。某命是其所與。敢不尊敬。母驚曰。必吾藏經之柱。即破柱得經。母子常同誦念。(出報應記)

吳可久

吳可久。越人。唐元和十五年居長安。奉摩尼教。妻王氏。亦從之。歲餘。妻暴亡。經三載。見夢其夫曰。某坐邪見為蛇。在皇子陂浮圖下。明旦當死。願為請僧。就彼轉金剛經。冀免他苦。夢中不信。叱之。妻怒。唾其面。驚覺。面腫痛不可忍。妻復夢於夫之兄曰。園中取龍舌草。搗傅立愈。兄寤走取。授其弟。尋愈。詰旦。兄弟同往。請僧轉金剛經。俄有大蛇從塔中出。舉首徧視。經終而斃。可久歸佛。常持此經。(出報應記)

玕行立

唐玕行立。陝州人。不識字。長慶初。常持金剛經一卷隨身。到處焚香拜禮。忽駝貨出同州。遇十餘賊。行立棄貨而逃。不五六十斤。賊舉之。竟不能動。相視驚異。追行立。問之。對曰。中有金剛經。恐是神力。賊發囊。果有經焉。却與百餘千。請其去。誓不作賊。受持終身。(出報應記)

僧法正

唐江陵開元寺般若院僧法正。日持金剛經三七遍。長慶初。得病卒。至冥司。見若王者。問師生平作何功德。答曰。常念金剛經。乃揖上殿。登綉座。念經七遍。侍衛悉合掌。階下考掠論對。皆停息而聽。念畢。遣一吏引還。王下階送曰。上人更得三十年在人間。勿廢讀誦。因隨吏行數十里。至一大坑。吏因臨坑。自後推之。若隕空焉。死已七日。惟面不冷。荊州僧常靖親見其事。(出酉陽雜俎)

沙彌道蔭

唐石首縣。有沙彌道蔭。常念金剛經。長慶初。因他出夜歸。中路忽遇虎。吼擲而前。沙彌知不免。乃閉目 坐。默念金剛經。心期救護。虎遂伏草守之。及曙。村中人來往。虎乃去。視其蹲處。涎流於地。(出酉陽雜俎)

何老

何老。鄂州人。常為商。專誦金剛經。唐長慶中。因傭人負貨。夜憩於山路。忽困寐。為傭者剄其首。投於澗中。取貨而趨市。方鬻。見何老來。惶駭甚。何曰。我得誦經之力。誓不言於人。遂相與為僧。(出報應記)

勾龍義

勾龍義。間州俚(俚原本作里。據明鈔本改。間疑簡字之誤。)人。唐長慶中。於鄠縣傭力自給。常以邑人有疾。往省之。見寫金剛經。龍義無故毀棄而止絕之。歸即喑啞。醫不能愈。頑闇無識。亦竟不悔。僅五六年。忽聞隣人有念是經者。惕然自責曰。我前謗真經。得此啞病。今若悔謝。終身敬奉。却能言否。自後每聞念經。即倚壁專

心而聽之。月餘。疑如念得。數日。偶行入寺。逢一老僧。禮之。僧問何事。遂指口中啞。僧遂以刀割舌下。便能語。因與念經。正如隣人之聲。久而訪僧。都不復見。壁畫須菩提。指曰。此是也。乃寫經。畫須菩提像。終身禮拜。(出報應記)

趙安

趙安。成都人。唐大和四年。常持金剛經。日十遍。會蠻寇退歸。安於道中見軍器。輒收置於家。為仇者所告。吏捕至門。涕泣禮經而去。為獄吏所掠。遂自誣服。罪將科斷。到節帥廳。枷杻自解。乃詰之。安曰。某不為盜。皆得之巷陌。每讀金剛經。恐是其力。節帥叱之不信。及過次。忽於安名下書一放字。後即云餘並准法。竟不知何意也。及還。洗浴禮經。開匣視之。其經揉裂折軸。若壯夫之拉也。妻曰。某忽聞匣中有聲。如有斫扑。乃安被考訊之時。無差失也。(出報應記)

太平廣記卷第一百八

報應七(金剛經)

何軫
王殷
王翰
竇勉
倪勤
高涉
張政
李琚
巴南宰
元初
兗州軍將
楊復恭弟
蔡州行者
販海客

何軫

何軫以鬻販為業。妻劉氏。少斷酒肉。常持金剛經。先焚香像前。願年止四十五。臨終心不亂。先知死日。至唐大和四年冬。四十五矣。悉捨資裝供僧。欲入歲。徧別親故。何軫以為病魅。不信。至歲除日。請僧授入關。沐浴更衣。獨處一室。趺坐高聲念經。及辨色悄然。兒女排室看之。已卒。頂熱灼手。軫以僧禮塔葬。在荊州北郭。(出酉陽雜俎)

王殷

蜀左營卒王殷。常讀金剛經。不茹葷飲酒。為賞設庫子。前後為人誤累。合死者數四。皆非意得免。至唐大和四年。郭釗鎮蜀。郭性嚴急。小不如意皆死。王殷因呈錦纈。郭嫌其惡弱。令袒背。將斃

之。郭有蕃狗。隨郭臥起。非使宅人。逢之輒噬。忽吠聲。立抱王殷之背。驅逐不去。郭異之。怒遂解。(出酉陽雜俎)

王翰

唐大和五年。漢州什邡縣百姓王翰。常在市日逐小利。忽暴卒。經三日却活。云。冥中有十六人同被追。十五人散配他處。翰獨至一司。見一青衫少年。稱是己姪。為冥官廳子。遂引見推典。又云。是己兄。貌皆不類。其兄語云。有冤牛一頭。訴爾燒畬。枉燒殺之。又曾賣竹與殺狗人作箜篌。殺狗二頭。狗亦訴爾。爾今名未注死籍。尤可以免。為作功德。翰欲為設齋。及寫法華經、金光明經。皆曰。不可。乃請曰。持金剛經七遍與之。其兄喜曰。足矣。及活。遂捨業出家。(出酉陽雜俎)

甯勉

甯勉者。雲中人。年少有勇氣。善騎射。能以力格猛獸。不用兵仗。北都守健其勇。署為衙將。後以兵四千軍於飛狐城。時薊門帥驕悍。棄天子法。反書聞闕下。唐文宗皇帝。詔北都守攻其南。詔未至。而薊門兵夜伐飛狐。鉦鼓震地。飛狐人洶然不自安。謂甯勉曰。薊兵豪健不可敵。今且至矣。其勢甚急。願空其邑以遁去。不然。旦暮拔吾城。吾不忍父子兄弟盡血賊刃下。悔寧可及。雖天子神武。安能雪吾冤乎。幸熟計之。勉自度兵少。固不能折薊師之鋒。將聽邑人語。慮得罪於天子。欲堅壁自守。又慮一邑之人悉屠於賊手。憂既甚而策未決。忽有諜者告曰。賊盡潰矣。有棄甲在城下。願取之。勉即登城垣望。時月明朗。見賊兵馳走。顛躓者不可數。若有大兵擊其後。勉大喜。開邑門。縱兵逐之。生擒數十人。得遺甲甚多。先是勉好浮圖氏。常閱佛書金剛經。既敗薊師。擒其虜以訊焉。虜曰。向夕望見城上有巨人數四。長二丈餘。雄俊可懼。怒目 呿吻。袒裼執劒。薊人見之。慘然汗慄。即走避。又安有

闢心乎。勉悟巨人乃金剛也。益自奇之。勉官御史中丞。後為清塞副使。(出宣室志)

倪勤

倪勤。梓州人。唐大和五年。以武畧稱。因典涪州興教倉。素持金剛經。倉有廳事面江。甚為勝槩乃設佛像。而讀經其中。六月九日。江水大漲。惟不至此廳下。勤讀誦益勵。洎水退。周視數里。室屋盡溺。唯此廳畧不沾漬。倉亦無傷。人皆禮敬。(出報應記)

高涉

唐大和七年冬。給事中李石為太原行軍司馬。孔目 高涉因宿使院。鼕鼕皷起時。詣隣房。忽遇一人。長六尺餘。呼曰。行軍喚爾。涉遂行。行稍遲。其人自後拓之。不覺向北。約行數十里。至野外。漸入一谷底。後上一山。至頂四望。邑屋盡在眼下。至一曹司所。追者呼云。追高涉到。其中人多朱綠。當按者似崔行信郎中。判云。付司對。復至一處。數百人露坐。與猪羊雜處。領至一人前。乃涉妹壻杜則也。逆謂涉曰。君初得書手時。作新人局。遣某買羊四口。記得否。今被相責。意甚苦毒。涉遽云。爾時祇使市肉。非羊也。則遂無言。因見羊人立嚙則。逡巡被領他去。倏忽又見一處。露架方梁。梁上釘大鐵環。有數百人。皆持刀。以繩繫人頭。牽入環中。刳剔之。涉懼走出。但念金剛經。倏忽。逢舊相識楊演云。李說尚書時。杖殺賊李英道為刼賊事。已於諸處受生三十年。今却訴前事。君常記得否。涉辭已年幼。不省。又遇舊典段怡。先與涉為義兄弟。逢涉云。弟先念金剛經。莫廢忘否。向來所見。未是極苦處。勉樹善業。今得還。亦經之力。因送至家。如夢。死已經宿。向拓處數日青腫。(出酉陽雜俎)

張政

張政。邛州人。唐開成三年七月十五日暴亡。初見四人來捉。行半日。至大江。甚濶。度深三尺許。細看盡是膿血。便小聲念金剛經。使者色變。入城。見胡僧長八尺餘。罵使者曰。何不依帖。亂捉平人。盡皆驚拜。及領見王。僧與對坐。曰。張政是某本宗弟子。被妄領來。王曰。待畧勘問。僧色怒。王判放去。見使者四人。皆著大枷。僧自領政出城。不見所渡之水。僧曰。吾是汝所宗和尚。汝識我否。我是須菩提。乃知是持經之力。再三拜禮。僧曰。弟子合眼。僧以杖一擊。不覺失聲。乃活。死已三日。唯心上煖。(出報應記)

李琚

唐李琚。成都人。大中九年四月十六日忽患疫疾。恍惚之際。見一人自稱行病鬼王。罵琚云。抵犯我多。未領汝去。(去原本作云。據明鈔本改。)明日復共三女人同來。速設酒食。皆我妻也。琚亦酬酢曰。汝何得三妻。但聞呵叱啾唧。不覩人也。却四度來。至二十一日辭去。琚亦拜送。却回。便覺身輕。於佛堂作禮。將喫粥。却行次。忽被風吹去。住足不得。乃至一大山。見江海無涯。人畜隨琚立岸邊。不知所向。良久。有黃衫人問曰。公是何人。隨我來。才四五步。已見江山甚遠。又問作何善事。若無。適已於水上作猪羊等也。細說恐王問。琚云。在成都府。曾 率百餘家於淨眾寺造西方功德一堵。為大聖慈寺寫大藏經。已得五百餘卷。兼慶讚了。使者引去。約五十里。見一大城。入門數里。見殿上僧長六七尺。語王云。此人志心造善。無有欺諂。王詰黃衫人。如何處得文帖。追平人來。答云。山下見領來。無帖追。王云。急送去。便見所作功德在殿上。碑記分明。石壁造廣利方在後。使者領去。又入一院。令坐。向琚說。緣漢州刺史韋某亡。欲令某作刺史。琚都不諭。六七日已來放歸。凡過十二處。皆云王院。悉有侍衛。總云與寫一卷金剛經。遂到家。使人臨別執手。亦曰。乞一卷金剛經。便覺頭痛。

至一塔下。聞人云。我是道安和尚。作病卓頭兩下。願得爾道心堅固。遂醒。見觀音菩薩現頭邊立笑。自此頓瘥。妻兒環哭云。沒已七日。唯心上煖。寫經與所許者。自誦不怠。(出報應記)

巴南宰

巴南宰韋氏。常念金剛經。唐光化中。至泥溪。遇一女人。著緋衣。挈二子偕行。同登山嶺。行人相駐叫噪。見是赤狸大蟲三子母也。逡巡。與韋分路而去。韋終不覺。是持經之力也。(出述異記。明鈔本作出北夢瑣言)

元初

唐元初。九江人。販薪於市。年七十。常持金剛經。晚歸江北。中流風浪大起。同涉者俱沒。唯初浮於水上。即漂南岸。群舟泊者。悉是大商。見初背上光高數尺。意其貴人。既得活。爭以衣服遺之。及更召以與飯。語漸熟。乃知村叟。因詰光所自。云。某讀金剛經五十年矣。在背者經也。前後厄難。無不獲免。知是經之力也。(出報應記)

兗州軍將

乾符中。兗州節度使崔尚書。法令嚴峻。嘗有一軍將衙叅不到。崔大怒。令就衙門處斬。其軍將就戮後。顏色不變。眾咸懼之。是夜三更歸家。妻子驚駭。謂是鬼物。軍將曰。初遭決斬時。一如醉睡。無諸痛苦。中夜。覺身倒街中。因爾還家。妻子罔知其由。明旦入謝。崔驚曰。爾有何幻術能致。軍將云。素無幻術。自少讀金剛經。日三遍。昨日誦經。所以過期。崔問記得斬時否。云。初領到戟門外。便如沉醉。都不記斬時。崔又問所讀經何在。云。在家鏁函子內。及取到。鏁如故。毀鏁。見經已為兩斷。崔大驚自悔。

慰安軍將。仍賜衣一襲。命寫金剛經一百卷供養。今兗州延壽寺門外。蓋軍將衙門就法并斬斷經之像。至今尚存。(出報應記)

楊復恭弟

唐內臣姓楊。忘其名。復恭之弟也。陷秦宗權、鹿晏洪、劉巨容賊內。二十餘年。但讀金剛經。雖在城中。未嘗廢。會宗權男為襄陽節度使。楊為監軍使。楊因人心危懼。遂誘麾下將趙德言攻殺宗權男。發表舉德言為節度使。由是軍府稍定。民復舊業矣。楊於課誦之功。益加精勵。嘗就牙門外柳樹下。焚香課誦之次。欻有金字金剛經一卷。自空中飛下。楊拜捧而立。震駭心目 。得非信受精虔。獲此善報也。故陷於賊黨二十年間。終能梟巨盜。立殊勳。克保福祿者。蓋佛之冥祐也。(出報應記)

蔡州行者

唐宋汶牧黃州日。秦宗權阻命作亂。將欲大掠四境。蔡州有念金剛經行者。郡人咸敬之。宗權差為細作。令入黃州探事。行者至黃州。未逾旬。為人告敗。宋汶大怒。令於軍門集眾決殺。忽報有加官使到。將校等上言。方聞喜慶。不欲遽行殺戮。由是但令禁錮。逾月。使臣不到。又命行刑。出狴牢次。報使入境。復且停止。使已發。引出就刑。值大將入衙。見之。遽白於宋曰。黃州士馬精彊。城壘嚴峻。何懼姦賊窺覘。細作本非惡黨。受制於人。將軍曲貸性命。足示寬恕。汶然之。命髡髮負鉗。緣化財物。造開元新寺。寺宇將就之一夜。夢八金剛告曰。負鉗僧苦行如此。締構既終。盍釋其鉗。以旌善類。汶覺大異之。遂令釋鉗。待以殊禮。自後一州悉呼為金剛和尚。(出報應記)

販海客

唐有一富商。恒誦金剛經。每以經卷自隨。嘗賈販外國。夕宿於海島。眾商利其財。共殺之。盛以大籠。加巨石。并經沉於海。平明。眾商船發。而夜來所治之島。乃是僧院。其院僧每夕。則聞人念金剛經聲。深在海底。僧大異之。因命善泅者沉於水訪之。見一老人在籠中讀經。乃牽挽而上。僧問其故。云。被殺。沉於海。不知是籠中。忽覺身處宮殿。常有人送飲食。安樂自在也。眾僧聞之。悉普加讚歎。蓋金剛經之靈驗。遂投僧削髮。出家於島院。(出報應記)

太平廣記卷第一百九

報應八(法華經)

沙門靜生
釋曇邃
釋慧慶
費氏
趙泰
釋慧進
沙門法尚
釋弘明
釋志湛
五侯寺僧
釋智聰
曇韻禪師
李山龍
蘇長
尼法信
李氏
徹師
悟真寺僧
釋道俗
史阿誓
石壁寺僧

沙門靜生

西晉蜀郡沙門靜生。出家以苦行致稱。為蜀三賢寺主。誦法華經。每誦經時。常感虎來蹲前聽。誦訖乃去。又恒見左右有四人為侍。年雖衰老。而精勤彌勵。遂終其業云。(出法苑珠林)

釋曇邃

晉有釋曇邃。未詳何許人。少出家。止河陰白馬寺。蔬食布衣。誦法華經。又釋達經旨 。亦為人解說。常於夜中。忽聞扣戶云。欲請

法師九旬說法。遂不許。固請。乃赴之。而猶是睡中。覺己身已在白馬島神祠中。並一弟子。日日密往。餘無知者。後寺僧經祠前過。見有兩高座。遂在北。弟子在南。如有講說聲。又聞有奇香之氣。於是道俗共傳神異。至夏竟。(竟原作覺。據明鈔本改。)神送白馬一疋。白羊五頭。絹九十疋。呪願畢。於是遂絕。(出法苑珠林)

釋慧慶

宋釋慧慶。廣陵人。出家止廬山寺。學通經律。清潔有戒行。誦法華經十地思益維摩。每夜吟誦。常聞空中有彈指讚嘆之聲。曾於大雷遇風濤。船將覆沒。慶惟誦經不輟。覺船在浪中。如有人牽之。倏忽至岸。於是篤勵。彌復精勤矣。(出法苑珠林)

費氏

宋羅璵妻費氏者。寧蜀人。父悅為寧州刺史。費少而敬信。誦法華經數年。勤至不倦。後得病。忽苦心痛。闔門惶懼。屬纊待時。費心念。我誦經勤苦。宜有善祐。庶不遂致死也。既而睡臥。食頃而寤。乃夢見佛於窗中援手。以摩其心。應時都愈。一堂男女婢僕。悉覩金光。亦聞香氣。璵從妹於時省疾牀前。亦具聞見。於是大興信悟。虔戒至終。每以此端進化子姪焉。(出述異記。法苑珠林九五作出冥祥記)

趙泰

趙泰字文和。清河貝丘人。公府辟不就。精進典籍。鄉黨稱名。年三十五。宋(辨正論八注引宋作晉。)太始五年七月十三日夜半。忽心痛而死。心上微煖。身體屈伸。停屍十日。氣從咽喉如雷鳴。眼開。索水飲。飲訖便起。說初死時。有二人乘黃馬。從兵二人。但言捉將去。二人扶兩腋東行。不知幾里。便見大城。如錫鐵崔嵬。從城

西門入。見官府舍。有二重黑門。數十梁瓦屋。男女當五六十。主吏著皁單衫。將泰名在第三十。須臾將入。府君西坐。斷勘姓名。復將南入黑門。一人絳衣。坐大屋下。以次呼名前。問生時所行事。有何罪過。行功德。作何善行。言者各各不同。主者言。許汝等辭。恒遣六師督錄使者。常在人間。疏記人所作善惡。以相檢校。人死有三惡道。殺生禱祠最重。奉佛持五戒十善。慈心布施。生在福舍。安穩無為。泰答一無所為。上不犯惡。斷問都竟。使為水官監作吏。將千餘人。接沙著岸上。晝夜勤苦啼泣。悔言生時不作善。今墮在此處。後轉水官都督。總知諸獄事。給馬。東到地獄按行。復到泥犂地獄。男子六千人。有火樹。縱廣五十餘步。高千丈。四邊皆有劒。樹上然火。其下十十五五。墮火劒上。貫其身體。云。此人呪詛罵詈。奪人財物。假傷良善。泰見父母及一弟。在此獄中涕泣。見二人賫文書來。敕獄吏。言有三人。其家事佛。為有寺中懸幡蓋燒香。轉法華經呪願。救解生時罪過。出就福舍。已見自然衣服。往詣一門。云開光大舍。有三重黑門。皆白壁赤柱。此三人即入門。見大殿。珍寶耀日。堂前有二獅子併伏。負(負原作象。據明鈔本改。)一金玉牀。云名獅子之座。見一大人。身可長丈餘。姿顏金色。項有日光。坐此牀上。沙門立侍甚眾。四坐名真人菩薩。見泰山府君來作禮。泰問吏何人。吏曰。此名佛。天上天下度人之師。便聞佛言。今欲度此惡道中及諸地獄人皆令出。應時云有萬九千人。一時得出。地獄即空。(空原作時。據明鈔本改。)見呼十人。當上生天。有車馬迎之。升虛空而去。復見一城。云。縱廣二百餘里。名為受變形城。云。生來不聞道法。而地獄考治已畢者。當於此城。受更變報。入北門。見數千百土屋。中央有大瓦屋。廣五十餘步。下有五百餘吏。對錄人名。作善惡事狀。受是變身形之路。從其所趨去。殺者云當作蜉蝣蟲。朝生夕死。若為人。常短命。偷盜者作猪羊身。屠肉償人。淫逸者作鵠鶩蛇身。惡舌者作鴟鵠鵂鶹。惡聲。人聞皆呪令死。抵債者為驢馬牛魚鱉之屬。大

屋下有地房北向。一戶南向。呼從北戶。又出南戶者。皆變身形作鳥獸。又見一城。縱廣百里。其瓦屋安居快樂。云。生時不作惡。亦不為善。當在鬼趣千歲。得出為人。又見一城。廣有五千餘步。名為地中。罰謫者。不堪苦痛。(辨正論八注不堪苦痛下有歸家索代家為解謫皆在此城中十三字。)男女五六萬。皆裸形無服。飢困相扶。見泰叩頭啼哭。泰按行畢還。主者問地獄如法否。卿無罪。故相挽為水官都督。不爾。與獄中人無異。泰問人生何以為樂。主者言。唯奉佛弟子。精進不犯禁戒為樂耳。又問未奉佛時。罪過山積。今奉佛法。其過得除否。曰。皆除。主者又召都錄使者。問趙泰何故死來。使開縢檢年紀之籍。云。有算三十年。橫為惡鬼所取。今遣還家。由是大小發意奉佛。為祖及弟。懸旛蓋。誦法華經作福也。(出幽冥錄)

釋慧進

前齊永明中。楊都高座寺釋慧進者。少雄勇游俠。年四十。忽悟非常。因出家。蔬食布衣。誓誦法華。用心勞苦。執卷便病。乃發願造百部以悔先障。始聚得一千六百文。賊來索物。進示經錢。賊慙而退。爾後遂成百部。故病亦愈。誦經既廣。情願又滿。廻此誦業。願生安養。聞空中告曰。法願已足。必得往生。無病而卒。八十餘矣。(出祥異記。明鈔本作出冥異記。按見冥祥記)

沙門法尚

齊武帝時。東山人握(握疑是掘。)土見一物。狀如兩脣。其中舌。鮮紅赤色。以事奏聞。帝問道俗。沙門法尚曰。此持法華者亡相不壞也。誦滿千遍。其驗徵矣。乃集持法華者。圍繞誦經。纔發聲。其唇舌一時鼓動。見者毛竪。以事奏聞。詔石函緘之。(出梁高僧傳。法苑珠林三五、八五兩引俱作出旌異記。此北齊事。不當見梁高僧傳)

釋弘明

齊釋弘明。會稽山陰人也。少出家。貞苦有戒節。止山陰雲門寺。誦法華。習禪定。精勤禮懺。六時不輟。每旦則水瓶自滿實。感諸天童子。以為給使也。每明坐禪。虎常伏於室內。(出法苑珠林)

釋志湛

後魏末。齊州釋志湛者。住太山北邃谷中銜草寺。省事少言。人鳥不亂。恒誦法華。將終時。神僧寶誌謂梁武帝曰。北方銜草寺須陁洹聖僧。今日滅度。湛之亡也。無惱而化。兩手各舒一指。有梵僧云。斯初果人也。還葬山中。後發看之。唯舌如故。眾為立塔表焉。(出法苑珠林)

五侯寺僧

後魏范陽五侯寺僧。失其名。誦法華為常業。初死。權殯隄下。後改葬。骸骨並枯。唯舌不壞。雍州有僧誦法華。隱白鹿山。感一童子供給。及死。置尸巖下。餘骸並枯。唯舌不朽。(出法苑珠林)

釋智聰

唐潤州攝山棲霞寺釋智聰。嘗住揚州安樂寺。大業之亂。思歸無計。隱江荻中。誦法華經。七日不食。恒有虎遶之。聰曰。吾命須臾。卿須可食。虎忽發言曰。造天立地。無有此理。(理原作禮。據明鈔本改。)忽有一老翁。榜舟而至。翁曰。師欲渡江至棲霞寺。可即上船。四虎一時淚流。聰曰。爾與我有緣耶。於是挾四虎利涉。既達南岸。船及老人。不知所在。聰領四虎往棲霞舍利塔西。經行坐禪。眾徒八十。咸不出院。若有所事。一虎入寺鳴號。以為恒式。聰至貞觀中遷化。年九十九矣。(出唐高僧傳)

曇韻禪師

唐曇韻禪師。定州人。隋末喪亂。隱於離石北山。常誦法華。欲寫其經。無人同志。如此積年。忽有書生來詣之。仍以寫經為請。禪師大歡喜。清旦食訖。澡浴。著淨衣。入淨室。受八戒。口含旃檀。燒香懸幡。寂然抄寫。至暮方出。明復如初。曾不告倦。及繕寫畢。乃至裝褫。一如正法。書生告去。送至門。忽失所在。禪師持誦。曾無暫廢。後遭胡賊。倉卒逃避。方箱盛其經。置高岩上。經年賊敗。乃尋經。於岩下獲之。巾箱糜爛。應手灰滅。撥朽見經。如舊鮮好。(出法苑珠林)

李山龍

唐李山龍。馮翊人。左監門校尉。武德中。暴亡而心不冷。家人未忍殯殮。至七日而甦。自說云。當死時。見被收錄。至一官署。甚廣大。庭前有數千囚人。枷鏁杻械。皆北面立。吏將山龍至庭。廳上大官坐高牀。侍衛如王者。尋呼山龍至階。王問汝平生作何福業。山龍對曰。鄉人每設齋。恒請施物助之。王曰。汝身作何善業。山龍曰。誦法華經。日兩卷。王曰。大善。可升階來。北間有高座。王曰。可昇座誦經。王即起立。山龍坐訖。王乃向之而坐。山龍開經曰。妙法蓮華經序品第一。王曰。請法師下。山龍復立階下。顧庭前囚。已盡去矣。王曰。君誦經之福。非唯自利。眾因聞經。皆已獲免。豈不善哉。今放君還。謂吏曰。可將此人歷觀諸獄。吏即引東行百餘步。見一鐵城。甚廣大。城旁多小窗。見諸男女。從地飛入窗中。即不復出。山龍怪問之。吏曰。此是大地獄。中有分隔。罪計各隨本業。赴獄受罪耳。山龍聞之悲懼。稱南無佛。請吏求出院。見有大鑊。火猛湯沸。旁有二人坐臥。山龍問之。二人曰。我罪報入此鑊湯。蒙賢者稱南無佛。故獄中諸罪人。皆得一日休息疲睡耳。山龍又稱南無佛。吏謂山龍曰。官府數移改。今王放君去。可白王請抄。若不爾。恐他官不知。更復追錄。

山龍即謁王請抄。王書一行字付吏。曰。為取五道等署。吏受命。將山龍更歷兩曹。各廳事侍衛亦如此。吏皆請其官署。各書一行訖。付山龍。出門。有三人謂之曰。王放君去。各希多少見遺。吏謂山龍曰。彼三人者。是前收錄使人。一人以赤繩縛君者。一人以棒擊君頭者。一人以袋吸君氣者。今見君還。故來求乞。山龍惶懼謝曰。愚不識公。請至家備物。但不知何處送之。三人曰。於水邊古樹下燒之。山龍諾。吏送歸家。見親眷哀哭。經營殯具。山龍至屍旁即甦。曰。以紙錢束帛并酒食。自於水邊燒之。忽見三人來謝曰。媿君不失信。重相贈遺。言畢不見。(出冥報記)

蘇長

蘇長。武德中。為巴州刺史。赴任。至嘉陵江。風浪覆舟。溺其家六十餘人。唯一妾常讀法華經。水入船中。妾頭戴經函。誓與俱溺。隨波泛濫。頃之著岸。逐經函而出。開視其經。了無濕污。獨存其命。(出法苑珠林)

尼法信

唐武德時。河東有練行尼法信。常讀法華經。訪工書者一人。數倍酬直。特為淨室。令寫此經。一起一浴。然香更衣。仍於寫經之室。鑿壁通。加一竹筒。令寫經人每欲出息。徑含竹筒。吐氣壁外。寫經七卷。八年乃畢。供養殷重。盡其恭敬。龍門僧法端嘗集大眾講法華經。以此尼經本精定。遣人請之。尼固辭不許。法端責讓之。尼不得已。乃自送付。法端等開讀。唯見黃紙。了無文字。更開餘卷。悉皆如此。法端等慚懼。即送還尼。尼悲泣受。以香水洗函。沐浴頂戴。遶佛行道。七日夜不暫休息。既而開視。文字如初。故知抄寫深加潔淨。比來無驗。只為不勤敬也。(出冥報記)

李氏

唐冀州封丘縣。有老母姓李。年七十。無子孤老。唯有奴婢兩人。家(原無家字。據法苑珠林九四引補。)鎮沽酒。添灰少量。分毫經紀。貞觀年中。因病死。經兩日。凶器已具。但以心上少溫。及甦說云。初有兩人。並著赤衣。門前召出。云有上符遣追。便即隨去。行至一城。有若州郭。引到側院。見一官人。衣冠大袖。凭案而坐。左右甚多。階下大有著枷鎖人。防守如生。官府者遣問老母。何因行濫沽酒。多取他物。擬作法華經。已向十年。何為不造。老母具言。酒使婢作。量亦是婢。經已付錢一千文與隱師。即遣追婢。須臾婢至。即笞四十放還。遣問隱師。報云是實。乃語老母云。放汝七日去。經了當來。得生善處。遂爾得活。勘校老母初死之時。婢得惡逆。久而始蘇。腹皆青腫。蓋是四十杖迹。隱禪師者。本是客僧。配寺頓丘。年向六七十。自從出家。即頭陀乞食。常一食齋。未嘗暫輟。遠近大德。並皆敬慕。老母病死之夜。隱師夢有赤衣人來問。夢中答云。造經是實。老母乃屈鄉閭眷屬及隱禪師行道。顧諸(原本空一格。據明鈔本補諸字。)經生。眾手寫經了。正當七日。還見往者二人來前。母曰。使人已來。並皆好住。聲絕即死。隱師見存。道俗欽敬。(出冥祥記)

徹師

唐絳州南孤山隱泉寺沙門徹禪師。曾行。遇癩人在穴中。徹師引出山中。為鑿穴給食。念誦法華經。素不識字。加又頑鄙。句句授之。終不辭倦。誦經向半。夢有教者。後稍聰悟。已得五六卷。瘡漸覺愈。一部了。鬚眉平復。容色如故。經云。病之良藥。斯言驗矣。(出冥報拾遺)

悟真寺僧

唐貞觀中。有王順山悟真寺僧。夜如藍溪。忽聞有誦法華經者。其聲纖遠。時星月廻臨。四望數十里。闃然無覩。其僧慘然有懼。及

至寺。且白其事於群僧。明夕。俱於藍溪聽之。乃聞經聲自地中發。於是以標表其所。明日窮表下。得一顱骨。在積壤中。其骨槁然。獨唇吻與舌。鮮而且潤。遂持歸寺。乃以石函置於千佛殿西軒下。自是每夕。常有誦法華經聲在石函中。長安士女。觀者千數。後新羅僧客於寺。僅歲餘。一日寺僧盡下山。獨新羅僧在。遂竊石函而去。寺僧跡其往。已歸海東矣。時開元末年也。(出宣室志)

釋道俗

唐釋道俗者。不測所由。止醴泉山原。誦法華經為業。乃至遍數千。貞觀中。因疾將終。告友人慧廓禪師曰。此雖誦經。意望有驗。吾死之後。當以十年為限。試發視之。若舌朽滅。知誦無功。若舌如初。為起一塔。庶生俗信。言訖而終。至十一年。依言發之。身肉都盡。唯舌不朽。一縣士女。咸共讚歎。乃函盛舌本。起塔於甘谷岸上。(出法苑珠林)

史阿誓

唐郊南福水之陰有史村。史阿誓者。誦法華經。職充令史。往還步涉。未嘗乘騎。以依經云。哀愍一切故也。病終本邑。香氣充村。道俗驚怪。而莫測其緣。終後十年。其妻死。乃發塚合葬。見其舌根。如本生肉。斯誠轉誦法華之靈驗也。(出法苑珠林)

石壁寺僧

唐并州石壁寺。有一老僧。禪誦為業。精進練行。貞觀末。有鴿巢其房楹上。哺養二鶵。法師每有餘食。恒就巢哺之。鴿鶵後雖漸長。羽翼未成。因學飛。俱墜地死。僧收瘞之。經旬後。僧夜夢二小兒曰。某等為先有小罪。遂受鴿身。比來日聞法師誦法華。既聞妙法。得受人身。兒等今於此寺側十餘里某村姓名家。託生為男。

十月之外。當即誕育。僧乃依期往視之。見此家婦。果同時誕育二子。因為作滿月。僧呼為鴿兒。並應之曰。唯。(出冥報拾遺)

太平廣記卷第一百一十

報應九(觀音經)

竇傅
周瑨
竺法義
王珉妻
竺長舒
潘道秀
欒荀
張崇
釋開達
竺法純
釋道泰
郭宣
呂竦
徐榮
劉度
南宮子敖
徐義
畢覽
釋法智
孫道德
張興
曇無竭
車母
釋曇穎
邢懷明
王球

竇傅

晉竇傅者。河內人。永和中。并州刺史高昌、冀州刺史呂護各權部曲。相與不和。傅為昌所用。作官長。護遣騎抄擊。為所俘執。同伴六七人。共繫一獄。鎖械甚嚴。克日當殺之。沙門支遁山時在護營中。先與傅相識。聞其執厄。(厄原作尼。據明鈔本、許本改。)山至獄

所候視之。隔戶共語。傅謂山曰。今困厄。命在漏刻。何方得相救。山曰。若能至心歸請。必有感應。傅先亦頗聞觀世音。及得山語。遂專心屬念。晝夜三日。至誠自歸。觀其鐕械。如覺緩解。有異於常。聊試推盪。摧然離體。傅乃復致心曰。今蒙哀祐。已令桎梏自解。而同伴尚多。無心獨去。觀世音神力普濟。當令俱免。言畢。復牽挽餘人。皆以次解落。若有割剔之者。遂開戶走出。於警徼之間。莫有覺者。便踰城逕去。行四五里。天明。不敢復進。共逃隱一林中。須臾。護覺失囚。人馬絡繹。四出尋捕。焚草踐林。無不徧至。唯傅所隱一畝許地。終無至者。遂得免還。鄉里敬信異常。咸信奉佛法。遁山後過江。為謝居士敷具說其事焉。(出真傳拾遺。明鈔本作出冥祥記)

周瑨

晉周瑨。會稽剡人也。家世奉法。瑨年十六。便蔬食誦經。正月長齋竟。延僧設八關齋。及請其師竺佛密、支法階。佛密令持小品。齋轉讀。三日僧赴齋。忘持小品。至中食畢。欲讀經。方憶。甚惆悵。瑨家在坂怡村。去寺三十里。無人遣取。至人定燒香畢。本家恨不得經。密益蹴踖。有頃。聞叩門者。言送小品經。瑨愕然心喜。開門。見一年少。著單衣袷。先所不識。又非時人。疑其神異。便長跪受經。要使前坐。年少不肯進。曰。斯夜當來聽經。比出不復見。香氣滿宅。既而視之。乃是密經也。道俗驚喜。密經先在厨中。緘鑰甚謹。還視其鑰。儼然如故。於是村中十餘家。咸皆奉佛。瑨遂出家。字曇嶷。諷誦眾經二十萬言。(出冥祥記)

竺法義

晉興寧中。沙門竺法義。山居好善。住在始寧保山。後得病積時。攻治備至。而了不損。日就綿篤。遂不復自治。唯歸誠觀世音。如此數日。晝眠。夢見一道人來候其病。因為治之。刳出腸胃 。湔洗

臟腑。見有結聚不淨物甚多。洗濯畢。還納之。語義曰。汝病已除。夢覺。眾患豁然。尋得復常業。故其經云。或現沙門梵志之象。意者義公夢其是乎。義以太原七年亡。宋尚書令傅亮撰其事跡。亮自云。其先君與義遊。義每說其事。輒凜然增肅焉。(出述異記。法苑珠林十七、九五兩引作出冥祥記)

王珉妻

晉瑯琊王珉。其妻無子。嘗祈觀世音云乞兒。珉後路行。逢一胡僧。意甚悅之。僧曰。我死。當為君作子。少時道人果亡。而珉妻有孕。及生能語。即解西域十六國梵音。大聰明。有器度。即晉尚書王洪明身也。故小名阿練。敘前生時。事事有驗。(出辨正論)

竺長舒

晉有竺長舒者。本天竺人。專心誦觀音經為業。後居吳中。於邑內遭火。屋宇連棟。甍簷相繼。火至(火至二字原本無。據明鈔本補。)皆焚。長舒家正住下風。分意燒毀。一心念觀世音。欲至舒家。風迴火滅。合縣驚異之。時有惡少年。訝其靈應。到後夜風急。少年以火投屋。四投皆滅。少年嗟感。至明。乃叩頭首過。舒云。我無神力。常以誦觀音為業。每有事。恒得脫免。(出辨正論)

潘道秀

潘道秀。吳郡人。年二十餘。嘗隨軍北征。既而軍小失利。秀竄逸被掠。經數處作奴。俘虜異域。欲歸無因。少信佛法。恒至心念觀世音。每夢寐。輒見像。後既南奔。迷不知道。於窮山中。忽覩真形。如今行像。因作禮怡然。不覺安行。乃得還路。遂歸本土。後精進彌篤。(出冥祥記)

欒荀

晉欒荀。不知何許人也。少奉法。嘗作富平令。先從征盧循。值小失利。船舫遭火垂盡。賊亦交逼。正在中江。風浪駭目 。荀恐怖分盡。尤念觀世音。俄見江中有一人。挺然孤立。腰與水齊。荀心知念經有感。便投水就之。體既浮涌。脚似履地。俄而天軍遣船迎接敗者。於是遂得濟。(出冥祥記)

張崇

晉張崇者。京兆杜陵人也。年少奉法。太元中。苻堅既敗。長安百姓千有餘家。南走歸晉。為鎮戎所拘。謂為游寇。崇與同等五人。手足杻械置坑中。埋築(築原作禁。據明鈔本改。)至腰。各相去二十步。明日將馳馬射之。崇慮望窮盡。唯潔心念觀世音。夜中械忽自破。因得脫走。路經一寺。乃復稱觀世音名。至心禮拜。以一石置前。發誓願云。今欲過江東。訴辭晉帝。理此冤魂。救其妻息。心願獲果。此石當分為二。崇拜。石即破焉。崇至京師。發白虎樽。具列冤狀。帝乃加宥。已為人所署賣者。皆贖為編戶。智生道人目所親見其事者。(出法苑珠林)

釋開達

晉沙門釋開達。隆安二年。登隴採甘草。為羌所執。時年大飢。羌胡相噉。乃置達柵中。將食之。先在柵中十有餘人。羌日夕烹葅。唯達尚存。自達被執。便潛誦觀世音經。不懈於心。及明日。當見噉。其晨始曙。忽有大虎。遙逼群羌。奮怒號吼。羌各駭怖迸走。虎乃前噬柵木。得成小缺。可容人過。已而徐去。達初見虎噬柵。謂必見害。柵既穿不入。心疑其異。謂是觀世音力。計諸羌未及。便即穿柵逃走。夜行晝伏。遂得免脫。(出法苑珠林)

竺法純

晉沙門竺法純。山陰顯義寺主也。元興中。起寺買材。路經湖道。材主是婦人。與同船俱行。既入湖。日暮暴風。波浪如山。船小水入。又與婦人俱行。命在瞬息。乃一心誦觀世音經。時既入夜。行旅已絕。俄有大船流至。純即乘度之。而此小船應時淪沒。大舟隨波鼓盪。俄得達岸也。(出法苑珠林)

釋道泰

晉沙門釋道泰。常山衡唐精舍僧。義熙中。嘗夢人云。君命當終六七。泰年至四十二。遇篤疾。慮必不濟。悉以衣鉢之資。厚為福施。又歸誠念誦觀世音。晝夜四日。勤心不替。時所坐牀前垂帷。忽於帷下見人跨戶而入。足趺金色。光明照屋。泰乃搴帷遽視。奄然而滅。驚欣交萃。因大流汗。胸體即輕。所患平差。(出法苑珠林)

郭宣

晉義熙十一年。太原郭宣、蜀郡文處茂、先與梁州刺史楊收敬為友。收敬有罪下獄。宣與處茂同被桎梏。念觀世音。十日後。夜夢一菩薩慰諭之。告以大命無憂。俄而鎖械自脫。及曉還著。如是復解。二人遂發願。若得免罪。各出錢十萬上明西寺作功德。少日俱免。宣依願送錢向寺。處茂違誓不送。及盧循舉兵。茂於香浦為流矢所中。未死之間曰。我有大罪。語訖而死。(出辨正論)

呂竦

晉呂竦字茂高。兗州人也。寓居始豐縣。其南溪。流急岸峭。迴曲如縈。又多大石。白日行者。尤懷危懼。竦自說。其父嘗行溪中。去家十餘里。日向暮。大風雨。晦暝如漆。不復知東西。自分覆溺。唯歸心觀世音。且誦且念。須臾。有火光來岸。如人捉炬者。照見溪中了了。逕得歸家。火常在前後。去船十餘步。竦後與郗嘉賓周旋。郗所傳說。(出法苑珠林)

徐榮

晉有徐榮者。瑯琊人也。嘗至東陽還。經定山。舟人不慣。誤墮洄洑中。垂欲沉沒。榮無復計。唯至心呼觀世音名。須臾間。如有數十人齊力引舡者。踴出洄洑中。沿江而下。日已暮。天大昏暗。風雨甚駛。不知所向。而湧浪轉盛。榮誦經不輟。忽望見山頭有火焰赫奕。廻舟趨之。逕得達岸。既至。即不復見。明旦。問浦中人。昨夜山上是何火。眾愕然曰。風雨如此。豈有火耶。乃知佛力冥祐矣。榮後為會稽府督護。謝敷嘗聞榮說。時與榮同船者沙門支道蘊。謹篤士也。亦具其事。為傅亮言之。與榮所說同。(出法苑珠林)

劉度

劉度。平原聊城人也。鄉里千餘家。並奉大法。造立形像。供養僧尼。值虜主木末時。此縣常有逋逃。末大怒。欲盡滅一城。眾皆兇懼。分必殄盡。度乃潔誠率眾。歸命觀世音。頃之。末見物從空下。繞其屋柱。驚視。乃觀世音經。末大歡喜。因省刑戮。於是此城即得免害。(出冥祥記)

南宮子敖

南宮子敖。始平人也。戍新平城。為狒狒虜兒長樂公所破。合城數千人皆被誅害。子敖雖分必死。而猶至心念觀世音。既而次至子敖。群刃交下。或高或僻。持刀之人忽疲懈。四支不隨。爾時長樂公親自臨刑。驚問之。子敖聊爾答云。能作馬鞍。乃令原釋。子敖亦不知所以作此言時。後遂得遁逸。乃造一觀音小像。貯以香函。行則頂戴。(出冥祥記)

徐義

苻秦徐義。高陸人。為尚書。少奉佛法。時兵革蜂起。賊獲義。將加害。乃埋其兩足。編髮於樹。至夜。義專念觀世音。有頃。忽夢人謂之曰。今事亟矣。何暇眠乎。義便驚起。見防守者。並疲而寢。乃試自奮動。手髮既解。足亦得脫。而遁百餘步。隱草中。便聞追者交馳。秉炬無見者。迨明賊散。義歸投鄴寺。遂得免焉。(出冥祥記)

畢覽

苻秦畢覽。東平人。少奉法。隨慕容垂北征。沒虜。單馬逃竄。虜騎追將及。覽至心誦念觀世音。既得免脫。入山。迷惑失道。又專心持念。中夜見一道人。法服持錫。示以途徑。安然至家。(出冥祥記)

釋法智

沙門釋法智。為白衣時。嘗獨行至大澤中。忽遇猛火。四方俱起。走路已絕。便至心禮誦觀世音。俄而火過。一澤之草。無有遺莖者。唯法智所容身處不燒。始乃敬奉大法。後為姚興將。從征索虜。軍退失馬。落在圍裏。乃隱溝邊叢棘中。得蔽頭。復念觀世音。心甚勤至。隔溝人遙喚後軍。指令殺之。而軍過搜覓。輒無見者。遂得免。後逕出家。(出冥祥記)

孫道德

宋孫道德。益州人也。奉道祭酒。年過五十。未有子息。居近精舍。景平中。沙門謂道德曰。必願有兒。當至心禮誦觀世音經。此可冀也。德遂罷不事道。丹心投誠。歸誦觀世音。少日之中。而有夢應。婦即有孕。產男。(出冥祥記)

張興

宋張興。新興人。頗信佛法。常從沙門僧融、曇翼時受八戒。元嘉初。興嘗為劫賊所引。逃避。妻繫獄。掠笞積日。時縣失火。出囚路側。會融翼同行。偶經囚邊。妻驚呼。閣梨何不賜救。融曰。貧道力弱。不能救如何。唯宜勸念觀世音。庶獲免耳。妻便晝夜祈念。經十日許。夜夢一沙門以足躡之曰。咄咄。可起。妻即驚起。鉗鎖桎梏俱解。然閉戶警防。無由得出。慮有覺者。乃却自械。又夢向者沙門曰。戶已開矣。妻覺而馳出。守備俱寢。安步而逸。闇行數里。卒值一人。妻懼躃地。已而相訊。乃其夫也。相見悲喜。夜投僧翼。翼匿之。獲免焉。(出冥祥記)

曇無竭

宋元嘉初。有黃龍沙門曇無竭者。誦觀世音經。淨修苦行。與徒屬二十五人。往尋佛國。備經艱險。既達天竺舍衛。路逢山象一群。竭賚經誦念。稱名歸命。有獅子從林中出。象驚奔走。後有野牛一群。鳴吼而來。將欲加害。竭又如初歸命。有大鷲飛來。牛便驚散。遂得免。(出法苑珠林)

車母

車母者。遭宋廬陵王青泥之難。為虜所得。在賊營中。其母先來奉佛。即燃七燈於佛前。夜精心念觀世音。願子得脫。如是經年。其子忽叛還。七日七夜獨行。自南走。常值天陰。不知東西。遙見有七段火光。望火而走。似村欲投。終不可至。如是七夕。不覺到家。見其母猶在佛前伏地。又見七燈。因乃發悟。母子共談。知是佛力。自後懇禱。專行慈悲。(出宣驗記)

釋曇穎

宋長干寺有釋曇穎。會稽人。少出家。謹於戒行。誦經十餘萬言。止長干寺。善巧宣唱。天然獨絕。穎常患癬疾。積治不除。房內恒

供養一觀世音像。晨夕禮拜。求差此疾。異時。忽見一虵。緣壁上屋。須臾。有一鼠子。從屋墜地。涎液沐身。狀如已死。頴候以活。即取竹刮除涎液。又聞虵所吞鼠。能療瘡疾。即取涎以傅癬上。所傅既遍。鼠亦還活。信宿之間。瘡疾頓盡。方悟虵之與鼠。皆是祈請所致。於是君王所重。名播遐邇。後卒所住。年八十一。(出高僧傳)

邢懷明

宋邢懷明。河間人。為大將軍參軍。嘗隨南郡太守朱循之北伐。同見陷沒。伺候間隙。俱遁南歸。夜行晝伏。三日。猶懼追捕。乃遣人前覘虜候。數日不還。一夕。將雨陰暗。所遣人將曉忽至。乃驚曰。向遙見火光甚明。故來投之。那得至而反暗。循等驚愕。懷明先奉法。自出征。恒頂戴觀世音經。誦讀不廢。夕亦暗誦。咸疑是經神力。遂得脫免。居於京師。忽有沙門詣懷明云。貧道見此巷中及君家有血氣。宜移避。語畢去。懷明追而目 之。出門便不見。意甚惡之。經二旬。隣人張景秀。傷父及殺妻。懷明以為血氣之徵。庶得無事。時與劉斌、劉敬文同在一巷。其年竝以劉湛之黨。被誅夷。(出法苑珠林)

王球

宋王球字叔達。太原人。為涪陵太守。以元嘉元年。於郡失守。繫在刑獄。防鎖堅固。球先精進。用心尤至。獄中百餘人。並多飢餓。球每食。皆分施之。日自持齋。至心念觀世音。夜夢昇高座。見一沙門。以一卷經與之。題名光明按行品。併諸菩薩名。球得而披讀。忘第一菩薩名。第二觀音。第三大勢至。又見一車輪。沙門曰。此五道門也。既覺。鎖皆斷脫。球心知神力。彌增專志。因自釘治其鎖。經三日而被原宥。(出法苑珠林)

太平廣記卷第一百一十一

報應十(觀音經)

竺惠慶
卞悅之
張暢
王玄謨
釋道冏
伏萬壽
彭子喬
釋慧和
齊建安王
毛德祖
李儒俊
沈甲
張達
孫敬德
高荀
史雋
東山沙彌
徐善才
杜智楷
張氏
許儼
僧道憲
成珪
王琦

竺惠慶

宋沙門竺惠慶。廣陵人也。經行修明。元嘉十二年。荊揚大水。惠慶將入廬山。船至江而暴風忽起。同旅已得依浦。唯惠慶舫飄颺中江。風疾浪湧。唯待淪覆。惠慶正心端意。誦觀世音經。洲際之人。望見其舫。迎飆截流。如有數十人牽挽之者。逕到其岸。一舫全濟。(出法苑珠林)

卞悅之

宋居士卞悅之。濟陰人也。作朝請。居在潮溝。行年五十。未有子息。婦為取妾。復積載不孕。將祈求繼嗣。發願誦觀音經千遍。其數垂竟。妾即有娠。遂生一男。時即元嘉十四年也。(出冥祥記)

張暢

宋張暢。常奉持觀音。南譙之搆逆也。暢不從。王欲害之。夜夢觀世音曰。汝不可殺暢。遂不敢害。及王敗。暢繫獄。誦觀世音經千遍。鏁寸寸斷。獄司易之復斷。吏白曰(吏白曰明鈔本作少日。)釋之。(出談藪)

王玄謨

宋太原王玄謨。爽邁不群。北征失律。軍法當死。夢人謂之曰。汝誦觀世音千遍。可得免禍。謨曰。命懸旦夕。千遍何可得。乃授云。觀世音。南無佛。與佛有因。與佛有緣。佛法相緣。常樂我情。朝念觀世音。暮念觀世音。念念從心起。念佛不離心。既而誦滿千遍。將就戮。將軍沈慶之諫。遂免。歷位尚書金紫豫州刺史。(原闕出處。明鈔本作出談藪)

釋道冏

姚秦沙門釋道冏。弘始十八年。師道懿遣至河南霍山采鍾乳。與同道道朗等四人共行。持炬深穴。入且三里。遇一深流。橫木而過。冏最先濟。後輩墜水而死。時火又滅。冥然昏闇。冏生念已盡。慟哭而已。猶固一心呼觀世音。誓願若蒙出路。供百人會。表報威神。經一宿而見小光烟然。狀若螢火。倏忽之間。穴中盡明。於是見路。得出岩下。由此信悟彌深。屢覩靈異。元嘉十九年。臨川王作鎮廣陵。請冏供養。其年九月。於西齋中作十日觀世音齋。已得

九日。夜四更盡。眾僧皆眠。冏起禮拜謝。欲坐禪。忽見四壁有無數沙門。悉半身出見。一佛螺髻。分明了了。有一長人。著平上幘。布袴褶。手把長刀。貌極雄異。捻香授道冏。道冏時不肯受。壁中沙門語云。冏公可為受香。以覆護主人。俄而霍然。無所復見。當此之時。都不見眾會諸僧。唯覩置釋迦文行像而已。(出法苑珠林)

伏萬壽

伏萬壽。平昌人。宋元嘉十九年在廣陵為衛府參軍。乞假返州。四更初。涉江。長波安流。至中而風起如箭。時又夜。莫知所向。萬壽先奉法。唯一心歸命觀世音。念無間。倏爾與船中數人。同覩北岸有光。狀如村火。喜曰。此必是陽火也。廻船趨之。未旦而至。問彼人。皆云。昨夜無燃火者。於是方悟神力焉。(出法苑珠林)

彭子喬

宋彭子喬者。益陽縣人也。任本郡主簿。事太守沈文龍。建元元年。以罪被繫。子喬少年嘗出家。還俗後。常誦觀世音經。時文龍盛怒。防械稍急。必欲殺之。子喬憂懼。無復餘計。唯至誠誦經。至百餘遍。疲而晝寢。同繫者有十許人。亦俱睡。有湘西縣吏杜道榮。亦繫在獄。乍寐乍寤。不甚得熟。忽有雙白鶴集子喬屏風上。有頃。一鶴下至子喬邊。時復覺如美麗人。道榮起。見子喬雙械脫在脚外。而械痕猶在焉。道榮驚視。子喬亦寤。共視械咨嗟。問道榮曰。有所夢不。答曰。不夢。道榮以所見說之。子喬雖知必已。尚慮獄家疑其欲叛。乃取械著之。經四五日而蒙釋放。(出法苑珠林)

釋慧和

宋慧和沙門者。京師眾造寺僧也。元(法苑珠林二七引元作義。義嘉劉宋晉安王起兵時所建年號。見宋書鄧琬傳。)嘉之難。和猶為白衣。屬劉胡部下。胡常遣將士數十人作諜東。和亦預行。行至鵲渚。而值臺軍西上。諜眾離散。各逃草澤。和得竄。下至新林。見野老衣服縷弊。和乃以貌整袴褶易其衣。提籃負擔。若類田人。時諸遊軍捕此散諜。視和形色。疑而問之。和答對謬略。因被笞掠。登時見斬。和自散走。便恒誦念觀世音經。至將斬時。祈懇彌至。既而軍人揮刃屢跌。三舉三折。並驚而釋之。和於是出家。遂成精業。(出法苑珠林)

齊建安王

齊建安王患瘡。念觀音不息。夜夢見觀音。手為傅藥。明旦瘡愈也。(出感應傳)

毛德祖

滎陽人毛德祖。初投江南。偷道而過。道逢虜騎所追。伏在路側蓬蒿。半身猶露。分意受死。合家念觀世音。俄然雲起雨注。得免死也。(出辨正論)

李儒俊

隊主李儒俊鎮虎牢。為魏虜所圍。危急欲降。夜踰城出。見賊縱橫並臥。儒俊乃一心念觀世音。便過賊處。趨空澤。賊即隨來。儒俊便入草。未及藏伏。賊掩至。儒俊驚恐。一心專念觀音經。忽得馬馳去。因此遂得脫。(出辨正論)

沈甲

吳郡人沈甲。被繫處死。臨刑市中日。誦觀音名號。心口不息。刀刃自斷。因而被放。一云。吳人陸暉繫獄分死。乃令家人造觀音像。冀得免死。臨刑三刀。其刀皆折。官問之故。答云。恐是觀音慈力。及看像項上。乃有三刀痕現。因奏獲免。(出宣驗記)

張達

張達有罪繫獄。分當受死。乃專念觀世音。鏁械自脫。因遂獲免。終身齋戒。(出張氏傳)

孫敬德

東魏孫敬德。天平中。定州募士。奉釋教。嘗造觀音像。自加禮敬。後為刼賊所引。不勝拷楚。忽夢一沙門。令誦救生觀世音千遍。執縛臨刑。誦念數滿。刀自折為三段。膚頸不傷。三易其刀。終折如故。所司以狀奏聞。丞相高歡表請免死。及歸。覩其家觀音像。項有刃迹三。敕寫其經布於世。今謂高王觀世音經。自晉、宋、梁、陳、秦、趙國。觀音、地藏、彌勒、彌陀。稱名念誦。得救者不可勝紀。(出冥祥記)

高荀

滎陽高荀。年已五十。為殺人被收。鏁頓地牢。分意必死。同牢人云。努力共念觀音。荀云。我罪至重。甘心受誣。何由可免。同禁勸之。因(因原作日。據明鈔本改。)始發心。誓當捨惡行善。專念觀音。不離造次。若得免脫。願起五層浮圖。捨身作奴。供養眾僧。旬日用心。鉗鏁自解。監司驚懼。語荀云。若佛神憐汝。斬應不死。臨刑之日。舉刀刃斷。奏得原免。(出宣驗記)

史雋

史雋有學識。奉道而慢佛。常語人云。佛是小神。不足事也。每見尊像。恒輕誚之。後因病脚攣。種種祈福。都無效驗。其友人趙文謂曰。經道福中第一。可試造觀音像。雋以病急。如言鑄像。像成。夢觀音。果得差。(出宣驗記)

東山沙彌

隨開皇初。有揚州僧。忘其本名。誦通涅槃。自矜為業。岐州東山下村中沙彌。誦觀世音經。二俱暴死。同至閻羅王所。乃處沙彌金高座。甚敬之。處涅槃僧銀高座。敬心稍惰。僧情大恨。問沙彌住處。既蘇。從南來至岐州。訪得沙彌。具問所由。沙彌云。每誦觀音。於別所衣淨衣。燒名香呪願。然後乃誦。斯法不怠。更無他術。謝曰。吾罪深矣。所誦涅槃。威儀不整。身口不淨。於今驗矣。(出法苑珠林)

徐善才

唐武德中。醴泉縣人徐善才。常修齋戒。誦觀世音經。逾千遍。曾往京城延興寺。修營功德。及還家。道逢胡賊。賊所掠漢人千百。將向洪崖。次第殺之。善才知不免。唯至心念觀音經。當殺之時。了不自覺。至初夜方悟。身在深澗樹枝上。去岸三百餘尺。以手摩項。覺微痛而無傷。漸下樹。循澗南行。可五六十里。天漸曉。去賊已遠。得官路。遂還家。琬法師嘗說此事。(出法苑珠林)

杜智楷

杜智楷。曹州離狐人。少好釋典。不仕不娶。被僧衣。隱居太山。以讀誦為事。唐貞觀二十一年。於山中還。忽患疾垂死。以袈裟覆體。昏然如夢。見老母(原本無母字。據明鈔本補。)及美女十數屢來相擾。智楷端然不動。漸相逼斥。並云。輿智楷擲置北澗裏。遂總近前。同執捉。有攬著袈裟者。忽齊聲念佛。却後懺悔。請為造阿彌

陀佛。誦觀音菩薩三十餘遍。少間。遂覺體上大汗。即愈。離狐今濟陰也。(出法苑珠林)

張氏

陳玄範妻張氏。精心奉佛。恒願自作一金像。終身供養。有願莫從。專心日久。忽有觀世音金像。連光五尺。現高座上。眾歎其精感所致。(出辯正論)

許儼

唐龍朔麟德中。京師永興坊許儼。取魚為業。後患疾。冥然若死。身赤如火。痛似火炙。自云。但見火車來燒身。官府責取魚多。遣生受罪。已經數日。乍生乍死。親戚勸作功德。遂造觀音像兩軀。仍令合家不食酒肉。病遂差。(出法苑珠林)

僧道憲

唐聖善寺僧道憲。俗姓元氏。開元中。住持於江州大雲寺。法侶稱之。時刺史元某。欲畫觀世音七鋪。以憲練行。委之勾當。憲令畫工持齋潔己。諸綵色悉以乳頭香代膠。備極清淨。元深嘉之。事畢。往預寧斫排。造文殊堂。排成將還。忽然墮水。江流湍急。同侶求拯無由。憲墮水之際。便思念觀世音。見水底有異光。久而視之。見所畫七菩薩。立在左右。謂憲曰。爾但念南無菩薩。憲行李如畫。猶知在水底。懼未免死。乃思計云。念阿彌陀佛。又念阿彌佛。其七菩薩並來捧足。將至水上。衣服無所污染。與排相隨。俱行四十餘里。憲天寶初滅度。今江州大雲寺七菩薩見在。兼畫落水事云耳。(出廣異記)

成珪

成珪者。唐天寶初。為長沙尉。部送河南橋木。始至揚州。累遭風水。遺失差眾。揚州所司謂珪盜賣其木。拷掠行夫。不勝楚痛。妄云破用。揚州轉帖潭府。時班景倩為潭府。嚴察之吏也。長沙府別將錢堂(明鈔本堂作唐。)楊覲利其使。與景倩左右搆成。景倩使覲來收珪等。覲至揚州。以小枷枷珪。陸路遞行。至寧江。方入船。乃以連鏁鏁枷。附於船梁。四面悉皆釘塞。唯開小孔。出入飯食等。珪意若至潭府必死。發揚州。便心念救苦觀世音菩薩。恒一日一食。或時不食。但飲水清齋。經十餘日。至滁口。夕暮之際。念誦懇至。其枷及鏁。忽然開解。形體蕭然。無所累著。伺夜深。舟人盡臥。珪乃拆所釘。拔除出船背。至覲房上。呼曰。楊覲。汝如我何。覲初驚起。問何得至此。珪曰。當葬江魚腹中。豈與汝輩成功耶。因決意赴水。初至潭底。須臾遇一浮木。中有竪枝。珪騎木抱。得至水面。中夜黑暗。四顧茫然。木既至潭底。又復浮出。珪意至心念觀世音。乃漂然。忽爾翻轉。隨水中木而行。知已至岸。便蘆中潛伏。又江邊多猛獸。往來顧視。亦不相害。至明。投近村。村中為珪裝束。送至滁州。州官寮歎美。為市驢馬糧食等。珪便入京。於御史臺申理。初楊覲既失珪。一時潰散。覲因此亦出家焉。(出卓異記。明鈔本作出廣異記)

王琦

唐王琦。太原人也。居滎陽。自童孺不茹葷血。大曆初。為衢州司戶。性好常持誦觀音經。自少及長。數患重病。其於念誦。無不差愈。(原本愈字下複念誦無不差愈六字。據明鈔本刪。)念誦之時。必有異類譎詭之狀。來相觸惱。以琦心正不能干。初琦年九歲時。患病五六日。因不能言。忽聞門外一人呼名云。我來追汝。因便隨去。行五十里許。至一府舍。舍中官長大驚云。何以誤將此小兒來。即宜遣還。旁人云。凡召人來。不合放去。當合作使。方可去爾。官云。有狗合死。令琦取狗。訴幼小。不任獨行。官令與使者同去。中

路。使者授一丸與琦。狀如毬子。令琦擊狗家門。狗出。乃以擲之。狗吞丸立死。官云。使畢可還。後又遇病。忽覺四支內有八十二人。眉眼口鼻。各有所守。其在臂脚內者。往來攻其血肉。每至腕節之間。必有相衝擊。病悶不可忍。琦問汝輩欲殺我耶。答云。為君理病。何殺之有。琦言。若理病。當致盛饌哺爾。鬼等大喜叫肉中。翌日為設食。食畢皆去。所病亦愈。琦先畜一淨刀子。長尺餘。每念誦即持之。及患天行。恒置刀牀頭。以自衛護。後疾甚。暗中乃力起。念觀世音菩薩。暗忽如晝。見刀刃向上。有僧來。與琦偶坐。問琦此是何刀。琦云。是殺魔刀。僧遂奄滅。俄有鐵鎚空中下。擊刀。累擊二百餘下。鎚悉破碎。而刀不損。又見大鐵鍱水罐可受二百餘石。覆向下。有二大人執杵旁。問琦。君識此否。琦答云。不識。人云。此鐵鍱獄也。琦云。正要此獄禁魔鬼。言畢並滅。又見牀舁珍饌。可百牀。從門而出。又見數百人。皆炫服。列在宅中。因見其亡父。手持一刀。怒云。無屋處汝。其人一時潰散。頃之疾愈。乾元中。在江陵。又疾篤。復至心念觀音。遙見數百鬼。乘船而至。遠來飢餓。就琦求食。遂令家人造食。施於庭中。群鬼列坐。琦口中有二鬼躍出。就坐食訖。初云未了。琦云。非要衣耶。鬼言正爾。乃令家人造紙衣數十對。又為緋綠等衫。庭中焚之。鬼著而散。疾亦尋愈。永泰中。又病篤。乃於燈下。澄心誦多心經。忽有一聲如鳥飛。從坐處肉中寖淫向上。因爾口呿不得合。心念此必有魔相惱。乃益澄定。須臾如故。復見牀前死屍脖脹。有虵大如甕。兼諸鬼。多是先識死人。撩亂爍己。琦閉目 。至心誦經二十四遍。寂然而滅。至三十九遍。懈而獲寐。翌日復愈。又其妻李氏。曾 遇疾疫癘。琦燈下至心為誦多心經。得四五句。忽見燈下有三人頭。中間一頭。是李氏近死之婢。便聞李氏口中作噫聲。因自扶坐。李瞪目 不能言。但以手指東西及上下。狀如見物。琦令奴以長刀。隨李所指斬之。久乃寤云。王三郎耶。蓋以弟呼琦。琦問所指云何。李云。見窗中一人。鼻長數尺。復見牀前二

物。狀如駱駝。又見屋上悉張朱簾幕。皆被奴刀斫獲斷破。一時消散。琦却誦經四十九遍。李氏尋愈也。(出廣異記)

太平廣記卷第一百一十二

報應十一(崇經像)

史世光
董吉
宋吏國
張元
釋智興
董雄
孟知儉
崔善冲
唐晏
張御史
李昕
牛騰
李元平
長沙人
乾符僧

史世光

晉史世光。襄陽人。咸和八年。死於武昌 。七日。沙門支法山轉小品。疲而微臥。聞靈座上如有人聲。史家有婢字張信。見世光在靈座。著衣具如平日。語信云。我本應墮獄中。支和尚為我轉經。曇護、曇堅迎我上第七梵天快樂處矣。護、堅並是山之沙彌已亡者也。後支法山復往。為轉大品。又來在座。世光生時。以二幡供養。時在寺中。乃呼張信持幡送我。信曰。諾。便絕死。將信持幡。俱西北飛上一青山。如琉璃色。到山頂。望見天門。世光乃自持幡。遣信令還。與一青香。如巴豆。曰。以上支和尚。信未還。便遙見世光直入天門。信復道而還。倏忽乃活。亦不復見手中香也。幡亦在故寺中。世光與信去時。其家有六歲兒見之。指語祖母曰。阿爺飛上天。婆為見否。世光後復與天人十餘。俱還其家。徘徊而去。每來必見簪帢。去必露髻。信問之。答曰。天上有冠。不

著此也。後乃著(此也後乃著五字據法苑珠林五補。)天冠與群天人鼓琴行歌。徑上母堂。信問何用屢來。曰。我來。欲使汝輩知罪福也。亦兼娛樂阿母。琴音清妙。不類凡聲。家人悉聞之。然其聲如隔壁障。不得親察也。唯信聞之獨分明焉。有頃去。信自送。見世光入一黑門。尋即出來。謂信曰。舅在此日見搒撻。楚痛難勝。省視還也。舅坐犯殺罪。故受此報。可告舅母。會僧轉經。當稍免脫。舅即輕(輕字據明鈔本補。)車將軍。(出冥祥記)

董吉

董吉。於潛人也。奉法三世。至吉尤精進。恒齋戒誦首楞嚴經。村中有病。輒請吉誦經。所救多愈。同縣何晃亦奉法。卒得山毒之病困。(困原作因。據明鈔本改。)晃兄惶遽。馳往請吉。董何二舍。相去六七十里。復隔大溪。五月中大雨。晃兄初渡時。水尚未至。吉與期設中食後。比往而山水暴漲不復可涉。吉不能泅。遲廻嘆息良久。吉既信直。必欲赴期。乃測然發心。自誓曰。吾救人苦急。不計軀命。冀如來大士。當照乃誠。便脫衣。以囊經戴置頭上。徑入水中。量其深淺。乃應至吉頸。及渡。才至膝耳。既得上岸。失囊經。甚悲恨。尋至晃家。三禮懺悔。流涕自責。俛仰之間。便見經囊在高座上。吉悲喜取看。浥浥如有濕氣。開囊視經。尚燥如故。於是村人一時奉法。吉家西北。有山高險。中多妖魅。犯害居民。吉以經戒之力。欲降伏之。於山際四五畝地。手伐林木。搆造小屋。安設高座。轉首楞嚴經百餘日。寂然無妖。民害稍止。後有數人至。與吉言語良久。吉思惟非於潛人。窮山幽絕。何因而來。疑是鬼神。乃謂之曰。諸君得無是此中鬼耶。答曰。是也。聞君德行清肅。故來相觀。並請一事。想必見聽。吾世有此山。遊居所託。君既來止。慮相犯冒 。恒懷不安。今欲更作界分。當殺樹為斷。吉曰。僕貪此寂靜。讀誦經典。不相干犯。方喜為此。願見祐助。鬼

答曰。亦復憑君。不侵克也。言畢而去。經宿。所芟地四際之外。樹皆枯死。如焚焉。(出冥祥記)

宋吏國

宋有一國。與羅剎相近。羅剎數入境。食人無度。王與羅剎約言。自今已後。國中人家。各專一日。當分送往。勿復枉殺。有奉佛家。惟有一子。始年十歲。次當充行。捨別之際。父母哀號。便至心念佛。以佛威神力故。大鬼不得近。明日。見子尚在。歡喜同歸。於茲遂絕。國人賴焉。(出幽明錄)

張元

後周張元字孝始。河北萬城人也。年十六。其祖喪明三載。元懼憂泣。晝夜經行。以祈福祐。復讀藥師經云。盲者得視之言。遂請七僧。燃七層燈。七晝夜轉讀藥師經。每日行道祝曰。元為孫不孝。使祖喪明。今以燈光。並施法界。乞祖目 見明。元求代闇。如此辛勤。至七日。其夜。夢有一翁。以金篦療其祖目 。謂元曰。勿憂悲也。三日後。祖目 必瘥。元於夢中喜踊。驚覺。乃徧告家人。三日。祖目 果瘥。(出法苑珠林)

釋智興

唐京師大莊嚴寺釋智興。洛州人也。勵行堅明。依首律師。誦經持律。不輟昏曉。至大業五年仲冬。次當維那鳴鐘。同寺僧名三果者。有兄從煬帝南幸江都。中路身亡。初無凶告。通夢於妻曰。吾行達彭城。不幸病死。生無善行。今墮地獄。備經五苦。賴今月初十日。禪定寺僧智興鳴鐘發響。聲振地獄。同受苦者。一時脫解。今生樂處。思報其恩。汝可具絹十疋奉之。並陳意殷勤。及寤說之。人無信者。尋復夢如初。後十餘日。凶問與夢符同。乃以絹奉興。合寺大德至。咸問興曰。何緣鳴鐘。乃感斯應。興曰。余無他

術。見佛法藏傳云。罽膩吒王受苦。由鳴鐘得停。及增一阿含經。鳴鐘作福。敬遵此事。勵力行之。嚴冬登樓。風切皮肉。露手鳴椎。掌中破裂。不以為苦。鳴鐘之始。先發善願。諸賢聖同入道場。同受法食。願諸惡趣。聞此鐘聲。俱時離苦。速得解脫。如斯願行。察志常奉修。故致茲通感焉。(出異苑。明鈔本作出高僧傳)

董雄

唐董雄。河南人。貞觀中。為太理丞。幼奉佛法。蔬食多年。因非累與同列李敬玄、王忻俱維縶。雄專念普門品。日三十遍。鑰忽夜解落。雄驚告忻、玄。忻、玄視其鑰。堅全在地。而鈎連不開。相離數尺。即告守者。御史張守一宿直。命吏燭之而甚怪。重鑰封記而去。雄但誦經不輟。至五更。又解落有聲。雄復告忻、玄等。至明。守一視之。封題如故。而鑰自相離。敬玄素不信佛法。其妻讀經。常謂曰。何為胡神所媚而讀此書耶。及見雄此事。乃深悟不信之咎。方知佛大聖也。時忻亦誦八菩薩名。滿三萬遍。晝鑰解落。視之如雄無異。不久俱免。(出法苑珠林)

孟知儉

唐孟知儉。并州人。少時病。忽亡。見衙府。如平生時。不知其死。逢故人為吏。謂曰。因何得來。具報之。乃知是冥途。吏為檢尋曰。君平生無修福處。何以得還。儉曰。一生誦多心經及高王經。雖不記數。亦三四萬遍。重檢獲之。遂還。吏問欲知官乎。曰。甚要。遂以簿示之。云。孟知儉合運出身。為曹州參軍。轉鄧州司倉。即掩却不許看。遂至荒榛。入一黑坑。遂活。不知運是何事。尋有敕募運糧。因放選。授曹州參軍。乃悟曰。此州吾不見。小書耳。滿授鄧州司倉。去任又選。唱晉州判司。未過而卒。(出朝野僉載)

崔善冲

崔善冲。先初任梓州桐山丞。嵩州刺史李知古奏充判官。諸蠻叛。殺知古。善冲等二十餘人奔走。擬投昆明。夜不知道。冲專念尊經。俄見炬火在前。眾便隨之。至曉火滅。乃達昆明。(出報應記)

唐晏

唐晏。梓州人。持經日七遍。唐開元初。避事晉州安岳縣。與人有隙。讒於使君劉肱。肱令人捉晏。夜夢一胡僧云。急去。驚起便走。至遂州方義縣。肱使奄至。奔走無路。遂一心念經。捕者交橫。並無見者。由是獲免。(出報應記)

張御史

張某。唐天寶中為御史判官。奉使淮南推覆。將渡淮。有黃衫人自後奔走來渡。謂有急事。特駐舟。洎至。乃云。附載渡淮耳。御船者欲毆擊之。兼責讓。何以欲濟而輒停留判官。某云。無擊。反責所由云。載一百姓渡淮。亦何苦也。親以餘食哺之。其人甚愧恧。既濟。與某分路。須臾。至前驛。已在門所。某意是囑請。心甚嫌之。謂曰。吾適渡汝。何為復至。可即遽去。云。己實非人。欲與判官議事。非左右所聞。因屏左右云。奉命取君。合淮中溺死。適承一饌。固不忘。已蒙厚恩。只可一日停留耳。某求還至舍。有所遺囑。鬼云。一日之外。不敢違也。我雖為使。然在地下。職類人間里尹坊胥爾。某欲前請救。鬼云。人鬼異路。無宜相逼。恐不免耳。某遙拜。鬼云。能一日之內。轉千卷續命經。當得延壽。言訖出去。至門又回。謂云。識續命經否。某初未了知。鬼云。即人間金剛經也。某云。今日已晚。何由轉得千卷經。鬼云。但是人轉則可。某乃大呼傳舍中及他百姓等數十人同轉。至明日晚。終千遍訖。鬼又至云。判官已免。會須暫謁地府。眾人皆見黃衫吏與某相

隨出門。既見王。具言千遍續命經足。得延壽命。取檢云。與所誦實同。因合掌云。若爾。尤當更得十載壽。便放重生。至門前。所追吏云。坐追判官遲廻。今已遇捶。乃袒示之。願乞少錢。某云。我貧士。且在逆旅。多恐不辦。鬼云。唯二百千。某云。若是紙錢。當奉五百貫。鬼云。感君厚意。但我德素薄。何由受汝許錢。二百千正可。某云。今我亦鬼耳。夜還逆旅。未易辦得。鬼云。判官但心念。令妻子還我。自當得之。某遂心念甚至。鬼云。已領訖。須臾復至。云。夫人欲與。阿孀不肯。又令某心念阿孀。須臾曰。得矣。某因冥然如落深坑。因此遂活。求假還家。具說其事。妻云。是夕夢君已死。求二百千紙錢。欲便市造。阿孀故云。夢中事何足信。其夕。阿孀又夢。因得十年後卒也。(出廣異記)

李昕

唐李昕者。善持千手千眼呪。有人患瘧鬼。昕乃呪之。其鬼見形謂人曰。我本欲大困辱君。為懼李十四郎。不敢復往。十四郎即昕也。昕家在東郡。客遊河南。其妹染疾死。數日蘇。說云。初被數人領入墳墓間。復有數十人。欲相凌辱。其中一人忽云。此李十四郎妹也。汝輩欲何之。今李十四郎已還。不久至舍。彼善人也。如聞吾等取其妹。必以神呪相困辱。不如早送還之。乃相與送女至舍。女活後。昕亦到舍也。(出廣異記)

牛騰

唐牛騰字思遠。唐朝散大夫郯城令。棄官從好。精心釋教。從其志者終身。常慕陶潛五柳先生之號。故自稱布衣公子。即侍中中書令河東侯炎之甥也。侯姓裴氏。未弱冠。明經擢第。再選右衛騎曹參軍。公子沉靜寡言。少挺異操。河東侯器其賢。朝廷政事皆訪之。公子清儉自守。德業過人。故王勃等四人。皆出其門下。年壯而河東侯遇害。公子謫為牂牁建安丞。將行。時中丞崔察用事。貶官皆

辭之。素有嫌者。或留之。誅殛甚眾。時天后方任酷吏。而崔察先與河東侯不協。陷之。公子將見崔察。懼不知所為。忽衢中遇一人。形甚瓌偉。黃衣盛服。乃問公子。欲過中丞。得無懼死乎。公子驚曰。然。又曰。公有犀角刀子乎。曰。有。異人曰。公有刀子甚善。授公以神呪。見中丞時。但俯伏掐訣。(言帶犀角刀子。掐手訣。乃可以誦呪。其訣。左手中指第三節橫文。以大指爪掐之。)而密誦呪七遍。當有所見。可以無患矣。呪曰。吉中吉。迦戍律。提中有律。陁阿婆迦呵。公子俛而誦之。既得。仰視異人亡矣。大異之。即見察。同過三十餘人。公子名當二十。前十九人。各呼名過。素有郤。察則留處絞斬者。且半焉。次至公子。如其言誦呪。察久不言。仰視之。見一神人。長丈餘。儀質非常。出自西階。直至察前。右拉其肩。左捩其首。面正當背。而諸人但見崔察低頭不言。手注定字而已。公子遂得脫。比至屏廻顧。見神人釋察而亡矣。公子至牂牁。素秉誠信。篤敬佛道。雖已婚宦。如戒僧焉。口不妄談。目不妄視。言無偽。行無頗。以是夷獠漸漬其化。遂大布釋教於牂牁中。常攝郡長吏。置道場數處。居三年而莊州獠反。轉入牂牁。郡人背殺長吏以應之。建安大豪起兵相應。乃劫公子坐於樹下。將加戮焉。忽有夷人。持刀斬守者頭。乃詈曰。縣丞至惠。汝何忍害若人。因置公子於籠中。令力者負而走。於是兼以孥免。事解後。郡以狀聞。詔書還公事。許其還歸。後宰數邑。皆計日受俸。其清無以加。亦天性也。後棄官。精內教。甚有感焉。(出紀聞)

李元平

唐李元平。故睦州刺史伯誠之子。大曆五年。客於東陽寺中。讀書歲餘。薄暮。見一女子。紅裙繡襦。容色美麗。娥冶自若。領數青衣。來入僧院。元平悅之。而窺見青衣。問其所適及姓氏。青衣怒曰。誰家兒郎。遽此相逼。俱為士類。不合形迹也。元平拜求請見。不許。須臾。女自出院四顧。忽見元平。有如舊識。元平非意

所望。延入。問其行李。女曰。亦欲見君。以論宿昔之事。請君無疑嫌也。既相悅。經七日。女曰。我非人。頃者大人曾 任江州刺史。君前身為門吏長直。君雖貧賤。而容色可悅。我是一小女子。獨處幽房。時不自思量。與君戲調。蓋因緣之故。有此私情。纔過十旬。君隨物故。余雖不哭。殆不勝情。便潛以朱筆塗君左股。將以為誌。常持千眼千手呪。每焚香發願。各生富貴之家。相慕願為夫婦。請君驗之。元平乃自視。實如其言。及曉將別。謂元平曰。託生時至。不可久留。後身之父。見任刺史。我年十六。君即為縣令。此時正當與君為夫婦未間。幸存思戀。慎勿婚也。然天命已定。君雖別娶。故不可得。悲泣而去。他年果為夫婦。(出異物誌)

長沙人

唐長沙人姓吳。征蠻卒夫也。平生以捕獵漁釣為業。常得白龜。羹而食之。乃遍身患瘡。悉皆潰爛。痛苦號叫。斯須不可忍。眉鬢手足指皆墮落。未即死。遂乞於安南市中。有僧見而哀之。謂曰。爾可回心念大悲真言。吾當口授。若能精進。必獲善報。卒依其言受之。一心念誦。後瘡痍漸復。手足指皆生。以至平愈。遂削髮為僧。號智益。於伏波將軍舊宅基建立精舍。住持泉州開元寺。通慧大德楚彤親識智益。常語之。(出報應錄)

乾符僧

唐乾符中。有僧忘其名號。恒以課誦為事。未常暫廢。因下峽。泊舟白帝城。夜深群動息。持念之際。忽覺有腥穢之氣。見水面有一人。漸逼船來。僧問之。曰。某非人也。姓許名道坤。唐初為夔牧。以貪殘暴虐。歿受業報。為灩預堆龍王三千年。於今二百四十年矣。適聞師持課。大有利益。故來遜謝耳。僧問曰。峽路險惡。多覆溺之患。盍敕諸龍而禁戢之。可乎。曰。此類實煩。皆業感所作。非常力而能制也。僧甚異之。將復問。忽失所在。(出報應錄)

太平廣記卷第一百一十三

報應十二(崇經像)

張應
釋道安
周閔
王懿
謝敷
僧法洪
劉式之
劉齡
陳安居
馬處伯

張應

晉張應。歷陽人。本事俗神。鼓舞淫祀。咸和八年。移居蕪湖。妻得病。應請禱備至。財產略盡。妻法家弟子也。謂曰。今病日困。求鬼無益。乞作佛事。應許之。往精舍中。見竺曇鎧。謂曰。佛如愈病之藥。見藥不服。雖事無益。應許當事佛。曇謂期明日當往。應歸。夜夢見人長丈餘。從南來。入門曰。此家何乃爾不淨。見曇鎧隨後曰。始欲發意。未可責之。應眠覺。便秉火作高座及鬼子母座。曇鎧明往。應說其夢。遂受五戒。屏除神影。大設福供。妻病有間。尋即全愈。咸康二年。應至馬溝市鹽。還泊蕪湖。夜宿。夢見三人。以鉤釣之。應曰。我佛弟子。牽終不置。曰。奴判走多時。應恐。謂曰。放我。當與君一升酒。釣人乃放之。謂應曰。但畏後人復取汝耳。眠竟。腹泄痢。達家大困。應曰。(自但畏起十九字據明鈔本補。)曇鎧濶絕已久。病甚。遣請之。適值不在。應尋氣絕。數日而蘇。說有數人。以鉤釣之將北去。下一坂岸。盛有鑊湯刀劍楚毒之具。應悟是地獄。欲呼師名。忘曇鎧字。但喚和尚救我。亦時喚佛。有頃。一人從西方。長丈餘。執金杵欲撞。釣人皆怖散。長人引應去。謂曰。汝命盡。不復久生。可暫還家。頌唄三偈。并

取和尚名字。三日當復命過。即生天矣。應即復蘇。三日之中。持齋頌唄。遣人將疏取曇鎧名。至日食畢。禮佛讚唄。與家人辭別。澡沐冠帶。如睡而亡。(出法苑珠林)

釋道安

東晉恒山沙門釋道安者。經石趙之亂。避地於襄陽。註般若道行密迹諸經析(析原作祈。據明鈔本改。)疑甄解二十餘卷。恐不合理。乃誓曰。若所說不違理者。當見瑞相。乃夢見一道人。頭白眉長。語安曰。君所註經。殊合道理。我不得入泥洹。住在西域。當相助弘道。可時設食也。後遠公云。昔和尚所夢。乃是賓頭盧也。於是立座享之。遂成永則。(出法苑珠林)

周閔

周閔。汝南人。晉護軍。世奉佛法。蘇峻之亂。邑人皆東西播遷。閔家有大品一部。以半幅八丈素。反復書之。又有他經數部。大品亦雜在其中。既當避難單行。不能得盡持去。尤惜大品。不知在何部中。倉卒而去。徘徊歎惋。不覺大品忽自出外。閔驚喜持去。周氏遂世寶之。至今尚在。一說云。周嵩婦胡母氏有素書大品。其素廣五寸。而大品一部盡在焉。又并有舍利。銀甕寘之。並緘於深篋中。永嘉之亂。胡母氏時避兵南奔。經及舍利自出篋外。因求懷之。以渡江東。又嘗遇火。不暇取經。及屋盡火滅。得之於灰燼之下。儼然如故。會稽王道子就嵩曾 孫雲求以供養。後常暫在新渚寺。劉敬叔云。曾 親見此經。字如麻子。點畫分明。新渚寺今天安是也。此經蓋得道僧慧則所寫也。或云。嘗在簡靖。道尼轉誦。(出冥祥記)

王懿

晉王懿字仲德。太原人。為車騎將軍。世信佛法。父黃。為中山太守。為丁岑所害。懿與兄侍母南歸。登涉飢疲。絕糧無計。唯歸心三寶。忽見一童子牽青牛。見懿等各與一飯。因忽不見。時積雨大水。懿前望浩然。莫知揭厲。俄有一白狼馴繞其前。過水復返。似欲引導。如此者三。於是隨狼行。水纔至膝。得路歸朝。後自五兵尚書為徐州刺史。嘗欲設齋。宿昔洒掃。盛列香花經像。忽聞法堂有經唄聲。清婉流暢。懿遽往視。見五沙門在佛座前。神儀偉異。懿心甚欽敬。沙門顧眄依然。瞻禮未竟。皆竦身飛空而去。親賓見者。倍增信悟。(出法苑珠林)

謝敷

謝敷字慶緒。會稽山陰人。鎮軍將軍輶之兄子也。少有高操。隱於東山。篤信大法。精勤不倦。手寫首楞嚴經。嘗置都下白馬寺中。寺為隣火所延。什物餘經。並成煨燼。而此經止燒紙頭界畫外而已。文字悉存。無所毀失。敷死時。友人疑其得道。及聞此經。彌加驚異。(出法苑珠林)

僧法洪

晉世沙門僧法洪在瓦官寺。義熙十二年。時官禁鎔鑄。洪元發心鑄丈六金像。私鑄竟。猶在模。所司知覺。收洪楚械。洪念觀音。每日百遍。忽夢所鑄金像往獄。手摩頭曰。無慮。其像胸前方一尺許。銅色燋沸。當洪禁日。國家牛馬不肯入欄。時以為怪。旬日有赦。洪得免。像即破模而自現也。(出辨正論)

劉式之

彭城劉式之。常供養一金像。無故失去。不知所在。式之夙夜思愆自責。至念冥通。經百日後。其像忽然自現本座。神光照室。全家驚喜。倍加傾心。(出辨正論)

劉齡

宋劉齡。不知何許人。居晉陵東路城村。頗奉佛法。於宅中立精舍。時設齋。元嘉九年三月二十七日。父暴亡。時巫祝並云。家當更有三人喪亡。隣家有事道祭酒魏巨。常為章符誑誘村里。語齡曰。君家喪禍未已。由奉不明神也。若改事大道。必蒙福祐。不改意者。將滅其門。齡遂敬延祭酒。罷不奉法。巨云。宜焚經像。災乃當除耳。遂爇精舍。炎熾移日。唯屋而已。經像幡座。儼然如故。像於中夜。天放赤光。其時諸祭酒有二十許人。有懼靈驗密委去者。巨等師徒意猶不止。被髮禹步。執(執原作報。據明鈔本改。)持刀索。云。斥佛還故國。不得留中夏為民害也。齡於其處。如有人毆打。頓仆於地。家人扶起。方餘氣息。遂痿躄不能行。魏巨體內發疽。日出血三升。不一月苦死。自外同伴。並患癩疾。隣人東安太守水立和。傳於東陽。時多見者。(出法苑珠林)

陳安居

宋陳安居。襄陽縣人也。伯父少事巫俗。鼓舞祭祀。神像盈宅。父獨敬信釋法。恒自齋戒。世父無子。以安居紹焉。安居雖即伯舍。而理行精至。廢絕淫祀。忽得病發狂。則為詞神之曲。迷悶邪僻。如此彌歲。而執心愈固。常誓曰。若我所執之志。偶當虧奪者。必先自臠截四體。乃就其事。家人並見(見字原闕。空一格。據明鈔本補。)之。安居不聽。經三年。病發死。但心下微煖。家不敢殮。至七日夜。守者覺尸足間。如有風來。飄動衣衾。蘇而有聲。家人初懼尸魘。皆走避之。既而稍能轉動。仍求水漿。家人喜。問從何來。安居具說所經。初見有人若使者。侍從數十人。呼去。從者欲縛之。使者曰。此人有福。未可縛也。行可百餘里。至一城府。屋宇甚整。使者將至府所。如局司之處。俄有人授紙筆。令安居曰。可疏二十四通死名。安居如言疏名成數通。有一人從內出。揚聲大呼

曰。安(安字原闕。據法苑珠林六二補。)居可入。(入原作人。據法苑珠林六二改。)既入。(入原作義。據明鈔本改。)稱(原本稱字下有安字。係上句居字上字誤植。今刪。)有教付刺奸。獄吏兩人。一云。與大械。一云。此人頗有福。只可三尺械。議論不決。乃共視文書。久之。遂與三尺械。少頃。見一貴人。翼從數十。形貌都雅。謂安居曰。汝那得來。安居具陳所由。貴人曰。汝伯有罪。但宜錄治。以先殖小福。故今得擊散乃敢告訴。吾與汝父幼少有舊。見汝依然。可隨我共(今得下二十二字據明鈔本補。)游觀也。獄吏不肯釋械。曰。府君無教。不敢專輒。貴人曰。但付我。不使走逸也。乃釋之。貴人將安居遍至諸地獄。備見苦楚。略與經文相符。遊歷未竟。有傳教來云。府君喚安居。安居惶懼。求救於貴人。貴人曰。汝自無罪。但以實對。必無憂也。安居至門。見有桎梏者數百。一時俱進。安居在第三。至階下。一人冠冕立於囚前。讀罪簿。其第一措行。昔者娶妻之始。夫婦為誓。有子無子。終不相棄。而其人本是祭酒。嘗亦奉道供化。徒眾中得一女弟子。因而奸之。遂棄本妻。妻嘗訴冤。府君曰。汝夫婦違誓。大義不終。罪一也。師資義著在三。而奸之。是父子相淫。無以異也。付法局詳刑。次讀第二女人辭牒。忘其姓名。云。家在南陽冠軍縣黃水里。家安爨器於竈口。而此婦眠嬰兒於竈上。匍匐走行。糞污爨器中。此婦還見。即請謝神祇。盥洗精潔。而其舅每罵此婦。言無有天道鬼神。致此惡婦。得行汙穢。司命聞知。故錄送之。府君曰。眠竈非過。小兒無知。又且已請謝神。是無罪矣。舅罵無道。誣謗幽靈。可錄之來。須臾而至。次到安居。階下人具讀明牒。為伯所訴。府君曰。此人事佛。大德人也。其伯殺害無辜。訾誑百姓。罪宜窮治。以其有小福。故未加之罪耳。今復謗訴無辜。敕催錄取來。已而府君遣安居還。若可去。善成勝業。可壽九十三。努力勉之。勿復更來。將離府。局司云。君可拔却死名。於是安居以次抽名既畢。而至向遊貴人所。貴人亦至云。知汝無他罪得還。甚善。力修功德。身福微。不辨生天。受報於此。輔

佐府君。亦優游富貴。神道之美。吾家在宛。姓某名某。君還為吾致意。尊奉法戒。勿犯偏禁。可具以所見示語之也。乃以三人力士送安居。出門數百步。傳教送符與安居。謂曰。君可持此符。經關戍次。以示之。勿輒偷過。偷過有罪譴也。若有水礙。可以此符投水中。即得過矣。安居受符而歸。行久之。阻大江不得渡。安居依言投符。曚然如眩。乃是其家庭中也。正聞家中號慟。所送三人。勒還就身。安居聞其身臭穢。曰。吾不復能歸。此人乃強排之。仆於尸脚上。安居既愈。欲驗黃水婦人。特往冠軍縣尋問。果有此婦。相見依然。如有舊識。云。已死得生。舅即以其日亡。說所聞見。與安居悉同。安居果壽九十三也。(出法苑珠林)

馬處伯

宋馬處伯。巴西閬中人也。少信佛法。嘗作宣漢縣令。元嘉十二年。七月夜。夢見天際有三人。長二丈餘。姿容嚴厲。(厲明鈔本作麗。)臨雲下觀。諸天妓樂。盈於空中。告曰。汝厄在荊楚。戊寅之年。八月四日。若處山澤。其禍克消。人中齋戒。亦可獲免。若過此期。當悟道也。時俯見相識楊暹等八人。並着鎖械。又見道士胡遼。半身出空。天際人皆記八人命盡年月。唯語遼曰。若能修立功德。猶可延長也。暹等皆如期而亡。遼益懼。奉法山居。勤勵彌至。處伯後為梁州西曹掾。州將蕭思話也。蕭轉南蠻。復命為行參軍。處伯思荊楚之言。心甚懼。求蕭解職。將適衡山。蕭苦不許。十三年即戊寅歲也。六月末得病。至八月危篤。其日黃昏後。忽朗然徹視。遙見西方有三人行。長可二丈。前一人衣袷垂鬢。項有光。後二人姿質金耀。儀相端備。列於空中。去地數仞。處伯委悉詳視。猶是前所夢者也。頃之不見。餘芳移時方歇。同居小大。皆聞香氣。因而流汗。病即小差。處伯所居頗卑陋。於時自覺處在殿堂。廊壁煥耀。皆是珍寶。俄即所患平復。(出冥祥記)

太平廣記卷第一百一十四

報應十三(崇經像)

費崇先
魏世子
何曇遠
陳秀遠
葛濟之
董青建
齊竟陵王
張逸
釋僧護
僧澄空
釋慧侃
釋道積
釋法誠

費崇先

宋費崇先。吳興人。少信佛法。精勤。泰始三年。受菩薩戒。寄齋於謝慧遠家。二十四日。晝夜不懈。每聽經。常以鵲尾香爐置膝前。初齋三夕。見一人。容服不凡。逕來舉爐去。崇先視膝前。爐猶在。方悟神異。自惟衣裳新濯。了無不淨。唯坐側有唾壺。既撤去壺。即復見此人還爐於前。未至席。猶見二爐。既至即合為一。然則此神人所提者。蓋爐影耳。崇先又嘗聞人說。福遠寺有欽尼者。精勤得道。欣然願見。未及得往。屬意甚至。常齋於他家。中夜。忽見一尼。容儀端儼。著赭布袈裟。正立齋席之前。食頃而滅。崇先及見此尼。狀貌被服。即前夜所覩者也。(出法苑珠林)

魏世子

宋魏世子。梁郡人。奉佛精進。兒女尊修。唯婦迷執不信。女年十四。病死。七日而蘇。云。可安施高座。並無量壽經。世子即為具

設經座。女雖持齋戒。未常看經。今即昇座。誦聲清利。下啟父言。兒死便往無量國。見父兄及己三人。池中已有芙蓉大花。後當化生其中。唯母獨無。不勝此苦。故歸啟報。語竟。復絕。母於是敬信法教。(出冥祥記)

何曇遠

何曇遠。廬江人。父萬壽。御史中丞。曇遠奉法持菩薩戒。年十八。丁父艱。哀毀成疾。殆將滅性。號踊之外。歸心淨土。庶祈感應。時請僧數人。曇遠向僧舍懺悔宿業。終無感徵。僧舍每加獎勵。不令懈怠。爾後因夜轉經竟。眾僧已眠。曇遠忽自歌誦。僧舍驚而問之。曇遠曰。見佛身黃金色。光焰丈餘。幡花翼從。充滿虛空。佛自西至。呼令速去。曇遠素羸弱少力。此夕壯厲悅懌。便於合中取香著手中。並以園花散空。母曰。汝今若去。不念吾耶。曇遠無所言而頓臥。宿信家中。聞此靈異。亦皆欣肅。不甚悲懼。曇遠至五更。忽然而終。宅中芬馨數日。(出冥祥記)

陳秀遠

宋陳秀遠。潁川人。嘗為湘州西曹。客居臨湘縣。少信奉三寶。年過耳順。篤業不衰。元徽二年七月中。宴臥未寢。歎念萬品死生。流轉無定。惟己將從何來。一心祈念。冀通感夢。時夕結陰。室無燈燭。有頃。見枕邊如螢火者。明照流飛。俄而一室盡明。連空如晝。秀遠遽興。合掌喘息。見庭中四五丈上。有一橋閣。危欄彩檻。立於空中。秀遠了不覺升之。坐於橋側。見橋上士女往還。衣裝不異世人。末有一嫗。年可三十。青襖白裳。行至秀遠而立。有頃。又一婦人純衣白布。偏環髻。持香花前。語秀遠曰。汝前身即我也。以此花供養佛故。得轉身作汝。復指青白嫗曰。此即復是我前身也。言殫而去。後指者亦漸隱。秀遠忽不覺還下之時。光亦尋滅。(出冥祥記)

葛濟之

葛濟之。句容人。稚川之後。妻同郡紀氏。體貌閑雅。有婦德。濟之世事神僊。紀亦慕而心樂佛法。常存誠不替。忽一旦方織。俄覺雲日開朗。空中清明。因投梭仰望四表。見西方有如來真形及寶蓋幢幡映天。心獨喜曰。經說無量壽(壽原本作受。據許本改。)者。即應此耶。便頭面作禮。乃引濟之。亦登時見半身及諸幡蓋。俄而隱沒。於是雲日鮮華。五色燭耀。鄉里備覩。移時方歇焉。(出冥祥記)

董青建

齊董青建者。不知何許人。父字賢明。建元初。為越騎校尉。初建母宋氏。孕建時。夢有人語云。爾必生男。體上當有青誌。可名為青建。及生如言。即名焉。有容止。美言笑。性理寬和。家人未嘗覩其慍色。見者咸異之。至年十四而州辟主簿。建元初。皇儲鎮樊漢。為水曹參軍。二年七月十六日寢疾。自云。不振濟。至十八日。臨盡起坐。謂母曰。罪盡福至。緣累永絕。願母自愛。不須憂念。因失聲大哭。聲盡而絕。將殯葬喪齋前。其夜靈語云。生死道乖。勿安齋前。自當有造像道人來迎喪者。明日。果有道人來。名曇順。即依靈語。向曇順說之。曇順曰。貧道住在南林寺。造丈八像垂成。賢子乃有此感應。寺西有少空地。可得安葬也。遂葬寺邊。三日。其母將親表十許人。墓東見建如生。云。願母割哀還去。建今還在寺住。母即止哭而還。舉家菜食長齋。至閏月十一日。賢明夢見建云。願父暫出東齋。賢明便香湯自浴。齋戒出東齋。至十四夜。於明中聞建喚聲。驚起。見建在齋前如生時。父問汝住在何處。建云。從亡來。住在練神宮中。滿百日。當得生忉利天。建不忍見父母兄弟哭泣傷慟。三七日禮諸佛菩薩。請四天王。故得暫還。願父母從今已後。勿復啼哭祭祠。阿母已發願求見建。不久當命終。即共建同生一處。父壽可得七十三。命終後。當三年受罪報。勤苦行道。可得免脫。問曰。汝從夜中來。那得有光明。

建曰。今與菩薩諸天同下。此其身光耳。又問曰。汝天上識誰。建曰。見王車騎。張吳興。外祖宋西河。建曰。非但此一門中生。從四十七年以來。至七死七生。已得四道果。先發七願。願生人間。故歷生死。從今永畢。得離七苦。建臨盡時。見七處生死。所以大哭者。與七家分別也。問云。汝皆生誰家。建曰。生江吏部。(部原作用。據法苑珠林五二改。)羊廣州。張吳興。王車騎。蕭吳興。梁給事。董越騎等家。唯此間生十七年。餘處止三五年耳。自今已後。毒厲歲多。宜勤修功德。建見世人死。多墮三塗。生天者少。勤精進。可得免度。發願生天。亦得相見。行脫差異。無相值期。又問云。汝母憂憶汝垂死。可令見汝否。建曰。不須相見。益懷煎苦耳。但依向言說之。諸天已去。不容久住。慘有悲色。忽然不見。去後竹林左右猶有香氣。家人亦並聞餘香焉。建云所生七家。江槩、羊希、張永、王玄宋(宋字疑是衍文。)謨、蕭惠明、梁季文也。賢明遂以出家。名法藏。(出法苑珠林)

齊竟陵王

齊竟陵王。崇信內典。得熱病。夜中垂死。夢見金像。手灌神湯。因遂平復。(出辯正論)

張逸

張逸為事至死。預造金像。朝夕祈命。臨刑。刀折而項不傷。官問故。答曰。唯以禮像為業。其像項有二刀痕如血。因得免死。(出感應傳)

釋僧護

高齊時。有釋僧護。守道直心。不求慧業。願造丈八石像。咸怪其言。後於寺北谷中。見一臥石。可長丈八。乃顧匠營造。向經一

周。面腹粗了。而背著地。以六具拘舉之。始初不動。經夜至旦。忽然自翻。即就營造。移置佛堂。晉州陷日。像汗流地。周兵入齊。燒諸佛寺。此像獨不變色。又欲倒之。大牛六十頭挽不動。忽有異僧。以瓦木土塹壘而圍之。尋失僧所在。像後降夢信心者曰。吾患指痛。其人寤而視焉。乃木傷其二指也。遂即補之。開皇十年。盜像幡蓋者。夢丈八人入室責之。賊大怖悔而謝焉。其像見在。(出法苑珠林)

僧澄空

隋開皇中。僧澄空。年甫二十。誓願於晉陽汾西鑄鐵像。高七十尺焉。鳩集金炭。經求用度。周二十年。物力乃辦。於是造報遐邇。大集賢愚。然後選日而寫像焉。及煙焰滅息。啟鑪之後。其像無成。澄空即深自咎責。稽首懺悔。復堅前約。再謀鑄造。精勤艱苦。又三十年。事費復備。則又復寫像焉。及啟鑄。其像又復無成。澄空於是呼天求哀。叩頭請罪。大加貶挫。深自勤勵。又二十年。功力復集。然後選日。復寫像焉。及期。澄空乃身登鑪巔。百尺懸絕。揚聲謂觀者曰。吾少發誓願。鑄寫大佛。今虛費積年。如或踵前。吾亦無面見大眾也。吾今俟其啟鑪。欲於金液而捨命焉。一以謝愆於諸佛。一以表誠於眾善。儻大像圓滿。後五十年。吾當為建重閣耳。時觀者萬眾。號泣諫止。而澄空殊不聽覽。俄而金液注射。赫耀踴躍。澄空於是揮手辭謝。投身如飛鳥而入焉。及開鑪。鐵像莊嚴端妙。毫髮皆備。自是并州之人。因起閣以覆之。而佛身洪大。功用極廣。自非殊力。無由而致。唐開元初。李暠為太原軍節度使。出游。因仰像歎曰。如此好相。而為風日所侵。痛哉。即施錢百萬緡。周歲之內。而重閣成就。至今北都謂之平等閣者是也。計僧死像成日至暠。正五十年矣。以佛法推之。則暠也得非澄空之後身歟。(出集異記)

釋慧偘

隋蔣州大歸善寺釋慧偘。曲阿人也。靈通幽顯。世莫識之。而翹敬尊像。事同真佛。每見立像。不敢輒坐。勸人造像。唯作坐者。後往嶺南。修禪法。大有悟解。住栖霞時。嘗往揚都謁偲法師。偲異禮接之。將還山。偲請現神力。偘即從窗中出臂。解齊熙寺佛殿上額。因語偲云。世人無遠識。見多驚異。故吾所不為耳。大業元年。終於大歸善寺。初偘終日。以三衣還眾僧。吾今死去。徒眾好住。便還房內。大眾驚起追之。乃見房中白骨一具。跏坐牀上。就而撼之。鏘然不散。(出法苑珠林)

釋道積

唐蒲州普濟寺釋道積。河東安邑縣人也。博通經教。洞明玄旨 。河東英俊。莫與同風。先是沙門寶澄於普濟寺創營大像百丈。功願未終而卒。耆艾請積繼之。積受眾勤請。廣行緣化。槐檀十遷。而大像成就。道俗慶賴。感徹人天。初積受請之夕。夢二獅子於大像側。連吐明珠。相續不絕。既寤歎曰。獸王自在。則表法流無滯。寶珠自涌。又喻檀施不窮。冥(冥原作宜。據法苑珠林六三改。)運潛符。徵效斯在。即命工匠 。圖所夢於彌勒大像前。今猶存焉。其寺在蒲坂之陽。高爽華敞。東臨州里。南望河山。像設三層。岩廊四合。上方下院。赫奕相臨。園碹田蔬。周環俯就。佛事隆盛。咸積之功焉。(出法苑珠林)

釋法誠

終南山悟真寺釋法誠。雍州萬年縣人。事沙門僧和為師。和亦鄉族之所推奉。嘗有人欲害和。夜詣門。見房內猛火。騰焰升帳。遂即追悔。誠奉佩訓勗。常誦法華。翹心奉行。朝夕無懈。夢感普賢。勸書大教。既悟。即入淨行道。重襯工匠 。令書八部般若。香臺寶軸。莊嚴成就。又於寺南橫嶺。造華嚴堂。鑿山堙塹。列棟連甍。前對重巒。右臨斜谷。吐納雲霧。下瞰煙虹。實奇觀也。弘文館學

士張孝靜者。善於書翰。誠乃請孝靜寫藏經。齋潔勤拳。大致感應。靈禽異獸。馴擾精廬。貞觀十四年。忽謂侍者曰。諸行無常。法緣有竭。九品往生。斯言驗矣。吾今去世。汝無憂惱。言畢。口光燭於楹。奄然而化。(出高僧傳)

太平廣記卷第一百一十五

報應十四(崇經像)

張法義
王弘之
崔義起妻
襄陽老姥
普賢社
李洽
王乙
鉗耳含光
席豫
裴休
牙將子

張法義

唐張法義。華州鄭縣人。年少貧野。不修禮度。貞觀十一年。入華山伐樹。見一僧坐巖穴中。法義就與語。晦冥不歸。僧因設松栢末。以供食之。謂法義曰。貧道久不欲外人知。檀越出。慎勿言相見。因為說俗人多罪累。死皆惡道。志心懺悔。可以滅之。乃令淨浴。被僧衣。為懺悔。旦而別去。十九年。法義病卒。埋於野外。貧無棺槨。以薪木瘞之而蘇。自推木出歸家。家人驚愕。法義自說。初有兩人來取。乘空行。至官府。入門。又巡巷南行十許里。左右皆有官曹。門閤相對。不可勝數。法義至一曹院。見官人遙責使者曰。是華州張法義也。本限三日至。何因乃淹七日。使者云。義家狗惡。兼有祝師。祝師見打甚苦。袒衣而背青腫。官曰。稽限過多。各與杖二十。言訖。杖亦畢。血流洒地。官曰。將法義過錄事。錄事署發文書。令送付判官。召主典。取法義前案。簿盈一牀。主典對法義前披檢云。其簿多先朱勾畢。有未勾者則錄之。曰。貞觀十一年。法義父使刈禾。法義反顧張目 。私罵父。不孝。合杖八十。始錄一條。即見昔巖穴中僧來。判官起迎。問何事。僧

曰。張法義是貧道弟子。其罪盡懺悔滅除訖。天曹案中已勾畢。今枉追來。不合死。主典云。經懺悔者。此案勾了。至如張目 罵父。雖蒙懺悔。事未勾了。僧曰。若不如此。當取案勘之。應有福利。仰判官。令典將法義過王宮。殿宇宏壯。侍衛數十人。僧亦隨至王所。王起迎僧。王曰。師當直來耶。答曰。未當次直。有弟子張法義被錄來。此人宿罪。並貧道勾訖。未合死。主典又以張目 視父事過王。王曰。張目 懺悔。此不合免。然師為來請。可放七日。法義白僧曰。日既不多。後來恐不見師。請即往隨師。師曰。七日七年也。可早去。法義固請隨。僧因請王筆。書法義掌中作一字。又請王印印之。曰。可急去還家。憑作福報。後來不見我。宜以掌印呈王。王自放汝也。法義乃辭出。僧令送出。至其家。內至黑。義不敢入。使者去之。遂活。覺在土中。甚輕薄。以手推排得出。因入山。就僧修福。義掌中所印處。文不可識。然皆為瘡。終莫能愈。至今尚存焉。(出法苑珠林)

王弘之

唐王弘之。貞觀中為沁州和川令。有女適博陵崔軌。於和川病卒。經數十日。其家忽於夜中聞崔語。初時傾家驚恐。其後乃以為常。云。軌是女壻。雖不合於妻家立靈。然而苦無所依。但為置立也。妻從其請。朝夕置食。不許置肉。唯要素食。恒勸禮佛。又具說地獄中事。云。人一生恒不免殺生及不孝。自餘之罪。蓋亦小耳。又云。軌雖無罪。然大資福助。為軌數設齋供。並寫法華、金剛、觀音等經。各三兩部。自茲已後。即不復來。王家一依其言。寫經設供。軌忽更來愧謝。因云。今即取別。舉家哭而送之。軌有遺腹之子。已年四五六歲。軌云。此子必有名官。願善養育。自此不復來矣。(出法苑珠林)

崔義起妻

唐司元少常伯崔義起。妻蕭氏。父文鏗。少不食葷茹酒肉。蕭氏以龍朔三年五月亡。其家為修初七齋。僧方食。其婢素玉忽云。夫人來語某曰。生時聞佛經說地獄。今身當之。苦不可言。賴男女等與我追福。蒙放暫歸。即向諸僧懺悔。欲去又云。我至二十日更來。將素玉看受罪。即如期。素玉便昏絕。三日乃蘇。云。初隨夫人到一大城中。有一別院。夫人所住。亦兼有湯鑊鐵牀來至。夫人尋被燒煮。酷毒難說。其夫人父文鏗忽乘雲在空呼曰。早放素玉迴。語素玉女曰。我女生時不受戒。故恣行貪嫉。汝歸。令崔郎多造功德。為拔此厄。又見一婆羅門僧從空中下。作梵語。教素玉念金剛、法華、藥師經各一遍。令去。既活。並不遺忘。有梵僧聽之。云。素玉所傳。如同西國語。與中國異也。(出報應記)

襄陽老姥

唐神龍年中。襄陽將鑄佛像。有一老姥至貧。營求助施。卒不能(能原作成。據明鈔本改。)得。姥有一錢。則為女時母所賜也。寶之六十餘年。及鑄像時。姥持所有。因發重願。投之爐中。及破爐出像。姥所施錢。著佛胷臆。因磨錯去之。一夕。錢又如故。僧徒驚異。錢至今存焉。乃知至誠發心。必有誠應。姥心至誠。故諸佛感之。令後人生希有此事也。(出紀聞)

普賢社

開元初。同州界有數百家。為東西普賢邑社。造普賢菩薩像。而每日設齋。東社邑家青衣。以齋日生子於其齋次。名之曰普賢。年至十八。任為愚豎。廝役之事。蓋所備嘗。後因設齋之日。此豎忽推普賢身像而坐其處。邑老觀者。咸用怒焉。既加詬罵。又苦鞭撻。普賢笑曰。吾以汝志心。故生此中。汝見真普賢不能加敬。而求此土像何益。於是忽變其質為普賢菩薩身。身黃金色。乘六牙象。空中飛去。放大光明。天花綵雲。五色相映。於是遂滅。邑老方悟賢

聖。大用驚慚。其西社為普賢邑齋者。僧徒方集。忽有婦人。懷妊垂產。云。見欲生子。因入菩薩堂中。人呵怒之。不可禁止。因產一男子。於座之前。既初產生。甚為汙穢。諸人不可提挈出。深用詬辱。忽失婦人所在。男變為普賢菩薩。光明照燭。相好端麗。其所汙穢。皆成香花。於是乘象騰空。稍稍而滅。諸父老自恨愚闇。不識普賢。刺眇其目 者十餘人。由是言之。菩薩變現。豈凡人能識。(出記聞)

李洽

山人李洽。自都入京。行至灞上。逢吏持帖。云。追洽。洽視帖。文字錯亂。不可復識。謂吏曰。帖書乃以狼籍。吏曰。此是閻羅王帖。洽聞之悲泣。請吏暫還。與家人別。吏與偕行過市。見諸肆中饋饌。吏視之久。洽問君欲食乎。曰。然。乃將錢一千。隨其所欲即買。止(止原作正。據明鈔本改。)得一味(味原作牀。據明鈔本改。)與吏食畢。甚悅。謂洽曰。今可速寫金光明經。或當得免。洽至家寫經畢。(畢字原本無。據明鈔本補。)別家人。與(與原作畢。據明鈔本改。)吏去。行數十里。至城。壁宇峻嚴。因問此為何城。吏云。安祿山作亂。所司恐賊越逸。故作此城以遏之。又問城主為誰。曰。是鄔元昌。洽素與城主有故。請為通之。元昌 召入。相見悲喜。須臾。有兵馬數十萬。至城而過。元昌 留洽坐。出門迎候。久之乃回。洽問此兵云何。曰。閻羅王往西京大安國寺也。既至寺。登百尺高座。王將簿閱云。此人新造金光明經。遂得延算。故未合死。元昌 歎羨良久。令人送回。因此得活。(出廣異記)

王乙

王乙者。自少恒持如意輪呪。開元初。徒侶三人。將適北河。有船夫求載乙等。不甚論錢直。云。正爾自行。故不計價。乙初不欲去。謂其徒曰。彼賤其價。是誘我也。得非苞藏禍心乎。舡人云。

所得資者。只以供酒肉之資。但因長者。得不滯行李爾。其徒信之。乃渡。仍市酒共飲。頻舉酒屬乙。乙屢聞空中言勿飲。心愈驚駭。因是有所疑。酒雖入口者。亦潛吐出。由是獨得不醉。洎夜秉燭。其徒悉已大鼾。乙慮有非道。默坐念呪。忽見舡人。持一大斧。刀長五六寸。從水倉中入。斷二奴頭。又斬二伴。次當至乙。乙伏地受死。其燭忽爾遂滅。乙被斫三斧。背後有門。久已釘塞。忽有二人。從門扶乙投水。岸下水深。又投於岸。血雖被體。而不甚痛。行十餘里。至一草舍。揚聲云。被賊刼。舍中人收乙入房。以為拒閉。及報縣。吏人引乙至刼所。見岸高數十丈。方知神呪(原本咒下有明字。據明鈔本刪。)之力。後五六日。汴州獲賊。問所以。云。燭光忽暗。便失王乙。不知所之。一瘡雖破。而不損骨。尋而平愈如故。此持如意輪呪之功也。(出廣異記)

鉗耳含光

竺山縣丞鉗耳含光者。其妻陸氏。死經半歲。含光秩滿。從家居竺山寺。有大墩。暇日登望。忽於墩側見陸氏。相見悲喜。問其死事。便爾北望。見一大城。云。所居在此。邀含光同去。入城。城中屋宇壯麗。與人間不殊。傍有一院。院內西行。有房數十間。陸氏處第三房。夫婦之情。不異平素。衣玩服具亦爾。久之日暮。謂含光曰。地府嚴切。君宜且還。後日可領兒子等來。欲有所囑。明日不煩來也。及翌日。含光又往。陸氏見之驚愕曰。戒卿勿來。何得復至。頃之。有緋衣吏。侍從數十人來入院。陸氏令含光入牀下。垂氈至地以障之。戒使勿視。恐主客有犯。俄聞外呼陸四娘。陸氏走出。含光初甚怖懼。後稍竊視。院中都有二十八婦人。緋衣各令解髻兩兩結。投釜中。冤楚之聲。聞乎數里。火滅乃去。陸氏徑走入房。含光見入。接手牀上。良久悶絕。既寤。含光問。平生齋菜誦經念佛。何以更受此苦。答云。昔欲終時。有僧見詣。令寫金光明經。當時許之。病亟草草。遂忘遺囑。坐是受妄語報。罹此

酷罰。所欲見兒子者。正為造金光明經。今君已見。無煩兒子也。含光還家。乃具向諸子說其事。悲泣終夕。及明往視。已不復見。但荒草耳。遂貨家產。得五百千。刺史已下。各有資助。滿二千貫文。乃令長子載往五臺寫經。至山中。遍歷諸臺。未有定居。尋而又上臺。山路之半。遇一老僧。謂之曰。寫經救母。何爾遲廻。留錢於臺。宜速還寫金剛經也。言訖不見。其子知是文殊菩薩。留錢而還。乃至舍寫經畢。上墩。又見地獄。因爾直入。遇閉門。乃扣之。門內問是誰。鉗耳贊府即云是我。(明鈔本無誰字我字。即作耶。)久之。有婦人出曰。貴閤令相謝。寫經之力。已得託生人間。千萬珍重。含光乃問。夫人何故居此。答云。罪狀頗同。故復在此爾。(出廣異記)

席豫

唐開元初。席豫以監察御史。按覆河西。去河西兩驛。下食。求羊肝不得。撻主驛吏。外白肝至。見肝在盤中搖動不息。豫顰蹙良久。令持去。乃取一絹。為羊鑄佛。半日許。豫暴卒。隨吏見(見原作問。據明鈔本改。)王。王曰。殺生有道。何故生取其肝。獨能忍乎。豫云。初雖求肝。肝至見動。實不敢食。言訖。見一小佛從雲飛下。王起頂禮。佛言如豫所陳。王謂羊曰。他不食汝肝。今欲如何。尋放豫還也。(出廣異記)

裴休

唐開成元年。宰相裴休。留心釋氏。精於禪律。師圭峯密禪師。得達摩頓間密師注法界觀禪詮。皆相國撰文序。常被毳衲。於歌妓院中。持鉢乞食。自言曰。不為俗情所染。可以說法為人。每自發願。願世世為國王。弘護佛法。後於闐國王生一子。手文中有裴休二字。聞於中朝。其子弟請迎之。彼國不允而止。(出北夢瑣言)

牙將子

唐東蜀大聖院有木像。製度瓌異。耆老相傳云。頃自荊湘泝流而上。歷歸峽等郡。郡人具舟楫取之。千夫牽挽。不至岸。至渝。州人焚香祈請。應聲而往。郡守及百姓。遂搆大聖院安置之。東川有牙將者。其子常瘖。忽一日畫地。告其父曰。某宿障深重。被茲業病。聞大聖院神通。欲舍身出家。依止供養。冀消除罪根耳。父許之。由是虔潔焚修。夙夜無怠。經數載。倏爾能言。抗音清辯。超於羣輩。復有跛童子者。覩茲奇異。發願於大聖院終身苦行。懺悔求福。未逾朞歲。忽能起行。筋骨自伸。步驟無礙。事悉具本院碑。殿有東廡。見有瘖僧跛童子二畫像並存焉。(出報應錄)

太平廣記卷第一百一十六

報應十五

謝晦
尼智通
王襲之
周宗
沈僧復
僧道志
唐文伯
崔平業
王鎮惡
郭祖深
衛元宗
姜勝生
傅奕
并州人
薛孤訓
嵩州縣令
丁零
唐武宗
王義逸
贅肉
西明寺
明相寺
僧義孚
開照寺盜
僧紹明
潼江軍

謝晦

宋尚書謝晦為荊州刺史。謂塔寺不宜在人間。當移之郭外。乃自率部下至新寺門。遣隊士八十。持刀斧。毀壞浮圖。尊像縱橫。瓦木傾墜。俄而雲霧暗天。風塵勃起。晦冥即怖走。隊人驚散。莫知所以。晦等夜夢。咸見沙門。飛騰空中。光明顯赫。又見二人。形悉

丈餘。容姿甚偉。厲聲嗔曰。所行反道。尋當自知。其後隊人滿(明鈔本滿作史雙二字。)身著癩疾。經時而死。餘人竝犯法就終。謝晦連年患瘠病。後因謀叛。合家被誅。皆非命而卒。(出辨正論)

尼智通

宋尼智通。京師簡靜尼也。年貌殊少。信道不篤。元嘉九年。師死罷道。嫁為魏郡梁甫妾。生一男。年七歲。家甚貧窮。無以為衣。智通為尼時。有數卷素無量壽法華等經。悉練擣之。以衣其兒。居一年而得病。恍惚驚悸。肌體壞爛。狀若火瘡。有細白蟲。日去升餘。慘痛煩毒。晝夜號叫。常聞空中語云。壞經為衣。得此報也。旬餘而死。(出冥祥記)

王襲之

宋吳興太守琅琊王襲之。有學問。愛老莊而不信佛。唯事宰殺。初為晉西省郎中。性好賓客。於內省前養一雙鵝。甚愛翫之。夜忽夢鵝口(口原本作曰。據明鈔本改。)銜一卷經。可十紙許。取看皆說罪福之事。明旦果見。乃是佛經。因是不敢宰殺。篤信過人。(出辨正論)

周宗

周宗者。廣陵郡人也。宋元嘉七年。隨到彥之北伐。王師失利。與同邑六人逃竄。間行於彭城北。遇一空寺。無有僧徒。中有形像。以水晶為相。因共竊取之。乃出村貸食。其一人羸病。等輩皆輕之。獨不得分與。既而各還家。三四年中。宗等五人。相繼病癩而死。不得分者獨獲免。(出冥祥記)

沈僧復

宋吳興沈僧復。大明末。本土飢荒。逐食至山陽。晝入村野乞食。夜還寄寓寺舍左右。時山陽諸小形銅像甚眾。僧復與其鄉里數人。積漸竊取。遂囊篋數四悉滿。復因將還家。共鑄為錢。事既發覺。執送出都。入舡便云。見人以火燒之。晝夜叫呼。自稱楚毒不可忍。未及刑坐而死。舉體皆拆裂。狀如火燒。吳郡朱亨。親識僧復。具見其事。(出冥祥記)

僧道志

宋沙門僧道志者。北多寶僧也。嘗為眾僧令知殿塔。自竊幡蓋等寶餚。所取甚眾。後遂偷像眉間珠相。既而開穿垣壁。若外盜者。故僧眾不能覺也。積旬餘而得病。便見異人。以戈矛刺之。時來時去。輒驚叫。應聲流血。初猶日中一兩如此。其後病甚。刺者稍數。瘡痍變遍體。呻呼不能聲。同寺僧眾。頗疑其有罪。欲為懺謝。始問。猶諱而不言。將盡二三日。乃具自陳列。泣涕請救曰。吾愚悖不通。謂無幽途。失意作罪。招此殃酷。生受楚拷。死嬰刀鑊。已糜之身。唯垂哀恕。今無復餘物。唯衣被氈履。或足充一會。并頻請願。具為懺悔者。偷像相珠有二枚。一枚已屬嫗人。不可復得。一以質錢。在陳昭家。令贖取。道志既死。諸僧合集。贖得相珠。并設齋懺。初工人復相珠時。展轉迴趣。終不安合。眾僧復為禮拜燒香。乃得著焉。年餘。而同學等於昏夜間。聞空中有語。詳聽即道志聲也。自說云。自死已來。備嬰痛毒。方累年劫。未有出期。賴蒙眾僧哀憐救護。贖像相珠。故苦酷之中。時有間息。感恩無已。故暫來稱謝。言此而已。聞其語時。腥腐臭氣。苦痛難過。言終久之。乃稍歇。(出冥祥記)

唐文伯

宋唐文伯。東海贛榆人也。弟好蒱博。家資都盡。村中有寺。經過人或以錢上佛。弟屢竊取。後病癩。卜 者云。祟由盜佛錢。父怒

曰。佛是何神。乃令我兒致此。吾當試更虜奪。若復能病。可也。前縣令何欣之婦。上織成寶蓋帶四枚。乃盜取為腰帶。不百日。復得惡病。發瘡之始。起腰帶處。(出冥祥記)

崔平業

梁人崔平業者。善弓馬。為武士監軍。一生以偷佛鎔銅為業。賣銅以供酒肉。心無慚懼。年五十。妻子兄弟竝死。業一身忽病目障。飢寒竝至。餓死。(出辨正論)

王鎮惡

梁人進(辯正論注八進作道。)士王鎮惡。有學問而無善心。出言多所非毀。亦為時人所嫌。輕慢佛法。見僧必侮誚。後以教學為業。時有鹿溪寺僧法滿寄銅鐘一口於其學內。未取之間。鎮惡盜以鑄錢。後與僧法滿對誓。經年重病。而舌彎縮。口不得言。既知負誓。乃舍資鑄鐘贖罪。至死。口不得言。(出王氏戒)

郭祖深

梁人郭祖深。上梁武一十八條事。請廢郭內小寺及無業僧尼。梁武不納。後夢見神唾之。遂病癩。雖悔不差。(出辨正論)

衛元宗

衛元宗毀法之後。身著熱風。委頓而死。(出辨正論)

姜勝生

冀州故觀城人姜勝生。唐武德末年。忽遇惡疾。遂入蒙山醫療。積年不損。後始還家。身體瘡爛。手足指落。夜眠。忽夢見一白石像。可長三尺許。謂之曰。但為我續手。令爾即差。至旦。忽憶於

武德初年。在黍地裏打雀。於故村佛室中。取維摩經裂破。用繫杖頭嚇雀。有人見者云。盜裂經大罪。勝生反更惡罵。遂入堂中。打白石像右手落。夢中所見。宛然舊像。遂往佛前。頭面作禮。盡心悔過。顧匠續其像手。造經四十卷。營一精舍。一年之內。病得痊。鄉人號為聖像。(出冥報記。明鈔本作出冥報拾遺記)

傅奕

唐太史令傅奕。本太原人。隋末。徙至扶風。少好博學。善天文曆數。聰辯。能劇談。自武德貞觀中。嘗為太史令。性不信佛法。每輕僧尼。至以石像為塼瓦之用。貞觀十四年秋。暴病卒。初奕與同伴傅仁均。薛頤。竝為太史令。頤先負仁均錢五千。未償而仁均死。後頤夢見仁均。言語如平常。頤因問曰。先所負錢。當付誰人。仁均曰。可以付泥犂人。問是誰。答曰。太史令傅奕是也。既而寤。是日夜。少府監馮長命又夢己在一處。多見先亡人。長命問經文說罪福之報。未知審定有否。答曰。皆悉有之。又問如傅奕者。生平不信。死受何報。答曰。罪福定有。然傅奕已配越州為泥犂矣。(出地獄苦記)

并州人

并州有人解畫。曾陷北虜。突厥可汗遣畫佛像。此人時偷彩色。恐被搜獲。紙裹塞鼻中。鼻中血出數升。此人後為僧。唐貞觀中。於山東住寺。漸漸患鼻。二三年。後鼻中生肉。甚大如桃。膿血狼藉。酸疼不已。後請僧靈顗懺悔。病亦不愈。十年始亡。靈顗嘗住慈恩寺。說其事。(出廣古今五行記)

薛孤訓

唐貞觀二十年。征龜茲。有薛孤訓者。為行軍倉曹。軍及屠龜茲後。乃於精舍剝佛面金。旬日之間。眉毛盡落。還至伊州。乃於佛

前悔過。以所得金皆為造功德。未幾。眉毛復生。(出冥祥記)

嵩州縣令

唐貞觀中。有人任嵩州一縣令。往高昌 。於寺得一真珠像。至京師。諸大寺欲與千貫錢買之。不肯。遂毀破。賣得一千三百貫。後月餘患腫。寤寐之間。見一僧云。何因毀壞尊像。遂遣人拔其舌。長尺餘。苦痛呻吟。數日而死。德安縣令薛逵備知此事。(出冥祥記。明鈔本作出廣古今五行記)

丁零

相州鄴城中。有丈六銅立像一軀。賊丁零者。志性兇悖。無有信心。乃彎弓射像。箭中像面。血下交流。雖加瑩飾。血痕猶在。又選五百力士。令挽仆地。消鑄為銅。擬充器用。乃口發大聲。響烈雷震。力士亡魂喪膽。人皆仆地。迷悶宛轉。怖不能起。由是賊侶慙惶。歸信者眾。丁零後時著疾。被誅乃死。(出宣驗記)

唐武宗

長安城北有古塚。高十數丈。傳云周穆王陵也。唐會昌六年。正月十五日。有人夜行至陵下。聞人語於林間。意其盜也。因匿於草莽中伺焉。俄有人自空而來。朱衣執版。宣曰。塚尉何在。二吏出曰。在位。因曰。錄西海君使者。何時當至。吏曰。計程十八日方來。朱衣曰。何稽。對曰。李某(武宗名)坐毀聖教。減一紀算。當與西海君同日錄其魂。忽有賈客鈴聲自東來。朱衣與二吏俱不復見。後數月。帝果晏駕。帝英毅有斷。勤於庶政。至如迎貴主以破羌族。復內地而殲狡穴。武功震耀。肅憲之次也。然金人之教。不可厚誣。則秦時焚書坑儒。後華山中有告祖龍之死者。事不謬矣。(出傳神錄。明鈔本作出傳記補錄)

王義逸

唐會昌中。有王義逸者。護鳳翔軍。值武宗斥毀佛剎。義逸以家財易諸瓦木。取其精者。遂大營市邸。并治其第。為岐下之甲焉。居三年。一日有小吏入告。有不便事。且泣曰。某適方就室假寐。有紫衣人招入一朱戶。則類將軍之第也。見絲竹綺羅。賓客列坐滿堂。獨無將軍。紫衣人指堦下一徑曰。此路可見公主人。因北趨。見荊棘滿地。其路纔可容人。步至低屋。排戶而入。見將軍臥於牀上。繫其手足。有人持火至。方爇其髮。因出涕言曰。吾不幸。生好賈販僧寺材礎。以貪其利。今縶於此。後三日當死。君歸為我告其家。速毀邸第。以歸佛寺。不可輒留。既而焰熾。不能盡言。義逸怒而叱之。明日。果腦發癰。三日而卒。(出傳記附錄。明鈔本作出傳記補錄。)

贅肉

釋氏因果。時有報應。近歲有一男子。既貧且賤。於上吻忽生一片贅肉。如展兩手許大。下覆其口。形狀醜異。殆不可言。其人每飢渴。則揭贅肉以就飲啜。頗甚苦楚。或問其所因。則曰。少年無賴。曾在軍伍。常於佛寺安下。同火共刲一羊。分得少肉。旁有一佛像。上吻間可置之。不數日嬰疾。遂生此贅肉焉。(出玉堂閒話)

西明寺

長安城西明寺鐘。寇亂之後。緇徒流離。闃其寺者數年。有貧民利其銅。袖鎚鑿往竊鑿之。日獲一二斤。鬻於閻閻。如是經年。人皆知之。官吏不禁。後其家忽失所在。市銅者亦訝其不來。後官欲徙其鐘於別寺。見寺鐘平墮在閣上。及仆之。見盜鐘者抱鎚鑿。儼然坐於其間。即已乾枯矣。(出玉堂閒話)

明相寺

鳳州城南有明相寺。佛數尊。皆飾以金焉。亂罹之後。有貧民刮金。鬻而自給。迨至時寧。金彩已盡。於是遍身生癬。癢不可忍。常須以物自刮。皮盡至肉 。肉盡至骨而死焉。毀佛之咎。昭報如此。(出冥祥記)

僧義孚

僧義孚。青社人。解琴。寓於江陵龍興寺。行止詭譎。府主優容之。俾齎錢帛。詣西川寫藏經。或有人偷竊社戶所造藏經出貨。義孚以廉價贖之。其羨財遂為所有。一旦發覺。賣經者斃於枯木下。此僧雖免罪。未久得疾。兩唇反引。有似驢口。其熱痛不可忍也。人皆畏見。苦楚備極而死。同寺有數輩。販鬻經像。懼而捨財。修功德。以孚為鑒戒。(出冥報記。明鈔本作出北夢瑣言)

開照寺盜

偽蜀金堂縣三學山開照寺。夜群寇入寺。刼掠緇徒罄盡。寺元有釋迦藕絲袈裟。為千載之異物也。賊曹分取。與其妻拆而易之。夫妻當時。手指節節墮落。鬚鬢俱墜。尋事敗。戮於市。(出儆戒錄)

僧紹明

偽蜀大慈寺賜紫慈昭大師紹明。主持文殊閣。常教化錢物。稱供養菩薩聖像。積有星歲。所獲太半入己。後染病。恒見火燒頂至足。周而復始。不勝其苦。悔過懺謝。唱施衣。竟不獲免。(出儆戒錄)

潼江軍

偽蜀潼江。起軍攻取閬州。兵火燒刼。閭里蕩盡。佛寺有一大鐘在地。有一卒運大石擊鐘。令碎而鬻之。鐘破裂流迸。正中卒脛。雙折而死。(出儆戒錄)

太平廣記卷第一百一十七

報應十六(陰德)

孫叔敖
崔敬嗣
裴度
劉軻
劉弘敬
蕭倣
孫泰
李質
范明府
程彥賓

孫叔敖

楚孫叔敖為兒。出遊還。憂而不食。母問其故。泣曰。見兩頭虵。恐死。母曰。今虵安在。曰。敖聞見兩頭虵者死。恐後人又見。殺而埋之矣。母曰。無憂矣。聞有陰德。天報之福。(出賈子)

崔敬嗣

唐崔敬嗣為房州刺史。中宗安置在房州。官吏多無禮。敬嗣獨申禮敬。供給豐贍。中宗常德之。及登位。有益州長史崔敬嗣。既同名姓。每進擬官。皆御筆超拜之者數四。後引與語。知誤。訪敬嗣已卒。遣安石授其子注官。後官至顯達。其孫即光遠也。(出譚賓錄)

裴度

唐中書令晉國公裴度。質狀眇小。相不入貴。屢屈名場。頗亦自惑。會有相工在洛中。大為搢紳所神。公特造之。問命。相工曰。郎君形神。稍異於人。不入相。若不至貴。即當餓死。今則殊未見貴處。可別日垂訪。為君細看。公然之。他日出遊香山寺。徘徊于

廊廡間。忽見一素衣婦人。致緹褶於僧伽欄楯之上。祈祝良久。瞻拜而去。少頃。度方見緹褶在舊處。知其遺忘也。又料追付不及。遂收取。以待婦人再至。日暮竟不至。度挈歸逆旅。詰旦。復攜往。寺門始闢。覩昨日婦人。疾趨而至。憮聲惋歎。若有非橫。度從而問之。婦人曰。阿父無罪被繫。昨貴人假得玉帶二犀帶一。直千餘緡。以賂津要。不幸失去於此。今老父不測之禍。無所逃矣。度憮然。復細詰其物色。因而授之。婦人拜泣。請留其一。度笑而遣之。尋詣昔相者。相者審度。聲色頓異。驚歎曰。此必有陰德及物。前途萬里。非某所知也。度因以前事告之。度果位極人臣。(出摭言)

劉軻

唐侍御劉軻者。韶右人也。幼之羅浮九疑。讀黃老書。欲學輕舉之道。又於曹溪探釋氏關戒。遂被僧服。故釋名海納。北之筠川方山等寺。又居廬嶽東林寺。習南山鈔及百法論。咸得宗旨焉。獨處一室。數夢一人衣短褐曰。我書生也。頃因遊學。逝於此室。以主寺僧不聞郡邑。乃瘞於牖下。而屍骸跼促。死者從真。何以安也。君能遷葬。必有酬謝。乃訪于緇屬。果然。劉解所著之衣。覆其骸骼。具棺改窆於虎溪之上。是夜夢書生來謝。將三雞子。勸軻立食之。軻嚼一而吞其二焉。後乃精於儒學。而善屬文章。因策名第。歷任史館。欲書夢中之事。不可自為傳記。吏部侍郎韓愈素知焉。曰。待余餘暇。當為一文贊焉。愈左遷。其文不就也。(出雲溪友議)

劉弘敬

唐彭城劉弘敬。字元溥。世居淮淝間。資財數百萬。常修德不耀。人莫知之。家雖富。利人之財不及怨。施人之惠不望報。長慶初。有善相人。於壽春道逢元溥曰。噫。君子且止。吾有告也。元溥乃延入館而訊焉。曰。君財甚豐矣。然更二三年。大期將至。如何。

元溥涕泗曰。夫壽夭者天也。先生其奈我何。相人曰。夫相不及德。德不及度量。君雖不壽。而德且厚。至於度量尤寬。且告後事。但二三年之期。勤修令德。冀或延之。夫一德可以消百災。猶享爵祿。而況於壽乎。勉而圖之。吾三載當復此來。言訖而去。元溥流涕送之。乃為身後之計。有女將適。抵維揚。求女奴資行。用錢八十萬。得四人焉。內一人方蘭蓀者。有殊色。而風骨姿態。殊不類賤流。元溥詰其情。久而乃對曰。賤妾死罪。無復敢言。主君既深訝之。何敢潛隱。某代為名家。家本河洛。先父以卑官淮西。不幸遭吳寇跋扈。因緣姓與國(國原作寇。據明鈔本改。)同。疑為近屬。身委鋒刃。家仍沒官。以此湮沈。無處告訴。其諸骨肉。寇平之後。悉被官軍收勘為俘。不可復知矣。賤妾一身再易其主。今及此焉。元溥太息久之。乃言曰。夫履雖新不加於首。冠雖舊不踐於地。雖家族喪亡。且衣冠之女。而又抱冤如此。三尺童子。猶能發憤。況丈夫耶。今我若不振雪爾冤。是為神明之誅焉。因問其親戚。知其外氏劉也。遂焚其券。收為甥。以家財五十萬。先其女而嫁之。長慶二年。春三月辛卯。蘭蓀既歸。元溥夢見一人。被青衣秉簡。望塵而拜。迫之潸然曰。余則蘭蓀之父也。感君之恩。何以報之。某聞陰德所以動天地也。今君壽限將盡。余當為君請于上帝。故奉告。言訖乃去。後三日。元溥復夢蘭蓀之父立於庭。紫衣象簡。侍衛甚嚴。前謝元溥曰。余不佞。幸得請君於帝。帝許我延君壽二十五載。而富及三代。子孫無復後禍。其所殘害吾家者。悉獲案理之。存者禍身。沒者子孫受戮。帝又憫余之冤。署以重職。獲主山川於淮海之間。因嗚咽再拜而去。詰旦。元溥依依。未所甚信。後三年。果相者復至。迎而賀元溥曰。君壽延矣。且君自眉至髮而視之。元溥側冠露額。曰。噫。有陰德上動於天者。自今後二十五載。慶及三代。元溥始以蘭蓀之父為告。相者曰。昔韓子陰存趙氏。太史公以韓氏十世而位至王侯者。有陰德故也。況蘭蓀之家

無後矣。蘭蓀之身賤隸矣。如是而能不顧多財之與殊色。而恤其孤。豈不謂陰德之厚哉。(出陰德傳)

蕭倣

唐丞相蘭陵公蕭倣。清譽儉德。時所推伏。嘗統戎於番禺。有酌泉投香之譽。以是夷估輻湊。至於長安寶貨藥肆。咸豐衍於南方之物。由此人情歸美。僖宗誕聖於壬午。龍飛於癸巳。皇算十有二載矣。思命耆德。佐佑大化。乃自奉常卿起為上相。時年八十有三。居台席數載。汲引才俊。導暢皇慈。儉德既彰。澆風少革。及薨於位。上甚追悼。而廢常朝者三日。冊贈之禮。有加等焉。議者曰。高位重祿。苟有其分。陰靈必助其壽考。不然。安有過懸車之歲。而命相之主始生也。太公晚年七十而遇文王。今逾釣渭之年一紀。則知榮辱之分。豈偶然哉。(出唐闕史)

孫泰

唐孫泰。山陽人。少師皇甫謐守操頗有古賢之風。泰妻即姨女也。先是姨老。以二女為託曰。其長者損一目 。汝可娶其女弟。姨卒。泰娶其姊。(姊原作娣。據唐摭言改。)或詰之。泰曰。其人有廢疾。非泰何適。眾皆伏泰之義。嘗於都市。遇鐵燈臺市之。而命磨洗。即銀也。泰亟往還之。中和中。將家于義興。置一別墅。用緡二百千。既半授之矣。泰遊吳興郡。約迴日當詣所止。居兩月。泰迴。倚舟墅前。復以餘資授之。俾其人他徙。於時覩一老嫗。長慟數聲。泰驚悸。召詰之。嫗曰。老婦嘗迨事舅姑於此。子孫不肖 。為他人所有。故悲耳。泰憮然久之。因紿曰。吾適得京書。已別除官。固不可駐此也。所居且命爾子掌之。言訖。解維而逝。不復返矣。子展。進士及第。入梁為省郎。(出摭言)

李質

唐咸通中。吉州牙將李質。得疾將死忽夢入冥。見主吏曰。嘗出七人性命。合延十四年。吏執簿書。以取上命。久之。出謂質曰。事畢矣。遂命使者領送還家。至一高山。推落乃寤。質潛志其事。自是疾漸平愈。後果十四年而終。(出報應錄)

范明府

唐范明府者。忘其名。頗曉術數。選授江南一縣宰。自課其命云。來年秋。祿壽俱盡。將出京。又訪于日者。日者曰。子來年七月數盡。胡為遠官哉。范曰。某固知之。一女未嫁。利薄俸以資遣耳。及之任。買得一婢子。因詰其姓氏。婢子曰。姓張。父嘗為某堰官。兵寇之亂。略賣至此。范驚起。問其父名。乃曩昔之交契也。謂其妻曰。某女不憂不嫁。悉以女粧奩。擇邑客謹善者配之。秩滿歸京。日者大駭曰。子前何相紿之甚。算子祿壽俱盡。今乃無恙。非甲子差繆。即當有陰德為報耳。范曰。俱無之。日者詰問不已。范以嫁女僕事告之。日者曰。此即是矣。子之福壽。未可量也。後歷官數任而終。(出報應錄)

程彥賓

偽蜀羅城使程彥賓。臨淄人也。攻取遂寧。躬率百夫。直冒矢石。城破。獲處女三人。蔚有姿容。彥賓以別室處之。浹旬間。父母持金請贖。公還金歸女。告以全人。父母泣而謝曰。願公早建旄節。彥賓笑而答曰。吾所願壽終時無病耳。後年踰耳順。果無疾而終。(出儆戒錄)

太平廣記卷第一百一十八

報應十七(異類)

漢武帝
東方朔
毛寶
孔愉
宗叔林
桓邈
劉樞
蔡喜夫
劉沼
劉之亨
嚴泰
程靈詵
韋丹
熊慎
王行思
陳弘泰

漢武帝

昆明池。漢武帝鑿之。習水戰。中有靈沼神池。云。堯時洪水。停船此池。池通白鹿原。人釣魚於原。綸絕而去。魚夢於武帝。求去其鉤。明日。帝遊戲於池。見大魚銜索。曰。豈非昨所夢乎。取魚去鉤而放之。帝後得明珠。(出三秦記)

東方朔

漢武帝宴於未央。方嗽黍[榷- 木+月] 。忽聞人語云。老臣冒死目訴。不見其形。尋覓良久。梁上見一老翁。長八九寸。面目 赧皺。鬚髮皓白。拄杖僂步。篤老之極。帝問曰。叟姓字何。居在何處。何所病苦。而來訴朕。翁緣柱而下。放杖稽首。嘿而不言。因仰頭視屋。俯指帝脚。忽然不見。帝駭愕。不知何等。乃曰。東方朔必

識之。於是召方朔以告。朔曰。其名為藻。水木之精。夏巢幽林。冬潛深河。陛下頃日。頻興造宮室。斬伐其居。故來訴耳。仰頭看屋。而復俯指陛下脚者。足也。願陛下宮室足于此。帝感之。既而息役。幸瓠子河。聞水底有弦歌聲。前梁上翁及年少數人。絳衣素帶。纓佩甚鮮。皆長八九寸。有一人長尺餘。淩波而出。衣不霑濡。或有挾樂器者。帝方食。為之輟膳。命列坐於食案前。帝問曰。聞水底奏樂。為是君耶。老翁對曰。老臣前昧死歸訴。幸蒙陛下天地之施。即息斧斤。得全其居。不勝歡喜。故私相慶樂耳。帝曰。可得奏樂否。曰。故齎樂來。安敢不奏。其最長人便弦而歌。歌曰。天地德兮垂至仁。愍幽魄兮停斧斤。保窟宅兮庇微身。願天子兮壽萬春。歌聲小大。無異於人。清徹繞越梁棟。又二人鳴管撫節。調契聲諧。帝歡悅。舉觴並勸曰。不德不足當雅貺。老翁等並起拜受爵。各飲數升不醉。獻帝一紫螺殼。中有物。狀如牛脂。帝問曰。朕闇無以識此物。曰。東方生知之耳。帝曰。可更以珍異見貽。老翁顧命取洞穴之寶。一人受命。下沒淵底。倏忽還到。得一大珠。徑數寸。明耀絕世。帝甚愛翫。翁等忽然而隱。帝問朔。紫螺殼中何物。朔曰。是蛟龍髓。以傅面。令人好顏色。又女子在孕。產之必易。會後宮產難者。試之。殊有神效。帝以脂塗面。便悅澤。又曰。何以此珠名洞穴珠。朔曰。河底有一穴。深數百丈。中有赤蚌。蚌生珠。故以名焉。帝既深歎此事。又服朔之奇識。(出幽明錄)

毛寶

晉咸康中。豫州刺史毛寶戍邾城。有一軍人。於武昌市買得一白龜。長四五寸。置甕中養之。漸大。放江中。後邾城遭石氏敗。赴江者莫不沈溺。所養人被甲入水中。覺如墮一石上。須臾視之。乃是先放白龜。既得至岸。迴顧而去。(出幽明錄)

孔愉

孔愉嘗至吳興餘不亭。見人籠龜於路。愉買而放之。至水。反顧視愉。及封此亭侯而鑄印。龜首回屈。三鑄不正。有似昔龜之顧。靈德感應如此。愉悟。乃取而佩焉。(出會稽先賢傳)

宗叔林

晉陽守宗叔林。得十頭龜。付廚曰。每日以二頭作[榷- 木+月] 。其夜夢十丈夫。皁衣袴褶。扣頭求哀。明夜。復夢八人求命。方悟。乃放之。後夢八人來謝。(出夢雋)

桓邈

桓邈為汝南。郡人齎四烏鴨作禮。大兒夢四烏衣人請命。覺。忽見鴨將殺。遂救之。買肉以代。還夢四人來謝而去。(出夢雋)

劉樞

宋文帝元嘉三年春。彭城劉樞。字正一。自江陵歸鄂下。宿上明洲。時夜月微明。吟宴次。忽二人扣舟。高呼正一。云。我自鄂下來。要見正一。樞引首望之。于岸下見二人。各長五尺餘。容貌華飾皆白服。便出與語。乃語樞曰。久欲奉謁。今會良時。樞曰。卿自鄂下來。有何相謂。一人曰。聞君儒者也。故修謁耳。遂與同宴。夜闌。二人俱醉。於飲處便臥。樞甚異之。及左右。皆相目 不敢言。乃以被覆之。及明尚寢。欲喚。因舉被。見二魚各長五六尺。眼雖動而甚困矣。不敢殺。乃舁致江中。是夕。樞夢二人衣白衣。各執一珠。放樞臥前。不語而去。及曉。枕前二珠各徑寸。乃是雙白魚也。(出三吳記)

蔡喜夫

宋景平中。東陽大水。永康蔡喜夫。避住南壟。夜有大鼠。浮水而來。伏喜夫奴牀角。奴愍而不犯。每以飯與之。水勢既退。喜夫得返故居。鼠以前脚捧青囊。囊有三寸許珠。留置奴牀前。啾啾狀如欲語也。(出異苑)

劉沼

秣陵令中山劉沼。梁天監三年。為建康監。與門生作食次。竈裏得一龜。長尺許。在灰中。了不以燔炙為弊。劉為設齋會。放之於婁湖。劉俄遷秣陵令。(出續異記)

劉之亨

梁劉之亨仕南郡。嘗夢二人姓李。詣之亨乞命。之亨不解其意。既明。有人遺生鯉兩頭。之亨曰。必夢中所感。乃放之。其夕夢二人謝恩云。當令君延一算。(出渚宮舊事)

嚴泰

陳宣帝時。揚州人嚴泰。江行逢漁舟。問之。云。有龜五十頭。泰用錢五千贖放之。(放之原作之放。據明鈔本改。)行數十步。漁舟乃覆。其夕。有烏衣五十人。扣泰門。謂其父母曰。賢郎附錢五千。可領之。緡皆濡濕。父母雖受錢。怪其無由。及泰歸問。乃說贖龜之異。因以其居為寺。里人號曰嚴法寺。(出獨異志)

程靈銑

歙州歙縣黃墩湖。其湖有蜃。(蛟蜃之蜃也。)常為呂湖蜃所鬬。湖之近村有程靈銑者。卓越不羈。好勇而善射。夢蜃化為道士。告之曰。吾甚為呂湖蜃所厄。明日又來。君能助吾。必厚報。靈銑遂問。何以自別。道人曰。束白練者吾也。既異之。明日與村人少

年。皷噪于湖邊。須臾。波濤湧激。聲若雷霆。見二牛相馳。其一甚困。而腹肚皆白。靈銑彎弓射之。正中後蜃。俄而水變為血。不知所之。其傷蜃遂歸呂湖。未到而斃。後人名其死處為蜃灘。呂湖亦從此漸漲塞。今纔餘尋丈之廣。居歲餘。靈銑偶出。有一道人詣其母求食。食訖曰。勞母設食。無以報之。今貧窶到此。當為求善墓地。使母隨行上山。以白石識其地。曰。葬此可以暴貴矣。尋而靈銑還。母語之。靈銑馳求之。了無所見。遂遷葬于其所。後侯景作亂。率郡鄉萬餘眾。保據新安。遂隨陳武帝平賊。累有奇功。軍中謂之程虎。及陳武受梁禪。靈銑以佐命功臣。與周文昱、侯安都為三傑。如漢之蕭張焉。後官止丹陽尹。按靈銑宅湖東二里。宅南有楮樹。其大數十圍。樹有靈。今村人數有祈禱。其祝辭號為千年樹。其墓在湖西北黃牢山下。故檢校刑部郎中程皓。即其後也。(出歙州圖經)

韋丹

唐江西觀察使韋丹。年近四十。舉五經未得。嘗乘蹇驢。至洛陽中橋。見漁者得一黿。長數尺。置于橋上。呼呻餘喘。須臾將死。群萃觀者。皆欲買而烹之。丹獨憫然。問其直幾何。漁曰。得二千則鬻之。是時天正寒。韋衫襖袴。無可當者。乃以所乘劣衛易之。既獲。遂放於水中。徒行而去。時有胡蘆先生。不知何所從來。行止迂怪。占事如神。後數日。韋因問命。胡蘆先生倒屣迎門。欣然謂韋曰。翹望數日。何來晚也。韋曰。此來求謁。先生曰。我友人元長史。談君美不容口。誠託求識君子。便可偕行。韋良久思量。知聞間無此官族。因曰。先生誤。但為某決窮途。胡蘆曰。我焉知。君之福壽。非我所知。元公即吾師也。往當自詳之。相與策杖至通利坊。靜曲幽巷。見一小門。胡蘆先生即扣之。食頃。而有應門者開門延入。數十步。復入一板門。又十餘步。乃見大門。製度宏麗。擬於公侯之家。復有丫鬟數人。皆及姝美。先出迎客。陳設鮮

華。異香滿室。俄而有一老人。鬚眉皓然。身長七尺。褐裘韋帶。從二青衣而出。自稱曰。元濬之。向韋盡禮先拜。韋驚。急趨拜曰。某貧賤小生。不意丈人過垂採錄。韋未喻。老人曰。老夫將死之命。為君所生。恩德如此。豈容酬報。仁者固不以此為心。然受恩者思欲殺身報効耳。韋乃矍然。知其黿也。然終不顯言之。遂具珍羞。流連竟日。既暮。韋將辭歸。老人即於懷中出一通文字。授韋曰。知君要問命。故輒于天曹。錄得一生官祿行止所在。聊以為報。凡有無。皆君之命也。所貴先知耳。又謂胡蘆先生曰。幸借吾五十千文。以充韋君改一乘。早決西行。是所願也。韋再拜而去。明日。胡蘆先生載五十緡至逆旅中。賴以救濟。其文書具言。明年五月及第。又某年平判入登科。受咸陽尉。又明年登朝。作某官。如是歷官一十七政。皆有年月日。最後年遷江西觀察使。至御史大夫。到後三年。廳前皁莢樹花開。當有遷改北歸矣。其後遂無所言。韋常寶持之。自五經及第後。至江西觀察使。每授一官。日月無所差異。洪州使廳前。有皁莢樹一株。歲月頗久。其俗相傳。此樹有花。地主大憂。元和八年。韋在位。一旦樹忽生花。韋遂去官。至中路而卒。初韋遇元長史也。頗怪異之。後每過東路。即于舊居尋訪不獲。問於胡蘆先生。先生曰。彼神龍也。處化無常。安可尋也。韋曰。若然者。安有中橋之患。胡蘆曰。迍難困厄。凡人之與聖人。神龍之與[虫*耑]蠕。皆一時不免也。又何得異焉。(出河東記)

熊慎

唐豫章民有熊慎者。其父以販魚為業。嘗載魚宿于江滸。聞船內千百念經佛聲。驚而察之。乃船中諸魚也。遂歎異而悉取放之。不復以漁為業。後鬻薪于石頭。窮苦至甚。嘗暮宿於江上。忽見沙中光焰高尺餘。就掘之。得黃金數斤。明日。齎詣都市貨之。市人云。

此所謂紫磨金也。酬緡數十萬。熊氏由此殖產鉅富。子孫于今存焉。(出報應錄)

王行思

偽蜀渠陽隣山。有富民王行思。嘗養一馬。甚愛之。芻粟餵飼。倍于他馬。一日因乘往本郡。遇夏潦暴漲。舟子先渡馬。迴舟以迎王氏。至中流。風起船覆。其馬自岸奔入駭浪。接其主。蒼茫之間。遽免沈溺。(出儆誡錄)

陳弘泰

偽蜀廣都縣百姓陳弘泰者。家富于財。嘗有人假貸錢一萬。弘泰徵之甚急。人曰。請無慮。吾先養蝦蟆萬餘頭。貨之。足以奉償。泰聞之惻然。已其債。仍別與錢十千。令悉放蝦蟆于江中。經月餘。泰因夜歸。馬驚不進。前有物光明。視之。乃金蝦蟆也。(出儆誡錄)

太平廣記卷第一百一十九

報應十八(冤報)

杜伯
公孫聖(一作勝)
燕臣莊子儀
游敦
王宏
宋皇后
徐光
王陵
夏侯玄
金玄
經曠
萬默
麴儉
太樂伎
鄧琬
孔基
曇摩懺
支法存
張超
遠粲幼子
庾宏奴
魏輝儁
真子融

杜伯

杜伯名曰恒。入為周大夫。宣王之妾曰女鳩。欲通之。杜伯不可。女鳩訴之宣王曰。竊與妾交。宣王信之。囚杜伯于焦。使薛甫與司空錡殺杜伯。其友左儒九諫而王不聽。杜伯既死。為人見王曰。恒之罪何哉。王召祝。而以杜伯語告。祝曰。始殺杜伯。誰與王謀之。王曰。司空錡也。祝曰。何以不殺錡以謝之。宣王乃殺錡。使祝以謝之。伯猶為人而至。言其無罪。司空錡又為人而至曰。臣何

罪之有。宣王告皇甫曰。祝也為我謀而殺人。吾殺者又皆為人而見訴。奈何。皇甫曰。殺祝以謝。可也。宣王乃殺祝以兼謝焉。又無益。皆為人而至。祝亦曰。我焉知之。奈何以此為罪而殺臣也。後三年。宣王遊圃田。從人滿野。日中。見杜伯乘白馬素車。司空錡為左。祝為右。朱冠起於道左。執朱弓彤矢。射王中心。折脊。伏於弓衣而死。(出還冤記)

公孫聖

吳王夫差。殺其臣公孫聖而不以罪。後越伐吳。王敗走。謂太宰嚭曰。吾前殺公孫聖。投於胥山之下。今道由之。吾上畏蒼天。下慙於地。吾舉足而不能進。心不忍往。子試唱於前。若聖猶在。當有應聲。嚭乃登餘杭之山。呼之曰。公孫聖。聖即從上應曰。在。三呼而三應。吳王大懼。仰天歎曰。蒼天乎。寡人豈可復歸乎。吳王遂死不返。(出還冤記)

燕臣莊子儀

燕臣莊子儀。無罪而簡公殺之。子儀曰。死者無知則已。若其有知。不出三年。當使君見之。明年。簡公將祀於祖澤。燕之有祖澤。猶宋之有桑林。國之大祀也。男女觀之。子儀起於道左。荷朱杖擊公。公死於車上。(出還冤記)

游敦

游敦。字幼齊。漢世為羽林中郎將。先與司隸校尉胡軫有隙。遂誣敦殺之。敦死月餘。軫病。目睛遂(遂字下十三字據明鈔本補。)脫。但言伏罪。游幼齊將鬼來。於是遂死。(出還冤記)

王宏

漢王宏。字長文。為扶風太守。與司徒王允俱為李傕等所害。宏素與司隸校尉胡伸不相能。伸因就獄竟其事。宏臨死歎曰。胡伸小子。勿樂人之禍。禍必及汝。伸後病。頭不得舉。眼若睡。見宏來。以大杖擊之。數日死。(出還冤記)

宋皇后

漢靈帝宋皇后。無寵而居正位。後宮幸姬。眾共譖毀。初。中常侍王甫枉誅渤海王悝及妃。妃即后之姑也。甫恐后怒。乃與大中大夫程何。共誣后執左道呪詛。靈帝信之。收后璽綬。后自致暴室。以憂死。父及兄弟俱被誅。諸常侍大小黃門在省署者。皆憐宋氏無罪。帝後夢見桓帝曰。宋皇后何罪過。而聽用邪嬖。使絕其命。昔渤海王悝。既已自貶。又受誅斃。今宋后及悝。皆訴於天。上帝震怒。罪在難救。夢殊明察。帝既覺而懼。以事問羽林左監許永。此為何祥。其可禳乎。永對以宋后及渤海無辜之狀。並請改葬。以安冤魂。還宋家之徙。復渤海之封。以消災咎。帝弗能用。尋亦崩焉。(出還冤記)

徐光

徐光在吳。常行術市里間。種梨橘棗栗。立得食。而市肆賣者。皆已耗矣。凡言水旱甚驗。常過大將軍孫綝門。褰衣而趨。左右唾踐。或問其故。答曰。流血臭腥不可耐。綝聞而殺之。斬其首無血。及綝廢幼帝。更立景帝。將拜陵。上車。車為之傾。因顧見徐光在松栢樹上。附手指揮。嗤笑之。綝問侍從。無見者。綝惡之。俄而景帝誅綝。(出還冤記)

王陵

司馬宣王功業日隆。又誅魏大將軍曹爽。篡奪之迹稍彰。王陵時為揚州刺史。以魏帝制於彊臣。不堪為主。楚王彪年長而有才。欲迎

立之。兗州刺史董莘。以陵陰謀告宣王。宣王自將中軍討陵。卒至。陵自知勢窮。乃單舸出迎。宣王遂送陵還京師。至項城。過賈逵廟側。陵呼曰。賈梁道。吾固盡心於魏之社稷。唯爾有神知之。陵遂飲藥酒死。三族皆誅。其年。宣帝有病。白日見逵來。並陵為祟。因呼陵字曰。彥雲緩我。宣王身亦有打處。少時遂卒。(出還冤記)

夏侯玄

魏夏侯玄。字太初。以當時才望。為司馬景王所忌而殺之。玄宗族為之設祭。見玄來靈座。脫頭置其旁。悉斂果肉食物以納頭。既而還自安頸而言曰。吾得訴於上帝矣。司馬子元無嗣也。既而景王薨。遂無子。文王封次子攸為齊王。繼景王後。攸薨。攸子冏嗣立。又被殺。及永嘉之亂。有巫見宣王泣云。我國傾覆。正由曹爽、夏侯玄二人。訴冤得申故也。(出還冤記)

金玄

晉明帝殺力士金玄。謂持刀者曰。我頭多筋。斫之必令即斷。吾將報汝。刀者不能留意。遂斫數瘡。然後絕。後見玄絳冠朱服。赤弓彤矢。射持刀者。呼云。金玄緩我。少時而死。(出還冤記)

經曠

河間國兵張麤、經曠。二人相與諧善。晉太元十四年五月五日。共升鍾嶺。坐于山椒。麤酒酣失性。拔刀斬曠。曠託夢于母。自說為麤所殺。屍在澗間。脫裳覆腹。尋覓之時。必難可得。當令裳飛起此處也。明晨追捕。一如所言。麤知事露。將謀叛逸。出門。見曠手執雙刀。來擬其面。遂不得去。母遂報官。麤伏辜。(出還冤記)

萬默

晉山陰縣令石密。先經為御史。枉奏殺句容令萬默。密尋白日見默來。殺密死。(出還冤記)

麴儉

前凉張天錫元年。西域校尉張頎殺麴儉。儉臨死。具言取之。後頎後見白狗。以刀斫之。不中。頎便倒地不起。左右見儉在旁。遂暴卒。(出還冤記)

太樂伎

宋元嘉中。李龍等夜行掠劫。于時丹陽陶繼之為秣陵縣令。令人密尋捕。遂擒龍等。引人是太樂伎。劫發之夜。此伎與同伴往就人宿。共奏音聲。陶不詳審。為作款引。隨例申上。而所宿主人及賓客。並相明證。陶知枉濫。但以文書已行。不欲自為通塞。並諸劫十人。於郡門斬之。此伎聲價藝態。又殊辨慧。將死之日曰。我雖賤隸。少懷慕善。未嘗為非。實不作劫。陶令已當具知。枉見殺害。若無鬼則已。有鬼必自陳訴。因彈琵琶。歌數曲而就死。眾知其枉。莫不隕泣。經月餘。陶遂夢伎來至案前云。昔枉見殺。實所不忿。訴天得理。今故取君。便跳入陶口。乃落腹中。陶即驚寤。俄而倒。狀若風癲。良久蘇醒。有時而發。發即夭矯。頭乃著背。四日而亡。亡後家便貧瘁。二兒早死。餘有一孫。窮寒路次。(出還冤記)

鄧琬

宋泰始元年。江州刺史鄧琬。立刺史晉安王子勳為帝。作亂。初南郡太守張悅得罪。鑠歸揚都。及湓口。琬赦之。以為冠軍將軍。共綱紀軍事。袁顗既敗。張悅懼誅。乃稱暴疾。伏甲而召鄧琬。既至。謂之曰。卿首唱此禍。今事急矣。計將安出。琬曰。斬晉安王以待王師。或可以免。悅怒曰。卿始此禍。而欲賣罪少帝乎。命斬

於牀前。并殺其子。以琬頭降。至五年。悅臥疾。見琬為厲。遂死。(出還冤記)

孔基

會稽孔基勤學有志操。族人孔敞使其二子從基為師。而敞子並兇狠。趨向不軌。基屢言於敞。此兒常有忿志。敞尋喪亡。服制既除。基以宿舊。乃齎羊酒往看二子。二子猶懷宿怨。潛遣奴路側殺基。奴還未至。乃見基來。張目 攘袂。厲聲言曰。奸醜小豎。人面獸心。吾蒙顧存昔。敦舊(法苑珠林九一舊作戞。敦煌卷子本還冤記亦作戞。)平生。有何怨惡。候道見害。反天忘父。人神不容。要當斷汝家種。從此之後。數日見形孔氏。無幾。大兒向廁。忽便絕倒。絡繹往看。已斃于地。次者尋復病疽而死。卒致兄弟無後。(出還冤記)

曇摩懺

沮渠蒙遜時。沙門曇摩懺者。博達多識。為蒙遜之所信重。魏氏遣李順拜蒙遜為凉王。乃求曇摩懺。蒙遜怯而不與。曇摩懺意欲入魏。屢從蒙遜請行。蒙遜怒殺之。既而左右當白日中。見曇摩懺以劒擊蒙遜。因以疾而死。(出還冤記)

支法存

支法存者。本自胡人。生長廣州。妙善醫術。遂成巨富。有八九尺骭甡。百種形像。光彩曜目 。又有沈香八尺板牀。居常芬馥。王譚為廣州刺史。大兒劭之。屢求二物。法存不與。王因狀法存豪縱。殺而籍沒家財焉。死後。形見于府內。輒打閣下皷。似若稱冤。如此經月。王尋得病。恒見法存守之。少時遂亡。劭之比至揚都。又死焉。(出還冤記)

張超

高平金鄉張超。先與同縣翟願不和。願以宋元嘉中。為方輿令。忽為人所殺。咸疑是超。超後除金鄉縣令。解職還家。入山伐材。翟兄子銅烏。執弓持矢。並齎酒禮。就山餽之。斟酌已畢。銅烏曰。明府昔害我叔。無緣同戴天日。即引弓射之。超乃死。銅烏其夜見超云。我不殺汝叔。橫見殘害。今已上訴。故來相報。引刀刺之。吐血而死。(出還冤記)

袁粲幼子

齊高祖欲禪。宋尚書令袁粲舉兵不從。被害。其幼子。乳母潛將投粲門生狄靈慶。靈慶殺之。經年。忽見兒騎狗戲如常。後復有一狗。走入靈慶家。遇靈慶。便噬殺之。其妻子竝死于狗。(出古今記)

庾宏奴

庾宏為竟陵王府佐。家在江陵。宏令奴無患者。載米餉家。未達三里。遭劫被殺。屍流泊查口村。時岸傍有文欣者。母病。醫云。須得髑髏屑服之。即差。欣重賞募索。有隣婦楊氏見無患尸。因斷頭與欣。欣燒之。欲去皮肉。經三日夜不焦。眼角張轉。欣雖異之。猶惜不棄。因刮耳頰骨。與母服之。即覺骨停喉中。經七日而卒。尋而楊氏得疾。通身洪腫。形如牛馬。見無患頭來罵云。善惡之報。其能免乎。楊氏以語兒。言終而卒。(出幽明錄)

魏輝僑

北齊陽翟太守張善。苛酷貪叨。惡聲流布。蘭臺遣御史魏輝僑。就郡治之。贓賄狼籍。罪當合死。善于獄中。使人通訴。反誣輝僑為納民財。枉見推縛。文宣帝大怒。以為法司阿曲。必須窮正。令尚書令左丞盧斐覆驗之。斐遂希旨。成輝僑罪狀。奏報。于州斬決。輝僑遺語令史曰。我之情理。是君所見。今日之事。可復如之。當辦紙百番。筆二管。墨一錠。以隨吾屍。若有靈祇。必望報盧。令

史哀悼。為之殯斂。並備紙筆。十五日。善得病。唯云叩頭。未旬日而死。纔兩月。盧斐坐譏駁魏史。為魏收奏。文宣帝鴆殺之。(出還冤記)

真子融

真子融。北齊世嘗為井陘關收租使。贓貨甚。為人所糾。齊主欲以行法。意在窮治。乃付并州城局參軍崔法瑗。與中書舍人蔡暉。共拷其獄。然子融罪皆在赦前。法瑗等觀望上意。抑為赦後。子融臨刑之際。怨訴百端。既不得理。乃曰。若使此等平直。是無天道。後十五日。法瑗無病死。經一年許。蔡暉患病。膚肉爛墮都盡。苦楚日加。方死。(出還冤記)

太平廣記卷第一百二十

報應十九(冤報)

梁武帝
張裨
羊道生
釋僧越
江陵士大夫
徐鐵臼
蕭續
樂蓋卿
康季孫
張絢
楊思達
弘氏
朱貞
北齊文宣帝
梁武帝
韋戴
隋庶人勇
京兆獄卒
邛人

梁武帝

梁武帝蕭衍殺南齊主東昏侯。以取其位。誅殺甚眾。東昏死之日。侯景生焉。後景亂梁。破建業。武帝禁而餓終。簡文幽而壓死。誅梁子弟。略無孑遺。時人謂景是東昏侯之後身也。(出朝野僉載)

張裨

下邳張裨者。家世冠族。末葉衰微。有孫女。殊有姿貌。鄰人欲聘為妾。裨以舊門之後而不許。鄰人忿之。乃焚其屋。裨遂燒死。其息邦。先行不在。後還。亦知情狀。而畏鄰人之勢。又貪其財而不言。嫁女與之。後經一年。邦夢見裨曰。汝為兒子。逆天不孝。棄

親就怨。潛同兇黨。便捉邦頭。以手中桃杖刺之。邦因病兩宿。嘔血而死。邦死日。鄰人又見裨排門戶直入。張目 攘袂曰。君恃勢縱惡。酷暴之甚。枉見殺害。我已上訴。事獲申雪。却後數日。令君知之。鄰人得病。尋亦隕歿。(出還冤記)

羊道生

梁太山羊道生。為邵陵王中兵參軍。其兄海珍。任涇州刺史。道生乞假省之。臨別。兄于近路設頓。祖送道生。道生見縛一人于樹。就視。乃故舊部曲也。見道生涕泣哀訴云。涇州欲賜殺。乞求救濟。道生問汝何罪。答云。失意逃叛。道生便曰。此最可忿。即下馬。以佩刀刳其眼睛吞之。部曲呼天大哭。須臾海珍來。又囑兄決斬。道生良久。方覺眼睛在喉內。噎不下。索酒嚥之。頓盡數盃。終不能去。轉覺脹塞。遂不成嚥而別。在路數日死。當時莫不以為有天道焉。(出還冤記)

釋僧越

梁東徐州刺史張皐。僕射永之孫也。嘗因敗入北。有一土民。與皐盟誓。將送還南。土民遂即出家。法名僧越。皐供養之。及在東徐。且隨至任。恃其勳舊。頗以言語忤皐。皐怒。遣兩門生。夜往殺之。爾後忽夢見僧越。云。來報怨。少時出射。而箭栝傷指。纔可見血。不以為事。後因破梨。梨汁浸漬。乃加膿爛。停十許日。膊上無故復生一瘡。膿血與指相通。月餘而死。(出還冤記)

江陵士大夫

江陵陷時。有關內人梁元暉。俘獲一士大夫。姓劉。此人先遭侯景喪亂。失其家口。唯餘小男。始數歲。躬自擔負。又值雪泥。不能前進。梁元暉監領入關。逼令棄兒。劉甚愛惜。以死為請。遂彊奪取。擲之雪中。杖棰交下。驅蹙使去。劉乃步步迴顧。號叫斷絕。

辛苦頓斃。加以悲傷。數日而死。死後。元暉日見劉伸手索兒。因此得病。雖復悔謝。來殊不已。元暉載病到家而卒。(出還冤記)

徐鐵臼

東海徐甲。前妻許氏。生一男。名鐵臼。而許氏亡。甲改娶陳氏。凶虐之甚。欲殺前妻之子。陳氏產一男。生而祝之曰。汝若不除鐵臼。非吾子也。因名之為鐵杵。欲以擣臼也。於是捶打鐵臼。備諸毒苦。飢不給食。寒不加絮。甲性闇弱。又多不在舍。後妻得意行其酷暴。鐵臼竟以凍餓甚。被杖死。時年十六。亡後旬餘。鬼忽還家。登陳氏牀曰。我鐵臼也。實無罪。橫見殘害。我母訴怨于天。得天曹符。來雪我冤。當令鐵杵疾病。與我遭苦時同。將去自有期日。我今停此待之。聲如生時。家人不見其形。皆聞其語。恒在屋梁上住。陳氏跪謝。頻為設奠。鬼云。不須如此。餓我令死。豈是一飡所能酬謝。陳氏夜中竊語道之。鬼應聲云。何故道我。今當斷汝屋棟。便聞鋸聲。屑亦隨落。拉然有聲響。如棟實崩。舉家走出。炳燭照之。亦無異。又罵鐵杵曰。殺我。安坐宅上為快耶。當燒汝屋。即見火然。煙爛火盛。內外狼籍。俄爾自滅。茅茨儼然。不見虧損。日日罵詈。時復謳謌。謌云。桃李花。嚴霜落奈何。桃李子。嚴霜落早已。聲甚傷悽。似是自悼不得成長也。于時鐵杵六歲。鬼至。病體痛腹大。上氣妨食。鬼屢打之。打處青黶。月餘而死。鬼便寂然。(出還冤記)

蕭續

梁廬陵王蕭續。為荊州刺史。時有武寧太守張延康。甚便弓馬。頗為人伏。代下將還。王要伏(要伏二字據明鈔本補。)事。延康意貪進上。辭不肯留。王遂尋延康為郡時罪。鏁繫在獄。發使啟申。意望朝廷委州行決。梁主素識延康。兼疑王啟不實。乃敕送都。王既懷恨。又懼延康申雪。翻復獲罪。乃未宣敕。使獄卒說延康曰。如聞

王欲見殺。君何不拔身還都自理。若能去。當為方便。延康然之。遂夜逃。王遣游軍設伏。刺延康於城下。乃表叛獄格戰而死。又有枝江令吳某。將還揚州。被王要結。亦不肯住。遂使人於道擊殺之。舉家數十口。並從沈溺。後數年得疾。王日夜常見張吳二人。王但曰。寬我寬我。少時而薨。(出還冤記)

樂蓋卿

廬陵王在荊州時。嘗遣從事量括民田。南陽樂蓋卿。亦充一使。公府舍人韋破虜。發遣誡敕。失王本意。及蓋卿還。以數誤得罪。破虜惶懼。不敢引愆。但誑蓋云。自為分雪。無勞訴也。數日之間。遂斬于市。蓋卿號叫。無由自陳。唯語人以紙筆隨殮。死後少日。破虜在槽上看牛。忽見蓋卿挈頭而入。持一椀蒜齏與之。破虜驚呼奔走。不獲已而服之。因得病。未幾卒。(出還冤記)

康季孫

康季孫性好殺。滋味漁獵故恒事。奴婢愆罪。亦或死之。常病篤。夢人謂曰。若能斷殺。此病當差。不爾必死。即于夢中。誓不復殺。驚悟戰悸。汗流浹體。病亦漸瘳。後數年。三門生竊其兩妾以叛。追獲之。即並毆殺。其夕。復夢見前人來曰。何故負信。此人罪不至死。私家不合擅殺。今改亦無濟理。迨明嘔血。數日而卒。(出還冤記)

張絢

梁武昌太守張絢。嘗乘船行。有一部曲。役力小不如意。絢便躬捶之。杖下臂折。無復活狀。絢遂推江中。須臾。見此人從水而出。對絢撫手曰。罪不當死。官枉見殺。今來相報。即跳入絢口。因得病。少日而殂。(出還冤記)

楊思達

梁楊思達為西陽郡守。值侯景亂。時復旱歉。饑民盜田中麥。思達遣一部曲守視。所得盜者。輒截手腕。凡戮十餘人。部曲後生一男。自然無手。(出還冤記)

弘氏

梁武帝欲為文皇帝陵上起寺。未有佳材。宣意有司。使加採訪。先有曲阿人姓弘。家甚富厚。乃共親族。多齎財貨。往湘州治生。經年營得一栿。可長千步。材木壯麗。世所稀有。還至南津。南津校尉孟少卿。希朝廷旨 。乃加繩墨。弘氏所賣衣裳繒綵。猶有殘餘。誣以涉道刼掠所得。并造作過制。非商賈所宜。結正處死。沒入其財充寺用。奏遂施行。弘氏臨刑之日。敕其妻子。可以黃紙筆墨置棺中。死而有知。必當陳訴。又書少卿姓名數十吞之。經月。少卿端坐。便見弘來。初猶避捍。後乃款服。但言乞恩。嘔血而死。凡諸獄官及主書舍人。預此獄事署奏者。以次殂歿。未及一年。零落皆盡。其寺營搆始訖。天火燒之。略無纖芥。所埋柱木。亦入地成灰。(出還冤記)

朱貞

梁秣陵令朱貞。以罪下獄。廷尉虞獻者覆其事。結正入重。貞遣相知謂獻曰。我罪當死。不敢祈恩。但猶冀主上萬一弘宥我。明日既是國家忌日。乞得過此奏聞。可乎。獻答曰。此於理無爽。何謂不然。謹聞命矣。而朱事先明日奏來。獻便遇客共飲。頗醉。遂忘抽文書。旦日。家人合束。內衣箱中。獻復不記。比至帝前。頓束香案上。次第披之。方見此事。勢不可隱。便爾上聞。武帝以為合死。付外詳決。貞聞之。大恨曰。虞小子。欺罔將死之人。鬼若無知。固同灰土。儻有識。誓必報之。貞於市始當命絕。而獻已見其

來。自爾之後。時時恒見。獻甚惡之。又夢乘車在山下行。貞於山上推石壓之。居月餘。獻除曲阿令。拜之明日。詣謝張門下。其婦平常。(平常二字原書闕。據明鈔本補。)于宅暴卒。獻狼狽而還。入室哭婦。舉頭見貞在梁上。獻曰。朱秣陵在此。我婦豈得不死。于時屋無故忽崩。獻及男女婢使十餘人。一時併命。虞隲是其宗室。助喪事。見獻如是。走下堂避之。僅乃得免。(出還冤記)

北齊文宣帝

北齊文宣高洋既死。太子嗣位。年號乾明。文宣母弟常山王演。在并州。權勢甚重。因文宣山陵。留為錄尚書事。王遂怒。潛生異計。上省之日。內外官僚。皆來奔集。即收縛乾明腹心。尚書令楊遵彥等五人。皆為事狀。奏斬之。尋廢乾明而自立。是為孝昭帝。後在并州。望氣者奏鄴中有天子氣。平秦王高歸彥。勸殺乾明。遂錄向并州。盡殺之。其年。孝昭數見文宣作諸妖怪。就其索兒。備為厭禳。終不能遣而死。(出還冤記)

梁武帝

陳霸先初立梁元帝第九子晉安王為主。而輔戴之。會稽虞涉本梁武世為中書舍人尚書右丞。于時夢見梁武帝謂涉曰。卿是我舊左右。可語陳公。篡殺于公不利。事甚分明。涉既未見篡殺形迹。不敢言之。數日。復夢如此。並語涉曰。卿若不傳意。卿亦不佳。涉雖嗟惋。決無言理。少時之間。太史啟云。殿有急兵。霸先曰。急兵正是我耳。倉卒遣亂兵害少主而自立。爾後涉便得病。又夢梁武曰。卿不為我語。致令禍及。卿與陳主。尋當知也。涉方封啟報夢之由。陳主為人。甚信鬼物。聞此大驚。遣輿迎涉。面相詢訪。乃尤涉曰。卿那不道奇事。六七日涉死。尋有韋戴之事。(出還冤記)

韋戴

陳武帝霸先既害梁大司空王僧辯。次討諸將。義興太守韋戴。黃門郎放之第四子也。為王公固守。陳主頻遣攻圍。不克。後重征之。誘說戴曰。王公親黨。皆已殄滅。此一孤城。何所希冀。過爾相拒耶。若能見降。不失富貴。戴曰。士感知己。本為王公抗禦大軍。致成讐敵。今亦承明公盡定江左。窮城自守。必無路活。但鋒刃屢交。殺傷過甚。軍人忿怨。恐不見全。老母在堂。彌懼禍及。所以苟延日月。未能束手耳。必有誓約。不敢久勞神武。乃遣刑白馬為盟。戴遂開門。陳主亦寬信還揚都。後陳主即位。遣戴從征。以小遲晚。因宿憾斬之。尋於大殿視事。便見戴來。驚走入內。移坐光嚴殿。戴又逐入。顧訪左右。皆無所見。因此得病死。(出還冤記)

隋庶人勇

隋煬帝元德太子寢疾。帝遣見鬼人崔善影看祟。善影幼來無目 。而言見庶人勇。瞋目 攘袂。大呼云。我不放你。善影具述勇狀貌。如舊相識。(出法苑珠林)

京兆獄卒

隋煬帝大業中。京兆獄卒失其名。酷暴諸囚。囚不堪其苦。而獄卒以為戲樂。後生一子。頤下肩上。有若肉枷。無頸。數歲不能行而死。(出廣古今五行記)

邛人

唐武德中。邛人姓韋。與一婦人言。誓期不相負。累年寵衰。婦人怨恨。韋懼其反己。自縊殺之。後數日。韋遍身癢。因發癩瘡而死。(出法苑珠林)

太平廣記卷第一百二十一

報應二十

杜通達
邢文宗
長孫無忌
婁師德
王瑱
江融
李昭德
弓嗣業
周興
魚思咺
索元禮
張楚金
崔日知
蘇頲
李之
唐王皇后
楊慎矜
師夜光
崔尉子

杜通達

唐齊州高苑人杜通達。貞觀年中。縣承命令送一僧向北。(縣承命句明鈔本作常夜有一僧求宿。)通達見僧經箱。謂意其中是絲絹。乃與妻共計。擊僧殺之。僧未死。聞誦呪三兩句。遂有一蠅飛入其鼻。久悶不出。通達眼鼻遽喎。眉鬢即落。迷惑失道。精神沮喪。未幾之間。便遇惡疾。不經一年而死。臨終之際。蠅遂飛出。還入妻鼻。其妻得病。歲餘復卒。(出法苑珠林)

邢文宗

唐河間邢文宗。家接幽燕。稟性麤險。貞觀年中。忽遇惡風疾。旬日之間。眉鬢落盡。於後就寺歸懺。自云。近者向幽州。路逢一客。將絹十餘疋。迴澤無人。因即刼殺。此人云。將向房州。欲買經紙。終不得免。少間。屬一老僧復欲南去。遇文宗。懼事發覺。揮刀擬僧。僧叩頭曰。乞存性命。誓願終身不言。文宗殺之。棄之草間。經二十餘日。行還。過僧死處。時當暑月。疑皆爛壞。試往視之。儼若生日。文宗因以馬下策築僧之口。口出一蠅。飛鳴清徹。直入宗鼻。久悶不出。因得大病。歲餘而死。(出冥報拾遺)

長孫無忌

唐趙公長孫無忌奏別敕長流。以為永例。後趙公犯事。敕長流嶺南。至死不復廻。此亦為法之弊。(出朝野僉載)

婁師德

婁師德以殿中充河源軍使。唐永和中。破吐蕃於白羊澗。八縱七捷。優制褒美。授左驍騎(明鈔本騎作衛。)郎將。高宗手詔曰。卿有文武才幹。故授卿武職。勿辭也。累遷納言。臨終數日。寢興不安。無故驚曰。撫我背者誰。侍者曰。無所見。乃獨言。似有所爭者。曰。我當壽八十。今追我何也。復自言為官誤殺二人。減十年。詞氣若有屈伏。俄而氣絕。以婁公之明恕。尚不免濫。為政得不慎之歟。(出大唐新語)

王瑱

唐冀州刺史王瑱。性酷烈。時有敕使至州。瑱與使語。武彊縣尉藺獎曰。日過。移就陰處。瑱怒。令典獄撲之。項骨折而死。至明日。獄典當州門限垂脚坐。門扇無故自發。打雙脚脛俱折。瑱病。見獎來。起。自以酒食求之。不許。瑱惡之。廻面向梁。獎在屋梁。旬日而死。(出朝野僉載)

江融

唐左史江融。耿介正直。揚州徐敬業反。被羅織。酷吏周興等枉奏殺之。斬於東都都亭驛前。融將被誅。請奏事引見。興曰。囚何得奏事。融怒叱之曰。吾無罪枉戮。死不捨汝。遂斬之。尸乃激揚而起。蹭蹬十餘步。行刑者踏倒。還起坐。如此者三。乃絕。雖斷其頭。似怒不息。無何周興死。(出朝野僉載)

李昭德

唐鳳閣侍郎李昭德。威權在己。宣出一敕云。自今已後。公坐徒。私坐流。經恩百日不首。依法科罪。昭德先受孫萬榮賄財。奏與三品。後萬榮據營州反。貨求事敗。頻經恩赦。以百日不首。准贓斷絞。(出朝野僉載)

弓嗣業

唐洛州司馬弓嗣業、洛陽令張嗣明。造大枷。長六尺。濶四尺。厚五寸。倚前。人莫之犯。後嗣明及嗣業。資遣逆賊徐真北投突厥。事敗。業等自著此枷。百姓快之也。(出朝野僉載)

周興

唐秋官侍郎周興。與來俊臣對推事。俊臣別奉(奉原本作奏。據明鈔本改。)進止鞫興。興不之知也。及同食。謂興曰。囚多不肯承。若為作法。興曰。甚易也。取大甕。以炭四面炙之。令囚人處之其中。何事不吐。即索大甕。以火圍之。起謂興曰。有內狀勘老兄。請兄入此甕。興惶恐叩頭。咸即款伏。斷死。放流嶺南。所破人家。流者甚多。為讎家所殺。傳曰。多行無禮必自及。信哉。(出朝野僉載)

魚思咺

唐魚思咺有沈思。極巧。上欲造甎。召工匠。無人作得者。咺應制為之。甚合規矩。遂用之。無何有人投甎言咺。云。徐敬業在揚州反。咺為敬業作刀輪以衝陣。殺傷官軍甚眾。推問具承。誅之。為法自斃。乃至於此。(出朝野僉載)

索元禮

唐索元禮。為鐵籠頭以訊囚。後坐贓賄。不承。使人曰。取公鐵籠頭。禮即承伏。(出朝野僉載)

張楚金

唐張楚金為秋官侍郎。奏反逆人持(持明鈔本作特。下同。)敕免死。家口即絞斬及配沒入官為奴婢等。並入律。後楚金被羅織反。持敕免死。男子十五以上斬。妻子配沒。識者曰。為法自斃。所謂交報也。(出朝野僉載)

崔日知

唐京兆尹崔日知處分長安萬年及諸縣左降流移人。不許暫停。有違晷刻。所由決杖。無何。日知貶歙縣丞。被縣家催。求與妻子別不得。(出朝野僉載)

蘇頲

唐尚書蘇頲。少時有人相之云。當至尚書。位終二品。後至尚書三品。病亟。呼巫覡視之。巫云。公命盡。不可復起。頲因復論相者之言。巫云。公初實然。由作桂府時殺二人。今此二人地下訴公。所司減二年壽。以此不至二品。頲夙蒞桂州。有二吏訴縣令。頲為令殺吏。乃嗟歎久之而死。(出廣異記)

李之

唐王悅為唐昌令。殺錄事李之而不辜。之既死。長子作靈語曰。王悅不道。枉殺予。予必報。其聲甚厲。經數日。悅晝坐廳事。忽拳毆其腰。聞者殷然。驚顧無人。既暮。擊處微腫焉。且痛。其日。李之男又言曰。吾已擊王悅。正中要害處。即當殺之。悅疾甚。則至蜀郡謁醫。不愈。未死之前日。李之命其家造數人饌。仍言曰。吾與客三人至蜀郡。錄王悅。食畢當行。明日而悅死。悅腫潰處。正當右腎。即李之所為也。(出紀聞)

唐王皇后

唐惠妃武氏。有專房之寵。將謀奪嫡。王皇后性妬。稍不能平。玄宗乃廢后為庶人。膚受日聞。及太子之廢也。玄宗訪於張九齡。對曰。太子天下本也。動之則搖人心。太子(原本太子作九齡。據明鈔本改。)自居東宮。未聞大惡。臣聞父子之道。天性也。子有過。父恕而掩之。無宜廢絕。且其惡狀未著。恐外人窺之。傷陛下慈父之道。玄宗不悅。隱忍久之。李林甫等秉政。陰中計於武妃。將立其子以自固。武妃亦結之。乃先黜九齡而廢太子。太子同生鄂王瑤、光王琚同日併命。海內痛之。號為三庶。太子既冤。武氏及左右屢見為祟。宮中終夜相恐。或聞鬼聲叫笑。召覡巫視之。皆曰三庶為厲。先是收鄂王光王。行刑者射而瘞之。乃命改葬。祝而酹之。武妃死。其厲乃息。玄宗乃立肅宗為太子。林甫之計不行。惕然懼矣。三庶人以二十五年四月二十二日死。武妃至十二月而薨。識者知有神通焉。(出大唐新語)

楊慎矜

唐監察御史王掄為朔方節度判官。乘驛。在途暴卒。而顏色不變。猶有暖氣。懼不敢殯。凡十五日復生。云。至冥司。與冥吏語。冥吏悅之。立於房內。吏出。掄試開其案牘。乃楊慎矜於帝所訟李林甫、王鉷也。已斷王鉷族滅矣。於是不敢開。置於舊處而謁王。王

庭前東西廊下皆垂簾。坐掄簾下。慎矜兄弟入。見王稱冤。王曰。已族王鉷。即當到矣。須臾。鑠鉷至。兼其子弟數人。皆械繫面縛。七竅流血。王令送訊所。於是與慎矜同出。乃引掄既蘇。月餘。有邢縡之事。王鉷死之。(出紀聞)

師夜光

唐師夜光者。薊門人。少聰敏好學。雅尚浮屠氏。遂為僧。居于本郡。僅十年。盡通內典之奧。又有沙門惠達者。家甚富。有金錢巨萬。貪夜光之學。因與為友。是時玄宗皇帝好神仙釋氏。窮索名僧方士。而夜光迫於貧。不得西去。心常怏怏。惠達知之。因以錢七十萬資其行。且謂夜光曰。師之學藝材用。愚竊以為無出於右者。聖上拔天下英俊。吾子必將首出群輩。沐浴恩渥。自此託跡緇徒。為明天子臣。可翹足而待也。然當是時。必有擁篲子門。幸无忘(忘原作忌。據明鈔本改。)半面之舊。夜光謝曰。幸師厚貺我。得遂西上。儻為君之五品。則以報師之惠矣。夜光至長安。因賂九仙公主左右。得召見(召見二字原作以。據唐書師夜光傳改。)溫泉。(泉字下明鈔本空九字。當有脫文。)命內臣選碩學僧十輩。與方士議論。夜光在選。演暢玄奧。發揮疑義。群僧無敢比者。上奇其辯。詔賜銀印朱綬。拜四門博士。日侍左右。賜甲第。洎金錢繒綵以千數。時號幸臣。惠達遂自薊門入長安訪之。夜光聞惠達至。以為收債於己。甚不懌。惠達悟其旨 。因告去。既以北歸月餘。夜光慮其再來。即密書與薊門帥張廷珪。近者惠達師至輦下。誣毀公繕完兵革。將為逆謀。人亦頗有知者。以公之忠。天下莫不聞之。積毀銷金。不可不戒。廷珪驚怒。即召惠達鞭殺之。後數日。夜光忽見惠達來庭中。罵夜光曰。我以七十萬錢資汝西上。奈何遽相誣謗。使我冤死。何負我之深也。言訖。遂躍而上。捽拽夜光。久之乃亡所見。師氏家僮咸見之。其後數日。夜光卒。(出寅室志)

崔尉子

唐天寶中。有清河崔氏。家居于滎陽。母盧氏。幹於治生。家頗富。有子策名京都。受吉州大和縣尉。其母戀故產。不之官。為子娶太原王氏女。與財數十萬。奴婢數人。赴任。乃謀賃舟而去。僕人曰。今有吉州人姓孫。云空舟欲返。傭價極廉。儻與商量。亦恐穩便。遂擇發日。崔與王氏及婢僕列拜堂下。泣別而登舟。不數程。晚臨野岸。舟人素窺其囊橐。伺崔尉不意。遽推落于深潭。佯為拯溺之勢。退而言曰。恨力救不及矣。其家大慟。孫以刃示之。皆惶懼。無復喘息。是夜。抑納王氏。王方娠。遂以財物居於江夏。後王氏生男。舟人養為己子。極愛焉。其母亦竊誨以文字。母亦不告其由。崔之親老在鄭州。訝久不得消息。積望數年。天下離亂。人多飄流。崔母分與子永隔矣。爾後二十年。孫氏因崔財致產極厚。養子年十八九。學藝已成。遂遣入京赴舉。此子西上。途過鄭州。去州約五十里。遇夜迷路。常有一火前引。而不見人。隨火而行。二十餘里。至莊門。扣開以寄宿。主人容之。舍於廳中。乃崔莊也。其家人竊窺。報其母曰。門前宿客。面貌相似郎君。家人又伺其言語行步。輒無少異。又白其母。母欲自審之。遂召入升堂。與之語話。一如其子。問乃孫氏矣。其母又垂泣。其子不知所以。母曰。郎君遠來。明日且住一食。此子不敢違長者之意。遂諾之。明日。母見此子告去。遂發聲慟哭。謂此子曰。郎君勿驚此哭者。昔年唯有一子。頃因赴官。遂絕消息。已二十年矣。今見郎君狀貌。酷似吾子。不覺悲慟耳。郎君西去。廻日必須相過。老身心孤。見郎君如己兒也。亦有奉贈。努力早廻。此子至春。應舉不捷。却歸至鄭州。還過母莊。母見欣然。遂留停歇數日。臨行贈貲糧。兼與衣一副曰。此是吾亡子衣服。去日為念。今既永隔。以郎君貌似吾子。便以奉贈。號哭而別。他時過此。亦須相訪。此子却歸。亦不為父母言之。後忽著老母所遺衣衫。下襟有火燒孔。其母驚問。何處得此衣。乃述本末。母因屏人。泣與子言其事。此衣是

吾與汝父所製。初熨之時。誤遺火所爇。汝父臨發之日。阿婆留此以為念。比為汝幼小。恐申理不了。豈期今日神理昭然。其子聞言慟哭。詣府論冤。推問果伏。誅孫氏。而妻以不早自陳。斷合從坐。其子哀請而免。(出原化記)

太平廣記卷第一百二十二

報應二十一(冤報)

陳義郎
達奚珣
華陽李尉
段秀實
馬奉忠
鄆卒
樂生
宋申錫
蜀營典

陳義郎

陳義郎。父彝爽。與周茂方皆東洛福昌人。同於三鄉習業。彝爽擢第。歸娶郭愔女。茂方名竟不就。唯與彝爽交結相誓。唐天寶中。彝爽調集。受蓬州儀隴令。其母戀舊居。不從子之官。行李有日。郭氏以自織染縑一匹。裁衣欲上其姑。誤為交刀傷指。血沾衣上。啟姑曰。新婦七八年溫清晨昏。今將隨夫之官。遠違左右。不勝咽戀。然手自成此衫子。上有剪刀誤傷血痕。不能澣去。大家見之。即不忘息婦。其姑亦哭。彝爽固請茂方同行。其子義郎。纔二歲。茂方見之。甚於骨肉。及去儀隴五百餘里。磴石臨險。巴江浩渺。攀蘿遊覽。茂方忽生異志。命僕夫等先行。為吾郵亭具饌。二人徐步。自牽馬行。忽於山路斗拔之所。抽金鎚擊彝爽。碎顙。擠之於浚湍之中。佯號哭云。某內逼。北廻。見馬驚踐長官殂矣。今將何之。一夜會喪。爽妻及僕御致酒感慟。茂方曰。事既如此。如之何。況天下四方人一無知者。吾便權與夫人乘名之官。且利一政俸祿。逮可歸北。即與發哀。僕御等皆懸厚利。妻不知本末。乃從其計。到任。安帖其僕。一年已後。謂郭曰。吾志已成。誓無相背。郭氏藏恨。未有所施。茂方防虞甚切。秩滿。移官。家于遂州長江。又一選。授遂州曹掾。居無何。已十七年。子長十九歲矣。茂

方謂必無人知。教子經業。既而欲成。遂州秩滿。挈其子應舉。是年東都舉選。茂方取北路。令子取南路。茂方意令覘故園之存沒。塗次三鄉。有鬻飯媼留食。再三瞻矚。食訖。將酬其直。媼曰。不然。吾憐子似吾孫姿狀。因啟衣篋。出郭氏所留血污衫子以遺。泣而送之。其子祕於囊。亦不知其由。與父之本末。明年下第。歸長江。其母忽見血跡衫子。驚問其故。子具以三鄉媼所對。及問年狀。即其姑也。因大泣。引子於靜室。具言之。此非汝父。汝父為此人所害。吾久欲言。慮汝之幼。吾婦人。謀有不臧。則汝亡父之冤。無復雪矣。非惜死也。今此吾手留血襦還。乃天意乎。其子密礪霜刃。候茂方寢。乃斷吭。仍挈其首詣官。連帥義之。免罪。即侍母東歸。其姑尚存。且敘契濶。取衫子驗之。歔欷對泣。郭氏養姑三年而終。(出乾[月*巽]子)

達奚珣

唐肅宗收復兩都。崔器為三司使。性刻樂禍。陰忍寡恩。希旨 深文。奏陷賊官據合處死。李峴執之曰。夫事有首從。情有輕重。若一槩處死。恐非含弘之義。昔者明王用刑。殲厥渠魁。脅從罔理。況河北殘寇。今尚未平。苟容漏網。適開自新之路。若盡行誅。是堅叛逆之心。守文之吏。不識大體。累日方從峴奏。陳希烈已下。定六等科罪。呂諲驟薦器為吏部侍郎御史大夫。器病脚腫。月餘漸亟。瞑目 即見達奚珣。但口稱。叩頭大尹。不自由。左右問之。良久答曰。達奚尹訴冤。我求之如此。經三月。不止而死。(出譚賓錄)

華陽李尉

唐天寶後。有張某為劒南節度使。中元日。令郭下諸寺。盛其陳列。以縱士女遊觀。有華陽李尉者。妻貌甚美。聞於蜀人。張亦知之。及諸寺嚴設。傾城皆至。其從事及州縣官家人看者。所由必白於張。唯李尉之妻不至。異之。令人潛問其鄰。果以貌美不出。張

乃令於開元寺選一大院。遣蜀之眾工絕巧者。極其妙思。作一鋪木人音聲。關戾在內。絲竹皆備。令百姓士庶。恣觀三日。云。三日滿。即將進內殿。百里車輿闐噎。兩日。李君之妻亦不來。三日欲夜人散。李妻乘兜子從婢一人而至。將出宅。人已奔走啟于張矣。張乃易其衣服先往。於院內一脫空佛中坐。覘覷之。須臾至。先令探屋內都無人。乃下。張見之。乃神仙之人。非代所有。及歸。潛求李尉之家來往者浮圖尼及女巫。更致意焉。李尉妻皆驚而拒之。會李尉以推事受贓。為其僕所發。張乃令能吏深文按之。奏杖六十。流於嶺徼。死于道。張乃厚賂李尉之母。彊取之。適李尉愚而陋。其妻每有庸奴之恨。遂肯。置于州。張寵敬無與倫比。然自此後。亦常髣髴見李尉在於其側。令術士禳謝。竟不能止。歲餘。李之妻亦卒。數年。張疾病。見李尉之狀。亦甚分明。忽一日。覩李尉之妻。宛如平生。張驚前問之。李妻曰。某感公恩深。思有所報。李某已上訴於帝。期在此歲。然公亦有人救拔。但過得茲年。必無虞矣。彼已來迎。公若不出。必不敢升公之堂。慎不可下。言畢而去。其時華山道士符籙極高。與張結壇場於宅內。言亦略同。張數月不敢降階。李妻亦同來。皆教以嚴慎之道。又一日黃昏時。堂下東廂有叢竹。張見一紅衫子袖。於竹側招己者。以其李妻之來也。都忘前所戒。便下階。奔往赴之。左右隨後叫呼。止之不得。至則見李尉衣婦人衣。拽張於林下。毆擊良久。云。此賊若不著紅衫子招。肯下階耶。乃執之出門去。左右如醉。及醒。見張仆於林下矣。眼鼻皆血。唯心上暖。扶至堂而卒矣。(出逸史)

段秀實

唐朱泚敗。奔涇州。京師副元帥李晟。收復宮闕。朱泚既敗走。收殘兵士。纔餘一二百人。忽昏迷。不辨南北。因問路於田父。田父曰。豈非朱太尉耶。偽宰相源休止之曰。漢皇帝。田父曰。天地不長兇惡。虵鼠不為龍虎。天網恢恢。去將何適。泚怒。欲殺之。俄

而亡其所在。及去涇州百餘里。泚於馬上。忽叩頭連稱乞命。手足紛紜。若有拒捍。因之墜馬。良久却蘇。左右問其故。曰。見段司農。尋被韓旻梟斬。(出廣德神異錄)

馬奉忠

唐元和四年。憲宗伐王承宗。中尉吐突承璀獲恒陽生口馬奉忠等三十人。馳詣闕。憲宗令斬之於東市西坡資聖寺側。斬畢。勝業坊王忠憲者。屬羽林軍。弟忠弁。行營為恒陽所殺。忠憲含弟之讎。聞恒陽生口至。乃佩刃往視之。敕斬畢。忠憲乃剖其心。兼兩脞肉。歸而食之。至夜。有紫衣人扣門。忠憲出見。自云馬奉忠。忠憲與坐。問所須。答何以苦剖我心。割我肉。忠憲曰。汝非鬼耶。對曰。是。忠憲云。我弟為汝逆賊所殺。我乃不反兵之仇。以直報怨。汝何怪也。奉忠曰。我恒陽寇是國賊。我以死謝國矣。汝弟為恒陽所殺。則罪在恒陽帥。我不殺汝弟。汝何妄報吾。子不聞父子之罪。尚不相及。而汝妄報眾讎。則汝讎極多矣。須還吾心。還吾脞。則怨可釋矣。忠憲如失。理云。與汝萬錢可乎。答曰。還我無冤。然亦貫公歲月可矣。言畢遂滅。忠憲乃設酒饌紙錢萬貫於資聖寺前送之。經年。忠憲兩脞漸瘦。又言語倒錯惑亂。如失心人。更三歲而卒。則知志於報仇者。亦須詳而後報之。(出博異志)

鄆卒

唐元和末。王師討平鄆。汴卒有食鄆士之肉者。數歲暴疾。夢其所食卒曰。我無宿憾。既已殺之。又食其肉。何不仁也。我已訴於上帝矣。當還我肉。我亦食之。徵債足矣。汴卒驚覺流汗。及曉。疼楚宛轉。視其身唯皮與骨。如人腊。一夕斃矣。(出逸史)

樂生

唐中丞杜式方。為桂州觀察使。會西原山賊反叛。奉詔討捕。續令郎中裴某。承命招撫。及過桂州。式方遣押衙樂某。并副將二人當直。至賓州。裴命樂生與副將二人。至賊中傳詔命。并以書遺其賊帥。招令歸復。樂生素儒士也。有心義。既至。賊帥黃少卿大喜。留醼數日。悅樂生之佩刀。懇請與之。少卿以小婢二人酬其直。既復命。副將與生不相得。遂告於裴云。樂某以官軍虛實露於賊帥。暱之。故贈女口。裴大怒。遣人搜檢。果得。樂生具言本末。云。某此刀價直數萬。意頗寶惜。以方奉使。賊帥求之。不得不與。彼歸其直。二口之價。尚未及半。某有何過。生使氣者。辭色頗厲。裴君愈怒。乃禁於賓州獄。以書與式方。并牒誣為大過。請必殺之。式方以遠鎮。制使言其下受賂於賊。方將誅剪。不得不寘之於法。然亦心知其冤。樂生亦有狀具言。式方遂令持牒追之。面約其使曰。彼欲逃避。汝慎勿禁。兼以吾意語之。使者至。傳式方意。樂生曰。我無罪。寧死。若逃之。是有罪也。既至。式方乃召入。問之。生具述根本。式方乃以制使書牒示之曰。今日之事。非不知公之冤。然無路以相救矣。如何。遂令推訊。樂生問推者曰。中丞意如何。曰。中丞以制使之意。押衙不得免矣。曰。中丞意如此。某以奚訴。遂索筆通款。言受賊帥贓物之狀。式方頗甚憫惻。將刑。引入曰。知公至屈。有何事相託。生曰。無之。式方曰。公有男否。曰。一人。何職。曰。得衙前虞候足矣。式方便授牒。兼贈錢百千文。用為葬具。又問所欲。曰。某自誣死。必無逃逸。請去桎梏。沐浴。見妻子。囑付家事。公皆許。至時。式方乃登州南門。令引出。與之訣別。樂生沐浴巾櫛。樓前拜啟曰。某今死矣。雖死不已。式方曰。子怨我乎。曰。無。中丞為制使所迫耳。式方灑泣。遂令領至毬場內。厚致酒饌。飡訖。召妻子別。問曰。買得棺未。可速買。兼取紙一千張。筆十管。置棺中。吾死。當上訴於帝前。問監刑者曰。今何時。曰。日中。生曰。吾日中死。至黃昏時。便往賓州。取副將某乙。及明年四月。殺制使裴郎中。舉頭見執捉者一人。乃虞候所由。樂曾 攝都虞候。語之。汝是我故吏。我

今分死矣。爾慎無折吾頸。若如此。我亦死即當殺汝。所由至此時。亦不蝦聽信。遂以常法。拉其頭殺之。然後笞。笞畢。拽之於外。拉者忽驚蹙。面仆於地死矣。數日。賓州報。副將以其日黃昏。暴心痛終。制使裴君。以明年四月卒。其年十月。式方方於毬場宴敕使次。飲酒正洽。忽舉首瞪目 曰。樂某。汝今何來也。我亦無過。索酒瀝地祝之。良久又曰。我知汝屈。而竟殺汝。亦我之罪。遂瘖不語。舁到州。及夜而殞。至今桂州城南門。樂生死所。方圓丈餘。竟無草生。後有從事於桂者。視之信然。自古冤死者亦多。樂生一何神異也。(出逸史)

宋申錫

唐丞相宋申錫。初為宰相。恩渥甚重。申錫亦頗以致昇平為己任。時鄭注交通縱放。以擅威柄。欲除去之。乃以友人王璠為京兆尹。密與之約。令察注不法。將獻其狀。擒於京兆府。杖殺之。既約定。璠翻覆小人也。以注方為中貴所愛。因欲親厚之。乃盡以申錫之謀語焉。注因報知右軍。不旬日。乃偽作申錫之罪狀。令人告之云。以文字結於諸王。圖謀不軌。以衣物金寶奇玉為質。且令人傚其手疏。皆至逼似。(似原作以。據明鈔本改。)獄成於內。公卿眾庶無不知其冤也。三事已降。迭入論之。方得謫為開州司馬。至任數月。不勝其憤而卒。明年。有恩詔。令歸葬京城。至大和元(元明鈔本作九。)年春。其夫人亭午於堂前假寐次。見申錫從中門入。不覺驚起。申錫以手招之。乃下階。曰。且來。有少事。要令君見。便引出城。似至滻水北去數里。到一墟開。見一大坑。坑邊有小竹籠及小板匣者數枚。皆有封記。申錫乃提一示夫人曰。此是那賊。因憤怒叱吒。問曰。是誰。曰。王璠也。我得請於上帝矣。復詰其餘。曰。即自知。言訖。拂然而醒。遍身流汗。當時言於家人及親屬。且以筆記於衣箱中。至其年十一月。璠果以事腰斬於市。同受戮者數人。皆同坎埋於城外。乃知宋公之神靈為不誣矣。(出逸史)

蜀營典

唐蜀將尹偃。營有卒。晚點後數刻不至。偃將責之。卒被酒。自理聲高。偃怒。杖數十。幾至死。卒弟為營典。性友愛。不平偃。乃以刀剪肌。作殺尹兩字。以墨涅之。偃陰知。乃以他事杖殺典。及大和中。南蠻入寇。偃領眾數萬。保邛偃關。偃膂力絕人。常戲左右。以棘節杖擊其脛。隨擊筋脹擁腫。恃其力。悉眾出關。逐蠻數里。蠻伏發。夾攻之。大敗馬倒。中數十槍而死。初出關時。忽見所殺典。擁黃案。大如轂。在前引。心甚惡之。問左右。咸無見者。竟死於陣。(出酉陽雜俎)

太平廣記卷第一百二十三

報應二十二(冤報)

胡激
秦匡謀
韋判官
楊收
宋柔
王表
乾寧宰相

胡激

唐胡激者。前嶺南節度使誕(誕明鈔本作證。)之子也。宰相賈餗知舉。登進士第。大和中。甘露之變。北軍方捕餗。有禁軍牙校。利激家富。白仇士良曰。恐餗在激所。因遣士卒理其家。既不獲餗。擒激以詣士良。士良命戮於轅門外。盡沒其財。時激弟湘。在河東郡。忽一日。家僮見一人無頭。著綠衣。上皆流血。甚異之。及凶問至。詢其由。則激死之日也。後士良死。亦破其家。蓋其報也。(出補錄記傳)

秦匡謀

唐太傅汾國公杜悰。節度江陵。咸通十四年。黔南廉使秦匡謀以蠻寇大舉。兵力不敵來奔。既謁見公。公怒其不趨庭。退而使吏讓之曰。汝鳳翔一民也。悰兩為鳳翔節度使。汝今靡認桑梓也。匡謀報曰。某雖家世岐下。然少離中土。太傅擁節之日。已忝分符。實不曾趨走台階。比日況在荊南。若論桑梓。恐非儀也。悰怒。遣縶之。發函與韋相保衡云。秦匡謀擅棄城池。不能死王事。請誅之。韋以悰國之元臣。兼素有舊恩。遂奏請依悰處置。敕既降。悰乃親臨都市監戮。匡謀將就法。謂其子曰。今日之死。實冤枉無狀。奈申訴非及。但多燒紙墨。當於泉下理之耳。行刑。觀者駕肩接踵。

揮刃之際。悰大驚。驟得疾。遂輿而返。俄有旋風暴作。飛卷塵埃。直入府署乃散。是夕。獄吏發狂。自呼姓名叱責曰。吾已惠若錢帛非少。奚復隱吾受用諸物。舉體自撲而殞。其年六月十三日殺秦匡謀。七月十三日。悰乃薨。將歸葬洛陽。為束身楸函而即路。欲斂之夕。主吏覺函短。憂懼甚。又難於改易。遂厚賂陰陽者。紿杜氏諸子曰。太傅薨時甚凶。就木之際。若臨近。必有大禍。諸子信然。於是盡率家人。待於別室。及舉尸就斂。楸函果短。遂陷胷折項骨而入焉。無有知者。及抵東洛。長子無逸。相次而逝。歲月既久。其事稍聞於世。議者以悰恃權貴。枉刑戮。獲茲報焉。(出南楚新聞)

韋判官

唐博陵崔應任扶溝令。亭午獨坐。有老人請見應。應問之。老人對曰。某通於靈祇也。今者冥司韋判官來拜謁。幸望厚禮以待之。請備香案。屏去侍從。當為延入。應依命。老人即出迎之。及庭。隱隱然不見其形。自通名啣。稱(許本黃本啣作銜稱作稱。)思穆。敘拜俟(俟原作時。據明鈔本改。)候。應亦答拜。揖讓再三。乃言曰。某冥司要職也。側聞長官宏才令器。冠於當時。輒將心事。且願相託。故俟亭午務隙拜謁。幸無驚異。應曰。某聞神明不昧。今乃不虛。孱劣幽薄。觸事蒙鄙。何幸明靈俯降。但揣微賤。力不副心。苟可施於區區。敢不從命。幸示指南。願効勤勞。冥使曰。某謝去人世數載。得居冥職。自棄擲妻孥。家事零替。愛子文卿。少遭憫凶。鄙野無文。職居鄭滑院。近經十載。交替院務之日。不明簿書。欠折數萬貫疋。實非己用。欲冒嚴明。俯為存庇。應俯然曰。噫。某扶溝令也。焉知鄭滑院。使者曰。不然。以閣下材器祿位。豈一院哉。自今已後。歷官清顯。雄居方鎮。位極人臣。然數月後。當與鄭滑院交職。儻不負今日之言。某於冥司。當竭微分。仰護榮貴。非止一身。抑亦慶及後嗣。應曰。某雖鄙陋。敢不惟命是聽。冥使

感泣。於是敘別而去。應聞淮南杜相悰方求政理。偶具書啟。兼錄為縣課績。馳使揚州。意者以思穆之言。且於驗試其事。時相國都督維揚。兼判鹽鐵。奏應知鄭滑院事。及交割帳籍錢帛。欠折數萬貫疋。收錄家資填償外。尚欠三四萬無所出。初應在扶溝。受思穆寄託。事實丁寧。比及鄭滑。遂違前約。且曰。欠折數廣。何由辨明。文卿雖云贓非己用。積年不申論。須抵嚴刑。以懲慢易。窮達既定。鬼何能移。若棄法徇神。是諂而求福。乃拘縶文卿而白於使。文卿自度必死。乃預懷毒於衣帶之間。比及囚縶。數欲服之。輒失其藥。搜求不獲。及文卿以死論。是日。思穆見於文卿前而告曰。嗚呼。無信之人。陷汝家族。吾為汝上告於帝。帝許我奪崔應之祿。然吾之族亦滅矣。文卿匍匐拜哭。忽失其父。乃得所懷之藥。仰而死焉。於是應與巡官李擅、滑紀朱程、戎曹賈均就非所將刑之。文卿既已死。應方悔悟。乃禮葬文卿。身衣縞素而躬送之。應後加殿中。時有人自邯鄲將美人曰金閨來獻於應。應納而嬖之。崔君始惑於聲色。為政之心怠矣。後二年。加侍御史。知楊子院。與妻盧氏及金閨偕行。尋除浙西院。應自至職。金閨寵愛日盛。中門之外。置別館焉。華麗逾於正寢。視事之罷。經日不履內。前後歷任寶貨。悉置金閨之所。無何。復有人獻吳姝。艷於金閨。應納之。寵嬖愈甚。每歌舞得意。乃奪金閨寶貨而賜新姝。因是金閨忿逆。與親弟陳行宗置毒藥於酒中。夜以獻應。飲之。俄頃而卒。潛遷應於大廳。詰旦。家人乃覺。莫知事實。盧氏慈善。不能窮究。金閨乃持寶貨。盡室而去。諸姬分散。崔氏門館日微。後隴西李君知浙西院。聞金閨艷麗。求而納之。李君與金閨白晝開筵。應乃見形於庭。叱金閨曰。汝已鴆我。又納於李君。後不得意。復欲禍李君耶。金閨懼而辭歸。後李君方欲捕金閨。案理舊事。雪崔生之冤。金閨忽爾逃去。不知所在。(出陰德傳)

楊收

唐丞相楊收。貶死嶺外。于時鄭愚尚書鎮南海。忽一日。賓司報云。楊相公在客次。欲見尚書。愚驚駭。以收近有後命。安得來此。乃延接之。楊曰。某為軍容使楊玄价所譖。不幸遭害。今已得請于上帝。賜陰兵以復仇。欲託尚書宴犒。兼借錢十萬緡。鄭諾之。唯錢辭以軍府事多。許其半。楊相曰。非銅錢也。燒時幸勿著地。愚曰。若此則固得遵副。從容長揖而滅。愚令於北郊具酒饌素錢以祭之。楊猶子有典壽陽者。見收乘白馬。臂朱弓彤矢。有朱衣天吏控馬。謂之曰。今上帝許我讎殺楊玄价。我射中之。必死也。俄而楊中尉暴得疾而死。蜀毛文錫。其先為潮州牧。曾 事鄭愚。熟詳其事。(出北夢瑣言)

宋柔

唐僖宗之狩于岷蜀也。黃巾 尚遊魂於三輔。中和辛丑歲。詔丞相晉國公王鐸。為諸道行營都統。執操旗鼓。乘三峽而下。作鎮南燕。為東諸侯節度。又詔軍容使西門季玄為都監。秋七月。鐸至滑。都監次于臨汝。郡當兵道。郵傳皆焚。乃舍于龍興北禪院。其西廊小院。即都監下都押衙何群處之。群滑人也。世為本軍劇職。群少兇險。親姻頗薄之。乃西走上京。以干中貴人。而西門納焉。至是擢為元從都押衙。戎事一以委焉。群志氣驕佚。肉視其從。嘗一日。汝州監軍使董弘贊。令孔目 官宋柔。奉啟于都監。致命將出。值群方據胡牀於門下。怒其不先禮謁也。叱數卒捽以入。擊以馬撾而遣之。弘贊聞之大恐。笞宋柔數十。仍斥去。不復任使。馳書使謝群。群亦無怍。復數旬。日將夕。宋柔徒行。經寺門。又值群自外將入。瞥見發怒。連叱騶皁。錄之入院。候曛黑。殺而支解。納諸溷中。既張燈。宛見宋柔被髮徒跣。浴血而立於燈後。群矍起。奮劍擊刺。欻然而滅。厥後夜夜見之。暮秋月。都監遷于滎陽郡。舍於開元寺。子城東南隅之地。至是群神情惝怳。漸不自安。乃與其裨將竇思禮等謀叛。將大掠郡中。而奔於江左。都監部曲 三百許

人。皆畏群而唯諾。會太守杜真府符請都監夜宴。啟至。群謂思禮等曰。機不旋踵。時不再來。必發今宵。無貽後悔。思禮等遂潛勒部分。至晡時。都監赴宴。群令親信十數人從。戒曰。至三更。汝焚六司院門。寺中必舉火相應。其夕一鼓。群假寢帳中。乃夢宋柔向群大叱曰。吾讎雪矣。遂驚覺。召思禮語之。對曰。此乃思也。是何能為。二鼓將半。乃令其徒擐甲。使一卒登佛殿西大梓樹。瞷子城內。無何。郡都虞候遊巡至僧網。啟門入。至殿隅。仰視木杪。心動。命爇炬於下。乃見介者蹲於枝間。方詰所從。群連聲謂曰。走卒痁作。遂逃於上。無他也。都虞候色變。馳出戒嚴。群呼思禮等謂曰。事亟矣。不速行。將為豎子所殄。乃擁其徒。斬東門關而出奔。若走兩舍。而群心蕩。無所從其適。下稍稍亡去。倦憩水側。遙聞嚴鼓聲。乃僕射陂東北隅壖也。思禮覺(覺明鈔本作却。)乃前。請啟密語。群將耳附之。思禮拔佩刀。疾斫群首墜於地。餘眾大囂而散。思禮携群首。遲明。歸命於都監。貰其罪。使招其散卒焉。(出三水小牘)

王表

河東裴光遠。唐龍紀己酉歲。調授滑州衛南縣尉。性貪婪。冒於貨賄。嚴刑峻法。吏民畏而惡之。尤好擊鞠。雖九夏蒸鬱。亦不暫休息。畜一白馬。駿健能馳騁。竟以暑月不勝其役。而致斃於廣場之內。有里長王表者。家雖富贍。早喪其妻。唯一子。可七八歲。白晳端麗。常隨父來縣曹。光遠見而憐之。呼令入宅。遺以服翫。自是率以為常。光遠令所親謂表曰。我無子。若能以此兒相餉。當善待汝。縱有大過。亦不汝瑕疵也。表答曰。某誠賤微。受制於上。骨肉之間。則無以奉命。況此兒襁褓喪母。豈可復離其父乎。設使以此獲罪於明公。亦甘心矣。光遠聞而銜之。後數日。乃遣表使於曹南。使盜待諸境上。殺之而取其子。大順辛亥歲春。光遠遘疾。逾月委頓。或時若鬼物所中。獨言曰。王表來也。當還爾兒。又為

表言曰。某雖小吏。慎密未嘗有過。反招殘賊。規奪赤子。已訴於天。今來請命。又為己語。今還爾兒。與爾重作功德。厚賂爾陰錢。免我乎。皆曰。不可。少頃曰。白馬來也。則代馬語曰。為人乘騎。自有年限。至於負載馳驟。亦有常程。筋力之勞。所不敢憚。豈有盛夏之月。擊鞭不止。斃此微命。實由於君。已訴上天。今來奉取。又為己語。祈之如王表。終不聽。數日。光遠遂卒。(出三水小牘)

乾寧宰相

唐乾寧二年。邠州王行瑜會李茂貞、韓建入覲。決謀廢立。帝既覩三帥齊至。必有異謀。乃御樓見之。謂曰。卿等不召而來。欲有何意。茂貞等洽背不能對。但云。南北司紊亂朝政。因疏韋昭度討西川失謀。李磎麻下。為劉崇魯所哭。陛下不合違眾用之。乃令宦官詔害昭度已下。三帥乃還鎮。內外冤之。初王行瑜跋扈。朝廷欲加尚書令。昭度力止之曰。太宗以此官總政而登大位。後郭子儀以六朝立功。雖有其名。終身退讓。今行瑜安可輕授焉。因請加尚父。至是為行瑜所憾而被害焉。後追贈太師。李磎字民望。拜相麻出。劉崇魯抱之而哭。改授太子少傅。乃上十表。及納諫五篇。以求自雪。後竟登庸。且訐崇魯之惡。時同列崔昭緯與韋昭度及磎素不相協。王行瑜專制朝廷。以判官崔鋋入闕奏事。與昭緯關通。因託鋋致意。由是行瑜率三鎮脅君。磎亦遇禍。其子[洨- 乂+(幺 - 厶 +?)]。有高才。亦同日害之。磎著書百卷。號李書樓。後追贈司徒。太原李克用破王行瑜後。崔昭緯貶而賜死。昭皇切齒下詔捕崔鋋。亦冤報之驗也。(出北夢瑣言)

太平廣記卷第一百二十四

報應二十三(冤報)

王簡易
樊光
李彥光
侯溫
沈申
法曹吏
劉存
袁州錄事
劉璠
吳景
高安村小兒
陳勳
鍾遵
韋處士
張進
郝溥
裴垣
蘇鐸
趙安

王簡易

唐洪州司馬王簡易者。常暴得疾。腹中生物如塊大。隨氣上下。攻擊臟腑。伏枕餘月。一夕。其塊逆上築心。沈然長往。數刻方寤。謂所親曰。初夢見一鬼使。自稱丁郢。手執符牒云。奉城隍神命。來追王簡易。某即隨使者行。可十餘里。方到城隍廟。門前人相謂曰。王君在世。頗聞修善。未合身亡。何得遽至此耶。尋得見城隍神。告之曰。某未合殂落。且乞放歸。城隍神命左右將簿書來。檢畢。謂簡易曰。猶合得五年活。且放去。至五年。腹內物又上築心。逡巡復醒云。適到冥司。被小奴所訟。辭氣不可解。其妻問小奴何人也。簡易曰。某舊使僮僕。年在妙齡。偶因約束。遂致斃。

今腹中塊物。乃小奴為祟也。適見前任吉州牧鍾初。荷大鐵枷。着黃布衫。手足械繫。冥司勘非理殺人事。款問甚急。妻遂詰云。小奴庸下。何敢如是。簡易曰。世間即有貴賤。冥司一般也。妻又問陰間何罪最重。簡易曰。莫若殺人。言訖而卒。(出報應錄)

樊光

交趾郡廂虞候樊光者。在廨宇視事。亭午間。風雷忽作。光及男並所養一黃犬並震死。其妻於霆擊之際。欻見一道士。撮置其身於別所。遂得免。人問其故。妻云。嘗有二百姓相論訟。同繫牢獄。無理者納賂於光。光即出之。有理者大被栲掠。抑令款伏。所送飲食。光悉奪與男並犬食之。其囚饑餓將死間。於獄內被髮訴天。不數日。光等有此報。(出報應錄)

李彥光

李彥光為秦內外都指揮使。主帥中書令李崇委任之。專其生殺。虐酷黷貨。遭枉害者甚眾。部將樊某者。有騾一頭。甚駿。彥光使人達意求之。樊恡之不與。因而蓄憾。以他事搆而囚之。偽通辭款。承主帥醉而呈之。帥不復詳察。光即矯命斬之。樊臨刑曰。死若無知則已。死若有知。當刻日而報。及死未浹旬。而彥光染疾。樊則形見。晝夜不去。或來自屋上。或出自牆壁間。持杖而前。親行鞭箠。左右長幼皆散走。于是便聞決罪之聲。不可勝忍。唯稱死罪。如是月餘方卒。自爾持權者頗以為戒。(出玉堂閒話)

侯溫

梁朝與河北相持之時。有偏將侯溫者。軍中號為驍勇。賀瓌為統率。專制忌前。以事害之。其後瓌寢疾。彌留之際。左右只聞公呼侯九者數日。頗有祈請之詞。深自克責。有侍者見一丈夫自壁間出。曳瓌於地。侍者驚呼。左右俱至。瓌已死矣。昔漢竇嬰、灌夫

為武安侯田蚡所搆而死。及蚡疾。巫者視鬼。見竇灌夾而笞之。蚡竟卒。事相類耳。(出玉堂閒話)

沈申

湖南帥馬希聲。在位多縱率。有賈客沈申者。常來往番禺間。廣主優待之。令如北中求寶帶。申於洛汴間市得玉帶一。乃奇貨也。回由湘潭。希聲竊知之。召申詣衙。賜以酒食。抵夜送還店。預戒軍巡。以犯夜戮之。湘人俱聞。莫不嗟憫。爾後常見此客為祟。或在屋脊。或據欄檻。不常厥處。未久。希聲暴卒。其弟希範嗣立。以玉帶還廣人。(出北夢瑣言)

法曹吏

廬陵有法曹吏。嘗劾一僧。曲致其死。具獄上州。爾日。其妻女在家。方紉縫於西窗下。忽有二青衣卒。手執文書。自厨中出。厲聲謂其妻曰。語爾夫。無枉殺僧。遂出門去。妻女皆驚怪流汗。久之乃走出。視其門。扃閉如故。吏歸。具言之。吏甚恐。明日將竊取其案。已不及矣。竟殺其僧。死之日。即遇諸塗。百計禳謝。旬月竟死。(出稽神錄)

劉存

劉存為舒州刺史。辟儒生霍某為團練判官。甚見信任。後為左右所譖。因搆其罪。下獄。白使府請殺之。吳帥知其冤。使執送楊都。存遂縊之於獄。既而存遷鄂州節度使。霍友人在舒州。夢霍素服自司命祠中出。撫掌大笑曰。吾已獲雪矣。俄而存帥師征湖南。霍表兄馬鄴。為黃州刺史。有夜扣齊安城門者曰。舒州霍判官將往軍前。馬病。白使君借馬。守陴者以告。鄴歎曰。劉公枉殺霍生。今此人往矣。得無禍乎。因畫馬數匹。焚之水際。數日存敗績。死之。(出稽神錄)

袁州錄事

袁州錄事參軍王某嘗劾一盜。獄具而遇赦。王以盜罪□不可恕。乃先殺之而後宣赦。罷歸至新喻。邑客馮氏。具酒請王。明日當往。晚止僧院。乃見盜者曰。我罪誠合死。然已赦矣。君何敢匿王命而殺我。我今得請於所司矣。君明日往馮家耶。不往亦可。言訖乃歿。院僧但見其與人言而不見也。明日方飲。暴卒。(出稽神錄)

劉璠

軍將劉璠性彊直勇敢。坐法徙海陵。郡守褚仁規嫌之。誣其謀叛。詔殺於海市。璠將死。謂監刑者曰。為我白諸兒。多置紙筆於棺中。吾必訟之。後數年。仁規入朝。泊舟濟灘江口。夜半。聞岸上連呼褚仁規。爾知當死否。舟人盡驚起。視岸上無人。仁規謂左右曰。爾識此聲否。劉璠也。立命酒食。祭而謝之。仁規至都。以殘虐下獄。獄吏夜夢一人。長大黯面。從二十餘人。至獄。執仁規而去。既寤。為仁規所親說之。其人撫膺歎曰。吾君必死。此人即劉璠也。其日中使至。遂縊於獄矣。(出稽神錄)

吳景

浙西軍校吳景者。丁酉歲。設齋於石頭城僧院。其夕既陳設。忽聞婦女哭聲甚哀。初遠漸近。俄在齋筵中矣。景乃告院僧曰。景頃歲從軍克豫章。獲一婦人。殊有姿色。未幾。其夫求贖。將軍令嚴肅。不可相容。景即殺之。後甚以為恨。今之設齋。正為是也。即與僧俱往。乃見婦人在焉。僧為之祈告。婦人曰。我從吳景索命。不知其他。遽前逐之。景走上佛殿。大呼曰。還爾命。於是顛仆而卒。(出稽神錄)

高安村小兒

高安村人有小兒作田中。為人所殺。不獲其賊。至明年死日。家人為設齋。爾日。有里中兒方見其一小兒謂之曰。我某家死兒也。今日家人設齋。吾與爾同往食乎。里中兒即隨之。至其家。共坐靈牀。食至輒飡。家人不見也。久之。其舅後至。望靈牀而哭。兒即逕指之曰。此人殺我者也。吾惡見之。遂去。兒既去。而家人見里中兒坐靈牀上。皆大驚。問其故。兒具言之。且言其舅殺之。因執以送官。遂伏罪。(出稽神錄)

陳勳

建陽縣錄事陳勳。性剛狷不容物。為縣吏十人共誣其罪。竟坐棄市。至明年死日。家為設齋。妻哭畢。獨歎於靈前曰。君平生以剛直稱。今枉死逾年。精魄何寂然耶。是夕。即夢勳曰。吾都不知死。向聞卿言。方大悟爾。若爾。吾當報讐。然公署非可卒入者。卿明日為我入縣訴枉。吾當隨之。明日。妻如言而往。出門。即見勳仗劒從之。至縣。遇一讎吏於橋上。勳以劒擊其首。吏即顛仆而死。既入門。勳徑之曹署。以次擊之。中者皆死。十殺其八。二吏奔至臨川。乃得免。勳家在蓋竹。鄉人恒見之。因為立祠。號陳府君廟。至今傳其靈。(出稽神錄)

鍾遵

江南大理評事鍾遵。南平王傅之孫也。歷任貪濁。水部員外郎孫岳。素知其事。密縱於權要。竟坐下獄。會赦除名。遵既以事在赦前。又其祖嘗賜鐵券。恕子孫二死。因復詣闕自理。事下所司。大理奏贓狀明白。遂棄市。臨刑。或與之酒。遵不飲。曰。吾當訟於地下。不可令醉也。遵死月餘。岳方與客坐。有小青虵出於棟間。岳視之。驚起曰。鍾評事。鍾評事。變色而入。遂病。翌日死。(出稽神錄)

韋處士

韋承皐者。偽蜀時將校也。有待詔僧名行真。居蜀州長平山。嘗於本州龍興寺搆木塔。凡十三級。費錢銀萬計。尋為天火所焚。第三次營搆。方能就。人謂其有黃白之術也。及承皐典眉州。召行真至郡。郡有盧敬芝司馬者。以殖貨為業。承皐嘗謂之曰。某頃軍中。與行真同火幕。遇一韋處士。授以作金術。適來鄙夫老矣。故召行真。同修舊藥。藥成。當得分惠。謂吾子罷商賈之業可乎。盧敬諾。藥垂成。韋牧坐罪貶茂州參軍。臨行。盧送至蓽頤津。韋牧沈藥鼎於江中。謂盧生曰。吾罪矣。先是授術韋處士者。吾害之而滅口。今日之事。藥成而禍及。其有神理乎。蜀國更變。以拒魏王之師。誅死。(出北夢瑣言)

張進

偽蜀給事中王允光性嚴刻。吏民有犯。無貸者。及判刑院。本院杖直官張進。因與宅內小奴子誦火井縣令蔣貽恭詠王給事絕句云。厥父元非道郡奴。允光何事太侏儒。可中與箇皮裩著。擎得天王左脚無。奴子記得兩句。時念誦之。允光問誰人教汝。對云。杖直官張進。允光大怒。尋奏進受罪人錢物。遂寘極法。後允光病寒熱。但見張進執火炬燒四體。高聲唱索命。允光連叱不去。痛楚備極。數日而終。(出儆誡錄)

郝溥

偽蜀華陽縣吏郝溥日追欠稅戶。街判司勾禮遣婢子阿宜赴縣。且囑溥云。不用留禁。殘稅請延期輸納。郝溥不允。決阿宜五下。仍納稅了放出。明年。縣司分擘百姓張瓊家物業。郝溥取錢二萬。張瓊具狀論訴。街司追勘。勾禮見溥。大笑曰。你今日來也。莫望活。千萬一死。令司吏汝勳搆成罪。遂殺之。不數日。汝勳見郝溥來索

命。翌日暴卒。勾禮晨興。忽見郝溥升堂。羅拽毆擊。因患背瘡而死。(出儆誡錄)

裴垣

偽蜀寧江節度使王宗黯生日。部下屬縣。皆率釀財貨。以為賀禮。巫山令裴垣以編戶羈貧。獨無慶獻。宗黯大怒。召裴至。誣以他事。生沈澦瀕堆水中。三日尸不流。宗黯遣人命挽而下。經宿逆水復上。卓立波面。正視衙門。宗黯頗不自安。神識煩撓。竟得疾暴卒。(出北夢瑣言)

蘇鐸

偽蜀王宗信。鎮鳳州。有角觝人蘇鐸者。委之巡警。嘗與宗信左右孫延膺不協。宗信因暇日登樓。望見蘇鐸。錦袍束帶。似遠行人之狀。宗信訝之。鐸本岐人也。延膺因譖曰。蘇鐸雖受公蓄養。其如苞藏禍心。久欲逃去。宗信大怒。立命擒至。先斷舌臠肉。然後斬之。及延膺作逆。其被法之狀。一如鐸焉。(出儆誡錄)

趙安

蜀郭景章。豪民也。因醉。以酒注子打貧民趙安。注子觜入腦而死。安有男。景章厚與金帛。隨隱其事。人莫知之。後景章腦上忽生瘡。可深三四分。見骨。膿血不絕。或時覩趙安。瘡透喉。遂死。(出儆誡錄)

太平廣記卷第一百二十五

報應二十四(冤報)

榼頭師
唐紹
李生
盧叔倫女
崔無隱

榼頭師

梁有榼頭師者。極精進。梁武帝甚敬信之。後敕使喚榼頭師。帝方與人棊。欲殺一段。應聲曰。殺却。使遽出而斬之。帝棊罷。曰。喚師。使咨曰。向者陛下令人殺却。臣已殺訖。帝歎曰。師臨死之時。有何所言。使曰。師云。貧道無罪。前刼為沙彌時。以鍫剗地。誤斷一曲蟮。帝時為蟮。今此報也。帝流淚悔恨。亦無及焉。(出朝野僉載)

唐紹

唐紹幼而通悟。知生前事。歷歷備記。而未嘗言於人。雖妻子亦不知之也。後為給事中。同里對門。有一郎中李邈者。紹休沐日。多召邈與之言笑。情好甚篤。或時為具饌。中堂偶食。中郎亦不知其所謂。其妻詰紹曰。君有盛名。官至清近。宜慎所交。李邈非類。君亟與之狎。竊為君不取。紹默然。久之曰。非子所知。吾與李邈情好逾厚。唐開元初。驪山講武。紹時攝禮部尚書。玄宗援桴擊皷。時未三合。兵部尚書郭元振遽令詔奏畢。神武赫怒。拽元振坐於纛下。張說跪奏於馬前。稱元振於社稷有保護大功。合赦殊死。遂釋。尤恨而斬紹。先是一日。紹謂妻子曰。吾善李邈。須死而言。今時至矣。遂為略言之。吾自幼即具前生事。明日講武。吾其不免。吾前世為某氏女。既笄。適灞陵王氏子為妻。姑待吾甚嚴。

吾年十七。冬至先一日。姑令吾躬具主饌。比畢。吾悶怠亦甚。姑又令吾縫羅裙。遲明。服以待客。吾臨燈運針。慮功之不就。夜分不息。忽一犬衝扉入房。觸燈。燈僵。油仆裙上。吾且懼且恨。因叱犬。犬走突扉。而扉反闔。犬周章却伏牀下。吾復照燭。將理裙汙。而狼籍殆遍。吾懼姑深責。且恨犬之觸燈。遂舉牀。以剪刀刺犬。偶中其頸。而剪一股亦折。吾復以一股重刺之。俄而犬斃。詰朝持裙白姑。姑方責罵。而吾夫適自外至。詢其故。遂於牀下引斃犬。陳於姑前。由是少解。吾年十九而卒。遂生於此身。往者斃犬。乃今之李邈也。吾明日之死。蓋緣報也。行戮者必是李邈乎。報應蓋理之常。爾無駭焉。及翌日講武。坐誤就戮。果李邈執刀。初一刀不殊而刀折。易刀再舉。乃絕焉。死生之報。固猶影響。至於刀折殺亦不異。諒明神不欺矣。唐書說明皇尋悔恨殺紹。以李邈行戮太疾。終身不更錄用。(出異雜篇)

李生

唐貞元中。有李生者。家河朔間。少有膂力。恃氣好俠。不拘細行。常與輕薄少年遊。年二十餘。方折節讀書。為歌詩。人頗稱之。累為河朔官。後至深州錄事參軍。生美風儀。善談笑。曲曉吏事。廉謹明幹。至於擊鞠飲酒。皆號為能。雅為太守所知。時王武俊帥成德軍。恃功負眾。不顧法度。支郡守畏之側目 。嘗遣其子士真巡屬郡。至深州。太守大具牛酒。所居備聲樂。宴士真。太守畏武俊。而奉士真之禮甚謹。又慮有以酒忤士真者。以故僚吏賓客。一不敢召。士真大喜。以為他郡莫能及。飲酒至夜。士真乃曰。幸使君見待之厚。欲盡歡於今夕。豈無嘉賓。願得召之。太守曰。偏郡無名人。懼副大使(士真時為武俊節副大使。)之威。不敢以他客奉宴席。唯錄事參軍李某。足以侍談笑。士真曰。但命之。於是召李生入。趨拜。士真目 之。色甚怒。既而命坐。貌益恭。士真愈不悅。瞪顧攘腕。無向時之歡矣。太守懼。莫知所謂。顧視生。靦然而

汗。不能持盃。一坐皆愕。有頃。士真叱左右。縛李某繫獄。左右即牽李袂疾去。械獄中。已而士真歡飲如初。迨曉宴罷。太守且驚且懼。乃潛使於獄中訊李生曰。君貌甚恭。且未嘗言。固非忤於王君。君寧自知耶。李生悲泣久之。乃曰。常聞釋氏有現世之報。吾知之矣。某少貧。無以自資。由是好與俠士遊。往往掠奪里人財帛。常馳馬腰弓。往還大行道。日百餘里。一日遇一年少。鞭駿騾。負二巨囊。吾利其資。顧左右皆巖崖萬仞。而日漸曛黑。遂力排之。墮於崖下。即疾驅其騾逆旅氏。解其囊。得繒綺百餘段。自此家稍贍。因折弓矢。閉門讀書。遂仕而至此。及今凡二十七矣。昨夕君侯命與王公之宴。既入而視王公之貌。乃吾曩時所殺少年也。一拜之後。中心慙惕。自知死不朝夕。今則延頸待刃。又何言哉。為我謝君侯。幸知我深。敢以身後為託。有頃。士真醉悟。急召左右。往李某取其首。(往李某取其首明鈔本作往取李某首來。)左右即於獄中斬其首以進。士真熟視而笑。既而又與太守大飲于郡齋。酒醉。太守因歡。乃起曰。某不才。幸得守一郡。而副大使下察弊政。寬不加罪。為恩厚矣。昨日副大使命某召他客。屬郡僻小無客。不足奉歡宴者。竊以李某善飲酒。故請召之。而李某愚戇。不習禮法。大忤於明公。實某之罪也。今明公既已誅之。宜矣。竊有所未曉。敢以上問李某之罪為何。願得明數之。且用誡於將來也。士真笑曰。李生亦無罪。但吾一見之。遂忽然激吾心。已有戮之之意。今既殺之。吾亦不知其所以然也。君無復言。及宴罷。太守密訊其年。則二十有七矣。蓋李生殺少年之歲。而士真生於王氏也。太守歎異久之。因以家財厚葬李生。(出宣室志)

盧叔倫女

長安城南。曾 有僧至日中求食。偶見一女子採桑樹上。問曰。此側近何處有信心。可乞飯者。女子曰。去此三四里。有王家。見設齋次。見和尚來必喜。可速去也。僧隨所指往。果見一群僧。方就

坐。甚慰。延入。齋訖。主姥異其及時至也。問之。僧具以實告。主人夫妻皆驚曰。且與某同往。訪此女子。遂俱去。尚在桑樹上。乃村人盧叔倫女也。見翁姥。遂趨下。棄葉籠奔走歸家。二人隨後逐之。到所居。父母亦先識之。女子入室。以牀扃戶。牢不可啟。其母驚問之。曰。某今日家內設齋。有僧云小娘子遣來。某作此功德。不曾 語人。怪小娘子知。故來視看。更非何事。其母推戶遣出。女堅不肯出。又隨而罵之。女曰。某不欲見此老兵老嫗。亦豈有罪過。母曰。隣里翁婆省汝。因何故不出。二人益怪異。(異原本作厚。據明鈔本改。)祈請之。女忽大呼曰。某年月日。販胡羊父子三人今何在。二人遂趨出。不敢迴顧。及去。母問之。答曰。某前生曾販羊。從夏州來。至此翁莊宿。父子三人並為其害。刼其資貨。某前生乃與之作兒。聰黠勝人。渠甚愛念。十五患病。二十方卒。前後用醫藥。已過所刼數倍。渠又為某每歲亡日作齋。夫妻涕泣。計其淚過三兩石矣。偶因僧問乞飯處。某遂指遵之耳。亦是償債了矣。翁姥從此更不復作齋也。(出逸史)

崔無隱

唐元和中。博陵崔無隱言其親友曰。城南杜某者。嘗於汴州招提院。與主客僧坐語。忽有一客僧。當面鼻額間。有故刀瘢。橫斷其面。乃訊其來由。僧良久嘬慘而言曰。某家於梁。父母兄嫂存焉。兄每以賈販江湖之貨為業。初一年。自江南而返大梁。獲利可倍。二年往而不返。三年。乃有同行者云。兄溺於風波矣。父母嫂俱服未闋。忽有自漢南賈者至於梁。乃訪召某父姓名者。某於相國精舍。應曰唯。賈客曰。吾得汝兄信。某乃忻駭未言。且邀至所居。告父母。而言曰。師之兄以江西貿折。遂浪迹於漢南。裨將憐之。白於元戎。今於漢南。雖緡錢且盡。而衣衾似給。以卑貧所係。是未獲省拜。故憑某以達信耳。父母嫂悲忻泣不勝。翌日。父母遣師之漢南。以省兄。師行可七八日。入南陽界。日晚。過一大澤中。

東西路絕。目 無人煙。四面陰雲且合。漸暮。遇寥落三兩家。乃欲寄宿耳。其家曰。師胡為至此。今為信宿前有殺人者。追逐未獲。索之甚急。宿固不可也。自此而南三五里。有一招提所。師可宿也。某因(某因二字原本無。據明鈔本補。)言而往。陰風漸急。颯颯雨來。可四五里。轉入荒澤。莫知為計。信足而步。少頃。前有燭光。初將咫尺。而可十里方到。風雨轉甚。不及扣戶而入。造於堂隍。寂無生人。滿室死者。瞻視次。雷聲一發。師為一女人屍所逐。又出。奔走七八里。至人家。雨定。月微明。遂入其家。中門外有小廳。廳中有牀榻。臥未定。忽有一夫。長七尺餘。提白刃。自門而入。師恐。立於壁角中。白刃夫坐榻良久。如有所候。俄而白刃夫出廳東。先是有糞積。可乘而覘宅中。俄又聞宅中有三四女人。於牆端切切而言。須臾。白刃夫携一衣襆入廳。續有女人從之。乃計會逃逝者也。白刃夫遂云。此室莫有人否。以刃繞壁畫之。師帖壁定立。刃畫其面過。而白刃夫不之覺。遂携襆領奔者而往。師自料不可住。乃捨此又前走。可一二里。撲一古井中。古井中已有死人矣。其體暖。師之廻遑可五更。主覺失女。尋趁至古井。以火照。乃屍與師存焉。執師以聞於縣。縣尹明辯。師以畫壁及牆上語者具獄。於宅中姨姑之類而獲盜者。師之得雪。南征垂至漢南界。路逢大檜樹。一老父坐其下。問其從來。師具告。父曰。吾善易。試為子推之。師呵謝。父布卦噓唏而言曰。子前生兩妻。汝俱辜焉。前為走尸逐汝者。長室也。為人殺於井中同處者。汝側室也。縣尹明汝之無辜。乃汝前生母也。我乃汝前生(母也下七字據明鈔本補。)之父。漢南之兄已(已原作俱。據明鈔本改。)無也。言畢。師淚下。收淚之次。失老父所在。及至漢南。尋訪其兄。杳無所見。其刀瘢乃白刃夫之所致也。噫。乃宿冤之動作。徵應委曲如是。無隱云。杜生自有傳。此略而記之。(出博異記)

太平廣記卷第一百二十六

報應二十五

程普
羊聃
劉毅
張和思
梁元帝
竇軌
武攸寧
崔進思
祁萬壽
郭霸
曹惟思
邢璹
萬國俊
王瑤
陳峴
蕭懷武
李龜禎
陳潔

程普

程普。字嘉謀。吳孫權將也。領江夏太守盪寇將軍。嘗殺叛者數百人。皆使投火。即日普病熱。百餘日便死。(原闕出處。今見三國志吳志普傳裴注引吳書)

羊聃

羊聃。字彭祖。晉廬江太守。為人剛克麤暴。恃國姻親。縱恣尤甚。睚眦之嫌。輒加刑戮。征西大將軍庾亮檻送。具以狀聞。右司馬奏聃殺郡將吏及民簡良等二百九十人。徒謫一百餘人。應棄市。依八議請宥。顯宗詔曰。此事古今所未有。此而可忍。孰不可忍。

何八議之有。下(下明鈔本作可。)獄所賜命。聘兄子賁。先尚南郡公主。自表解婚。詔不許。瑯琊孝王妃山氏。聘之甥也。苦以為請。於是司徒王導啟聘罪不容恕。宜極重法。山太妃憂感動疾。陛下罔極之恩。宜蒙生全之宥。於是詔下曰。山太妃唯此一舅。發言摧鯁。乃至吐血。情慮深重。朕丁荼毒。受太妃撫育之恩。同於慈親。若不堪難忍之痛。以致頓斃。朕亦何顏自處。今便原聘生命。以慰太妃渭陽之恩。於是除名為民。少時。聘病疾。恒見簡良等曰。枉豈可受。今來相取。自由黃泉。經宿死。(出還冤記)

劉毅

宋高祖平桓玄後。以劉毅為撫軍荊州刺史。到州。便收牧牛寺主。云藏桓家兒慶為沙彌。併殺四道人。後夢見此僧來云。君何以枉殺貧道。貧道已白於天帝。恐君亦不得久。因遂得疾不食。日彌羸瘦。當毅發揚都時。多有爭競。侵凌宰輔。宋高祖因遣人征之。毅敗後。夜單騎突投牧牛寺僧。僧曰。撫軍昔枉殺我師。我道人。自無報仇之理。然何宜來此。主師屢有靈驗。云天帝當收撫軍於寺殺之。毅便歎吒出寺。因上大樹。自縊而死。(出還冤記)

張和思

北齊張和思。斷獄囚。無問善惡貴賤。必被枷鎖杻械。困苦備極。囚徒見者。破膽喪魂。號生羅剎。其妻前後孕男女四人。臨產即悶絕求死。所生男女。皆著肉鏁。手脚並有肉杻束縛。連絆墮地。後和思為縣令。坐法杖死。

梁元帝

後周文帝宇文泰。初為魏丞相。值梁朝喪亂。梁孝元帝為湘東王。時在荊州。遣使通和。禮好甚至。與泰斷金立盟。結為兄弟。後平侯景。孝元即位。泰猶人臣。頗行凌侮。又求索無厭。乃不愜意。

遂遣兵襲江漢。虜係朝士。至于民庶。百四十萬口。而害孝元。又魏文帝先納茹茹主郁久閭阿那壞女為后。親愛殊篤。害梁主之明年。壞為齊國所敗。因率餘眾數千奔魏。而突厥舊與茹茹怨讎。即遣餉泰馬三千匹。求誅壞等。泰許諾。伏突厥兵馬。與壞醼會。醉便縛之。即日滅郁久閭姓五百餘人。茹茹臨死。仰天而訴。明年冬。泰獵於隴右。得病。見孝元及壞為祟。泰發怒肆罵。命索酒食與之。兩月泰卒。

竇軌

唐洛州都督鄧國公竇軌。太穆皇后三從兄。性剛嚴好殺。為益州行臺僕射。多殺將士。又害行臺尚書韋雲起。貞觀二年。在洛病甚。忽言有人餉我瓜來。左右報之。冬月無瓜。軌曰。一盤好瓜。何謂無耶。既而驚視曰。非瓜。並是人頭。軌曰。從我償命。又曰。扶我起見韋尚書。言畢而薨。

武攸寧

唐建昌王武攸寧。任(明鈔本任作別。)置勾任。(明鈔本任作使。)法外枉徵財物。百姓破家者十而九。告冤於天。吁嗟滿路。為大庫。長百步。二百餘間。所徵獲者。貯在其中。天火燒之。一時蕩盡。眾口所呪。攸寧尋患足腫。麤於甕。其酸楚不可忍。數月而終。

崔進思

唐虔州參軍崔進思。恃郎中孫尚容之力。充綱入都。送五千貫。每貫取三百文裹頭。百姓怨歎。號天哭地。至瓜步江。遭風船沒。無有孑遺。家資田園。貨賣並盡。解官落職。求活無處。此所謂聚斂之怨。

祁萬壽

唐乾封縣錄事祁萬壽。性好殺人。縣官每決罰人。皆從索錢。時未得與間。即取麤杖打之。如此死者。不可勝數。囚徒見之。皆失魂魄。有少不稱心。即就獄打之。困苦至垂死。其妻生子。或著肉枷。或有肉杻。或無口鼻。或無手足。生而皆死。

郭霸

唐侍御史郭霸。奏殺宋州三百人。暴得五品。經月患重。臺官問疾。見老巫曰。郭公不可救也。有數百鬼。遍體流血。攘袂[齒*夬] 齒。皆云不相放。有一碧衫人喝緋衣人曰。早合去。何因許時。答曰。比緣未得五品。未合放。俄而霸以刀子自刺乳下。攪之。曰。大快。家人走問之。曰。御史孫容師刺我。其子經御史顧琮訟容師。琮以荒亂言不理。其夜而卒。容師以明年六月霸死日而終。皆不知其所以。司勳郎中張元一云。自春大旱。至霸死雨足。天后問在外有何事。元一曰。外有三慶。旱降雨。一慶。中橋新成。萬代之利。二慶。郭霸身死。百姓皆歡。三慶也。天后笑曰。霸見憎如此耶。

曹惟思

唐蜀郡法曹參軍曹惟思。當章仇兼瓊之時。為西山運糧使。甚見委任。惟思白事於兼瓊。瓊與語畢。令還運。惟思妻生男有疾。因以情告兼瓊。請留數日。兼瓊大怒。叱之令出。集眾斬之。其妻聞之。乘車攜兩子與之訣。惟思已辮髮束縛。兼瓊出監斬之。惟思二男叩頭乞命。來抱馬足。馬為不行。兼瓊為之下泣云。業已斬矣。猶未釋。郡有禪僧。道行至高。兼瓊母師之。禪僧乃見兼瓊曰。曹法曹命且盡。請不須殺。免之。兼瓊乃赦惟思。明日。使惟思行盧府長史事。賜緋魚袋。專知西山轉運使。仍許與其妻行。惟思至瀘州。因疾。夢僧告之曰。曹惟思一生中。負心殺人甚多。無分毫善事。今冤家債主將至。為之奈何。惟思哀祈甚至。僧曰。汝能度兩

子為僧。家中錢物衣服。盡用施寺。仍合家素飡。堂前設道場。請名僧。晝夜誦經禮懺。可延百日之命。如不能。即當死矣。惟思曰。諸事易耳。然苦不食。若之何。僧曰。取羊肝水浸。加以椒醬食之。即能飡矣。既覺。具告其妻。妻贊之。即僧二子。又如言置道場轉經。且食羊肝。即飯矣。如是月餘。晨坐。其亡母亡姊皆來視之。惟思大驚。趨走迎候。有一鬼子。手執絳旛前引。昇自西階。植絳旛焉。其亡姊不言。但於旛下儛。儛儛不輟。其母泣曰。惟思在生不知罪。殺人無數。今冤家欲來。吾不忍見汝受苦辛。故來視汝。惟思命設祭母。母食之。其姊舞更不已。不交一言。母食畢。與姊皆去。惟思疾轉甚。於是羊肝亦不食。常臥道場中。晝日眠覺。有二青衣童子。其長等僬僥也。一坐其頭。一坐其足。惟思問之。童子不與語。而童子貌甚閒暇。口有四牙。出於脣外。明日食時。惟思見所殺人。或披頭潰腸。斷截手足。或斬首流血。盛怒來詬惟思曰。逆賊與我同事。急反殺我滅口。我今訴於帝。故來取汝。言畢昇階。而二童子推之。不得進。但謾罵曰。終須去。惟思知不免。具言其事。如此每日常來。皆為童子所推。不得至惟思所。月餘。忽失二童子。惟思大懼。與妻子別。於是死者大至。眾見惟思如被曳狀。墜於堂下。遂卒。惟思不臧人也。自千牛備陞為澤州相州判司。常養賊徒數十人。令其所在為盜而館之。及事發。則殺之以滅口。前後殺百餘人。故禍及也。

邢璹

唐邢璹之使新羅也。還歸。泊于炭山。遇賈客百餘人。載數船物。皆珍翠沈香象犀之屬。直數千萬。璹因其無備。盡殺之。投於海中而取其物。至京。懼人知也。則表進之。敕還賜璹。璹恣用之。後子綷與王鉷謀反。邢氏遂亡。亦其報也。

萬國俊

唐侍御史萬國俊。令史出身。殘忍為懷。楚毒是務。奏六道使。誅斬流人。殺害無數。後從臺出。至天津橋南。有鬼滿路。遮截馬足。不得前進。口云。叩頭緩我。連聲忍痛。俄而據鞍。舌長數尺。遍身青腫。輿至宅。夜半而卒。

王瑤

會昌中。有王瑤者。自云。遠祖本青州人。事平盧節使。時主公姓李。不記其名。常患背疽。眾醫莫能愈。瑤祖請以牲幣禱於岱宗。遂感現形。留連顧問。瑤祖因叩頭泣血。願垂矜憫。岳神言曰。爾之主帥。位居方伯。職在養民。而虐害生靈。廣為不道。淫刑濫罰。致冤魂上訴。所患背瘡。葢鞭笞之驗。必不可愈也。天法所被。無能宥之。瑤祖因拜乞一見主公。洎歸青丘。主公已殂歿矣。瑤祖具以泰山所覩之事。白於主公夫人。云。何以為驗。瑤祖曰。某當在冥府之中。亦慮歸之不信。請謁主公。備窺縲紲。主公遂裂近身衣袂。方圓寸餘。以授某曰。爾歸。將此示吾家。具衣袂見在。夫人得之。遂驗臨終服之衣。果有裁裂之處。瘡血猶在。知其言不謬矣。(出耳目記)

陳峴

閩王審知初入晉安。開府多事。經費不給。孔目吏陳峴獻計。請以富人補和市官。恣所徵取。薄酬其直。富人苦之。峴由是寵。遷為支計官。數年。有二吏執文書詣峴里中。問陳支計家所在。人問其故。對曰。渠獻計置和市官。坐此破家者眾。凡破家者祖考。皆訴於水西大王。王使來追爾。峴方有勢。人懼不敢言。翌日。峴自府馳歸。急召家人。設齋置祭。意色惶惶。是日。里中復見二吏入峴家。遂暴卒。初審知之起事。其兄潮首倡。及審知據閩中。為潮立廟於水西。故俗謂之水西大王云。

蕭懷武

偽蜀有尋事團。亦曰中團。小院使蕭懷武主之。蓋軍巡之職也。懷武自所團捕捉賊盜年多。官位甚隆。積金巨萬。第宅亞於王侯。聲色妓樂。為一時之冠。所管中團百餘人。每人各養私名十餘輩。或聚或散。人莫能別。呼之曰狗。至于深坊僻巷。馬醫酒保。乞丐傭作。及販賣童兒輩。並是其狗。民間有偶語者。官中罔不知。又有散在州郡及勳貴家。當庖看廐。御車執樂者。皆是其狗。公私動靜。無不立達于懷武。是以人懷恐懼。常疑其肘臂腹心。皆是其狗也。懷武殺人不知其數。蜀破之初。有與己不相協。及積金藏鏹之夫。日夜捕逐入院。盡殺之。冤枉之聲。聞于街巷。後郭崇韜入蜀。人有告懷武欲謀變者。一家百餘口。無少長戮于市。(出王氏見聞)

李龜禎

乾德中。偽蜀御史李龜禎久居憲職。嘗一日出至三井橋。忽覩十餘人。摧頭及被髮者。叫屈稱冤。漸來相逼。龜禎慴懼。廻馬徑歸。說與妻子。仍誡其子曰。爾等成長筮仕。慎勿為刑獄官。以吾清慎畏懼。猶有冤枉。今欲悔之何及。自此得疾而亡。

陳潔

偽蜀御史陳潔。性慘毒。讞刑定獄。嘗以深刻為務。十年內。斷死千人。因避暑行亭。見蟢子懸絲面前。公引手接之。成大蜘蛛。銜中指。拂落階下。化為厲鬼。云來索命。驚訝不已。指漸成瘡。痛苦十日而死。

太平廣記卷第一百二十七

報應二十六

蘇娥
涪令妻
諸葛元崇
呂慶祖
元徽
李義琰
岐州寺主
館陶主簿
僧曇暢
午橋民
盧叔敏
鄭生

蘇娥

漢何敞為交趾刺史。行部蒼梧郡高要縣。暮宿鵲奔亭。夜猶未半。有一女從樓下出。自云。妾姓蘇名娥。字始珠。本廣信縣修理。(廣信原作信廣。據下文及明鈔本改。理明鈔本作里。)人。早失父母。又無兄弟。夫亦久亡。有雜繒帛百二十疋。及婢一人。名致富。孤窮羸弱。不能自振。欲往傍縣賣繒。就同縣人王伯賃車牛一乘。直錢萬二千。載妾並繒。令致富執轡。以前年四月十日。到此亭外。于時已暮。行人既絕。不敢前行。因即留止。致富暴得腹痛。妾往亭長舍乞漿取火。亭長龔壽操刀持戟。來至車傍。問妾曰。夫人從何所來。車上何載。丈夫安在。何故獨行。妾應之曰。何勞問之。壽因捉臂欲汙妾。不從。壽即以刀刺脅。妾立死。又殺致富。壽掘樓下。埋妾並婢。取財物去。殺牛燒車。杠及牛骨。投亭東空井中。妾死痛酷。無所告訴。故來告於明使君。敞曰。今欲發汝屍骸。以何為驗。女子曰。妾上下皆著白衣。青絲履。猶未朽也。掘之果然。敞乃遣吏捕壽。拷問具服。下廣信縣驗問。與娥語同。收壽父

母兄弟皆繫獄。敞表壽殺人。於常律不至族誅。但壽為惡。隱密經年。王法所不能得。鬼神自訴。千載無一。請皆斬之。以助陰誅。上報聽之。(出還冤記)

涪令妻

漢王忳。字少琳。為酈縣令。之郃亭。亭素有鬼。忳宿樓上。夜有女子。稱欲訴冤。無衣自進。忳以衣與之。進曰。妾本涪令妻也。欲往官。過此亭宿。亭長殺妾大小十口。埋在樓下。取衣裳財物。亭長今為縣門下游徼。忳曰。當為汝報之。無復妄殺良善也。鬼投衣而去。忳且召游徼問。即服。收同時十餘人。並殺之。掘取諸喪。歸其家葬之。亭永清寧。(原闕出處。今見還冤記)

諸葛元崇

瑯琊諸葛覆。宋永嘉年為九真太守。家累悉在揚都。唯將長子元崇赴職。覆於郡病亡。元崇始年十九。送喪欲還。覆門生何法僧貪其資。與伴共推元崇墮水而死。因分其財。元崇母陳氏夢元崇還。具敘父亡及身被殺委曲。尸骸流漂。怨酷無雙。奉違累載。一旦長辭。銜悲茹恨。如何可說。歔欷不能自勝。又云。行速疲極。因臥窗下牀上。以頭枕窗。明日視兒眠處。足知非虛矣。陳氏悲怛驚起。把火照兒眠處。沾濕猶如人形。於是舉家號泣。便如發聞。于時徐森之始除交州。徐道立為長史。道立即陳氏從姑兒也。具疏夢。託二徐驗之。徐道立遇諸葛喪船。驗其父子亡日。悉如鬼語。乃收行兇二人。即皆款服。依法殺之。差人送喪還揚都。(出還冤記)

呂慶祖

宋永康人呂慶祖。家甚殷富。常使一奴名教子守視墅舍。慶祖自往案行。忽為人所殺。族弟無期。先貸舉慶祖錢。咸謂為害。無期便齎酒脯至柩所而祝曰。君荼酷如此。乃謂是我。魂而有靈。使知其

主。既還。至三更。見慶祖來云。近履行。見奴教子畦疇不理。許當痛治。奴遂以斧砍我背。將帽塞口。因得齧奴三指。悉皆破碎。便取刀刺我頸。曳著後門。初見殺時。從行人亦在其中。而不同。執罪之失也。奴今欲叛。我已釘其頭著壁。言卒而遂滅。無期具以告其父母。潛視奴所住壁。果有一把髮。以竹釘之。又看其指。並見傷破。錄奴詰驗。承伏。又問汝既反逆。何以不叛。奴曰。頭如被繫。欲逃不得。諸同見者事相符。即焚教子。並其二息。(出還冤記)

元徽

後魏莊帝永安中。北海王顥入洛。莊帝北巡。城陽王徽捨宅為宣中寺。爾朱兆擒莊帝。徽投前洛陽令寇祖仁。祖仁聞爾朱兆購徽。乃斬徽首送兆。兆夢徽曰。我有金二百斤。馬一百匹。在祖仁家。卿可取之。兆於是懸祖仁首於高樹。以大石墜其足。鞭箠之。問得金及馬。而祖仁死。時以為禍報。(出廣古今五行記。明鈔本作出伽藍記及還冤記)

李義琰

唐隴西李義琰。貞觀年中。為華州縣尉。此縣忽失一人。莫知所在。其父兄疑一讎家所害。詣縣陳情。義琰案之。不能得決。夜中執燭。委細窮問。至夜。義琰據案俛首。不覺死人即至。猶帶被傷之狀。云。某乙打殺。置於某所井中。公可早驗。不然。恐被移向他處。不可尋覓。義琰即親往。果如所陳。而讎家始具款伏。當聞見者。莫不驚歎。(出法苑珠林)

岐州寺主

唐貞觀十三年。岐州城內有寺主。共都維那為隙。遂殺都維那。解為十二段。置於廁中。寺僧不見都維那久。遂告別駕楊安共來驗

檢。都無蹤跡。別駕欲出。諸僧送別駕。見寺主左臂上袈裟。忽有些鮮血。別駕勘問。云。當殺之夜。不著袈裟。有其鮮血。是諸佛菩薩所為。竟伏誅。(出廣古今五行記)

館陶主簿

唐冀州館陶縣主簿姓周。忘其名字。顯慶中。奉使於臨渝關牙市。當去之時。佐史等二人從往。周將錢帛稍多。二人乃以土囊壓而殺之。所有錢帛。咸盜將去。唯有隨身衣服充斂。至歲暮。妻夢。具說被殺之狀。兼言所盜財物藏之處。妻乃依此訴官。官司案辨。具得實狀。錢帛並獲。二人皆坐處死。相州智力寺僧慧永云。嘗親見明庭觀道士劉仁寬說之。(出法苑珠林)

僧曇暢

唐乾封年中。京西明寺僧曇暢。將一奴二騾向岐州稜法師處聽講。道逢一人。著衲帽弊衣。掐數珠。自云賢者五戒。講。夜至馬嵬店宿。五戒禮佛誦經。半夜不歇。暢以為精進一練。至四更。即共同發。去店十餘里。忽袖中出兩刃刀子。刺殺暢。其奴下馬入草走。其五戒騎騾驅馱即去。主人未曉。夢暢告云。昨夜五戒殺貧道。須臾奴走到。告之如夢。時同宿三衛子。披持弓箭。乘馬趁四十餘里。以弓箭擬之。即下騾乞死。縛送縣。決殺之。(出朝野僉載)

午橋民

唐衛州司馬杜某嘗為洛陽尉。知捕寇。時洛陽城南午橋。有人家失火。七人皆焚死。杜某坐廳事。忽有一人為門者所執。狼狽至前。問其故。門者曰。此人適來。若大驚恐狀。再馳入縣門。復馳出。故執之。其人曰。某即殺午橋人家之賊也。故來歸命。嘗為伴五人。同刼其家。得財物數百千。恐事泄。則殺其人。焚其室。如自焚死者。故得人不疑。將財至城。舍於道德里。與其伴欲出外。輒

坎軻不能去。今日出道德坊南行。忽見空中有火六七團。大者如瓠。小者如盃。遮其前。不得南出。因北走。有小火直入心中。爇其心腑。痛熱發狂。因為諸火遮繞。驅之令入縣門。及入則不見火。心中火亦盡。於是出門。火又盡在空中。遮不令出。自知不免。故備言之。由是命盡取其黨及財物。於府殺之。(出紀聞)

盧叔敏

唐盧叔敏。居緱氏縣。即故太傅文貞公崔祐甫之表姪。時祐甫初拜相。有書與盧生。令應明經舉。生遂自緱氏赴京。行李貧困。有驢。兩頭叉袋。一奴纔十餘歲而已。初發縣。有一紫衣人。擎小幞。與生同行。云。送書狀至城。辭氣甚謹。生以僮僕小。甚利其作侶。扶接鞍乘。每到店。必分以茶酒。紫衣者亦甚知媿。至鄂嶺。早發十餘里。天纔明。紫衣人與小奴驅驢在後。忽聞奴叫呼聲。云。被紫衣毆擊。生曰。奴有過但言。必為科決。何得便自打也。言訖。見紫衣人懷中抽刀。刺奴洞腸流血。生乃驚走。初尚乘驢。行數十步。已見紫衣人趁在後。棄驢並靴。馳十數步。紫衣逐及。以刀刺倒。與奴同死於嶺上。時緱氏尉鄭楚相。與生中外兄弟。晨起。於廳中忽困睡。夢生被髮。血污面目 。謂尉曰。某已被賊殺矣。因問其由。曰。某枉死。然此賊今捉未得。乃牽白牛一頭來。跛左脚。曰。兄但記此牛。明年八月一日平明。賊從河中府。與同黨買牛來。於此過。入西郭門。最後驅此者即是。鄭君驚覺。遂言於同僚。至明日。府牒令捉賊。方知盧生已為賊所殺。於書帙中得崔相手札。河南尹捕捉甚急。都無蹤跡。至明年七月末。鄭君與縣宰計議。至其日五更。潛布弓矢手力於西郭門外。鄭君領徒自往。伏於路側。至日初出。果有人驅牛自西來者。後白牛跛脚。行遲。不及其隊。有一人驅之。其牛乃鄭君夢中所見盧生牽者。遂擒掩之。並同黨六七盡得。驅跛牛者。乃殺盧生賊也。問之悉伏。云。此郎君於某有恩。某見其囊中書。謂是綾絹。遂劫殺之。及開

之。知非也。唯得絹兩疋耳。自此已來。常髣髴見此郎君在側。如未露。尚欲歸死。已就執。豈敢隱諱乎。因具言其始末。與其徒皆死於市。(出逸史)

鄭生

唐滎陽鄭生。善騎射。以勇悍趫捷聞。家於鞏雒之郊。嘗一日乘醉。手弓腰矢。馳捷馬。獨驅田野間。去其居且數十里。會天暮。大風雨。生庇於大木下。久之。及雨霽。已夕矣。迷失道。縱馬行。見道傍有門宇。乃神廟也。生以馬繫門外。將止屋中。忽慄然心動。即匿身東廡下。聞廟左空舍中窣窣然。生疑其鬼。因引弓震弦以伺之。俄見一丈夫。身長衣短。後卓衣負囊仗劒自空舍中出。既而倚劒揚言曰。我盜也。爾豈非盜乎。鄭生曰。吾家於鞏雒之郊。向者獨驅田間。適遇大風雨。迷而失道。故匿身於此。仗劒者曰。子既不為盜。得無害我之心乎。且我遁去。道必經東廡下。願解弓弦以授我。使我得去。不然。且死於豎子矣。先是生常別以一弦致袖中。既解弦。投于劒客前。密以袖中弦繫弓上。賊既得弦。遂至東廡下。將殺鄭生以滅口。急以矢繫弦。賊遂去。因曰。吾子果智者。某罪固當死矣。生曰。我不為害。爾何為疑我。賊再拜謝。生即去西廡下以避賊。既去。生懼其率徒再來。於是登木自匿。久之。星月始明。忽見一婦人。貌甚冶。自空舍中出。泣於庭。問之。婦人曰。妾家於村中。為盜見誘至此。且利妾衣裝。遂殺妾空舍中。棄其尸而去。幸君子為雪其冤。又曰。今夕當匿於田橫墓。願急逐之。無失。生諾之。婦人謝而去。及曉。生視之。果見尸。即馳馬至洛。具白於河南尹鄭叔則。尹命吏捕之。果得賊於田橫墓中。(出宣室志)

太平廣記卷第一百二十八

報應二十七

公孫綽
王安國
尼妙寂
李文敏
樊宗諒
滎陽氏

公孫綽

唐王屋主簿公孫綽。到官數月。暴疾而殞。未及葬。縣令獨在廳中。見公孫具公服。從門而入。驚起曰。與公幽顯異路。何故相干。公孫曰。某有冤。要見長官請雪。嘗忝僚佐。豈遽無情。某命未合盡。為奴婢所厭。以利盜竊。某宅在河陰縣。長官有心。儻為密選健吏。齎牒往捉。必不漏網。宅堂簷從東第七瓦壠下。有某形狀。以桐為之。釘布其上。已變易矣。言訖而沒。令異甚。乃擇彊卒素為綽所厚者。持牒并書與河陰宰。其奴婢盡捕得。遂於堂簷上搜之。果獲人形。長尺餘。釘遶其身。木漸為肉。擊之啞然有聲。綽所貯粟麥。以俟閒居之費者。悉為所盜矣。縣遂申府。奴婢數人。皆殪枯木。(出逸史)

王安國

涇之北鄙農人有王安國者。力穡。衣食自給。唐寶曆三年冬。夜有二盜踰牆而入。皆執利刃。安國不敢支梧。而室內衣裘。挈之無孑遺。安國一子。名何七。年甫六七歲。方眠驚起。因叫有賊。登時為賊射。應弦而斃。安國閭外有二驢紫色者。亦為攘去。遲明。村人集聚。共商量捕逐之路。俄而何七之魂登房門而號。我死自是命。那復多痛。所痛者。永訣父孃耳。遂冤泣久之。鄰人會者五六十人。皆為雪涕。因曰。勿謀追逐。明年五月。當自送死。乃召安

國。附耳告之名氏。仍期勿。(勿下疑脫泄字。)洎麥秋。安國有麥半頃。方收拾。晨有二牛來。蹊踐狼籍。安國牽歸。遍謂里中曰。誰牛傷暴我苗。我已繫之。牛主當齎償以購。不爾。吾將詣官焉。里中共往。皆曰。此非左側人之素畜者。聚視久之。忽有二客至曰。我牛也。昨暮驚逃。不虞至此。所損之田。請酬倍資而歸我畜焉。共里人詰所從。因驗契書。其一乃以紫驢交致也。安國即醒何七所謂。及詢名姓皆同。遂縛之。曰。爾即去冬射我子盡我財者。二盜相顧。不復隱。曰。天也命也。死不可逭也。即述其故。曰。我既行劫殺。遂北竄寧慶之郊。謂事已積久。因買牛將歸岐上。昨牛抵村北二十里。徘徊不進。俟夜黑。方將過此。既寐。夢一小兒五歲許。裸形亂舞。紛紜相迷。經宿方寤。及覺。二牛之縻紿不斷。如被解脫。則已竄矣。因蹤跡之。由徑來至此。去冬之寇。詎敢逃焉。里人送邑。皆准於法。(出集異記)

尼妙寂

尼妙寂。姓葉氏。江州潯陽人也。初嫁任華。潯陽之賈也。父昇。與華往復長沙廣陵間。唐貞元十一年春。之潭州不復。過期數月。妙寂忽夢父。被髮裸形。流血滿身。泣曰。吾與汝夫。湖中遇盜。皆已死矣。以汝心似有志者。天許復讎。但幽冥之意。不欲顯言。故吾隱語報汝。誠能思而復之。吾亦何恨。妙寂曰。隱語云何。昇曰。殺我者。車中猴。門東草。俄而見其夫。形狀若父。泣曰。殺我者。禾中走。一日夫。妙寂撫膺而哭。遂為女弟所呼覺。泣告其母。闔門大駭。念其隱語。杳不可知。訪於鄰叟及鄉閭之有知者。皆不能解。秋詣上元縣。舟楫之所交處。四方士大夫多憩焉。而又邑有瓦棺寺。寺上有閣。倚山瞰江。萬里在目 。亦江湖之極境。遊人弭棹。莫不登眺。吾將緇服其間。伺可問者。必有醒吾惑者。於是褐衣上元。捨力瓦棺寺。日持箕帚。灑掃閣下。閒則徙倚欄檻。以伺識者。見高冠博帶。吟嘯而來者。必拜而問。居數年。無能辯

者。十七年。歲在辛巳。有李公佐者。罷嶺南從事而來。攬衣登閣。神彩雋逸。頗異常倫。妙寂前拜泣。且以前事問之。公佐曰。吾平生好為人解疑。況子之冤懇。而神告如此。當為子思之。默行數步。喜招妙寂曰。吾得之矣。殺汝父者申蘭。殺汝夫者申春耳。妙寂悲喜嗚咽。拜問其說。公佐曰。夫猴申生也。車去兩頭而言猴。故申字耳。草而門。門而東。非蘭字耶。禾中走者。穿田過也。此亦申字也。一日又加夫。蓋春字耳。鬼神欲惑人。故交錯其言。妙寂悲喜。若不自勝。久而掩涕拜謝曰。賊名既彰。雪冤有路。苟或釋惑。誓報深恩。婦人無他。唯潔誠奉佛。祈增福海。初。泗州普光王寺有梵氏戒壇。人之為僧者必由之。四方輻輳。僧尼繁會。觀者如市焉。公佐自楚之秦。維舟而往觀之。有一尼。眉目朗秀。若舊識者。每過必凝視公佐。若有意而未言者。久之。公佐將去。其尼遽呼曰。侍御貞元中不為南海從事乎。公佐曰。然。然則記小師乎。公佐曰。不記也。妙寂曰。昔瓦官寺閣求解車中猴者也。公佐悟曰。竟獲賊否。對曰。自悟夢言。乃男服。易名士寂。泛傭於江湖之間。數年。聞蘄黃之間有申村。因往焉。流轉周星。乃聞其村西北隅有名蘭者。默往求傭。輒賤其價。蘭喜召之。俄又聞其從父弟有名春者。於是勤恭執事。晝夜不離。見其可為者。不顧輕重而為之。未嘗待命。蘭家器之。晝與群傭苦作。夜寢他席。無知其非丈夫者。逾年。益自勤幹。蘭逾敬念。視士寂。即目 視其子不若也。蘭或農或商。或畜貨於武昌 。關鑰啟閉悉委焉。因驗其櫃中。半是己物。亦見其父及夫常所服者。垂涕而記之。而蘭春叔出季處。未嘗偕出。慮其擒一而驚逸也。銜之數年。永貞年重陽。二盜飲既醉。士寂奔告於州。乘醉而獲。一問而辭伏就法。得其所喪以歸。盡奉母而請從釋教。師洪州天宮寺尼洞微。即昔時受教者也。妙寂一女子也。血誠復讎。天亦不奪。遂以夢寐之言。獲悟於君子。與其讎者。得不同天。碎此微軀。豈酬明哲。梵宇無他。唯虔誠法象。以報効耳。公佐大異之。遂為作傳。大和庚戌

歲。隴西李復言遊巴南。與進士沈田會於蓬州。田因話奇事。持以相示。一覽而復之。錄怪之日。遂纂於此焉。(出續幽怪錄)

李文敏

唐李文敏者。選授廣州錄事參軍。將至州。遇寇殺之。沈於江。俘其妻崔氏。有子五歲。隨母而去。賊即廣州都虞候也。其子漸大。令習明經。甚聰俊。詣京赴舉下第。乃如華州。及渭南縣東。馬驚走不可制。及夜。入一莊中。遂投莊宿。有所衣天淨紗汗衫半臂者。主嫗見之曰。此衣似頃年夫人與李郎送路之衣。郎既似李郎。復似小娘子。取其衣視之。乃頃歲製時。為燈燼燒破。半臂帶猶在其家。遂以李文敏遭寇之事說之。此子罷舉。徑歸問母。具以其事對。乃白官。官乃擒都虞候。縶而詰之。所占一詞不謬。乃誅之。而給其物力。令歸渭南焉。(出聞奇錄)

樊宗諒

唐樊宗諒為密州刺史。時屬邑有群盜。提兵入邑甿殷氏家。掠奪金帛。殺其父子。死者三人。刺史捕之甚急。月餘不獲。有鉅鹿魏南華者。寓居齊魯之間。家甚貧。宗諒命攝司法掾。一夕。南華夢數人皆被髮。列訴於南華曰。姓殷氏。父子三人。俱無罪而死。願明公雪其冤。南華曰。殺汝者為誰。對曰。某所居東十里。有姓姚者。乃賊之魁也。南華許諾。驚寤。數日。(數日明鈔本作即白。)宗諒謂南華曰。盜殺吾甿。且一月矣。莫窮其跡。豈非吏不奉職乎。爾為司法官。第往驗之。南華馳往。未至。忽見一狐起於路旁深草中。馳入里人姚氏所居。譟而逐者以百數。其狐入一穴中。南華命以鍤發之。得金帛甚多。乃群盜刼殷氏財也。即召姚氏子。訊其所自。目動詞訥。即收劾之。果盜之魁也。自是盡擒其支黨。且十輩。其狐雖匿於穴中。窮之卒無所見也。豈非冤魂之所假歟。時大和中也。(出宣室志)

滎陽氏

唐盈州令將之任。夜止屬邑古寺。方寢。見老嫗。以桐葉蒙其首。傴僂而前。令以拄杖拂其葉。嫗俯拾而去。俄亦復來。如是者三。久之不復來矣。頃有縗裳者。自北戶升階。褰簾而前曰。將有告於公。公無懼焉。令曰。是何妖物。曰。實鬼也。非妖也。以形容衰瘵。不敢干謁。向者竊令張嫻少達幽情。而三遭拄杖之辱。老嫻固辭。恥其復進。是以自往哀訴。冀不逢怒焉。某滎陽氏子。嚴君牧此州。未逾年。鍾家禍。乃護喪歸洛。夜止此寺。繼母賜冶葛花湯。并室妹同夕而斃。張嫻將哭。首碎鐵鎚。同瘞於北牆之竹陰。某隴西先夫人即日訴於上帝。帝敕云。為人之妻。已殘戮僕妾。為人之母。又毒殺孤嬰。居闇室。事難彰明。在天鑒。理宜誅殛。以死酬死。用謝諸孤。付司命處置訖報。是日。先君復訴於上帝云。某遊魂不靈。乖於守慎。致令囂室。害及孤孩。彰此家風。黷於天聽。豈止一死。能謝罪名。某三任縣令。再剖符竹。實有能績。以安黎甿。豈圖餘慶不流。見此狼狽。悠揚丹旐。未越屬城。長男既已無辜。孀婦又俾酬死。念某旅櫬。難為瘞埋。伏乞延其生命。使某得歸葬洛陽。獲祔先人之塋闕。某無恨矣。明年。繼母到洛陽。發背疽而卒。上帝譴怒。已至如此。今某即無怨焉。所苦者。被僧徒築溷於骸骨之上。糞穢之褻。所不堪忍。況妹為廁神姬僕。身為廁神役夫。積世簪纓。一日淩墜。天門阻越。上訴無階。籍公仁德。故來奉告。令曰。吾將奈何。答曰。公能發某朽骨。沐以蘭湯。覆以衣衾。遷於高原之上。脫能賜木皮之棺。蘋藻之奠。亦望外也。令曰。諾。乃吾反掌之易爾。鬼嗚咽再拜。令張嫻密召鸞娘子同謝明公。張嫻遽至。疾呼曰。郭君怒晚來軒屏狼藉。已三召矣。於是縗裳者惶惶而去。明旦。令召僧徒。具以所告。遂命土工。發溷以求之。三四尺乃得骸骨。與改瘞焉。

太平廣記卷第一百二十九

報應二十八

王濟婢
王範妾
宋宮人
金荊
杜嶷妾
後周女子
張公瑾妾
范略婢
胡亮妾
梁仁裕婢
張景先婢
李訓妾
花嚴
晉陽人妾

王濟婢

晉王濟侍者。常於闇中就婢取濟衣物。婢遂欲姦之。其人云。不敢。婢言若不從我。我當大叫。此人卒不肯。婢遂呼云。某甲欲姦我。濟即令殺之。此人具陳說。濟不信。故牽將去。顧謂濟曰。枉不可受。要當訟府君於天。濟乃病。忽見此人語之曰。前具告實。既不見理。便應去。濟數日而死。(出還冤記)

王範妾

晉富陽縣令王範妾桃英。殊有姿色。遂與閣下丁豐、史華期二人姦通。範當出行不還。帳內督孫元弼聞丁豐戶中有環珮聲。覘視。見桃英與同被而臥。元弼扣戶叱之。桃英即起。攬裙理鬢。躡履還內。元弼又見華期帶佩桃英麝香。二人懼元弼告之。乃共謗元弼與桃英有私。範不辯察。遂殺元弼。有陳超者。當時在座。勸成元弼罪。後範代還。超亦出都看範。行至赤亭山下。值雷雨日暮。忽然

有人扶超腋。逕曳將去。入荒澤中。雷光照見一鬼。面甚青黑。眼無瞳子。曰。吾孫元弼也。訴怨皇天。早見申理。連時候汝。乃今相遇。超叩頭流血。鬼曰。王範既為事主。當先殺之。賈景伯、孫文度在泰山玄堂下。共定死生名錄。桃英魂魄。亦取在女青亭。至天明。失鬼所在。超至楊都詣範。未敢謝之。便見鬼從外來。逕入範帳。至夜。範始眠。忽然大魘。連呼不醒。家人牽青牛臨範上。並加桃人左索。向明小蘇。十數日而死。妾亦暴亡。超乃逃走長干寺。易姓名為何規。後五年二月三日。臨水酒酣。超云。今當不復畏此鬼也。低頭。便見鬼影已在水中。以手博超。鼻血大出。可一升許。數日而死。(出冥報志。明鈔本作出還冤記)

宋宮人

宋少帝子業常使婦人裸形相逐。有一女子不從。命斬之。其夜。夢有一女子罵曰。汝悖逆。明年不及熟矣。帝怒。於宮中求得似夢見者。斬之。其夕。復夢所戮者曰。汝枉殺我。我已訴上帝。集羣巫與六宮捕鬼。帝尋被弒。(出廣古今五行記)

金荊

後魏末。嵩陽杜昌妻柳氏甚妬。有婢金荊。昌沐。令理髮。柳氏截其雙指。無何柳被狐刺。螫指雙落。又有一婢。名玉蓮。能唱歌。昌愛而歎其善。柳氏乃截其舌。後柳氏舌瘡爛。事急。就稠禪師懺悔。禪師已先知。謂柳氏曰。夫人為妬。前截婢指。已失指。又截婢舌。今又合斷舌。悔過至心。乃可以免。柳氏頂禮求哀。經七日。禪師大張口呪之。有二蛇從口出。一尺以上。急呪之。遂落地。舌亦平復。自是不復妬矣。(出朝野僉載)

杜嶷妾

梁襄陽杜嶷新納一妾。年貌兼美。寵愛特甚。妾得其父書。倚簾讀之。嶷外還。而妾自以新來。羞以此事聞嶷。因嚼吞之。嶷謂是情人所寄。遂命剖腹取書。妾氣未斷。而書已出。嶷看訖。歎曰。吾不自意。忽忽如此。傷天下和氣。其能久乎。其夜見妾訴冤。嶷旬日而死。(出廣古今五行記)

後周女子

後周宣帝在東宮時。武帝訓督甚嚴。恒使宦者成慎監察之。若有纖毫罪失而不奏。慎當死。於是慎常陳太子不法之事。武帝杖之百餘。及即位。顧見髀上杖瘢。問及慎所在。慎于時已出為郡。遂敕追之。至便賜死。慎奮厲曰。此是汝父為。成慎何罪。悖逆之餘。濫以見及。鬼若有知。終不相放。於時宮掖禁忌。相逢以目 。不得轉共言笑。分置監官。記錄愆罪。左皇后下有女子欠伸淚出。因被劾。謂有所思。奏使敕拷訊之。初擊其頭。帝便頭痛。更擊之。亦然。遂大發怒曰。此冤家耳。乃使拉折其腰。帝復腰痛。其夜出南宮。病漸重。明旦還。腰痛不得乘馬。御車而歸。所殺女子之處。有黑暈如人形。時謂是血。隨刷之。旋復如故。如此再三。有司掘除舊地。以新土填之。一宿之間如故。因此七八日。舉身瘡爛而崩。及初下屍。諸跼脚牀。牢不可脫。唯此女子所引(明鈔本引作臥。)之牀。獨是直脚。遂以供用。蓋亦鬼神之意焉。帝崩去成慎死。僅二十許日焉。(出還冤記)

張公瑾妾

唐魏郡馬嘉運。以貞觀六年正月居家。日晚出大門。忽見兩人各捉馬一匹。先在門外樹下立。嘉運問是何人。答云。東海公迎馬生耳。嘉運素有學識。知名州里。每臺使及四方貴客多請見之。及是弗復怪也。謂使者曰。吾無馬。使者進馬。嘉運即於樹下上馬而去。其身倒臥於樹下也。俄至一官曹。將入大門。有男女數十人。

門外如訟者。有一婦人。先與嘉運相識。是同郡張公瑾妾。姓元氏。手執一紙文書。迎謂嘉運曰。馬生尚相識否。昔張總管交某數相見。總管無狀。非理殺我。我訴天曹。於今三年。為王天主救護公瑾。故常見抑。今乃得申。官已追之。不久將至。疑我獨見枉害。馬生那亦來耶。嘉運先知元氏被殺。及見方自知死。使者引入門。門者曰。公眠未可謁。宜可就霍司刑。乃益州行臺郎中霍璋也。見嘉運延坐。曰。此府記室官闕。東海公聞君才學。欲屈為此官耳。嘉運曰。貧守妻子。不願為官。得免幸甚。璋曰。若不能作。自陳無學。君當有相識。可舉令作。俄有人來云。公眠已起。引嘉運入。見一人在廳事坐。肥短黑色。呼嘉運前。謂曰。聞君才學。欲屈為記室耳。能為之乎。嘉運拜謝曰。幸甚。但鄙夫田野。頗以經業教授後生。不足以當記室之任耳。公曰。識霍璋否。答曰。識之。因使召璋。問以嘉運才術。璋曰。平生知其經學。不見作文章。公曰。誰有文章者。嘉運曰。有陳子良者。解文章。公曰。放馬生歸。即命追子良。嘉運辭去。璋與之別。嘉運問曰。向見張公瑾妾。所言天主者為誰。璋曰。公瑾鄉人王五戒者。死為天主。常救公瑾。故得至今。今已不免矣。言畢而別。遣使者送嘉運至一小澀道。指令由此路歸。其年七月。綿州人姓陳子良暴死。經宿而蘇。自言見東海公。用為記室。辭不識文字。別有是人陳子良卒。公瑾亦亡。至貞觀中。車駕在九成宮。聞之。使中書侍郎岑文本就問其事。文本錄以奏云爾。嘉運後為國子博士。卒官。(出冥報記)

范略婢

唐貞觀中。濮陽范略妻任氏。略先幸一婢。任以刀截其耳鼻。略不能制。有頃。任有娠。誕一女。無耳鼻。女年漸大。其婢仍在。女問婢。具說所由。女悲泣。以恨其母。母深有媿色。悔之無及。(出朝野僉載)

胡亮妾

唐廣州化蒙縣丞胡亮從都督周仁軌討僚。得一首領妾。幸之。將至縣。亮向府不在。妻賀氏。乃燒釘烙其雙目 。妾遂自縊死。後賀氏有娠。產一蛇。兩目 無睛 。以問禪師。師曰。夫人曾 燒釘烙一女婦眼。以夫人性毒。故為蛇報。此是被烙女婦也。夫人好養此蛇。可以免難。不然。禍及身矣。賀氏養蛇。一二年漸大。不見物。唯在衣被中。亮不知也。發被見蛇。大驚。以刀斫殺之。賀氏兩目 俱枯。不復見物。悔無及焉。(出朝野僉載)

梁仁裕婢

唐梁仁裕為驍衛將軍。先幸一婢。妻李氏。甚妬而虐。縛婢擊其腦。婢號呼曰。在下卑賤。制不自由。娘子鎖項。苦毒何甚。婢死後月餘。李氏病。常見婢來喚。李氏頭上生四處癰疽。腦潰。晝夜鳴叫。苦痛不勝。數月而卒。(出朝野僉載)

張景先婢

唐荊州枝江縣主簿夏榮判冥司。縣丞張景先寵一婢。其妻楊氏妬之。景出使不在。妻殺婢。投之於廁。景至。紿之曰。婢逃矣。景以妻酷虐。不問也。婢訟之於榮。榮追對之。問景曰。公夫人病困。說形狀。景疑其有私也。怒之。榮曰。公夫人枉殺婢。投於廁。今見推勘。公試問之。景悟。問其婦。婦病甚。具首其事。榮令廁內取其骸骨。香湯浴之。厚加殯葬。婢不肯放。月餘日而卒。(出朝野僉載)

李訓妾

唐左僕射韋安石女。適太府主簿李訓。訓未婚以前。有一妾。成親之後。遂嫁之。已易兩主。女患傳屍瘦病。恐妾厭禱之。安石令河

南令秦守一捉來。榜掠楚苦。竟以自誣。前後決三百以上。投井死。不出三日。其女遂亡。時人咸以為冤魂之所致也。安石坐貶蒲州。太極元年八月卒。(出朝野僉載)

花嚴

唐王弘。冀州衡水人。少無賴。告密羅織善人。曾 遊河北趙定。(定原作具。據明鈔本改。)見老人每年作邑齋。遂告殺二百人。授游擊將軍。俄除侍御史。時有告勝州都督王安仁者。密差弘往推。索大枷夾頸。安仁不承伏。遂於枷上斫安仁死。便即脫之。其男從軍。亦擒而斬之。至汾州。與司馬毛公對食。須臾喝下。斬取首。百姓震悚。後坐誣枉。流雷州。將少姬花嚴。素所寵也。弘於舟中。偽作敕追。花嚴諫曰。事勢如此。何忍更為不軌乎。弘怒曰。此老嫗欲敗吾事。縛其手足。投之於江。船人救得之。弘又鞭二百而死。埋於江上。俄而偽敕發。御史胡元禮推之。錮身領廻。至花嚴死處。忽云。花嚴來喚對事。左右皆不見。唯弘稱叩頭死罪。如授枷棒之聲。夜半而卒。(出朝野僉載)

晉陽人妾

唐牛肅舅之尉晉陽也。縣有人殺其妾。將死言曰。吾無罪。為汝所殺。必報。後數年。殺妾者夜半起。至母寢門呼。其母問故。其人曰。適夢為虎所囓。傷至甚。遂死。覺而心悸。甚驚惡。故啟之。母曰。人言夢死者反生。夢想顛倒故也。汝何憂。然汝夜來未飯牛。亟飯之。其人曰。唯。闇中見物。似牛之脫也。前執之。乃虎矣。遂為所噬。其人號叫竟死。虎既殺其人。乃入院。至其房而處其牀。若寢者。其家伺其寢。則閉鑰其門而白於府。季休光為留守。則使取之。取者登焉。破其屋。攢矛以刺之。乃死。舅方為留守判官。得其頭。漆之為枕。至今時人以虎為所殺之妾也。(出紀聞)

太平廣記卷第一百三十

報應二十九

竇凝妾
嚴武盜妾
綠翹
馬全節婢
魯思郾女
鄂州小將
金巵

竇凝妾

唐開元二十五年。晉州刺史柳渙外孫女博陵崔氏。家于汴州。有扶風竇凝者。將聘焉。行媒備禮。而凝舊妾有孕。崔氏約遣妾後成禮。凝許之。遂與妾俱之宋州。揚舲下至車道口宿。妾是夕產二女。凝因其困羸斃之。實沙於腹。與女俱沈之。既而還汴。紿崔氏曰。妾已遣去。遂擇日結親。後一十五年。崔氏產男女數人。男不育。女二人。各成長。永泰二年四月。無何。几上有書一函。開見之。乃凝先府君之札也。言汝枉魂事發。近在朞月。宜疾理家事。長女可嫁汴州參軍崔延。幼女嫁前開封尉李馹。並良偶也。凝不信。謂其妻曰。此狐狸之變。不足徵也。更旬日。又於室內見一書。吾前已示汝危亡之兆。又何顛倒之甚也。凝尚猶豫。明日。庭中復得一書。詞言哀切。曰。禍起旦夕。凝方倉惶。妻曰。君自省如何。宜禳避之。凝雖祕之。而實心憚妾事。五月十六日午時。人皆休息。忽聞扣門甚急。凝心動。出候之。乃是所殺妾。盛粧飾。前拜凝曰。別久安否。凝大怖。疾走入內隱匿。其鬼隨踵至庭。見崔氏。崔氏驚問之。乃斂容自敘曰。某是竇十五郎妾。凝欲娶娘子時。殺妾於車道口。並二女同命。但妾無負凝。而凝枉殺妾。凝欲娶妻。某自屏迹。奈何忍害某性命。以至於此。妾以賤品。十五餘年。訴諸嶽瀆。怨氣上達。聞于帝庭。上帝降鑒。許妾復讎。今來

取凝。不干娘子。無懼也。崔氏悲惶請謝。願以功德贖罪。可乎。鬼厲色曰。凝以命還命足矣。何功德而當命也。譬殺娘子。豈以功德可計乎。詞不為屈。乃罵凝曰。天網不漏。何用狐伏鼠竄。便升堂擒得凝。而嚙咬掐捩。宛轉楚毒。竟日而去。言曰。汝未慮即死。且可受吾能事耳。如是每日輒至。則啗嚼支體。其鬼或奇形異貌。變態非常。舉家危懼。而計無從出。並搏二女。不堪其苦。于時有僧曇亮。頗善持呪。凝請之。置壇內閣。須臾鬼至。不敢升階。僧讓之曰。鬼道不合干人。何至是耶。吾召金剛。坐見糜碎。鬼曰。和尚事佛。心合平等。奈何掩義隱賊。且凝非理殺妾。妾豈干人乎。上命照臨。許妾讎凝。金剛豈私殺負冤者耶。言訖登階。擒凝如初。崔氏令僧潛求聘二女。鬼知而怒曰。和尚為人作媒。得無怍乎。僧慙而去。後崔氏李氏聘女遁逃。而鬼不追。乃言曰。吾長縛汝足。豈能遠耶。數年。二女皆卒。凝中鬼毒。發狂。自食支體。入水火。啗糞穢。肌膚焦爛。數年方死。崔氏於東京出家。眾共知之。(出通幽記)

嚴武盜妾

唐(唐原作廣。據明鈔本、許本改。)西川節度使嚴武。少時仗氣任俠。嘗於京城。與一軍使鄰居。軍使有室女。容色艷絕。嚴公因窺見之。乃賂其左右。誘至宅。月餘。遂竊以逃。東出關。將匿於淮泗間。軍使既覺。且窮其跡。亦訊其家人。乃暴於官司。亦以狀上聞。有詔遣萬年縣捕賊官專往捕捉。捕賊乘遞。日行數驛。隨路已得其蹤矣。嚴武自鞏縣。方雇船而下。聞制使將至。懼不免。乃以酒飲軍使之女。中夜乘其醉。解琵琶絃縊殺之。沈于河。明日制使至。搜捕嚴公之船。無跡乃已。嚴公後為劒南節度使。病甚。性本彊。尤不信巫祝之類。有云云者。必罪之。忽一日亭午。有道士至衙門。自云從峨眉山來。欲謁武。門者初不敢言。道士聲厲。不得已。遂進白。武亦異之。引入。見道士至階呵叱。若與人論難者。良久方

止。寒溫畢。謂武曰。公有疾。災厄至重。冤家在側。公何不自悔咎。以香火陳謝。奈何反固執如是。武怒不答。道士又曰。公試思之。曾有負心殺害人事否。武靜思良久。曰。無。道士曰。適入至階前。冤死者見某披訴。某初謂山精木魅。與公為祟。遂加呵責。他云。上帝有命。為公所冤殺。已得請矣。安可言無也。武不測。且復問曰。其狀若何。曰。女人年纔十六七。項上有物是一條。如樂器之絃。武大悟。叩頭於道士曰。天師誠聖人矣。是也。為之奈何。道士曰。他即欲面見公。公當自求之。乃令洒埽堂中。撤去餘物。焚香於內。乃舁武於堂門內。遣清心。具衫笏。留小僮一人侍側。堂門外東間。有一閣子。亦令洒埽垂簾。道士坐於堂外。含水噴噀。又以柳枝洒地却坐。瞑目叩齒。逡巡。閣子中有人吁嗟聲。道士曰。娘子可出。良久。見一女子被髮。項上有琵琶絃。結于嚥下。褰簾而至。及堂門。約髮於後。向武拜。武見驚慙甚。且掩其面。女子曰。公亦太忍。某從公。是某之失行。於公則無所負。公懼罪。棄某於他所即可。何忍見殺。武悔謝良久。兼欲厚以佛經紙緡祈免。道士亦懇為之請。女子曰。不可。某為公手殺。上訴於帝。(帝原作是。據明鈔本改。)僅三十年。今不可矣。期在明日日晚。言畢却出。至閣子門。拂然而沒。道士乃謝去。嚴公遂處置家事。至其日黃昏而卒。(出逸史)

綠翹

唐西京咸宜觀女道士魚玄機。字幼微。長安里家女也。色既傾國。思乃入神。喜讀書屬文。尤致意於一吟一咏。破瓜之歲。志慕清虛。咸通初。遂從冠帔于咸宜。而風月賞翫之佳句。往往播於士林。然蕙蘭弱質。不能自持。復為豪俠所調。乃從游處焉。於是風流之士。爭修飾以求狎。或載酒詣之者。必鳴琴賦詩。間以謔浪。懵學輩自視缺然。其詩有綺陌春望遠。瑤徽秋興多。又殷勤不得語。紅淚一雙流。又焚香登玉壇。端簡禮金闕。又雲情自鬱爭同

夢。仙貌長芳又勝花。此數聯為絕矣。一女僮曰綠翹。亦明慧有色。忽一日。機為鄰院所邀。將行。誡翹曰。無出。若有客。但云在某處。機為女伴所留。迨暮方歸院。綠翹迎門曰。適某客來。知鍊師不在。不舍轡而去矣。客乃機素相暱者。意翹與之私。及夜。張燈扃戶。乃命翹入臥內訊之。翹曰。自執巾盥數年。實自檢御。不令有似是之過。致忤尊意。且某客至款扉。翹隔闔報云。鍊師不在。客無言策馬而去。若云情愛。不蓄於胷襟有年矣。幸鍊師無疑。機愈怒。裸而笞百數。但言無之。既委頓。請盃水酹地曰。鍊師欲求三清長生之道。而未能忘解珮薦枕之歡。反以沈猜。厚誣貞正。翹今必斃於毒手矣。無天則無所訴。若有。誰能抑我彊魂。誓不蠢蠢於冥冥之中。縱爾淫佚。言訖。絕于地。機恐。乃坎後庭瘞之。自謂人無知者。時咸通戊子春正月也。有問翹者。則曰。春雨霽逃矣。客有宴于機室者。因溲於後庭。當瘞上。見青蠅數十集于地。驅去復來。詳視之。如有血痕且腥。客既出。竊語其僕。僕歸。復語其兄。其兄為府街卒。嘗求金於機。機不顧。卒深銜之。聞此。遽至觀門覘伺。見偶語者。乃訝不覩綠翹之出入。街卒復呼數卒。攜鍤具。突入玄機院發之。而綠翹貌如生。卒遂錄玄機京兆。府吏詰之辭伏。而朝士多為言者。府乃表列上。至秋竟戮之。在獄中亦有詩曰。易求無價寶。難得有心郎。明月照幽隙。清風開短襟。此其美者也。(出三水小牘)

馬全節婢

魏帥侍中馬全節。嘗有侍婢。偶不愜意。自擊殺之。後累年。染重病。忽見其婢立於前。家人但訝全節之獨語。如相問答。初云。爾來有何意。又云。與爾錢財。復曰。為爾造像書經。哀祈移時。其亡婢不受。但索命而已。不旬日而卒。(出玉堂閒話)

魯思郾女

內臣魯思郾女。生十七年。一日臨鏡將粧。鏡中忽見一婦人。披髮徒跣。抱一嬰兒。廻顧則在其後。因恐懼頓仆。久之乃蘇。自是日日恒見。積久。其家人皆見之。思郾自問其故。答云。己楊子縣里民之女。往歲建昌縣錄事某以事至楊子。因聘己為側室。君女即其正妻。歲餘。生此子。後錄事出旁縣。君女因投己於井。並此子。以石填之。詐其夫云逃去。我方訟於所司。適會君女卒。今雖後身。固當償命也。思郾使人馳至建昌驗事。其錄事老猶在。如言發井。果得骸骨。其家多方以禳之。皆不可。其女後嫁褚氏。厲愈甚。旦夕驚悸。以至於卒。(出稽神錄)

鄂州小將

鄂州小將某者。本田家子。既仕。欲結豪族。而謀其故妻。因相與歸寧。殺之于路。棄尸江側。並殺其同行婢。已而奔告其家。號哭云。為盜所殺。人不之疑也。後數年。奉使至廣陵。舍於逆旅。見一婦人賣花。酷類其所殺婢。既近。乃真是婢。見己亦再拜。因問為人耶鬼耶。答云。人也。往者為賊所擊。幸而不死。既蘇。得賈人船。寓載東下。今在此。與娘子賣花給食而已。復問娘子何在。曰。在近。可見之乎。曰。可。即隨之而去。一小曲中。指一貧舍曰。此是也。婢先入。頃之。其妻乃出。相見悲涕。備述艱苦。某亦怳然。莫之測也。俄而設食具酒。復延入內室。置飲食於從者。皆醉。日暮不出。從者稍前覘之。寂若無人。因直入室中。但見白骨一具。衣服毀裂。流血滿地。問其鄰云。此空宅久無居人矣。

金巵

蜀青石鎮陳洪裕妻丁氏。因妬忌。打殺婢金巵。潛於本家埋瘞。仍牓通衢云。婢金巵逃走。經年。遷居夾江。因夏潦飄壞舊居渠岸。見死婢容質不變。鎮將具狀報州。追勘款伏。其婢屍一夕壞爛。遂寘丁氏於法。(出儆戒錄)

太平廣記卷第一百三十一

報應三十(殺生)

田倉
臨海人
陳甲
麻姑
謝盛
李嬰
許憲
益州人
章安人
元稚宗
王曇略
廣州人
東興人
陳莽
沛國人
齊朝請
伍寺之
蘇巷
阮倪
邵文立
梁元帝
望蔡令
僧曇歡
釋僧羣
竺法惠
冀州小兒

田倉

後漢溪夷田彊。遣子魯。居上城。次子玉。居中城。小子倉。居下城。三壘相次。以拒王莽。光武二十四年。遣威武將軍劉尚征之。尚未至。倉獲白鼈為臛。舉烽請兩兄。兄至無事。及劉尚軍來。倉舉火。魯等以為不實。倉遂戰死焉。(出酉陽雜俎)

臨海人

吳末。臨海人入山射獵。夜中。有人長一丈。着黃衣白帶。來謂射人曰。我有讎。克明當戰。君可見助。當有相報。射人曰。自可助君耳。何用謝為。答曰。明食時。君可出溪邊。敵從北來。我南往應。白帶者我。黃帶者彼。射人許之。明出。果聞岸北有聲。狀如風雨。草木四靡。視南亦爾。唯見二大蛇。長十餘丈。于溪中相遇。便相盤繞。白鱗勢弱。射人因引弩射之。黃鱗者即死。日將暮。復見昨人來辭謝。云。住此一年獵。明年以去。慎勿復來。來必有禍。射人曰。善。遂停獵。數年後。忽忘前言。更往獵。復見白帶人告曰。我語君不能見用。讎子已甚。(甚明鈔本作前長二字。)今必報君。非我所知。射人聞之甚怖。便欲走。乃見三烏衣人。俱張口向之。射人即死。(出續搜神記)

陳甲

吳郡海鹽縣北鄉亭里。有士人陳甲。本下邳人。晉元帝時。寓居華亭。獵於東野大藪。欻見大蛇長六七丈。形如百斛船。玄黃五色。臥岡下。士人即射殺之。不敢說。三年後。與鄉人共獵。至故見蛇處。語同行云。昔在此殺大蛇。其夜夢見一人。烏衣黑幘。來至其家。問曰。我昔昏醉。汝無狀殺我。吾昔醉。不識汝面。故三年不相知。今自來就死。其人即驚覺。明旦腹痛而卒。(出搜神記)

麻姑

晉孝武大元八年。富陽民麻姑者。好噉膾。華本者。好噉鱉臛。二人相善。麻姑見一鱉。大如釜蓋。頭尾猶是大蛇。繫之。經一月。盡變鱉。便取作臛。報華本食之。非常味美。麻姑不肯食。華本彊令食之。麻姑遂噉一臠。便大惡心。吐逆委頓。遂生病。喉中有物。塞喉不下。開口向本。本見有一蛇頭。開口吐舌。本驚而走。

姑僅免。本後于宅得一蛇。大二圍。長五六尺。打殺作膾。喚麻姑。麻姑得食甚美。苦求此魚。本因醉。喚家人捧蛇皮肉來。麻姑見之。嘔血而死。(出齊諧記)

謝盛

晉安帝隆安中。曲阿民謝盛。乘船入湖採菱。見一蛟來向船。船迴避。又從其後。盛便以叉殺之。懼而還家。至興寧中。普天亢旱。盛與同旅數人。步至湖中。見先叉在地。拾取之。云。此是我叉。人問其故。具以實對。行數步。乃得心痛。還家。一宿便死。(出幽冥錄)

李嬰

東晉義熙中。鄱陽李嬰、李滔。兄弟二人。善于用弩。嘗射大麈。解其四足。懸著樹間。以臟為炙。方欲共食。遙見山下有人。長三丈許。鼓步而來。手持大囊。既至。斂取麈頭骼皮骨。並火上雜肉。悉內囊中。徑負入山。嬰兄弟須臾俱卒。(出廣古今五行記)

許憲

晉義熙中。餘杭縣有仇王廟。高陽許憲為縣令。憲男于廟側放火獵。便穢祠前。忽有三白麤從屋走出。男引弓射。忽失所在。復以火圍之。風吹火反。覆其面。欲去莫從。遂燒死。而憲以事免官。(出廣古今五行記)

益州人

宋元嘉初。益州刺史遣三人入山伐樵。路迷。忽見一龜。大如車輪。四足各躡一小龜而行。又有百餘黃龜從其後。三人叩頭。請示

出路。龜乃伸頸。若有意焉。因共隨逐。即得出路。一人無故取小龜。割以為臛。食之。須臾暴死。唯不噉者無恙。(出異苑)

章安人

宋元嘉中。章安縣人嘗屠虎。至海口。見一蟹。匡大如笠。脚長三尺。取食甚美。其夜。夢一少嫗語云。汝噉我肉。我食汝心。明日。其人為虎所食。(出廣古今五行記)

元稚宗

宋元稚宗者。河東人也。元嘉十六年。隨鍾離太守阮愔在郡。愔使稚宗行至遠村。郡吏菪苟、邊定隨焉。行至民家。恍惚如眠。便不復寤。民以為死。舁出門外。方營殯具。經夕能言。說初有一百許人。縛稚宗去。數十里至一佛圖。僧眾供養。不異于世。有一僧曰。汝好獵。今應受報。便取稚宗。皮剝臠截。具如治諸牲獸之法。復納于澡水。鈎口出之。剖破解切。若為膾狀。又鑊煮爐炙。初悉糜爛。隨以還復。痛惱苦毒。至三乃止。問欲活否。稚宗便叩頭請命。道人令其蹲地。以水灌之。云。一灌除罪五百。稚宗苦求多灌。沙門曰。唯三足矣。見有蟻類數頭。道人曰。此雖微物。亦不可殺。無復論巨此者也。魚肉自此可戒(戒原作噉。據明鈔本改。)耳。齋會之日。悉著新衣。無新可浣也。稚宗因問。我行旅有三。而獨嬰苦。何也。道人曰。彼二人自知罪福。知而無犯。唯爾愚蒙。不識緣報。故以相戒。因爾便蘇。數日能起。由是遂斷漁獵云。(出祥異記)

王曇略

宋譙國城父人王曇略。常以牛作脯為業。欲殺一牛。牛見刀。輒跳躑欲走去。曇略怒。乃先以刀刺牛目 。經少時。其人眼無故血流出。(出廣古今五行記)

廣州人

宋元嘉中。廣州有三人。共在山中伐木。忽見石窠有三卵。大如升。取煮之。湯始熱。聞林中如風雨聲。須臾。一蛇大十圍。長四五丈。逕來湯中。銜卵而去。三人無幾皆死。(出搜神記)

東興人

臨川東興。有人入山。得猿子。便將歸。猿母自後逐至家。此人縛猿子於庭中樹上。以示之。其母便搏頰向人。若(若原作欲。據明鈔本改。)哀乞。直是(是原作謂。據明鈔本改。)口不能言耳。此人既不能放。竟擊殺之。猿母悲喚。自躑而死。此人破腸視之。皆斷裂矣。未半年。其人家疫。一時死盡滅門。(出搜神後記)

陳莽

臨川陳莽。少以射獵為業。與人逐鹿入山。有一大樹。可三十圍。莽息其下。忽有白氣。去地十丈許。莽因射之。若有所中。洒血布地。聞空中語云。正中大王。俄見一大蛇掛樹。身有箭。頃刻。有群蛇輳輻向莽。莽雖驅擊。而來者數多。盤繞莽身。咂咂有聲。須臾散去。視莽。唯見一聚白骨。(出廣古今五行記)

沛國人

沛國有一士人。同生三子。年將弱冠。皆有聲無言。忽有一人從門過。因問曰。此是何聲。答曰。是僕之子。皆不能言。客曰。君可內省。何以致此。主人異其言。思忖良久。乃謂客曰。昔為小兒時。當牀上有燕巢。中有三子。其母從外得哺。三子皆出口受之。積日如此。試以指內巢中。燕雛亦出口受之。因以三薔茨食之。既而皆死。昔有此事。今實悔之。客曰。是也。言訖。其三子之言語。忽然周穩。蓋能知過之故也。(出續搜神記)

齊朝請

齊國有一奉朝請。家甚豪侈。非手殺牛。則噉之不美。年三十許。病篤。見大牛來。舉體如被刀刺。叫呼而終。又江陵高偉。入齊凡數年。向幽州淀中捕魚。後病。每見群魚嚙之而死。(出顏氏家訓)

伍寺之

南野人伍寺之。見社樹上有猴懷孕。便登樹擺殺之。夢一人稱神。責以殺猴之罪。當令重謫。寺之乃化為大蟲。入山。不知所在。(出述異記)

蘇巷

新野蘇巷。常與婦佃于野舍。每至田時。輒有一物來。其狀似蛇。長七八尺。五色光鮮。巷異而餉之。經數載。產業加焉。婦後密打殺。即得能食之病。進三斛飯。猶不為飽。少時而死也。(出異苑)

阮倪

阮倪者。性特忍害。因醉出郭。見有放牛。直探牛舌本。割之以歸。為炙食之。其後倪生一子。無舌。人以為牛之報也。(出述異記)

邵文立

梁小莊嚴寺。在建業定陰里。本是晉零陵王廟地。天監六年。度禪師起造。時有邵文立者。世以烹屠為業。嘗欲殺一鹿。鹿跪而流淚。以為不祥。鹿懷一麑。尋當產育。就庖哀切。同被刳割。因斯患疾。眉鬚皆落。身瘡並壞。後乃深起悔責。求道度禪師。發大誓願。罄捨家資。廻買此地。為立伽藍。(出梁京寺記)

梁元帝

梁元帝諱繹。母阮脩容。曾 失一珠。元帝時絕幼。吞之。謂是左右所盜。乃炙魚眼以厭之。信宿之間。珠便出。帝尋一目 致眇。蓋魚之報也。(出韻對)

望蔡令

梁孝元在江州時。有人為望蔡縣令。經劉敬躬亂。縣廨被焚。寄寺而住。民將牛酒作禮。縣令以牛擊殺。屏除像(像字據明鈔本補。)設。鋪陳牀座。於堂上接賓客。未殺之頃。牛解。徑來至階而拜。縣令大笑。遂令左右宰之。飲噉醉飽。便臥於簷下。及醒。即覺體痒。爬搔隱疹。因爾成癩。十許年死。(出顏氏家訓)

僧曇歡

後周武帝時。敷州義陽寺僧曇歡有羊數百口。恒遣沙彌及奴放於山谷。後沙彌云。頻有人來驅逐此羊。歡乃多將手力。自往伺之。後見此人。立于東岸樹下。遙謂歡曰。汝之畜養猪羊。其罪最甚。不久自知。何勞護惜。歡驟馬繞谷就之。而覓不見。少時滅法教。資財並送官府。公私牽挽。並皆分散。歡還俗。貧病而死。(出廣古今五行記)

釋僧羣

釋僧群。清貧守節。蔬食持經。居羅江縣之霍山。搆立茅室。孤在海中。上有石盂。水深六尺。常有清流。古老相傳。是群仙所宅。群因絕粒。其菴舍與石盂。隔一小澗。常以木為梁。由之以汲水。年至一百三十。忽見一折翅鴨。舒翼當梁頭。群將舉錫撥之。恐有轉傷。因此廻歸。遂絕水數日而終。臨終。謂左右曰。我少時。曾折一鴨翅。驗此以為報也。(出高僧傳)

竺法惠

竺法惠。本關中人。方直有戒行。行至嵩高山。忽謂弟子法昭曰。汝過去時。折一鴨脚。其殃即至。俄而昭為人所擲物折脚。遂永疾廢焉。(出高僧傳)

冀州小兒

隋開皇初。冀州外邑中。有小兒。年十三。常盜鄰卵。燒煨食之。翌日侵旦。有人叩門。呼此兒聲。父令兒出應之。見一人云。官喚汝。兒曰。呼我役者。入取衣糧。使者曰。不須也。因引兒去。村南舊是桑田。耕訖未下種。此小兒忽見道右有一小城。四面門樓。丹素甚嚴。此兒怪曰。何時有此城。使者呵之勿言。因至城北門。令小兒前入。小兒入閫。城門忽閉。不見一人。唯是空城。地皆熱灰碎火。深纔沒踝。小兒忽呼叫。走趨南門。垂至即閉。又走趨東西。亦皆如是。未到則開。既至便闔。時村人出田採桑。男女甚眾。皆見兒在耕田中啼泣。四方馳走。皆相謂曰。此兒狂耶。旦來如此。遊戲不息。至于食時。採者皆歸。兒父問曰。見吾兒否。桑人答曰。父兒在村南走戲。喚不肯來。父出村外。遙見兒走。大呼其名。一聲便住。城灰忽然不見。父兒倒。號泣言之。視其足。半脛已上。血肉燋乾。膝已下。紅爛如炙。抱歸養療。髀已上肉如故。膝已下遂為枯骨。鄰里聞之。看其走處。足跡通利。了無灰火。良因實業。觸處見獄。有道惠法師。本冀州人。與小兒鄰邑。親見其事。(出冥報記)

太平廣記卷第一百三十二

報應三十一(殺生)

王將軍
姜略
賀悅
李壽
方山開
王遵
李知禮
陸孝政
果毅
劉摩兒
店婦
屠人
劉知元
季全聞
當塗民
張縱

王將軍

驍騎將軍王某者。代郡人。隋開皇末年。出鎮蒲州。性好畋獵。所殺無數。有五男。無女。後生一女。端美。見者皆愛憐之。父母猶鍾愛。既還鄉里。女年七歲。一旦忽失所在。皆疑鄰里戲藏匿之。訪問不見。諸兄馳馬遠尋。去家三十餘里。得於荒野中。冥然已無所識。口中唯作兔鳴。足上得荊棘盈掬。經月餘。不食而死。父母悲痛甚。以為畋獵殺害之報也。後合家持齋。不復食肉。大理寺丞蔡宣明。曾 為代府法曹。親說之。(出冥報記)

姜略

隋鷹揚郎將天水姜略。少好畋獵。善放鷹犬。後遇病。見群鳥千數。皆無頭。圍繞略牀。叫鳴曰。急還我頭來。略輒頭痛氣絕。久

而後蘇。因請眾僧。急為諸鳥追福。許之皆去。既而得愈。終身絕酒肉。不殺生命。姜略嘗自說其事。(出冥報記)

賀悅

唐武德中。隰州大寧人賀悅。為鄰人牛犯其稼。乃以繩勒牛舌斷。後生三子。並皆瘖啞。不能言。(出法苑珠林)

李壽

唐交州都督遂安公李壽。貞觀初。罷職歸京第。性好畋獵。常籠鷹數聯。殺鄰狗餧鷹。既而公疾。見五犬來責命。公謂之曰。殺汝者奴通達之過。非我罪也。犬曰。通達豈得自任耶。且我等既不盜汝食。自於門首過。而枉殺我等。要當相報。終不休也。公謝罪。請為追福。四犬許之。一白犬不許。曰。既無罪殺我。我未死間。汝又生割我肉。臠臠苦痛。我思此毒。何有放汝耶。俄見一人。為之請於犬曰。殺彼於汝無益。放令為汝追福。不亦善乎。犬乃許之。有頃公蘇。遂患偏風。肢體不遂。於是為犬追福。而公疾竟不差。(出冥報記)

方山開

唐曹州武城人方山開。少善弓矢。尤好遊獵。以之為業。所殺無數。貞觀十一年死。經一宿蘇。云。初死之時。被二十人引去。行可十餘里。即上一山。三鬼共引山開。登梯而進。上欲至頂。忽有一大白鷹。鐵為觜爪。飛來。攫山開左頰而去。又有一黑鷹。亦鐵觜爪。攫其右肩而去。及至山頂。引至廳事。見一官人。被服緋衣。首冠黑幘。謂山開曰。生平有何功德。可具言之。對曰。立身已來。不修功德。官曰。可宜引向南院觀望。二人即引南行。至一城。非常險峻。二人扣城北門數下。門遂開。見其城中赫然。總是猛火。門側有數毒蛇。皆長十餘丈。頭大如五斗斛。口中吐火。如

欲射人。山開恐懼。不知所出。唯知叩頭念佛而已。門即自開。乃還見官人。欲遣受罪。侍者諫曰。山開未合即死。但恐一入此城。不可得出。未若且放。令修功德。官人曰。善。令前二人送之。依舊道而下。復有鷹欲攫之。賴此二人援護得免。及下山。見一大坑。極穢惡。忽被二人推入。須臾即蘇。面及右膊之上。爪蹟宛然。終身不滅。遂舍妻子。以宅為佛院。恒以誦經為業。(出法苑珠林)

王遵

唐王遵者。河內人也。兄弟三人。並時疾甚。宅有鵲巢。旦夕翔鳴。忿其喧噪。兄弟共惡之。及病瘥。因張鵲。斷舌而放之。既而兄弟皆患口齒之疾。家漸貧。以至行乞。(出宣驗志。明鈔本作出宣室志。按御覽七四引作出靈驗記)

李知禮

唐隴西李知禮。少趫捷。善弓射。能騎乘。兼攻放彈。所殺甚多。有時捕魚。不可勝數。貞觀十九年。病數日即死。乃見一鬼。並牽馬一匹。大於俗間所乘之馬。謂知禮曰。閻羅王追公。乃令知禮乘馬。須臾之間。忽至王前。王約束云。遣汝討賊。必不得敗。敗即殺汝。有同侶二十四人。向東北望。賊不見邊際。天地盡昏。埃下如雨。知禮等敗。知禮語同行曰。王教嚴重。寧向前死。不可敗歸。知禮回馬。射三箭以後。諸賊已稍退却。箭五發。賊遂敗散。事畢謁王。王責知禮曰。(曰原作汝。據明鈔本改。)敵雖退。何為初戰之時。(之時法苑珠林四二作即敗。)即便以麻辮髮。並縛手足。臥在石上。以大石鎮而磨之。前後四人。體並潰爛。次到知禮。厲聲叫曰。向者賊退。(原本無退字。據明鈔本補。)並知禮之力。還被王殺。無以勵後。王遂釋放不管束。凡經三日。忽向西北出行。入一牆院。見飛禽走獸。可滿三四畝。總來索命。漸相逼近。曾射殺一雌

犬。此犬直向前嚙其面。次及身體。無不被傷。復見三大鬼。各長丈餘。共剝知禮皮肉。須臾總盡。面及(明鈔本面上有唯字。無及字。)目白骨。並五臟等得存。乃以此肉分乞禽獸。其肉剝而復生。生而復剝。如此三日。苦毒之甚。不可勝紀。事畢。大鬼及禽獸等。忽然總失。知禮回顧。不見一物。遂踰牆南走。莫知所之。意中似如一跳千里。復有一鬼逐及知禮。乃以鐵籠罩之。有無數魚競來啗食。食畢。鬼遂倒迴。魚亦不見。其家舊供養一僧。其僧先死。來與知禮去籠。語知禮曰。檀越大飢。授以白物三丸。如棗。令知禮嗽之。應時而飽。乃云。檀越宜還家。僧亦別去。知禮所居宅北。見一大坑。其中有諸槍矟攢植。不可得過。見其兄女並婢齎箱。箱內有錢絹。及別置一器飲食。在坑東北。知禮心中。謂此婢及姪女遊戲。意甚怪之。回首北望。即見一鬼。挺劒直進。知禮惶懼。委身投坑。即得蘇也。自從初死。至於重生。凡經六日。後問家中。乃是姪女持紙錢絹及飯饌為奠禮。當時所視。乃是銅錢絲絹也。(出冥報記)

陸孝政

唐雍州陸孝政。貞觀中為右衛隰川府左果毅。孝政為性躁急。多為殘害。府內先有蜜蜂一龕。分飛聚於宅南樹上。孝政遣人移就別龕。蜂未去之間。孝政大怒。遂以湯就樹沃死。殆無孑遺。至明年五月。孝政於廳晝寢。忽有一蜂螫其舌上。遂即紅腫塞口。數日而死。(出法苑珠林)

果毅

唐貞觀永徽間。盩厔鄠縣界有果毅。每客來。恒買豚設饌。衛士家生十豚。總買盡。其最後買者。煮尚未熟。果毅對客坐。遂聞婦人哭聲。意疑其妻。向家看之。不哭。至廳。又聞哭聲。看妻還不哭。如此數迴。後更向家。即聞哭聲在門外。若門外。即聞哭聲在

家中。其客大驚。不安席。似聞哭聲云。男女生十箇。總被果毅吃盡。其客數遍聽之。了了聞此。客惻之即去。果毅驚。因此得病。數旬而終。長安(安原作客。據明鈔本改。)共傳此事焉。(出法苑珠林)

劉摩兒

唐汾州孝義縣泉村人劉摩兒。顯慶四年八月。遇病而終。男師保。明日又死。父子平生。行皆險詖。比鄰有祁隴威。因採樵。被車碾死。經數日而蘇。乃見摩兒男師保。在鑊湯中。須臾之間。皮肉俱盡。無復人形。唯見白骨。如此良久。還復本形。隴威問其故。對曰。我為射獵。故受此罪。又謂保曰。卿父何在。對曰。我父罪重。不可卒見。卿既即還。請白家中。為修齋福。言訖。被使催促。前至府舍。見館宇崇峻。執杖者二十餘人。一官人問曰。汝比有何福業。對曰。隴威去年正月。在獨村看誦一切經。脫衫一領布施。兼受五戒。至今不犯。官人乃云。若如所云。無量功德。何須來此。遂索簿勘。及見簿。乃曰。其人合死不虛。側注云。受戒布施福助。更合延壽。乃遣人送還。當時蘇活。(出法苑珠林)

店婦

唐顯慶中。長安城西路側有店家新婦誕一小男。月滿日。親族慶會。欲殺羊。羊數向屠人跪拜。屠人報家內。家內大小不以為徵。遂即殺之。將肉就釜煮。餘人貪料理蔥蒜餅食。令產婦抱兒看煮肉。抱兒火前。釜忽然自破。湯衝灰火。直射母子。母子俱亡。店人見聞之者。多斷殺生焉。(出法苑珠林)

屠人

唐總章咸亨中。京師有屠人。積代相傳為業。因病遂死。乃被眾羊懸之。一如殺羊法。兩羊捉手。諸羊捉腳。一羊持刀刺頸。出血數斗。乃死。少頃還蘇。此人未活之前。家人見繞頸有鮮血。驚共看

之。頸有被刺處。還似刺羊。一邊刀孔小。一邊刀孔大。數年瘡始合。(出廣古今五行記)

劉知元

唐虔州司士劉知元攝判司倉。大酺時。司馬楊舜臣謂之曰。買肉必須含胎。肥脆可食。餘瘦不堪。知元乃揀取懷孕牛犢及猪羊驢等殺之。其胎仍動。良久乃絕。無何。舜臣一奴。無病而死。心上仍煖。七日而蘇。云。見一水犢白額。并子隨之。見王訴云。懷胎五箇月。枉殺母子。須臾。又見猪羊驢等。皆領子來訴。見劉司士答款。引楊司馬處分如此。居三日而知元卒亡。又五日而舜臣死。(出朝野僉載)

季全聞

唐則天初。京兆人季全聞家富於財。性好殺戮。猪羊驢犢。皆烹宰於前。常養鷹鷂數十聯。春夏採魚鼈。秋冬獵狐兔。常與諸子取鳥雀。以刀齊刈其頭。即放飛。看其飛得近遠。遠者為勝。近者為負。以此戲樂。在家極嚴殘。婢妾及奴客。有少事。或懸開其心。或剜去其眼。其妻初生一子。自眼上睞。有皮垂下。至於鼻。從額已後。又有一片皮。垂至於項。有似人着帽焉。後生一子。牙爪如虎。口似鷹吻。又生一子。從項至腰有縫。撥看。見其心肺五臟。生而俱死。其人有兄。亦好鷹犬弋獵。性又殘忍酷毒。其妻生男。項上有肉枷。或如鳥獸魚鱉形。或無眼鼻者數矣。(出廣古今五行記)

當塗民

吳俗。取鮮魚皆生之。欲食則投之沸湯。偃轉移時乃死。天寶八載。當塗有業人取鱓魚。是春得三頭鱓。其子去鱓皮。斷其頭。燃火將羹之。其鱓則化為蛇。赤文斕斕。長數尺。行趨門外。其子走反顧。餘二鱓亦已半為蛇。須臾化畢。皆去。其子遂病。明日死。

於是一家七人。皆相繼死。十餘日且盡。當塗令王休愔。以其無人也。命葬之。(出紀聞)

張縱

唐泉州晉江縣尉張縱者。好啖鱠。忽被病死。心上猶煖。後七日蘇。云。初有黃衫吏告云。王追。縱隨行。尋見王。王問吏。我追張縱。何故將張縱來。宜速遣去。旁有一吏白王曰。此人好啖膾。暫可罰為魚。王令縱去作魚。又曰。當還本身。便被所白之吏引至河邊。推縱入水。化成小魚。長一寸許。日夕增長。至七日。長二尺餘。忽見罟師至河所下網。意中甚懼。不覺已入網中。為罟師所得。置之船中草下。須臾聞晉江王丞使人求魚為鱠。罟師初以小魚與之。還被杖。復至網所搜索。乃於草下得鯉。持還王家。至前堂。見丞夫人對鏡理粧。偏袒一膊。至廚中。被膾人將刀削鱗。初不覺痛。但覺鐵冷泓然。尋被剪頭。本身遂活。時殿下侍御史李萼左遷晉江尉。正在王家飡鱠。聞縱活。遽往視之。既入。縱迎接其手。謂萼曰。飡膾飽耶。萼因問何以得知。縱具言始末。方知所飡之鱗。是縱本身焉。(出廣異記)

太平廣記卷第一百三十三

報應三十二(殺生)

朱化
李詹
王公直
黃敏
陳君稜
王洞微
孫季貞
崔道紀
何澤
岳州人
徐可範
建業婦人
廣陵男子
何馬子
章邵
韓立善
僧修準
宇文氏
李貞
僧秀榮
毋乾昭
李紹

朱化

洛陽人朱化者。以販羊為業。唐貞元初。西行抵邠寧。廻易其羊。有一人見化謂曰。君市羊求利。當求豐贍。君見羊之小者。以為不可易也。殊不知小者不久而大也。自小而易。及貨而大。其利不亦博乎。易之大者。其羊必少。易之小者。其羊必多。羊多則利厚也。羊少則利寡也。化然之。乃告其人曰。爾知有小羊。我當盡易之。其人數日乃引一羊主至。化遂易得小羊百十口。大小羊相雜為群。廻歸洛陽。行至關下。一夕所易之小羊。盡化為鬼而走。化大

駭。莫測其由。明年復往邠寧。見前言小羊之人。化甚怒。將執之詣官府。其人曰。我何罪也。化曰。爾以小羊迴易。我驅至關下。盡化為鬼。得非汝用妖術乎。其人曰。爾販賣群羊。以求厚利。殺害性命。不知紀極。罪已彌天矣。自終不悟。而反怒我。我即鬼也。當與群羊執爾而戮之。言訖而滅。化大驚懼。尋死於邠寧焉。(出奇事)

李詹

唐李詹。大中七年崔瑤下擢進士第。平生廣求滋味。每食鱉。輒緘其足。暴於烈日。鱉既渴。即飲以酒而烹之。鱉方醉。已熟矣。復取驢縶於庭中。圍之以火。驢渴即飲灰水。蕩其腸胃 。然後取酒。調以諸辛味。復飲之。驢未絕而為火所逼爍。外已熟矣。詹一日。方巾首。失力仆地而卒。頃之。詹膳夫亦卒。一夕。膳夫復蘇曰。某見詹。為地下責其過害物命。詹對以某所為。某即以詹命不可違。答之。詹又曰。某素不知。皆狄慎思所傳。故得以迴。無何。慎思復卒。慎思亦登進士第。時為小諫。(出玉泉子)

王公直

唐咸通庚寅歲。洛師大飢。穀價騰貴。民有殍於溝塍者。至蠶月。而桑多為蟲食。葉一斤直一鋌。新安縣慈澗店北村民王公直者。有桑數十株。物茂盛蔭翳。公直與妻謀曰。歉儉若此。家無見糧。徒竭力於此蠶。尚未知其得失。以我計者。莫若棄蠶。乘貴貨葉。可獲錢十萬。蓄一月之糧。則接麥矣。豈不勝為餒死乎。妻曰。善。乃携鈰坎地。卷蠶數箔瘞焉。明日淩晨。荷桑詣都市鬻之。得三千文。市彘肩及餅餌以歸。至徽安門。門吏見囊中殷血。連洒於地。遂止詰之。公直曰。適賣葉得錢。市彘肉及餅餌貯囊。無他也。請吏搜索之。既發囊。唯有人左臂。若新支解焉。群吏乃反接送於居守。居守命付河南府尹正瑯琊王公凝。令綱紀鞫之。其款示。某瘞

蠶賣桑葉。市肉以歸。實不殺人。特請檢驗。尹判差所由監領。就村檢埋蠶之處。所由領公直至村。先集鄰保。責手狀。皆稱實知王公直埋蠶。別無惡跡。乃與村眾及公直。同發蠶坑。中唯有箔角一死人。而缺其左臂。取得臂附之。宛然符合。遂復領公直詣府。白尹。尹曰。王公直雖無殺人之事。且有坑蠶之咎。法或可恕。情在難容。蠶者天地靈蟲。綿帛之本。故加勦絕。與殺人不殊。當寘嚴刑。以絕凶醜。遂命於市杖殺之。使驗死者。則復為腐蠶矣。(出三水小牘)

黃敏

江西都校黃敏者。因禦寇墜馬。折其左股。其下遂速以石碎生龜。傅之。月餘乃愈。而龜頭尚活。龜腹間與髀肉相連而生。敏遂惡之。他日割去。欲下刃。痛楚與己肉無異。不能而止。龜目所視。亦同己所見也。(出聞奇錄)

陳君稜

曹宋二州西界有大鶴陂。陂左村人陳君稜。少小捕魚為業。後得患。恒被眾魚所食。痛苦不能自持。若以魚網葢之。痛即止。後為村人盜網去。數日間。不勝痛而死。德州刺史鄧某曾任考城令。知此事。(出奇聞錄)

王洞微

唐汾州景雲觀道士王洞微者。家于孝義縣。初為小胥。性喜殺。常釣弋漁獵。自弱冠至壯年。凡殺狼狐雉兔。洎魚鱉飛鳥。計以萬數。後為里尹。患病熱月餘。忽覺室內有禽獸魚鱉萬數。環其榻而噬之。瘡痏被身。殆無完膚。中夕之後。其父母兄弟。俱聞洞微臥內。有群鳥啁啾。歷然可辨。凡數年。疾益甚。或有謂洞微父曰。

汝子病且亟。宜遷居景雲觀。於是卜 日徙居。月餘。會群道士修齋授籙。是夕洞微瘳。後十年。竟以疾卒。(出宣室志)

孫季貞

唐孫季貞。陳州人。少好捕網飛走。尤愛啗鷄卵。每每欲食。輒焚而熟之。卒且三年矣。鄰有張生者。亦以病卒三日也。忽便起坐。既行。乃徑往孫氏家。稱季貞。聽(聽原作云。據明鈔本改。)其言。實季貞。其形故張生也。張氏之族。即詣官以訴。孫云。先是吾不當死。以生平多害物命。故為冤債所訴。以食雞卵過甚。被驅入于空城中。比入則戶闔矣。第見滿城火灰。既為燒爍。不知所為。東顧。方見城戶雙啟。即奔從之。至則復闔矣。西顧。從之復然。南顧北顧。從之亦然。其苦楚備嘗之矣。一旦。王謂季貞曰。爾壽未盡。然死且三年矣。何以復還。主者曰。鄰有張某。死纔三日。可借此以託其神魂。王然之。今我實季貞也。官不能斷。郡牧劉尚書廣。親呼問之。曰。宜以平生一事。人無知者以為驗。季貞曰。某未死前。嘗藏佛經兩卷於屋瓦。人實無知者。命探之。存焉。斷歸孫氏。(出玉泉子)

崔道紀

唐前進士崔道紀。及第後。遊江淮間。遇酒醉甚。臥於客館中。其僕使井中汲水。有一魚隨桶而上。僕者得之。以告道紀。道紀喜曰。魚羹甚能醒酒。可速烹之。既食良久。有黃衣使者。自天而下。立於庭中。連呼道紀。使人執捉。宣敕曰。崔道紀。下土小民。敢殺龍子。官合至宰相。壽命至七十。並宜除。言訖。昇天而去。是夜道紀暴卒。時年三十五。(出錄異記)

何澤

唐何澤者。容州人也。嘗攝廣州四會縣令。性豪橫。唯以飲啖為事。尤嗜鵝鴨。鄉胥里正。恒令供納。常豢養鵝鴨千百頭。日加烹殺。澤只有一子。愛憐特甚。嘗一日烹雙雞。爨湯以待沸。其子似有鬼物撮置鑊中。一家驚駭。就出之。則與雙雞俱潰爛矣。(出報應錄)

岳州人

唐咸通中。岳州人有村人。涸湖池取魚。獲龜猶倍多。悉刳其肉。載龜板至江陵鬻之。厚得金帛。後歸家。忽遍身患瘡。楚痛號叫。鄰里不忍聞。須得大盆貯水。舉體投水中。漸變作龜形。逾年。肉爛腐墜而死。(出報應記)

徐可範

唐內侍徐可範。性好畋獵。殺害甚眾。嘗取活鱉。鑿其甲。以熱油注之。謂之鱉鼈。又性嗜[飢- 几+龍]驢。以驢縻絆於一室內。盆盛五味汗于前。四面迫以烈火。待其渴飲五味汁盡。取其腸胃為饌。前後烹宰。不紀其數。後扈從僖宗幸蜀。得疾。每睡。見群獸鳥雀啄食其肉。痛苦萬狀。又須於牀下布火。及以油醋灌其身。乃以罟網葢覆。方暫得睡。以日繼夜。常須如此。命將盡。惟一束黑骨而已。(出報應記)

建業婦人

近歲建業有婦人。背生一瘤。大如數斗囊。中有物如繭栗甚眾。行即有聲。恒乞於市。自言村婦也。常與娣姒輩分養蠶。己獨頻年損耗。因竊其姒一囊繭焚之。頃之。背患此瘡。漸成此瘤。以衣覆之。即氣閉悶。常露之乃可。而重如負囊矣。(出搜神記)

廣陵男子

廣陵有男子行乞於市。每見馬矢。即取食。自云。嘗為人飼馬。慵不能夜起。其主恒自檢視。見槽中無草。督責之。乃取烏梅並以飼馬。馬齒楚。不能食。竟以是致死。己後因患病。見馬矢。輒流涎欲食。食之。與烏梅味正同。了無穢氣。(出稽神錄)

何馬子

遂州人何馬子好食蜂兒。坐罪。令眾於市。忽有大蜂數箇。螫其面。痛楚叫呼。守者驅而復來。抵暮方絕。如此經旬乃死。(出儆戒錄)

章邵

章邵者。恒為商賈。巨有財帛。而終不捨路歧。貪猥誅求。因逢鹿。避人而去。鹿子為邵之所獲。邵便打殺。棄之林中。其鹿母遙見悲號。其聲不已。其日。邵欲夜行。意有所謀也。邵只有子一人。年方弱冠。先父一程行。及困。於大樹下憩歇。以伺其父。未間。且寢於樹陰中。邵乃不曉是子。但見衣襆在旁。一人熟寐而已。遂就抽腰刀。刺其喉。取衣襆而前行。及天漸曉。見其衣襆。乃知殺者是己子也。嗟乎。章邵兇率如此。報應亦宜然。(出野人閒話)

韓立善

蜀金鴈橋。有韓立善者。作釣鉤。積有年矣。因食魚。鯁喉成瘡。頷脫而死。(出儆戒錄)

僧修準

蜀郡大慈寺律師修準。雖云奉律。性甚褊躁。庭前植竹。多蟻子緣欄檻。準怒。伐去竹。盡取蟻子。棄灰火中。準後忽患癬。瘡遍頭

面。醫者云蟻漏瘡。不可醫。後竟卒。(出儆戒錄)

宇文氏

宇文氏。偽蜀之富家也。孀居國之東門。嘗聞寢室上有人行。命僕隸升屋視之。獲得野狸三頭並狸母。宇文氏殺狸母而存其子焉。未朞歲。宇文氏適護戎王承丕。丕殺判官郭延鈞一家。宇文氏並前夫一男二女。下獄定罪。赦男女。斬宇文氏。吁。得非殺狸母之所報也。(出儆戒錄)

李貞

蜀錦浦坊民李貞家。養狗名黑兒。貞因醉。持斧擊殺之。李貞臨老。與鄰舍惡少白昌祚爭競。昌祚承醉。以斧擊貞死焉。時昌祚年十九歲。與殺狗年正同。昌祚小字黑兒。冤報顯然。不差絲髮。(出儆戒錄)

僧秀榮

蜀郡金華寺法師秀榮。院內多松栢。生毛蟲。色黃。長三二寸。莫知紀極。秀榮使人掃除埋瘞。或棄于柴積內。僧仁秀取柴煑料。于烈日中曬乾。蟲死者無數。經月餘。秀榮暴卒。金華寺有僧入冥。見秀榮荷鐵枷。坐空地烈日中。有萬萬蟲咂噬。僧還魂。備說與仁秀。仁秀大駭。遂患背瘡。數日而卒。(出儆戒錄)

母乾昭

蜀人母乾昭有莊在射洪縣。因往莊收刈。有鹿遭射逐之。驚忙走投乾昭。昭閉于空房中。說與鄰僧法惠。法惠笑曰。天送食物。豈宜輕捨。乃殺之。沽酒炙鹿。共僧飲啖。僧食一塊。忽大叫云。刀割我心。嘔血。至夕而死。(出儆戒錄)

李紹

蜀民李紹好食犬。前後殺犬數百千頭。嘗得一黑犬。紹憐之。蓄養頗厚。紹因醉夜歸。犬迎門號吠。紹怒。取斧擊犬。有兒子自內走出。斧正中其首。立死。一家惶駭。且捕犬。犬走。不知所之。紹後得病。作狗嗥而死。(出儆戒錄)

太平廣記卷第一百三十四

報應三十三(宿業畜生)

竹永通
宜城民
韋慶植
趙太
李信
謝氏
王珍
王會師
解奉先
童安玕
劉自然
李明府
劉鑰匙
上公
施汴
公乘通
僧審言

竹永通

隋并州盂縣竹永通。曾貸寺家粟六十石。年久不還。索之。云。還訖。遂于佛堂誓言云。若實未還。當與寺家作牛。此人死後。寺家生一黃犢。足有白文。後漸分明。乃是竹永通字。鄉人漸知。觀者日數千。此家已知。遂用粟百石。于寺贖牛。別立一屋。事之如生。仍為造像寫經。月餘遂死。(出異錄)

宜城民

隋大業八年。宜州城東南里民姓皇甫。其家兄弟四人。大兄小弟。並皆勤事生業。其第二弟名遷。交遊惡友。不事生活。母嘗取錢。欲令市買。且置牀上。母向舍後。遷從外來。入堂不見人。便偷錢

去。母還。覓錢不得。遂勘合家良賤。並云不知。母怒。悉加鞭捶。大小皆怨。至後年遷亡。其家猪生一犍子。八月社至。賣與遠村社家。遂託夢于婦曰。我是汝夫。為盜取婆錢。枉及合家。浪受楚拷。今我作猪來償債。將賣與社家。縛我欲殺。汝是我婦。何忍不語男女贖我。婦初夢。忽寤。仍未信之。復眠。其夢如初。因起報姑。姑曰。吾夢亦如之。遲明。令兄齎錢詣社官。收贖之。後二年方死。長安弘法寺靜琳師。是遷之鄰里。親見其猪。嘗話其事焉。(出法苑珠林)

韋慶植

唐貞觀中。魏王府長史韋慶植有女先亡。韋夫婦痛惜之。後二年。慶植將聚親賓客。備食。家人買得羊。未殺。夜。慶植妻夢見亡女。着青練裙白衫。頭髮上有一雙玉釵。是平生所服者。來見母。涕泣言。昔常用物。不語父母。坐此業報。今受羊身。來償父母命。明旦當見殺。青羊白頭者是。特願慈恩。垂乞性命。母驚寤。旦而自往觀。果有青羊。項膊皆白。頭側有兩條白。相當如玉釵形。母對之悲泣。止家人勿殺。待慶植至。放送之。俄而植至催食。廚人白言。夫人不許殺青羊。植怒。即令殺之。宰夫懸羊欲殺。賓客數人已至。乃見懸一女子。容貌端正。訴客曰。是韋長史女。乞救命。客等驚愕。止宰夫。宰夫懼植怒。但見羊鳴。遂殺之。既而客坐不食。植怪問之。客具以言。慶植悲痛發病。遂不起。京下士人多知此事。(出法苑珠林)

趙太

唐長安市里風俗。每歲至元日已後。遞飲食相邀。號為傳坐。東市筆生趙太。次當設之。有客先到。向後。見其碓上有童女。年十三四。着青衫白帽。以急索繫頸。屬于碓柱。泣淚謂客曰。我主人女也。往年未死時。盜父母錢。欲買脂粉。未及而死。其錢今在舍廚

內西北角壁中。然我未用。既以盜之。坐此得罪。今當償父母命。言畢。化為青羊白頭。客驚告主人。主人問其形貌。乃是小女。死已二年矣。于廚壁取得錢。似久安處。於是送羊僧寺。合門不復食肉。(出法苑珠林)

李信

唐居士李信者。并州文水縣之太平里人也。身為隆政府衛士。至顯慶年冬。隨例往朔州赴審。乘赤草馬一匹。并將草駒。是時歲晚凝陰。風雪嚴厚。行十數里。馬遂不進。信以程期逼促。撾之數十下。馬遂作人語。語信曰。我是汝母。為生平避汝父。將石餘米與女。故獲此報。此駒即是汝妹也。以力償債向了。汝復何苦敦逼如是。信聞之。驚愕流涕。不能自勝。乃拜謝之。躬弛鞍轡。謂曰。若是信母。當自行歸家。馬遂前行。信負鞍轡。隨之至家。信兄弟等見之。悲哀相對。別為廠櫪養飼。有同事母。屈僧營齋。合門莫不精進。鄉閭道俗。咸歎異之。時工部侍郎孫無隱、岐州司司法張金庭為丁艱在家。聞而奇之。故就信家顧訪。見馬猶在。問其由委。並如所傳。(出冥報拾遺)

謝氏

唐雍州萬年縣閻村。即灞渭之間也。有婦女謝。適周縣元氏。有女適廻龍村人來阿照。謝氏永徽末亡。龍朔元年八月。託夢于來氏女曰。我生時酤酒。小作升。乃取價太多。量酒復少。今坐此罪。於北山下人家為牛。近被賣與法界寺夏侯師。今將我向城南耕稻田。非常辛苦。及寤。其女涕泣為阿照言之。至二年正月。有法界寺尼至阿照村。女乃問尼。尼報云。有夏侯師是實。女即就寺訪之。云。近於北山下買得一牛。見在城南耕地。其女涕泣求請。寺尼乃遣人送其女就之。此牛平常唯一人禁制。若遇餘人。必陸梁觝觸。見其女至。乃舐其遍體。又流淚焉。女即是就夏侯師贖之。乃隨其

女去。今現在阿照家養飼。女常為阿娘承奉不闕。京師王侯妃媵。多令召視。競施財物。(出冥報記)

王珍

唐定州安嘉縣人王珍。能金銀作。曾與寺家造功德。得絹五百疋。同作人私費十疋。王珍不知。此人死。後(後原作從。據明鈔本改。)王家有禮事。買羊未殺間。其羊頻跪無數。珍已怪之。夜繫于柱。珍將寢。有人扣房門甚急。看之無所見。珍復臥。又聞之。起看還無所見。怪之。遂開門臥。未睡。見一人云。昔日與公同作功德。偷十疋絹私用。公竟不知。今已作羊。公將殺之。叩頭乞命。再三懇苦。言訖。出房門。即變作羊。王珍妹于別所。見此人叩頭。一如珍所見。遂放羊作長生。珍及妹家即斷食肉。珍以咸亨五年。入海運。船上無菜。人皆食肉。珍不食。唯飡空飯而已。(出廣古今五行記)

王會師

唐京都西市北店。有王會師者。母亡。服制已畢。其家乃產一青黃牝狗。會師妻為其盜食。乃以杖擊之數下。狗遂作人語曰。我是汝姑。新婦杖我大錯。我為嚴酷家人過甚。遂得此報。今既被打。羞向汝家。因即走出。會聞而涕泣。抱以歸家。而復還去。凡經四五。會師見其意正。(正明鈔本作堅。)乃于市北己店大墻後。作小舍安置。每日送食。市人及行客就觀者極眾。投餅與者。不可勝數。此犬恒不離此舍。過齋時即不食。經一二歲。莫知所之。(出法苑珠林)

解奉先

洛陽畫工解奉先為嗣江王家畫像壁。未畢而逃。及見擒。乃妄云。功直已相當。因於像前誓曰。若負心者。願死為汝家牛。歲餘。奉先卒。卒後。王家牸牛產一騬犢。有白毛於背。曰解奉先。觀者日夕如市焉。(出國史纂異)

童安玕

唐大中末。信州貴溪縣乳口鎮有童安玕者。鄉里富人也。初甚貧窶。與同里人郭珙相善。珙嘗假借錢六七萬。即以經販。安玕後遂豐富。及珙徵所借錢。安玕拒諱之。珙焚香告天曰。童安玕背惠忘義。借錢不還。儻神理難誣。願安玕死後作牛。以償某。詞甚懇苦。安玕亦紿言曰。某若實負郭珙錢。願死作一白牛。以償珙債。未逾月。安玕死。死後半年。珙家牸牛。生一白牯犢。左肋有黑毛。作字曰童安玕。歷歷然。遠邇聞之。觀者雲集。珙遣人告報安玕妻。玕妻子並親屬等往視之。大以為恥。厚納金帛。請收贖之。郭珙憤其欺負。終不允許。以牛母並犢。別欄餵飼。安玕家率童僕。持白梃刼取。珙多置人守禦。竟不能獲。(出報應錄)

劉自然

唐天祐中。秦州有劉自然者。主管義軍桉。因連帥李繼宗點鄉兵捍蜀。成紀縣百姓黃知感者。妻有美髮。自然欲之。謂知感曰。能致妻髮。即免是行。知感之妻曰。我以弱質託於君。髮有再生。人死永訣矣。君若南征不返。我有美髮何為焉。言訖。攬髮剪之。知感深懷痛愍。既迫于差點。遂獻于劉。知感竟亦不免緜戍。尋歿于金沙之陣。黃妻晝夜禱天號訴。是歲。自然亦亡。後黃家牝驢。忽產一駒。左脇下有字。云劉自然。邑人傳之。遂達于郡守。郡守召其妻子識認。劉自然長子曰。某父平生好飲酒食肉。若能飲啖。即是某父也。驢遂飲酒數升。啖肉數臠。食畢。奮迅長鳴。淚下數行。

劉子請備百千贖之。黃妻不納。日加鞭捶。曰。猶足以報吾夫也。後經喪亂。不知所終。劉子竟慚憾而死。(出儆戒錄)

李明府

唐前火井縣令(令字原闕。據明鈔本、黃本補。)李明府。經過本縣。館于押司錄事私第。主人將設酒饌。欲刲一白羊。方有胎。其夜李明府夢一素衣婦人將二子拜明府乞命。詞甚哀切。李不測其由。云。某不曾 殺人。婦人哀祈不已。李睡覺。思惟無端倪。又寢。復夢前婦人乞命。稱某命在須臾。忍不救也。李竟不諭其意。但驚怛不已。再寢。又夢前婦人曰。長官終不能相救。某已死訖。然亦償債了。某前身即押司錄事妻。有女僕方妊。身懷二子。時某嫉妬。因笞殺之。紿夫云。女僕盜金釵並盒子。拷訊致斃。今獲此報。然已還其冤債。其金釵並盒子。在堂西拱枓內。為某告於主人。請不食其肉。為作功德。李驚起。召主人詰曰。君刲一白羊耶。有雙羔否。曰。是。具話夜來之夢。更歎異。及尋拱枓內。果得二物。乃取羊埋之。為作功德追薦焉。(出報應錄)

劉鑰匙

隴右水門村有店人曰劉鑰匙者。不記其名。以舉債為家。業累千金。能於規求。善聚難得之貨。取民間資財。如秉鑰匙。開人箱篋帑藏。盜其珠珍不異也。故有鑰匙之號。鄰家有殷富者。為鑰匙所餌。放債與之。積年不問。忽一日。執券而算之。即倍數極廣。既償之未畢。即以年繫利。略無期限。遂至資財物產。俱歸鑰匙。負債者怨之不已。後鑰匙死。彼家生一犢。有鑰匙姓名。在膁肋之間。如毫墨書出。乃為債家鞭箠使役。無完膚。鑰匙妻男廣。以重貨購贖之。置於堂室之內。事之如生。及斃。則棺斂葬之于野。蓋與劉自然之事髣髴矣。此則報應之道。其不誣矣。(出玉堂閒話)

上公

宜春郡東安仁鎮有齊覺寺。寺有一老僧。年九十餘。門人弟子有一二世者。彼俗皆只呼為上公。不記其法名也。其寺常住莊田。孳畜甚多。上公偶一夜。夢見一老姥。衣青布之衣。拜辭而去。云。只欠寺內錢八百。上公覺而異之。遂自取筆書于寢壁。同住僧徒亦無有知之者。不三五日後。常住有老牸牛一頭。無故而死。主事僧於街市鬻之。只酬錢八百。如是數處。不移前價。主事僧具白上公云。常住牛死。欲貨之。屠者數輩。皆酧價八百。上公歎曰。償債足矣。遂令主事僧入寢所。讀壁上所題處。無不嗟歎。(出玉堂閒話)

施汴

廬州營田吏施汴。嘗恃勢奪民田數十頃。其主退為其耕夫。不能自理。數年。汴卒。其田主家生一牛。腹下有白毛。方數寸。既長。稍斑駁。不逾年。成施汴字。點畫無缺。道士邵修默。親見之。(出稽神錄)

公乘通

渚宮有民公乘通者。平生隱慝。人或難知。死後。湖南民家生一黑驢駒。白毛作荊南公乘通字。其子孫聞之懷耻。竟不能尋贖。江陵人皆知之。(出北夢瑣言)

僧審言

雲頂山慈雲寺。四方歸輳。供食者甚厚。寺主僧審言。性貪鄙。欺隱本寺施財。飲酒食肉。畜養妻子。無所不為。僧眾稍孤潔者。必遭淩辱。一旦疾篤。自言見空中繩懸一石臼。有鼠嚙之。繩斷。正中其心。大叫氣絕。久而復蘇。如此數十度。方卒。逾年。寺下村中牛生一犢。腹下分明有審言二字。(出儆戒錄)

聯絡我們

財團法人
佛教電子佛典基金會（CBETA 基金會）
CBETA Comprehensive Buddhist Electronic Text Archive Foundation

service@cbeta.org
(02)2383-2182 轉分機 12
官網 https://cbeta.org/
CBETA Online https://cbetaonline.dila.edu.tw/
立即贊助 https://cbeta.org/quick-donate/

贊助資訊

CBETA 長年來陸續將歷代重要佛典數位化為「CBETA 電子佛典集成」，不僅收錄了大量的珍貴文獻，更致力於校勘考證用字及增添新式標點，提升佛典的文獻品質及易讀性。「CBETA 電子佛典集成」是大眾廣為運用的公共資源，此成果也獲得國際學界的重視及肯定。

對於一個從事佛法志業的非營利團隊來說，能夠長期埋首理想、踏實耕耘，實屬不易。為了提供更優質的服務，CBETA 基金會擬增聘專業人力，擴大組織規模，懇請大家慷慨解囊、熱情贊助，讓未來有更多更好的電子佛典。

贊助捐款

「水滴雖微，漸盈大器，凡福充滿，從纖纖積。」
—— CBETA 2024.R2, T04, no. 210, p. 565a5-6